二　官廳ニ於テ移入セントスルトキ
三　公共團體ニ於テ移入セントスルトキ

第三條　官廳又ハ公共團體ノ工作物（建築物ヲ含ム）ノ築造ヲ請負ヒタル者鐵鋼ヲ移入セントスルトキハ當該官廳又ハ公共團體ニ鐵鋼割當證明書ノ交付ヲ申請スベシ

第四條　鐵鋼割當證明書交付申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　種類別用途別數量
二　移入ノ豫定年月日
三　購入先ノ住所及氏名又ハ名稱

第五條　鐵鋼割當證明書ニ依リ配給ヲ受ケタル鐵鋼ハ證明書ニ記載シタル用途以外ノ用途ニ之ヲ供スルコトヲ得ズ但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　鐵鋼販賣業者ハ帳簿ヲ備ヘ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　購入シタル鐵鋼ノ種類別數量及價額、約定及受入ノ年月日竝ニ購入先ノ住所及氏名又ハ名稱
二　販賣シタル鐵鋼ノ種類別用途別數量及價額、鐵鋼割當證明書ノ發行者、約定及引渡ノ年月日、引渡地竝ニ販賣先ノ住所及氏名又ハ名稱
三　每月末ニ於ケル鐵鋼ノ種類別在庫數量

第七條　鐵鋼割當證明書ニ依リ配給ヲ受ケタル鐵鋼ヲ消費スル者ハ帳簿ヲ備ヘ前條第一號及第三號ニ揭グル事項竝ニ消費シタル鐵鋼ノ種類別用途別數量、鐵鋼割當證明書ノ發行者及消費年月日ヲ記載スベシ

第八條　臺灣總督又ハ知事若ハ廳長必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ前二條ノ規定ニ依ル帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條　鐵鋼割當證明書ニ依リ鐵鋼ノ配給ヲ受ケタル者ハ第六條又ハ第七條ニ揭グル事項ニ付每月十日迄ニ其ノ前月分ヲ當該鐵鋼割當證明書ノ發行者ニ報告スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鋼製品ノ製造制限ニ關スル件ニヨリ鋼材ヲ以テ製造スルコトヲ得ザル物品指定

（昭和十三年七月二十六日　臺灣總督府告示第二百六十七號）

昭和十二年府令第百四十一號（臺灣總督ノ調整ヲ必要トスル物品ニ對スル措置ニ關スル件）ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和十三年商工省令第四十九號（鋼製品ノ製造制限ニ關スル件）ノ規定ニ依リ鋼材ヲ以テ製造スルコトヲ得ザル物品左ノ通指定ス

（物品名略ス）

鉄鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件ニ依ル物品指定

（昭和十三年七月十三日　臺灣總督府告示第二百五十五號）

文鎭
インク壺
貯金箱
茶道用風呂釜
扇風機（工鑛業用ノモノヲ除ク）
鏡臺
花器
證寵
玩具
柱掛
茶臺
置物
電燈支柱用腕木
扉
持送り
風窓
椅子
帽子掛
手摺
陳列臺
電柱
欄
街路樹保護板
鉛筆削
ホチキス
火鉢
天水鉢
煙草セット
灰皿
水盤
火消壺
鉄
額縁
菓子皿
電氣スタンド
門柱
瓦
看板
窓枠分銅
金庫（手提金庫ヲ含ム）
擂除器
格子
街頭照明柱
欄干
交通標識
溝蓋

紙屑箱
シヤンデリヤ
卓子
シヤツター用器
ラヂエーター
電氣ストーブ
五徳
名刺刺及傳票刺
紡織、染色又ハ整理用機械器具（針布製造用機械器具ヲ除ク）
窯業用機械器具（硝子又ハ耐火煉瓦製造用機械器具ヲ除ク）
印刷又ハ製本用機械器具
理容用機械器具（バリカンヲ除ク）
左ニ揭グル物品又ハ其ノ部分品ヲ製造スル事用機械器具
鐵釘（踏釘ヲ除ク）
菓子
香水
蓄音機用レコード
紙及同製品（パライタペーパー等特殊ノ紙ヲ除ク）
綿又ハ麻製ノ綱、繩及網
時計
萬年筆
本立（ブックエンドヲ含ム）
机
竈
郵便受箱
ガスストーブ
鐵瓶
卓上呼鈴
金網
清涼又ハ致醉飲料
石鹸
セルロイド及同製品
刷毛及刷子
帽子
金箔
鉛筆及クレヨン

米松販賣取締規則

（昭和十三年八月十九日　臺灣總督府令第百五號）

第一條　米松（長二米以下ノモノヲ除ク以下同ジ）ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クル ニ非ザレバ之ヲ販賣（本令施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム）スルコトヲ得ズ但シ官廳ノ註文ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル買受人連署ノ許可申請書ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一　買受人ノ住所及氏名又ハ名稱
二　用途
三　種類別數量及價格
四　引渡豫定時期
五　買受人請負人ナルトキハ註文者ノ住所及氏名又ハ名稱
六　買受後製材ヲ爲スモノニ在リテハ製材ヲ爲ス者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三條　米松ノ買受人ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ揮發油又ハ重油ヲ賣渡スコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ノ各號ノ一ニ該當スル揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ
イ　御料品
ロ　官廳用品
ハ　軍用品
ニ　本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準ズベキ使節若ハ領事ノ自用品又ハ在本邦外國大使館、公使館若ハ領事館ノ公用品

督ニ屆出ヅベシ

揮發油及重油販賣取締規則

（昭和十三年五月一日　臺灣總督府令第五十一號）

第一條　本令ニ於テ揮發油トハ攝氏十五度ニ於ケル比重〇・八〇一七ヲ超エザル礦油ヲ、重油トハ攝氏十五度ニ於ケル比重〇・八七六二ヲ超ユル黑色、褐色又ハ暗綠色ノ礦油ニシテ不透明ナルモノ（コールタールヲ除ク）ヲ謂フ

第二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ購買券（第八條ノ規定ニ依ル記載ナキモノニ限ル）ト引換フルニ非ザレバ揮發油又ハ重油ヲ賣渡スコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ノ各號ノ一ニ該當スル揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ
イ　御料品
ロ　官廳用品
ハ　軍用品
ニ　本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準ズベキ使節若ハ領事ノ自用品又ハ在本邦外國大使館、公使館若ハ領事館ノ公用品

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ米松ノ販賣ヲ業トスル者ハ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ本令施行ノ日現在ノ米松ノ種類別在庫數量ヲ臺灣總

ホ　航空機用品

ヘ　船舶安全法ニ依ル近海區域若ハ遠洋區域ヲ航行區域トスル船舶、本令施行地ニ船籍港ヲ有セザル船舶（船舶法施行規則第一條第一項第一號及第二號ニ揭グル船舶ヲ除ク）又ハ本令施行地ニ住所ヲ有セザル者ノ所有ニ係ル船舶ノ用品

ト　汽船トロール漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業、機船底曳網漁業又ハ專ラ漁獵場ヨリ漁獲物若ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務ニ從事スル船舶ニシテ外國港灣ニ出入スルモノノ用品

二　揮發油ヲ一リットル以下賣渡ストキ

三　重油ヲ五リットル以下賣渡ストキ

四　販賣ノ目的ヲ以テ買受クル揮發油又ハ重油ノ販賣業者ニ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

五　精製又ハ販賣ノ目的ヲ以テ買受クル石油精製業者ニ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

六　精製ノ爲使用スル目的ヲ以テ買受クル石油精製業者ニ重油ヲ賣渡ストキ

七　石油運搬用自動車又ハ石油運搬用船舶ニ使用スル目的ヲ以テ買受クル揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ニ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

八　天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アリタルニ因リ購買券ニ依ルコトヲ得ザルトキ

第三條　購買券ハ臺灣總督ノ定ムル限度內ニ於テ知事又ハ廳長之ヲ發行ス

第四條　購買券ハ揮發油ニ付テハ一ガロン券、五ガロン券、十ガロン券、五リットル券、十リットル券、十八リットル（一罐）券及一キロリットル（十罐）券ノ八種トシ重油ニ付テハ十八リットル（十罐）券、九十リットル（五罐）券、一キロリットル券及百八十リットル（十罐）券ノ五種トシ各種別記樣式ニ依ル

前項ノ購買券ハ揮發油ニ付テハ一ガロン券、五ガロン券、十ガロン券、五リットル券、十リットル券、十八リットル（一罐）券及一キロリットル（十罐）券ノ八種トシ重油ニ付テハ十八リットル（十罐）券、九十リットル（五罐）券、一キロリットル券及百八十リットル（十罐）券ノ五種トシ各種別記樣式ニ依ル

第五條　赤色券ハ船舶ニ使用スル爲揮發油又ハ重油ヲ買受ケントスル者ニ之ヲ交付ス

第六條　購買券ノ交付ヲ揮發油又ハ重油ヲ工場又ハ製造場ニ於テ買受ケントスル者ハ、自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ主タル使用地ヲ、船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ船籍港（漁船ニ在リテハ其ノ所有者ノ住所地）ヲ、ガソリン機關車、ガソリン機關車又ハ、ヂーゼル機關車又ハ、ヂーゼル動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ主タル使用地ヲ、自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ主タル使用地ヲ、船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ船籍港（漁船ニ在リテハ其ノ所有者ノ住所地）ヲ、ガソリン機關車、ガソリン機關車又ハ、ヂーゼル機關車又ハ、ヂーゼル動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ者ノ住所地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ提出スベシ

前項ノ購買券ハ臺灣總督ノ定ムル限度內ニ於テ知事又ハ廳長之ヲ發行ス

第四條　購買券ハ揮發油ニ付テハ一ガロン券、五ガロン券、十ガロン券、五リットル券、十リットル券、十八リットル（一罐）券及一キロリットル（十罐）券ノ八種トシ重油ニ付テハ十八リットル（十罐）券、九十リットル（五罐）券、一キロリットル券及百八十リットル（十罐）券ノ五種トシ各種別記樣式ニ依ル

第五條　赤色券ハ船舶ニ使用スル爲揮發油又ハ重油ヲ買受ケントスル者ニ之ヲ交付ス

第六條　購買券ノ交付ヲ揮發油又ハ重油ヲ工場又ハ製造場ニ於テ買受ケントスル者ハ、自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ主タル使用地ヲ、船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ船籍港（漁船ニ在リテハ其ノ所有者ノ住所地）ヲ、ガソリン機關車、ガソリン機關車又ハ、ヂーゼル機關車又ハ、ヂーゼル動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ者ノ住所地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　買受ケントスル揮發油又ハ重油ノ數量

二　用途

三　使用設備ノ概要

四　使用豫定期間

五　交付ヲ受ケントスル購買券ノ種類及枚數

六　前回購買券ノ交付ヲ受ケタル年月日竝ニ其ノ種類及枚數

第七條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ船舶以外ニ使用スルモノナルコトヲ知リテ赤色券ト引換ヘ揮發油又ハ重油ヲ賣渡スコトヲ得ズ

第八條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ其ノ引換ヘタル購買券ニ引換後遲滯ナク當該販賣場ノ名稱及引換ノ年月日ヲ記載スベシ

第九條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ其ノ引換ヘタル購買券ヲ故ナク他人ニ引渡シ又ハ破棄スルコトヲ得ズ

第十條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ其ノ開設後一週間以內ニ左ニ揭グル事項ヲ販賣場所在地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ屆出ヅベシ其ノ販賣場ヲ廢止シ又ハ屆出デタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

一　販賣場ノ名稱及位置

二　取扱ニ係ル石油ノ種類

三　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ノ氏名名稱及住所

第十一條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ帳簿ヲ備ヘ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十三條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十四條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十六條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十七條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十八條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十九條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十一條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十三條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十四條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十五條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十六條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十七條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十八條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十九條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十一條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十三條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十四條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十五條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十六條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十七條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十八條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十九條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十一條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十三條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十四條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ販賣場毎ニ每月左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

一　前月中ニ受入レタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及受入ノ年月日竝ニ其ノ引渡人ノ氏名名稱及住所

二　前月中ニ販賣シタル揮發油又ハ重油ノ數量、價格及販賣ノ年月日竝ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三　前月中ニ引換ヘタル購買券ノ種類及枚數竝ニ引換ノ年月日

購買券ト引換ヘ販賣シタル場合及揮發油ニ在リテハ一リットル以下ヲ、重油ニ在リテハ五リットル以下ヲ販賣シタル場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ氏名名稱及住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四十五條　揮發

皮革使用制限規則

（昭和十三年七月十五日 臺灣總督府令第八十五號）

第一條　左ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革（黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同ジ）ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ註文又ハ輸出註文（關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　靴
二　馬具
三　自轉車又ハ自動自轉車用サドル
四　調帶
五　バッキング
六　運動用具
七　革紐

第二條　左ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鮫革ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ註文又ハ輸出註文（關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　草履、スリツパ其ノ他ノ履物（鼻緒及爪革ヲ含ム）但シ靴ヲ除ク
二　鞄、トランク、ランドセル、リユックサツク、圖嚢其ノ他ノ攜帶用具
三　マント、外套、上衣、ズボン其ノ他ノ衣類
四　帶子、手袋、帶革、ズボン吊、靴下留、脚絆其ノ他ノ衣類附屬品
五　ハンドバッグ、蟇口、紙入、煙草入、名刺入、筆入其ノ他ノ袋物
六　眼鏡サツク、化粧箱、寫眞器ケース、樂器ケース、獵銃サツク、運動具入其ノ他ノ容器
七　水筒紐、時計腕革其ノ他ノ綴革
八　首輪、引紐、鞭其ノ他ノ家畜用具但シ馬具ヲ除ク
九　椅子、卓子、机、寢臺、庫痛圍其ノ他ノ家具什器
十　書籍及帳簿、アルバム其ノ他ノ文房具
十一　張革、吊革其ノ他ノ車輛用品

第三條　牛革ヲ使用シタル第一條ニ揭グル物品若ハ其ノ材料又ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革若ハ鮫革ヲ使用シタル第二條ニ揭グル物品若ハ其ノ材料ヲ製造シテ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク）トシテ製造セラレタルモノヲ讓受ケタル者ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ製造中ノモノニ付テハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際第一條若ハ第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ノ製造ヲ業トスル者、牛皮、馬皮、羊皮又ハ豚皮ノ輸入又ハ販賣ヲ業トスル者及牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鮫革ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ハ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ本令施行ノ日現在ノ皮革ノ種類別在庫數量ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ヅベシ

本令施行ノ際第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ノ製造ヲ業トスル者ニシテ他ノ用途ニ轉用シ得ザル革ヲ所有スルモノハ本令施行後二月間ヲ限リ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ヲ製造スルコトヲ得

皮革製品販賣價格取締規則

（昭和十三年七月十五日 臺灣總督府令第八十六號）

第一條　皮革製品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ本令施行ノ日ノ前日ニ於ケル販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合及已ムヲ得ザル事由ニ依リ知事ニ付テハ臺灣總督、小賣ニ付テハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　皮革製品ヲ販賣スル者ハ其ノ販賣ニ當リ前條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣シタルト同一ノ利益ヲ擧グル目的ヲ以テ買戻約款ヲ附シ、他ノ商品ヲ併セ販賣シ其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條　臺灣總督特ニ必要アリト認ムルトキハ皮革製品ヲ販賣スル者ニ對シ販賣價格ノ引下ヲ命ズルコトアルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年府令第二十號附則第二項但書ノ規定ニ依ル綿纖物指定

（昭和十三年三月一日 臺灣總督府告示第七十九號）

沿革　昭和十三年四月十日臺灣總督府告示第百五十號

帆布
タイヤコード
針布用基布
毛織物仕上用ラッピングクロス
飛行機用翼布
ベルト用布
日本藥局方ニ依ルガーゼ
濾布
雨洋傘用布
絕緣用布
ホース用布
捺染用アンダークロス
捺染用マッキントッシュ用布
蠟纖
機械製エンブロイダリー
單用綿纖物
落綿、再生綿又ハ再生綿糸ヲ以テ製造シタル纖物
纖上リ幅四十五糎未滿ノ綿纖物
着尺用綿セル
仕上リ幅三十二吋以上ノ綿朱子
風呂敷地
座布團地
格付二百番、五百番又ハ六百番ノ綿ネル
瓦斯紺
綿虎珀
紋羽

綿製品ステープルファイバー等混用規則第二條第三項ノ規定ニヨル標識

（昭和十三年三月一日 臺灣總督府告示第七十八號）

一　ステープルファイバー其ノ他ノ綿又ハ毛ニ非ザル纖維ヲ混用シタル纖上リ幅四十五糎以上ノ綿纖物
　兩耳ニステープルファイバー其ノ他ノ綿又ハ毛ニ非ザル纖維ヲ混用シタル纖上リ幅四十五糎以上ノ綿纖物中昭和十三年府令第二十號施行ノ際仕掛中ノモノ、タイヤコード、日本藥局方ニ依ルガーゼ、ホース用布及蠟纖
　一端ニ左ノ印章ヲ押捺スルコト

（混）　直徑二センチメートル

二　ステープルファイバー其ノ他ノ綿又ハ毛ニ非ザル纖維ヲ混用シタル綿糸ヲ二本宛纖込ムコト
　一端ニ左ノ印章ヲ押捺シ又ハ左ノ印章ヲ記シタル證紙ヲ貼附スルコト

（混）　直徑二センチメートル

三　ステープルファイバー其ノ他ノ綿又ハ毛ニ非ザル纖維ヲ混用シタル綿糸ヲ二本宛纖込ムコト
　一端ニ左ノ印章ヲ押捺シ又ハ左ノ印章ヲ記シタル證紙ヲ貼附スルコト

（混）　直徑二センチメートル

四　特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル綿纖物中第五號ニ揭グルモノヲ除キタルモノ
　兩耳ニアリザリンレッド又ハナフトール族染料ノ赤ヲ以テ染色シタル綿糸ヲ二本宛纖込ムコト

五　特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル綿纖物中昭和十三年府令第二十號施行ノ際仕掛中ノモノ、タイヤコード、日本藥局方ニ依ルガーゼ、ホース用布及蠟纖
　一端ニ左ノ印章ヲ押捺スルコト

（許）　直徑二センチメートル

六　特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル綿莫大小
　一端ニ左ノ印章ヲ押捺シ又ハ左ノ印章ヲ記シタル證紙ヲ貼附スルコト

（許）　直徑二センチメートル

臨時輸出入許可ニ付テハ昭和十二年商工省令第二十三號ニ依ルノ件

（昭和十二年十月十一日 樺太廳令第五十八號）

昭和十二年法律第九十二號第一條ノ規定ニ基ク臨時輸出入許可ニ付テハ昭和十二年商工省令第二十三號ニ依ル但シ同令中商工大臣トアルハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物品販賣價格取締規則

（昭和十三年八月六日 樺太廳令第六十三號）

第一條　樺太廳長官ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其ノ指定ノ際樺太廳長官ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ、樺太廳長官ガ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣（指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム）スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合及已ムヲ得ザル事由ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ物品ヲ販賣スル者ハ其ノ販賣ニ當リ前條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣シタルト同一ノ利益ヲ擧グル目的ヲ以テ買戻約款ヲ附シ、他ノ物品ヲ併セ販賣シ其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵鋼工作物築造許可規則

（昭和十二年七月三十日 樺太廳令第五十八號）

沿革　昭和十三年八月五日樺太廳令第六十七號ニ依リ改正

第一條　鐵筋「コンクリート」造、鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造又ハ鐵造ノ工作物（建築物ヲ含ム以下同ジ）ヲ築造セントスル者ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ但シ樺太廳長官ノ指定スル工作物ノ築造ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定シタル工作物ヲ築造セントスル者ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ但シ屋上制限規則ニ依リ家屋其ノ他ノ建造物ノ屋上覆葺ニ使用スルモノ、庇、橋、換氣筒、煙突、雨押、木口圍又ハ炊事場、流場若ハ風呂場ノ羽目張若ハ床張ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　工作物ノ位置

二　工作物ノ用途

三　築造ヲ必要トスル事由

四　構造ノ種別

五　設計及工事計畫ノ概要

六　建築物ナルトキハ其ノ高サ、階數及各階ノ面積

七　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ種類及數量又ハ薄鋼板ノ使用數量

八　工事著手及竣工ノ豫定時期

九　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第三條　前條第一號、第二號、第四號、第六號及第七號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第四條　樺太廳長官ハ第一條ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量又ハ薄鋼板ノ使用數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事竣工シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第六條　第一條第一項但書ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定スル工作物ヲ築造シタル

者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條同項ノ許可ヲ要スル工作物ノ用途ニ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ同條同項ノ許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條同項ノ許可ヲ要スル他ノ工作物ノ用途ニ變更セントスルトキ亦同ジ

第七條　第一條第一項但書ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定スル工作物ヲ築造セントスル者ハ工事ノ著手前第二條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第八條　本令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ニシテ既ニ基礎工事ヲ終了シタルモノニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ當該工作物ニ付第二條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅルコトヲ要ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ第一條ノ許可ヲ受クベキ工作物ニシテ前項ノ規定ニ該當セザルモノニ付テハ本令施行後二週間以內ニ第二條ノ許可申請書ニ本令施行ノ際ニ於ケル工事進捗ノ程度ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年八月五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ハ第一條ノ許可ヲ受クベシ同條同項ノ許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）ガ其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ第一條ノ許可ヲ要スル他ノ工作物ノ用途ニ變更セントスルトキハ第六條ノ規定ヲ準用ス（昭和十三年七月三十日樺太廳令第五十八號）

鋼製品ノ製造制限ニ關スル件

（昭和十三年七月二十八日 樺太廳令第五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ニシテ既ニ基礎工事ヲ終了シタルモノニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ當該工作物ニ付第二條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅルコトヲ要ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ第一條ノ許可ヲ受クベキ工作物ニシテ前項ノ規定ニ該當セザルモノニ付テハ本令施行後二週間以內ニ第二條ノ許可申請書ニ本令施行ノ際ニ於ケル工事進捗ノ程度ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年八月五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ハ第一條ノ許可ヲ受クベシ同條同項ノ許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）ガ其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ第一條ノ許可ヲ要スル他ノ工作物ノ用途ニ變更セントスルトキハ第六條ノ規定ヲ準用ス（昭和十三年七月三十日樺太廳令第五十八號）

鋼製品ノ製造制限ニ關スル件

（昭和十三年七月二十八日 樺太廳令第五十七號）

樺太廳長官ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ハ鋼材（屑鋼ヲ含ム）ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ製造セントスル物品ノ名稱、數量及鋼材種類別使用數量並ニ製造セントスル特別ノ事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由シ樺太廳長官ニ提出スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ製造セントスル特別ノ事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由シ樺太廳長官ニ提出スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ製造中ノモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

銑鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件

（昭和十三年五月八日 樺太廳令第三十八號）

樺太廳長官ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ハ銑鐵ヲ以テ之ヲ鑄造スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ許可ノ申請書ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

銅使用制限規則

（昭和十二年十一月十二日 樺太廳令第六十五號）

沿革　昭和十三年五月六日樺太廳令第三十七號

昭和十三年八月十四日樺太廳令第六十七號

第一條　本令ニ於テ銅合金トハ黃銅（眞鍮）、靑銅（砲金ヲ含ム）、洋銀（洋白）、四分一（鐳銀）、白銅及赤銅ヲ謂フ

第二條　銅（屑及故ヲ含ム以下同ジ）又ハ銅合金（屑及故ヲ含ム以下同ジ）ハ之ヲ建築物ノ門、欄、屋根、庇、水切、雨樋、木口隱、樋、化粧張（羽目張、下見張及扶壁ヲ含ム）、煙突、排氣筒、枠、扉、蹴板、押板、破損止金物（保護金物）、方立、コーナービード、仕切用金物（カウンタースクリーンヲ含ム）、手摺、格子、辻止、目地、炊事臺（調理臺ヲ含ム）、流場（流臺ヲ含ム）又ハ柱、壁、天井、庇廻シ等ノ裝飾金物（グリルヲ含ム）トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　銅又ハ銅合金ノ種類別　使用數量（前條ニ規定スル用途別ニ記載スベシ）

二　銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由

三　建築物ノ位置

四　建築物ノ用途

五　建築物ヲ建築スル場合ニ在リテハ工事著手及竣工ノ豫定時期

六　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第四條　銅又ハ銅合金ハ之ヲ樺太廳長官ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同ジ）又ハ其ノ部分品ニ非ザルモノノ製造（加工ヲ含ム以下同ジ）ニ使用スルコトヲ得ズ但シ左ノ一ニ該當スル場合及特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　法令ニ依リ製造ヲ要スルモノノ製造ニ使用スルトキ

二　學術研究、試驗又ハ標本ノ用ニ供スルモノノ製造ニ使用スルトキ

三　美術展覽會ノ出品物ノ製造ニ使用スルトキ

四　鍍金用又ハ箔、紙、絲、粉若ハ液トシテ使用スルトキ

第五條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　製造スル物品ノ名稱及數量

二　銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量

三　銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由

第六條　輸出品又ハ銅合金ヲ使用シテ製造シタル物品ノ名稱及數量

一　製造工場ノ名稱及所在地

二　製造スル物品ノ名稱及數量

三　銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量

四　製造スル物品ノ相手方別販賣豫定數量

第七條　第四條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品又ハ其ノ部分品トシテ銅又ハ銅合金ヲ使用シテ製造シタルモノヲ讓受ケタル者ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和十二年十一月十二日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ許可ヲ受クベキ者ニシテ本令施行ノ際現ニ第二條ニ揭グル用途ニ銅又ハ銅合金ヲ使用中ノモノニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ四週間以內ニ第三條ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第四條又ハ第六條ノ許可ヲ受クベキ者ニシテ本令施行ノ際現ニ第四條各號ニ揭グル物品若ハ其ノ部分品又ハ第六條ニ規定スル原料若ハ材料ヲ製造中ノモノニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ四週間以內ニ第五條各號又ハ第七條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅルコトヲ要ス

本令施行ノ際現ニ銅又ハ銅合金ヲ使用シテ第四條各號ニ揭グル物品又ハ其ノ部分品ノ製造ヲ爲スヲ業トスル者ハ昭和十三年五月十一日現在ノ當該物品又ハ部分品ノ在庫數量ヲ本令施行ノ日ヨリ四週間以內ニ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

（昭和十三年五月六日樺太廳令第三十七號）

附　則

本令ハ昭和十三年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ第二條ノ規定ニ依リ新ニ制限ヲ受クルニ至リタル用途ニ銅又ハ銅合金ヲ使用中ノ者ニハ其ノ使用ニ付本令第二條ノ規定ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ一週間以內ニ第三條ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

（昭和十三年八月十四日樺太廳令第六十七號）

白金使用制限規則

（昭和十三年二月十七日樺太廳令第十四號）

第一條　白金ハ之ヲ裝飾用品、裝身具、身廻品、文房具又ハ什器ノ製造（加工及修理ヲ含ム以下同ジ）ニ使用スルコトヲ得ズ但シ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　製造スル物品ノ名稱及數量

二　白金ノ使用量

三　白金ヲ使用セントスル事由

第三條　白金ノ生產、輸移入又ハ賣買ヲ業トスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル事業月報ヲ翌月十五日迄ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　生產量又ハ輸移入量

二　買入量（輸移入量ヲ除ク）

三　販賣量

四　使用量

五　月末在庫量

第四條　本令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ第一條ニ揭グル物品ノ製造ニ白金ヲ使用中ノ者ニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ四週間以內ニ第二條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅルコトヲ要ス

鉛、亞鉛、錫等使用制限規則

（昭和十三年七月二十八日樺太廳令第五十六號）

第一條　鉛、亞鉛、錫若ハアンチモン又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒタル合金ヲ使用シテ製造シタル箔、紙又ハチューブ之ヲ齒磨、化粧品又ハ飮食料品ニシテ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同ジ）ニ非ザルモノノ包裝ニ使用スルコトヲ得ズ但シ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請

書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　使用スル箔、紙又ハチューブノ種類及數量

二　箔、紙又ハチューブノ用途

三　箔、紙又ハチューブヲ使用セントスル事由

第三條　鉛、亞鉛、錫、アンチモン若ハニッケル又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒクル合金（錫使用制限規則ノ適用ヲ受クル錫合金ヲ除ク）ハ之ヲ左ニ揭グル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品ニ非ザルモノノ製造ニ使用スルコトヲ得ズ但シ亞鉛メッキ用、錫メッキ用又ハハンダトシテ使用スル場合及樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　茶器、酒器、菓子器其ノ他ノ飮食用器具

二　鍋、釜、湯沸其ノ他ノ廚房用器具

三　火鉢、帽子掛、飾棚、飾臺其ノ他ノ家具什器

四　手摺、把手、蝶番其ノ他ノ建築用附屬金具

五　置物、花器、賞盃、南物其ノ他ノ美術裝飾品

六　煙草セット、シガレットケース、灰皿其ノ他ノ喫煙用器具

七　ハンドバッグ、化粧用具、化粧品容器其ノ他ノ身邊用品

八　髮飾、帶止、ブローチ、釦釦其ノ他ノ裝身具又ハ被服附屬金具

九　文鎭、インクスタンド、紙切其ノ他ノ文房具

十　玩具

第四條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　製造スル物品ノ名稱及數量

二　鉛、亞鉛、錫、アンチモン若ハニッケル又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒタル合金ノ種類別使用數量

三　鉛、亞鉛、錫、アンチモン若ハニッケル又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒタル合金ヲ使用セントスル事由

第五條　鉛、亞鉛、錫、アンチモン若ハニッケル又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒクル合金ヲ使用シテ製造シタルモノノ金屬ヲ用ヒタル合金ヲ以テ輸出品トシテ包裝シタル齒磨、化粧品若ハ飮食料品又ハ第三條各號ニ揭グル物品若ハ其ノ部分品ニシテ輸出品トシテ鉛、亞鉛、錫、アンチモン、ニッケル若ハ之等ノ金屬ヲ用ヒタル合金ヲ使用シテ製造シタルモノ又ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本令ニ依リ提出スル書類ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年八月五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ齒磨、化粧品又ハ飮食料品ノ製造ヲ爲スヲ業トスル者ニハ本令施行ノ際現ニ有スル箔、紙又ハチューブヲ使用スル場合ニ限リ第一條ノ規定ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ輸出品ニ非ザルモノニ付第二條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

本令施行ノ際現ニ第三條各號ニ揭グル物品又ハ其ノ部分品ノ製造ヲ爲スヲ業トスル者ニハ本令施行ノ際現ニ有スル鉛、亞鉛、錫、アンチモン若ハニッケル又ハ之等ノ金屬ヲ用ヒクル合金ヲ使用スル場合ニ限リ第三條ノ規定ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ輸出品ニ非ザルモノニ付第四條各號ニ揭グル事項ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

揮發油及重油販賣取締規則

（昭和十三年七月二十三日樺太廳令第五十三號）

第一條　本令ニ於テ揮發油トハ揖氏十五度ニ於ケル比重〇・八〇一七ヲ超エザル礦油ヲ、重油トハ揖氏十五度ニ於ケル比重〇・八七六二ヲ超ユル黑色、褐色又ハ暗綠色ノ礦油ニシテ不透明ナルモノ（コールタールヲ除ク）ヲ謂フ

第二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ購買券（第十三條ノ規定ニ依ル記載ナキモノニ限ル）ト引換フルニ非ザレバ揮發油又ハ重油ヲ賣渡スコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ノ各號ノ一ニ該當スル揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

イ　御料品

ロ　官廳用品

ハ　軍用品

ニ　本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準ズベキ使節若ハ領事ノ自用品又ハ在本邦外國大使館、公使館若ハ領事館ノ公用品

ホ　航空機用品

ヘ　船舶安全法ニ依ル近海區域（本令施行地ノ沿岸區域ヲ除ク）若ハ遠洋區域ヲ航行區域トスル船舶又ハ本令施行地ニ住所ヲ有セザル者ノ所有ニ係ル船舶ノ用品（本令施行地內ニ住所ヲ有スル者ノ傭船ニ係ル船舶ノ用品ヲ除ク）

ト　汽船トロール漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業、機船底曳網漁業又ハ專ラ漁獵場ヨリ漁獲物若ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務ニ從事スル船舶ニシテ外國港灣ニ出入スルモノノ用品

二　揮發油ヲ一リットル以下賣渡ストキ

三　重油ヲ五リットル以下賣渡ストキ

四　販賣ノ目的ヲ以テ買受ケル揮發油又ハ重油ノ販賣業者ニ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

五　精製又ハ販賣ノ目的ヲ以テ買受ケル石油精製業者ニ揮發油又ハ石油運搬用船舶若ハ重油ヲ使用スル目的ヲ以テ買受ケル揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者又ハ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

六　精製ノ爲使用スル目的ヲ以テ買受ケル石油精製業者ニ重油ヲ賣渡ストキ

七　石油運搬用自動車又ハ石油運搬用船舶ニ使用スル目的ヲ以テ買受ケル揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ニ揮發油又ハ重油ヲ賣渡ストキ

八　天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アリタルニ因リ購買券ニ依ルコトヲ得ザルトキ

第三條　購買券ハ樺太廳長官之ヲ發行ス

第四條　購買券ハ當分ノ內天然揮發油及重油購買券ト人造揮發油及重油購買券トニ分チ其ノ交付ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第五條　購買券ハ揮發油ニ付テハ一ガロン券、五ガロン券、五リットル券、十リットル券、一キロリットル券及十キロリットル券ノ八種トシ重油ニ付テハ十八リットル（一罐）券、九十リットル（五罐）券、百八十リットル（十罐）券、一キロリットル券、十キロリットル券及百キロリットル券ノ六種トス

購買券ハ別記第一號樣式ニ依ル

第六條　購買券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ別記第二號樣式ニ依ル購買券交付申請書ヲ使用セントスル月ノ前前月ノ五日迄ニ左ノ區別ニ從ヒ所轄警察署長ヲ經由シ正副二通ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ但シ新ニ揮發油又ハ重油ヲ使用スル事業ヲ開始シタル者ニ在リテハ前月ノ五日迄ニ提出スルコトヲ得

一　揮發油又ハ重油ヲ工場又ハ事業場ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所在地

二　揮發油又ハ重油ヲ營業用自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ主タル營業所ノ所在地

三　揮發油又ハ重油ヲガソリン機關車、ガソリン動車、デーゼル機關車又ハデーゼル動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ地方鐵道又ハ軌道ヲ經營スル者ノ主タル事務所ノ所在地

四　揮發油又ハ重油ヲ船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所有者又ハ艤船者ノ住所地

五　其ノ他ノ場合ニ於テハ購買券交付申

請者ノ住所地

第七條　購買券ノ交付ノ申請ハ一月分宛之ヲ爲スベシ但シ交通困難其ノ他特別ノ事由アル場合ハ六月分以内ノ購買券ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第八條　購買券ハ一月分宛之ヲ交付ス但シ前條但書ノ申請者ニ對シテハ六月分以内ノ購買券ヲ交付スルコトアルベシ

第九條　購買券ハ交付申請書ノ提出アリタル月ノ翌月二十五日ヨリ其ノ月ノ末日迄ニ申請書ヲ經由シタル警察署長之ヲ交付ス但シ第六條但書ノ場合及特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　購買券ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ（申請數量ト異リタル數量ノ購買券ヲ交付シタル場合ヲ含ム）次回ノ購買券交付期日迄ハ購買券ヲ交付セズ但シ交付ヲ受ケタル購買券滅失、燒失其ノ他特別ノ事由ニ因リ使用シ得ザルニ至リタルトキハ其ノ事由ヲ明白ナル場合ニ限リ其ノ使用シ得ザルニ至リタル數量ノ範圍内ニ於テ購買券ヲ交付スルコトアルベシ

前項但書ノ規定ニ依リ購買券ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル再交付申請書ヲ第六條ノ例ニ依リ所轄警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十一條　購買券必要ナキニ至リタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ殘存購買券ヲ之ヲ交付シタル警察署長ヲ經由シ樺太廳長官ニ返納スベシ

第十二條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者第二條第八號ニ該當スル場合ニ於テ購買券ト引換ニ非ズシテ揮發油又ハ重油ヲ販賣セントスルトキハ其ノ都度所轄警察署長ノ承認ヲ受クベシ

第十三條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ其ノ引換ヘタル購買券ニ引換後遲滯ナク當該販賣場ノ名稱及引換ノ年月日ヲ記載スベシ

第十四條　揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者ハ其ノ引換ヘタル購買券ヲ四號樣式ニ依ル報告書ヲ販賣場所在地ヲ管轄スル警察署長ヲ經由シ每月十日迄ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

前項ノ報告書ニハ前月中ニ引換ヘタル購買券ヲ添附スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條及第十六條ノ規定ハ昭和十三年九月一日ヨリ、第十七條ノ規定ハ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年八月ニ購買券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ購買券交付申請書ヲ第六條ノ例ニ依リ所轄警察署長ヲ經由シ本令施行ノ日ヨリ二週間以内ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

前項ノ規定ニ依ル購買券ハ昭和十三年八月二十五日ヨリ同月三十一日迄ニ申請書ヲ經由シタル警察署長之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本令施行ノ際現ニ揮發油若ハ重油ノ販賣業又ハ石油精製業ヲ營ム者ハ販賣場每ニ第十五條各號ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆出書ヲ販賣場所在地ヲ管轄スル警察署長ヲ經由シ本令施行ノ日ヨリ二週間以内ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

（別記樣式省略）

皮革使用制限規則

（昭和十三年七月十九日樺太廳令第五十一號）

第一條　左ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革（黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同ジ）ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ註文又ハ輸出註文（關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　靴
二　馬具
三　自轉車又ハ自動自轉車用サドル
四　調帶
五　パッキング
六　運動用具
七　革紙

第二條　左ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鮫革ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ註文又ハ輸出註文（關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　草履、スリッパ其ノ他ノ履物（鼻緒及爪皮ヲ含ム）但シ靴ヲ除ク
二　鞄、トランク、ランドセル、ヨユック サック、圖囊其ノ他ノ携帶用具
三　マント、外套、上著、ズボン其ノ他ノ衣類
四　帽子、手袋、帶革、ズボン吊、靴下留、脚絆其ノ他ノ衣類附屬品
五　ハンドバック、蟇口、紙入、煙草入、名刺入、筆入其ノ他ノ袋物
六　眼鏡サック、化粧箱、寫眞器ケース、猟銃サック、運動具入其ノ他ノ容器
七　水筒紐、時計腕革其ノ他ノ縛革
八　首輪、引紐、鞭其ノ他ノ家畜用具但シ馬具ヲ除ク
九　椅子、卓子、机、寢臺、麻雀臺其ノ他ノ家具什器
十　書籍及帳簿、アルバム其ノ他ノ文房具
十一　張革、吊革其ノ他ノ車輛用品

第三條　牛革ヲ使用シタル第一條ニ揭グル物品若ハ其ノ材料又ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革若ハ鮫革ヲ使用シタル第二條ニ揭グル物品若ハ其ノ材料ニシテ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク）トシテ製造セラレタルモノヲ讓受ケタル者ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ

第四條　本令ニ依リ提出スベキ書類ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ製造中ノモノニ付テハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際第一條若ハ第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ノ製造ヲ業トスル者、牛皮、馬皮、羊皮又ハ豚皮ノ輸入又ハ販賣ヲ業トスル者及牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鮫革ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ハ本令施行ノ日ヨリ二週間以内ニ本令施行ノ日現在ノ皮革ノ種類別在庫數量ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

本令施行ノ際第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ノ製造ヲ業トスル者ニシテ他ノ用途ニ轉用シ得ザル革ヲ所有スルモノハ本令施行後二ケ月間ヲ限リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ第二條ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ヲ製造スルコトヲ得

ゴムノ使用制限ニ關スル件

（昭和十三年七月二十八日樺太廳令第五十五號）

左ニ揭グル物品又ハ其ノ材料ハインディアラバー、パララバー、ラテックス、ジロトン、バラタ、ガタパーチャ又ハ再生ゴムヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ註文

又ハ輸出 註文（關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 總ゴム長靴
二 總ゴム短靴（雨靴、オーバーシューズ及豆靴ヲ含ム）
三 草履及下駄（鼻緒及爪革ヲ含ム）
四 スリッパ
五 手袋（醫療用ノモノヲ除ク）
六 衣服用ベルト
七 タイル
八 ラバーリューム
九 手摺ベルト
十 マット
十一 デスクシート
十二 家具用キャップ
十三 クッションゴム
十四 ガーデンホース
十五 ゴムバンド
十六 絲ゴム
十七 空氣枕
十八 スポンヂ
十九 玩具
二十 廣告用氣球
二十一 海水浴用具
二十二 運動用具
二十三 チューインガム

前項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ製造セントスル物品ノ名稱、數量及使用ゴム數量竝ニ製造セントスル特別ノ事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳支廳出張所長ヲ經由シ樺太廳長官ニ提出スベシ

附 則

本令ハ昭和十三年八月五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ製造中ノモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

纖維工業設備ニ關スル件

（昭和十三年三月十二日 樺太廳令第十八號）

綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ハ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同ジ）及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノヲ除クノ外之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステープルファイバーヲ混用シタルモノヲ含ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ仕掛中ノモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

關東州ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件

（昭和十二年十二月二十一日 勅令第七百二十七號）

關東州ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關シテハ昭和十二年法律第九十二號ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

關東州臨時輸出許可規則

（昭和十三年五月三日 關東局令第三十九號）

沿革 昭和十三年八月二十九日關東局令第七十四號

第一條 左ノ各號ニ掲グル物品ハ郵便物又ハ原價百圓ヲ超エザルモノヲ除クノ外滿洲國駐箚特命全權大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

一 硝酸
二 ナフタリン
三 米
四 小麥及小麥粉
五 高粱
六 玉蜀黍
七 毛皮
八 皮革
九 豚毛
十 馬毛
十一 羊毛、山羊毛、山羊、駝毛及駱駝毛
十二 苧麻子
十三 木材
十四 黃麻、亞麻、苧麻、大麻、靑麻及ケナフ
十五 屑ノ綿織維
十六 麻袋
十七 屑紙
十八 蔡石
十九 モリブデン鑛、モリブデン及フェロモリブデン
二十 タングステン鑛、タングステン及フェロタングステン
二十一 アンチモン鑛、アンチモン、硫化アンチモン、アンチモン合金及アンチモン製品
二十二 自動車、自動車用內燃機關及自動車ノシャシ

第二條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸出ニ付テハ之ヲ適用セズ

一 御料品
二 本邦又ハ滿洲國ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族竝ニ其ノ從者ニ屬スル物品
三 本邦又ハ滿洲國ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準ズベキ使節、大使館若ハ公使館ノ館員又ハ領事ニ屬スル自用品及在本邦又ハ在滿洲國外國大使館、公使館又ハ領事館ニ屬スル公用品
四 官廳ノ輸出スル物品
五 手荷物、引越荷物又ハ船用品
六 博覽會ニ出品スル爲輸出スル物品
七 滿洲國ニ輸出スル物品

第三條 第一條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書正副二通及注文アリタルコト其ノ他輸出ノ必要ナルコトヲ證スル書面ヲ大使ニ提出スベシ

一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所、事務所又ハ營業所
二 品名
三 數量及價額（種類別ニ記載スベシ）
四 荷受人ノ氏名又ハ名稱及住所、事務所又ハ營業所
五 仕向地
六 輸出地
七 輸出ノ時期

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ物品ノ輸出ヲ爲ス場合ニ於テ大使ノ交付スル輸出許可書ヲ大連稅關ニ提出スベシ

第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者輸出ヲ爲シタルトキハ七日內ニ左ニ掲グル事項ヲ大使ニ屆出ヅベシ

一 屆出者ノ氏名又ハ名稱及住所、事務所又ハ營業所
二 許可ヲ受ケタル物品ノ品名及數量竝ニ許可ノ年月日
三 輸出ヲ爲シタル物品ノ品名、數量及價額
四 輸出ヲ爲シタル物品ノ仕向地
五 輸出地
六 輸出ノ年月日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ賣買契約濟ニシテ且本令施行後二十日內ニ大連稅關ニ輸出申告ヲ爲シタル物ノ輸出ニ付テハ本令ヲ適用セズ

（昭和十三年五月三日關東局令第三十九號）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ賣買契約濟ニシテ且本令施行後二十日內ニ大連稅關ニ輸出申告ヲ爲シタル物ノ輸出ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ第一號ニ揭グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

（昭和十三年八月二十九日關東局令第七十四號）

南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件

（昭和十二年九月二十一日勅令第五百十六號）

南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關シテハ昭和十二年法律第九十二號ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件施行規則

（昭和十二年十月三十日南洋廳令第二十號）

南洋群島臨時輸出入許可規則ニ規定スルモノノ外商工省令第二十三號臨時輸出入許可規則ニ依ル但シ同規則中商工大臣トアルハ南洋廳長官、稅關トアルハ南洋廳支廳トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島鐵鋼工作物築造許可規則

（昭和十二年十月三十日南洋廳令第二十一號）

第一條　鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造又ハスル鐵筋「コンクリート」造、鐵骨ヲ有スル鐵造ノ工作物（建築物ヲ含ム以下同ジ）ヲ築造セントスル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ但シ南洋廳長官ノ指定スル工作物又ハ構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量五十噸以下ノ工作物ノ築造ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　工作物ノ位置
二　工作物ノ用途
三　築造ヲ必要トスル事由
四　構造ノ種別
五　設計及工事計畫ノ概要
六　建築物ナルトキハ其ノ高サ、階數及各階ノ面積
七　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ種類及數量
八　工事著手及竣工ノ豫定時期
九　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第三條　前條第一號、第二號、第四號、第六號及第七號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第四條　南洋廳長官ハ第一條ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量ノ制限ヲ爲スコトアルベシ

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事竣工シタルトキハ遲滯ナク之ヲ南洋廳長官ニ屆出ヅベシ

第六條　第一條但書ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ指定スル工作物ヲ築造シタル者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條ノ許可ヲ要スル工作物ノ用途ニ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ同條ノ許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ南洋廳長官ニ提出スベシ

者（當該工作物ノ承繼人ヲ含ム）其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條ノ許可ヲ要スル他ノ工作物ノ用途ニ變更セントスルトキ亦同ジ

第七條　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量五十噸以下ノ工作物ヲ築造セントスル者ハ工事ノ著手前第二條各號ニ揭グル事項ヲ南洋廳長官ニ屆出ヅベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ニシテ既ニ基礎工事ヲ終了シタルモノニハ本令ヲ適用セズ但シ本令施行ノ日ヨリ二週間以內ニ當該工作物ニ付第二條各號ニ揭グル事項ヲ南洋廳長官ニ屆出ヅルコトヲ要ス

本令施行ノ際現ニ工事中ノ第一條ノ許可ヲ受クベキ工作物ニシテ前項ノ規定ニ該當セザルモノニ付テハ本令施行後二週間以內ニ第二條ノ許可申請書ニ本令施行ノ際ニ於ケル工事進捗ノ程度ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

臨時資金調整法

（昭和十二年九月十日法律第八十六號）

第一條　本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條　銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以下之ヲ證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第三條　金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條　命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ

一　第二回以後ノ株金ノ拂込、社債ノ募集又ハ金融機關ヨリノ借入ニ依ラズシテ命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスルトキ

二　株金ノ拂込、社債ノ募集又ハ金融機關ヨリノ借入ニ依ラズシテ命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスルトキ

三　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第五條　政府ハ命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條　日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七條　命令ノ定ムル所ニ依リ第二條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムル場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第八條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第九條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條　政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　第二條、第四條、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審查委員會ノ議ヲ經ベシ

臨時資金審查委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金二億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

第十四條　貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年內ニ毎年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ百五十倍以內ノ割增金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割增金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十五條　復興貯蓄債券法第三條、第五條、第六條、第七條第一項及第八條竝ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券ニ之ヲ準用ス

第十六條　政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ揭グル事項ニ關シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

一　資金ノ需給及移動ニ關スル事項

二　有價證券ニ關スル事項

三　國際收支ニ關スル事項

四　事業ノ資金計畫ニ關スル事項

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者

二　第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告、設備ノ新設、擴張若ハ改良又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二　第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

第十九條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條　當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ第十四條及第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年内ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時資金調整法第十一條ノ規定ハ昭和十二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年九月十三日勅令第四百九十二號）

臨時資金調整法中未ダ施行セザル規定ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年九月二十四日勅令第五百二十六號）

臨時資金調整法施行令

（昭和十二年九月二十五日勅令第五百二十七號）

沿革　昭和十三年八月十五日勅令第五百九十號改正

第一條　臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亘ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ亦同ジ

第二條　臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條　前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

一　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付ヲ爲ストキ

二　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

第四條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社

二　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

三　目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ掲グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ニ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更ハ左ニ掲グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更

二　資本增加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本增加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主

務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ會社ハ相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓以上ノモノ及相互會社トス但シ同項ニ揭グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ニ協議スベシ

臨時資金調整法第四條第二項第二號ノ限度ハ五萬圓トス

第七條　臨時資金調整法第二條又ハ第四條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條　臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條　左ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ增加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

一　航空機製造事業

二　金屬工機械製造事業

三　兵器及兵器部分品製造事業

四　鋼鈑製造事業

五　製鐵事業

六　產金事業

七　石炭鑛業

八　石油鑛業、石油精製業及石油輸入業

第十條　臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ攜帶スベシ

第十一條　第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行及信託會社ニ付テハ大藏大臣、商工大臣、商工組合中央金庫及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トス

第二條　金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

キハ大藏大臣ニ協議スベシ

附　則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年八月十五日勅令第五百九十號）

臨時資金調整法施行細則

（昭和十二年九月二十五日　大藏省令　農林省令　商工省令）

沿革　昭和十二年十月十三日大藏、農林、商工省令
昭和十三年八月十五日同令改正

第一條　臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條　金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
三 貸付ノ種類、時期及金額(數口ニ亘ルトキハ貸付總額竝ニ各口ノ貸付ノ種類、時期及金額)
四 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
五 借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
四 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
五 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
六 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途
七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第五條 臨時資金調整法施行令第四條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ發起人又ハ社員タルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 申請者ノ住所及氏名
二 會社ノ住所、商號又ハ名稱及資本金額
三 會社ノ目的タル事業ノ大要
四 會社ノ設立ヲ必要トスル事由
五 會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
六 第一回ノ拂込ノ時期及金額

前項ノ認可申請書ニハ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書ヲ添附スベシ

會社ノ創立總會ニ於テ前項ノ定款ヲ變更シタルトキ又ハ創立總會ノ終結ガ前項ノ定款作成ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第六條 臨時資金調整法施行令第五條ノ資本增加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
二 會社ノ現在ノ資本金額
三 資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
四 資本增加ノ方法
五 資本增加ヲ必要トスル事由
六 資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途
七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二 定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三 資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

新株ノ募集ニ關スル專項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ決議ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第七條 臨時資金調整法施行令第五條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
二 合併スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額
三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
四 合併後存續ズル會社又ハ合併ニ因リ設立ズル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額
五 合併ノ時期及方法
六 合併ヲ必要トスル事由
七 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二 合併契約書ノ謄本
三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書
四 合併スル會社ノ定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第五條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 臨時資金調整法施行令第五條ノ目的變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
三 會社ノ現在ノ目的及變更後ノ目的
四 目的變更ヲ必要トスル事由
五 目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二 定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三 目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第九條 臨時資金調整法施行令第六條ノ會社第二回以後ノ株金ノ拂込ノ催告ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
三 株金ノ拂込ノ時期及金額
四 株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由

五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途
六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
二　株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第十條　臨時資金調整法施行令第六條ノ會社株金ノ拂込、社債ノ募集又ハ金融機關ヨリノ借入ニ依ラズシテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
四　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由
前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
株金ノ拂込金、社債ノ募集金又ハ金融機關ヨリノ借入金ニシテ其ノ拂込ノ催告ガ昭和十三年勅令第五百九十號ノ施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス資本金二十萬圓以上五十萬圓未滿ノ會社ノ株金ノ拂込金ニシテ其ノ拂込ノ催告ガ昭和十三年勅令第五百九十號ノ施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ付テハ第二項及第二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス資本金五十萬圓以上五十萬圓未滿ノ會社ノ株金ノ拂込金ニシテ其ノ拂込ノ催告ガ昭和十三年勅令第五百九十號ノ施行後ニ屬セザルモノナル場合亦同ジ
六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第十一條　臨時資金調整法施行令第九條ニ揭グル事業ヲ營ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由

四　資本增加ノ方法
五　株金全額拂込前ノ資本增加ヲ必要トスル事由
六　資本增加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第十三條　臨時資金調整法施行令第九條ニ揭グル事業ヲ營ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由
五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ利率ノ最高限度
二　社債ノ利率ノ最高限度
第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　前ニ社債ヲ募集シタル者ニシテ其ノ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノニ付テハ第一回ノ社債ノ募集ニ關スル書類ノ外左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度
第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　前ニ社債ヲ募集シタル者ニシテ其ノ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノニ付テハ第一回ノ社債ノ募集ニ關スル書類ノ外左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第十四條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
三　額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地內ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
四　額面總額五萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第十五條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十迄ニ報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲

ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

三　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ

四　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲シタルトキ

第十六條　前二條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ

一　資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

ロ　借主ノ事業ノ種類

ハ　貸付ノ年月日

ニ　貸付ノ種類及金額

ホ　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件

ヘ　貸付金ノ使途

二　有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　應募割當ノ年月日

ニ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額

ホ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期

三　有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日

ニ　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

ホ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

ヘ　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

ト　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第十七條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ノ申請書ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　第一條乃至第四條、第十四條及第十五條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行及信託會社ニ付テハ大藏大臣、商工組合中央金庫及農林中央金庫ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫及商工大臣ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、産業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第五條乃至第十三條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トス

附　則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ提出スベシ

（昭和十二年十月十三日大藏、農林、商工省令）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ提出スベシ

（昭和十三年八月十五日大藏、農林、商工省令）

臨時資金調整委員會官制

（昭和十二年九月十六日勅令第四百九十八號）

第一條　臨時資金調整委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ資金使用ノ調整ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ資金使用ノ調整ニ關スル事項ニ付關係各廳制定官及日本銀行職員ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　委員ハ會長一人、副會長二人及委員四十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ大藏大臣及商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金審査委員會官制

（昭和十二年九月二十七日勅令第五百三十六號）

第一條　臨時資金審査委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ臨時資金調整法第十二條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメラルル事項ヲ調査審議ス

第二條　委員會ハ會長一人及委員六人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第五條　委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第六條　委員會ハ會務ヲ總理ス

第七條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第八條　委員會ニ書記ヲ置ク關係各廳判任官及日本銀行職員ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金審査委員會官制

（昭和十二年九月二十七日勅令第五百三十六號）

第一條　臨時資金審査委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ臨時資金調整法第十二條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメラルル事項ヲ調査審議ス

第二條　委員ハ會長一人、副會長二人及委員四十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ大藏大臣及商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整委員會官制

第一條　臨時資金調整委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各廳制任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第二條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第三條　會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ大藏大臣及商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員及臨時委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國際收支調査規則

（昭和十三年四月八日大藏省令第二十二號）

第一條　大藏大臣ハ臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ國際收支ニ關スル事項ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ第二條以下ニ定ムルモノノ外隨時人及事項ヲ指定シテ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二條　昭和十二年中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル收入又ハ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入金額又ハ支拂金額等ヲ附屬第一號乃至第十一號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ各號每ニ收入金額又ハ支拂金額通ジテ五百圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　外國通貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賣却代金ヲ含ム）ノ收入

二　外國居住者（外國政府、外國ノ公共團

體及本邦ニ本店ヲ有スル會社ノ外國ニ在ル營業所ヲ含ム以下同ジ）ニ對スル貸付金又ハ預ケ金ノ利子ノ收入

三　外國居住者ヨリノ借入金又ハ預リ金ノ利子ノ支拂

四　外國居住者ヲ受託者トスル信託ノ利益ノ收入

五　外國ニ本店ヲ有スル會社（滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヲ除ク）ヨリノ配當金其ノ他ノ利益分配金ノ收入

六　外國居住者ヘノ配當金其ノ他ノ利益分配金ノ支拂

七　外國居住者トノ間ニ於ケル傭船料（船舶ノ賃貸借料ヲ含ム）ノ收入又ハ支拂

八　外國居住者トノ間ニ於ケル不動產ノ賃貸借料ノ收入又ハ支拂

九　外國艦船ノ製造若ハ修繕代、外國艦船ノ水先案內料、外國艦船ノ港灣改修等ノ使用ニ關スル料金又ハ外國船舶ノ積卸荷役費ノ收入

十　外國居住者トノ間ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權、著作權其ノ他之ニ準ズル權利ノ讓渡若ハ讓受代金又ハ此等ノ權利ノ實施ニ關スル對價ノ收入又ハ支拂

十一　外國居住者トノ間ニ於ケル船舶、不動產、鑛業權又ハ森林伐採權ノ讓渡若ハ讓受代金ノ收入又ハ支拂

第三條　昭和十二年中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ外國居住者ヨリ收入ヲ爲シ又ハ外國居住者ニ對シ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入金額又ハ支拂金額等ヲ附屬第十二號乃至第十五號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ各號毎ニ收入金額又ハ支拂金額通ジテ二千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

一　本邦若ハ外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券（登錄シタルモノヲ含ム）ノ取得又ハ處分

二　外國通貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ拂込又ハ償還ノ收入

三　本邦若ハ外國ノ會社ノ株式若ハ持分ノ取得又ハ處分

四　外國ニ本店ヲ有スル會社（滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヲ除ク）ノ株式若ハ之ニ對スル出資ノ拂込又ハ拂戻

五　外國居住者ニ對スル貸付金ノ貸付若ハ回收又ハ外國居住者ニ對スル預ケ金ノ預入若ハ引出

六　外國居住者ヨリノ借入金ノ借入若ハ返濟又ハ外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入若ハ拂戻

七　外國居住者ヲ受託者トスル信託ノ委託又ハ終了

第四條　昭和十二年中ニ營業又ハ宗教、慈善、敎育其ノ他ノ公益ヲ目的トスル事業ニ關シ外國居住者ヨリ千圓相當額以上ノ送金ヲ受ケ又ハ外國居住者ニ對シ千圓相當額以上ノ送金ヲ爲シタル者ハ其ノ金額等ヲ附屬第十六號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

一　本邦ノ輸出入貨物ノ代金ノ收入又ハ支拂

二　外國通貨ヲ以テ表示スル本邦ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賞却代金ヲ含ム）ノ收入

三　邦貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賞却代金ヲ含ム）ノ收入又ハ此等ノ債券ノ拂込若ハ償還ニ依ル支拂又ハ收入

四　滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヨリノ配當金其ノ他利益分配金ノ收入又ハ其ノ株式ノ拂込ニ依ル支拂

五　前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ事項ニ該當スル收入又ハ支拂

第五條　前三條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ事項ニ該當スルモノノ外昭和十二年中ニ外國居住者ヨリ三千圓相當額以上ノ收入ヲ爲シ又ハ外國居住者ニ對シ三千圓相當額以上ノ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入金額又ハ支拂金額等ヲ附屬第十七號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ前條但書第一號乃至第四號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　第二條乃至前條ノ規定ハ外國ニ本店ヲ有シ本令施行地ニ營業所ヲ有スル會社ノ當該營業所ノ代表者ニ對シ亦之ヲ適用ス

外國人ガ外國ニ於テ爲シタル收入又ハ支拂ニ關シテハ第二條乃至前條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スコトヲ要セズ

第七條　本令施行地ニ本店ヲ有スル資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）五十萬圓以上ノ會社ニシテ外國ニ營業所ヲ有スルモノハ昭和十二年中ノ當該營業所ノ勘定ニ屬スル收支計算竝ニ其ノ本邦ニ在ル自社各店及他店トノ貸借關係等ヲ附屬第十八號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ

第八條　外國ニ本店ヲ有スル會社ノ本令施行地內ニ在ル營業所ノ代表者ハ昭和十二年中ノ當該營業所ノ勘定ニ屬スル收支計算竝ニ其ノ外國ニ在ル自社各店及他店トノ貸借關係等ヲ附屬第十九號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ前條但書第一號乃至第四號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

第九條　本令施行地ニ本店ヲ有スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ昭和十二年末ニ於ケル其ノ資本金中外國人ノ保有スル部分ノ割合等ヲ附屬第二十號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ昭和十二年末ニ於テ外國人ノ保有スル拂込資本金十萬圓ニ滿タザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　大藏大臣ハ外國爲替業務ヲ營ム銀行、信託會社、保險會社、拓殖會社、本邦外國間若ハ外國港相互間ニ於テ海運業ヲ營ム者又ハ遠洋漁業ヲ營ム者ニ對シ其ノ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ爲スベキ報告ノ全部又ハ一部ニ代ヘ特別ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　本令ニ依リ報告ヲ爲スベキ者已ムヲ得ザル事由ニ依リ所定ノ期限迄ニ報告ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ報告ヲ延期スルコトヲ得

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ人及事項ヲ指定シテ本令ニ定ムル報告ノ全部又ハ一部ヲ免除シ又ハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三號書式(第二條第三號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

秘

借入金(又ハ預リ金)利子ノ支拂ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

借入先(又ハ預リ先)ノ國別	借入先(又ハ預リ先)ノ氏名又ハ商號	借入金(又ハ預リ金)ノ種類	昭和十二年末借入金(又ハ預リ金)殘高	昭和十二年末ニ於ケル利率	昭和十二年中利子支拂金額	支拂ノ場所	外國ニ於テ支拂ヒタル利子ノ調達方法	摘要

注意　(1)借入金ト預リ金トハ各別紙ニ記載スルコト
(2)借入金ノ種類ハ證書借入、手形借入、當座借越等ニ分チテ記載スルコト
(3)預リ金ノ種類ハ定期預金、當座預金、通知預金、預託保證金等ニ分チテ記載スルコト
(4)同一人ニ對シ利子ノ支拂金額五百圓相當額未滿ノモノニ在リテハ借入先又ハ預リ先ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(5)利子支拂金額ハ實際支拂ヒタル通貨ヲ以テ記載スルコト
(6)支拂ノ場所ハ實際支拂ヒタル國別ニ依リ記載スルコト(記載方ハ第一號ノ注意(1)ニ準ズルコト)
(7)外國ニ於テ支拂ヒタル利子ノ調達方法ハ本邦ヨリ送金シタルヤ、外國ニ於ケル預金ヲ引出シタルヤ、外國ニ於テ借入ヲ爲シタルヤ又ハ輸出貨物代金ヲ以テ決濟ニ充當シタルヤ等ニ分チ金額ヲ示シテ記載スルコト
(8)取引上ノ貸借關係ニ基ク借方殘高ニ對スル利子ノ支拂ヲ爲シタル者ハ國別ニ一括シテ末尾ニ記載シ其ノ旨ヲ摘要欄ニ表示スルコト
(9)昭和十三年中ニ於テ利子支拂ノ見込アル者ハ參考ノ爲其ノ見込額ノ邦貨換算額ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(10)其ノ他第一號ノ注意(1)、(6)、(7)、(9)、(10)ニ準ズルコト

第四號書式(第二條第四號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

秘

信託ノ利益ノ收入ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

受託者ノ國別	受託者ノ氏名又ハ商號	信託ノ種類	昭和十二年末信託元本額	昭和十二年中信託ノ利益收入金額	收入ノ場所	外國ニ於テ收入シタル利益ノ處分狀況	摘要

注意　(1)信託ノ種類ハ金錢信託、金錢信託以外ノ金錢ノ信託、有價證券ノ信託、不動產ノ信託等ニ分チテ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)ニ準ズルコト

第一號書式(第二條第一號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

秘

有價證券利子ノ收入ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

證券發行者ノ國別	證券名稱	昭和十二年末拂込金額	利率	利拂期	昭和十二年中利子收入金額	收入ノ場所	收入ノ方法	外國ニ於テ收入シタル利子ノ處分狀況	摘要

注意　(1)證券發行者ノ國別ハ滿洲國、支那、英國、米國、印度、濠洲、蘭印等ノ如ク記載スルコト但シ支那ニ付テハ省名ヲモ附記スルコト
(2)利子收入金額ハ實際收入シタル通貨ヲ以テ記載スルコト
(3)收入ノ場所ハ實際收入シタル國別ニ依リ記載スルコト(記載方ハ(1)ニ準ズルコト)
(4)收入ノ方法ハ利札ヲ賣却セルヤ、取立ヲ依頼セルヤ又ハ利拂地ニ於テ利札ヲ呈示シテ收入シタルモノナリヤ等ニ分チテ記載スルコト尙本邦ニ於テ外國證券發行以外ノ者ニ賣却セルモノナルトキハ其ノ旨ヲ附記スルコト
(5)外國ニ於テ收入シタル利子ノ處分狀況ハ收入シタル利子ヲ本邦ニ取寄セタルヤ、外國ニ於テ預金シアルヤ又ハ輸入貨物代金ノ決濟ニ充當シタルヤ等ニ分チ金額ヲ示シテ記載スルコト
(6)證券發行者ノ國別且通貨別ニ小計ヲ附シ末尾ニ通貨別ノ合計額ヲ記載スルコト
(7)外國ニ在ル營業所ノ勘定ニ屬スルモノニ付テハ各營業所別ニ別紙ニ記載スルコト
(8)昭和十三年中ニ於テ利子收入ノ見込アル者ハ參考ノ爲其ノ見込額ノ邦貨換算額ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(9)其ノ他參考トナルベキ事項ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(10)報告者ノ國籍又ハ本店ノ所在國別ハ報告者ガ外國人ナル場合ニ限リ記載スルコト(記載方ハ(1)ニ準ズルコト)

第二號書式(第二條第二號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

秘

貸付金(又ハ預ケ金)利子ノ收入ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

貸付先(又ハ預ケ先)ノ國別	貸付先(又ハ預ケ先)ノ氏名又ハ商號	貸付金(又ハ預ケ金)ノ種類	昭和十二年末貸付金(又ハ預ケ金)殘高	昭和十二年末ニ於ケル利率	昭和十二年中利子收入金額	收入ノ場所	外國ニ於テ收入シタル利子ノ處分狀況	摘要

注意　(1)貸付金ト預ケ金トハ各別紙ニ記載スルコト
(2)貸付金ノ種類ハ證書貸付、手形貸付、當座貸越等ニ分チテ記載スルコト
(3)預ケ金ノ種類ハ定期預金、當座預金、通知預金、預託保證金等ニ分チテ記載スルコト
(4)同一人ヨリノ利子ノ收入金額五百圓相當額未滿ノモノニ在リテハ貸付先又ハ預ケ先ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(5)取引上ノ貸借關係ニ基ク貸方殘高ニ對スル利子ノ收入アリタル者ハ國別ニ一括シテ末尾ニ記載シ其ノ旨ヲ摘要欄ニ表示スルコト
(6)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)ニ準ズルコト

第七號書式(第二條第七號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

俸給料ノ收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

俸給先ノ國別	俸給先ノ氏名又ハ商號	契約年月	契約期間	給名	俸給ノ種類	重複嚢一號第二項月俸給料	昭和十二年中俸給料ノ收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シ(又ハ支拂ヒ)タル俸給料ノ送金狀況(又ハ送金方法)	摘要

注意　(1)收入ト支拂トハ各別紙ニ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)ニ準ズルコト

第八號書式(第二條第八號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

不動產賃貸料(又ハ賃借料)ノ收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

不動產賃貸先(又ハ賃借先)ノ國別	不動產賃貸先(又ハ賃借先)ノ氏名又ハ商號	不動產ノ種類	一箇月當賃貸料(又ハ賃借料)	昭和十二年中收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シ(又ハ支拂ヒ)タル賃貸料(又ハ賃借料)ノ送金狀況(又ハ送金方法)	摘要

注意　(1)不動產ノ種類ハ土地又ハ建物ノ用途別ニ分チテ記載スルコト
(2)同一人ヨリノ收入金額又ハ同一人ニ對スル支拂金額千圓相當額未滿ノモノニ在リテハ不動產賃貸先又ハ賃借先ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(3)不動產ノ所在地ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(4)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第五號書式(第二條第五號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

利益分配金ノ收入ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

出資先ノ國別	出資先ノ商號	昭和十二年末出資額	利益分配金ノ種類	昭和十二年中利益分配金收入額	收入ノ場所	外國ニ於テ收入シタル利益分配金ノ送金狀況	摘要

注意　(1)利益分配金ノ種類ハ株式配當、持分其ノ他ニ對スル利益分配金等ニ分チテ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)ニ準ズルコト

第六號書式(第二條第六號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

利益分配金ノ支拂ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　商號　㊞
(代表者　　)
資本金(公稱及拂込)

大藏大臣　　殿

出資者ノ國別	出資者ノ氏名又ハ商號	昭和十二年末出資額	利益分配金ノ種類	昭和十二年中利益分配金支拂額	支拂ノ場所	外國ニ於テ支拂ヒタル利益分配金ノ送金方法	摘要

注意　第一號ノ注意(1)、(6)、(9)、第三號ノ注意(4)乃至(7)、(9)、第五號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第十一號書式(第二條第十一號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

船舶、不動産等ノ讓渡代金(又ハ讓受代金)ノ收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

收入先(又ハ支拂先)ノ國別	收入先(又ハ支拂先)ノ氏名又ハ商號	船舶又ハ不動産ノ種類	昭和十二年中收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シ(又ハ支拂ヒ)タル金額ノ區分狀況(又ハ換算方法)	摘要

注意　(1)不動産ノ所在地、鑛業權又ハ森林伐採權ノ目的タル鑛山、森林等ノ所在地、船舶ノ名稱等ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)、第八號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第十二號書式(第三條第一號乃至第四號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

有價證券ノ移動ニ依ル收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

證券發行者ノ國別	證券名稱	昭和十二年首現在額 拂込金額	昭和十二年首現在額 帳簿價額	收入先(又ハ支拂先)ノ國別	收入(又ハ支拂)ノ事由	昭和十二年中收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シ(又ハ支拂ヒ)タル金額ノ區分狀況(又ハ換算方法)	昭和十二年末現在額 拂込金額	昭和十二年末現在額 帳簿價額	摘要

注意　(1)第三條第一號又ハ第二號ニ關スルモノト同第三號又ハ第四號ニ關スルモノトハ各別紙ニ記載スルコト
(2)收入又ハ支拂ノ事由ハ購入、賣却、拂込、償還、拂戻等ニ分チテ記載スルコト
(3)株式以外ノ持分又ハ出資ニ在リテハ證券名稱ノ欄ニ出資先ノ商號ヲ記載スルコト
(4)同一人ヨリノ收入金額又ハ同一人ニ對スル支拂金額二千圓相當額未滿ノモノニ在リテハ證券名稱又ハ出資先ノ商號ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(5)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第九號書式(第二條第九號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

外國艦船製造代(又ハ外國艦船修繕代等)ノ收入ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

收入先ノ國別	收入先ノ氏名、商號又ハ名稱	艦船所有者ノ氏名、商號又ハ名稱	昭和十二年中收入金額	收入ノ場所	外國ニ於テ收入シタル金額ノ區分狀況	摘要

注意　(1)外國艦船製造代、同修繕代、水先案內料、港灣設備ノ使用料及積卸荷役費ニ分チテ各別紙ニ記載シ標題ニ其ノ旨ヲ表示スルコト
(2)同一人ヨリノ收入金額千圓相當額未滿ノモノニ在リテハ收入先ノ氏名、商號又ハ名稱及艦船所有者ノ氏名、商號又ハ名稱ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(3)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)ニ準ズルコト

第十號書式(第二條第十號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

特許權等ノ讓渡代金(又ハ讓受代金)等ノ收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

大藏大臣　　殿

收入先(又ハ支拂先)ノ國別	收入先(又ハ支拂先)ノ氏名又ハ商號	權利ノ種類	昭和十二年中收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シ(又ハ支拂ヒ)タル代金ノ區分狀況(又ハ換算方法)	摘要

注意　(1)特許權等ノ實施ニ關スル對價ノ收入又ハ支拂ナルヤハ權利ノ種類ノ欄ニ其ノ旨ヲ附記スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第十五號書式(第三條第七號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)　信託ノ増減ニ依ル收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

受託者ノ國別	受託者ノ氏名又ハ商號	信託ノ種類	昭和十二年信託元本額	收入(支拂)ノ事由	昭和十二年收入(又ハ支拂)額	收支所	收入(又ハ支拂)ノ場	外國ニ於テ收入シタル狀況(又ハ支拂ヒ)金額ノ處分狀況(又ハ調達方法)	昭和十二年末ノ信託元本額	摘要

注意　(1)收入又ハ支拂ノ事由ハ委託、解除、期限ノ到來等ニ分チテ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第四號ノ注意(1)、第七號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第十六號書式(第四條關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)　事業資金ノ送金ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

送金者(又ハ送金先)ノ國別	送金者(又ハ送金先)ノ氏名又ハ商號	事業ノ種類	昭和十二年中ニ受ケタル(又ハ爲シタル)送金額	送金ノ目的	摘要

注意　(1)送金ヲ受ケタル分ト送金ヲ爲シタル分トハ各別紙ニ記載スルコト
(2)同一人ヨリノ送金額又ハ同一人ニ對スル送金額千圓相當額未滿ノモノニ在リテハ送金者又ハ送金先ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ省略シテ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(3)事業ノ種類ハ營業及公益事業ニ大別シ其ノ內容ヲ各々明細ニ記載スルコト
(4)送金額ハ邦貨額ヲ以テ記載スルコト
(5)送金者又ハ送金先ノ國別ニ小計ヲ附シ末尾ニ合計額ヲ記載スルコト
(6)其ノ他第一號ノ注意(1)、(8)乃至(10)、第三號ノ注意(9)ニ準ズルコト

第十三號書式(第三條第五號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)　貸付金(又ハ預ケ金)ノ増減ニ依ル收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

貸付先(又ハ預ケ)ノ國別	貸付先(又ハ預ケ)ノ氏名又ハ商號	貸付金(又ハ預ケ金)ノ種類	昭和十二年貸付金(又ハ預ケ金)殘高	收入(又ハ支拂)ノ事由	昭和十二年收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シタル狀況(又ハ支拂ヒ)金額ノ處分狀況(又ハ調達方法)	昭和十二年末貸付金(又ハ預ケ金)殘高	摘要

注意　(1)收入又ハ支拂ノ金額ハ一箇年間ノ積數ヲ記載スルコト
(2)收入又ハ支拂ノ事由ハ貸付、回收、預ケ入、引出等ニ分チテ記載スルコト
(3)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第二號ノ注意(1)乃至(3)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)、第十二號ノ注意(4)ニ準ズルコト

第十四號書式(第三條第六號關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)　借入金(又ハ預リ金)ノ増減ニ依ル收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

借入(又ハ預リ)先(又ハ)ノ國別	借入(又ハ預リ)先(又ハ)ノ氏名又ハ商號	借入金(又ハ預リ金)ノ種類	昭和十二年借入(又ハ預リ金)殘高	收入(又ハ支拂)ノ事由	昭和十二年中ニ收入(又ハ支拂)額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於テ收入シタル狀況(又ハ支拂ヒ)金額ノ處分狀況(又ハ調達方法)	昭和十二年末借入金(又ハ預リ金)殘高	摘要

注意　(1)收入又ハ支拂ノ事由ハ借入、返濟、受入、拂戻等ニ分チテ記載スルコト
(2)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)、第十二號ノ注意(5)ニ準ズルコト

第十九號書式(第八條關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

外國會社ノ在本邦營業所ノ收支計算等ニ關スル報告書

昭和十三年　月　日提出
住所　營業所名
代表者　　㊞

大藏大臣　　殿

國籍又ハ本店ノ所在國別

昭和十二年中收入金額			昭和十二年中支拂金額			在外國自社各店及他店トノ貸借尻				
種類	金額	內外國ヨリ收入	種類	金額	內外國へ支拂	店名	昭和十二年首 貸	昭和十二年首 借	昭和十二年末 貸	昭和十二年末 借
						本店				
						外國ニ在ル支店				
						外國ニ在ル他店				
						計				
收支過不足金						摘要				
昭和十二年中ノ純益又ハ缺損										

注意　第一號ノ注意(2)、(9)、(10)、第三號ノ注意(5)、第十八號ノ注意(1)乃至(3)ニ準ズルコト

第二十號書式(第九條關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

資本金中外國人ノ保有スル割合ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　商號
(代表者　　)　㊞

區分	昭和十二年首現在 公稱資本金	昭和十二年首現在 拂込資本金	昭和十二年末現在 公稱資本金	昭和十二年末現在 拂込資本金	摘要
總額					
內　本邦人ノ保有スル分					
內　外國人ノ保有スル分					
外國人ノ保有スル分ノ總額ニ對スル割合					

注意　本邦人又ハ外國人中外國ニ居住スルモノノ保有スル資本金額ニ付國別ノ明細表ヲ添附スルコト(書式ハ本書式ニ準ズ國別ノ記載方ハ第一號ノ注意(1)ニ準ズルコト)

第十七號書式(第五條關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

雜收入(又ハ支拂)ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　氏名又ハ商號　㊞
(代表者　　)
國籍又ハ本店ノ所在國別

收入先(又ハ支拂先)ノ國別	收入先(又ハ支拂先)ノ氏名、商號又ハ名稱	收入(又ハ支拂)ノ事由	昭和十二年中收入(又ハ支拂)金額	收入(又ハ支拂)ノ場所	外國ニ於ケル收入ジ(又ハ支拂ヒ)タル金額ノ處分狀況(又ハ調達方法)	摘要

注意　(1)收入又ハ支拂ノ事由ハ適當ニ分チテ記載スルコト
(2)同一人ヨリノ收入金額又ハ同一人ニ對スル支拂金額三千圓相當額未滿ノモノニ在リテハ收入先又ハ支拂先ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ省略シ國別ニ一括スルヲ以テ足ルコト
(3)其ノ他第一號ノ注意(1)乃至(3)、(5)乃至(10)、第三號ノ注意(5)乃至(7)、(9)、第七號ノ注意(1)ニ準ズルコト

第十八號書式(第七條關係)　　(日本標準規格B4　257×364mm)

(秘)

在外國營業所ノ收支計算等ニ關スル報告書

大藏大臣　　殿

昭和十三年　月　日提出
住所　商號又ハ名稱　㊞
(代表者　　)
資本金(公稱及拂込)

營業所所在國　　營業所名

昭和十二年中收入金額			昭和十二年中支拂金額			在本邦自社各店及他店トノ貸借尻				
種類	金額	內本邦ヨリ收入	種類	金額	內本邦へ支拂	店名	昭和十二年首 貸	昭和十二年首 借	昭和十二年末 貸	昭和十二年末 借
						本店				
						本邦內支店				
						本邦內他店				
						計				
收支過不足金						摘要				
昭和十二年中ノ純益又ハ缺損										

注意　(1)收入又ハ支拂ノ種類ハ第二條、第三條ノ各號及第四條ノ報告中ニ包含セラルルモノハ各當該報告書毎ニ一括シテ其ノ旨ヲ記載シ其ノ他ノ分ハ本邦ノ輸出入貨物ノ代金、外國間貿易ニ伴フ商品ノ購入又ハ賣買代金等ノ如キ適當ニ分チテ記載スルコト
(2)昭和十三年中ノ純益又ハ缺損ノ見込額ノ邦貨換算額ヲ參考ノ爲摘要欄ニ記載スルコト
(3)事業ノ種類、概況等ヲ摘要欄ニ記載スルコト
(4)其ノ他第一號ノ注意(2)、(9)、第三號ノ注意(5)ニ準ズルコト

臨時資金調整法第十四條ノ規定ニ依ル貯蓄債券ノ割增金ニ關スル件

（昭和十三年二月十九日大藏省令第七號）

日本勸業銀行ヲシテ貯蓄債券ノ割增金中其ノ全部又ハ一部ヲ國債證券ヲ以テ交付セシメントスルトキハ其ノ旨、交付スベキ額竝ニ交付スベキ國債證券ノ名稱、記號及交付價格ヲ其ノ都度當該割增金ノ支拂期前ニ告示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

（昭和十二年十月十四日勅令第五百九十四號）

第一條　臨時資金調整法ハ第五條乃至第七條及第十一條乃至第十五條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條　臨時資金調整法第二條中銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行、信託會社、保險會社、東洋拓殖株式會社及朝鮮金融組合聯合會トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

第三條　臨時資金調整法施行令第三條第二項、第四條第二項、第五條第二項、第六條第二項、第七條、第八條及第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四條　臨時資金調整法施行令中主務大臣、同令第九條中大藏大臣及商工大臣トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行規則

（昭和十二年十月十五日朝鮮總督府令第百五十七號）

沿革　昭和十三年八月十九日朝鮮總督府令第百七十三號改正

第一條　金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲サントスルトキハ朝鮮總督ノ承認ヲ受クベシ

朝鮮總督特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條　金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受クントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

二　借主ノ種類、時期及金額（數口ニ亘ルトキハ貸付總額竝ニ各口ノ貸付ノ種類、時期及金額）

三　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件

四　貸付ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

五　借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二　借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條　金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

三　應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二　社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條　金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二　有價證券發行者ノ事業ノ大要

三　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

四　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

五　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

六　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

七　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ現在ノ資本金額

三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

四　資本增加ノ方法

五　資本增加ヲ必要トスル事由

六　資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途

七　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

三　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ決議ノ日後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第六條　臨時資金調整法施行令第五條ノ資本增加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ現在ノ資本金額

三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

四　資本增加ノ方法

五　資本增加ヲ必要トスル事由

六　資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途

七　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　會社ノ目的タル事業ノ大要

二　會社ノ設立ヲ必要トスル理由

三　會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

大要竝ニ資金ノ調達方法

四　第一回ノ拂込ノ時期及金額

五　會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ定款、事業計畫明細書及事業收支目論見書ヲ添附スベシ

細書及事業收支目論見書ニ於テ前項ノ定款ヲ變更シタルトキ又ハ創立總會ノ終結ガ前項ノ定款作成ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル

ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第七條　臨時資金調整法施行令第五條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　合併スル會社ノ目的、資本金額及拂込資本金額

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

四　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目的、資本金額及拂込資本金額

五　合併ノ時期及方法

六・合併ヲ必要トスル事由

七　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款、事業計畫明細書及事業收支目論見書

四　合併スル會社ノ定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第五條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ付之ヲ準用ス

第八條　臨時資金調整法施行令第五條ノ目的ノ變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　會社ノ現在ノ目的及變更ヲ必要トスル事由

四　目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要

五　目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

三　目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

四　調達方法

事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

株金ノ拂込金、社債ノ募集金又ハ金融機關ヨリノ借入金ニシテ其ノ拂込ノ催告、募集又ハ借入ガ臨時資金調整法第四條ノ規定ノ施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス資本金二十萬圓以上五十萬圓未滿ノ會社ノ株金ノ拂込金ニシテ其ノ拂込催告ガ昭和十三年勅令第五百九十號ノ施行後ニ屬セザルモノナル場合亦同ジ

資本金二十萬圓以上五十萬圓未滿ノ會社ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良又ハ資本金五十萬圓以上ノ會社ノ十萬圓以下ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ニシテ昭和十三年勅令第五百九十號施行ノ際現ニ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ著手セルモノニ付テハ同令ノ施行後一月內ニ當該新設、擴張又ハ改良ガ完了スル見込ナキ場合ニ限リ第一項及第二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス

第十一條　臨時資金調整法施行令第六條ノ會社社債ノ募集ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額

三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件

四　社債ノ募集ヲ必要トスル事由

五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　社債申込證案及募集趣意書案

三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

四　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十二條　臨時資金調整法施行令第九條ニ揭グル事業ヲ營ム會社株金全額拂込前ノ資本增加ヲ爲サントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　株金ノ拂込ノ時期及金額

四　株金ノ拂込ヲ爲サントスルヲ必要トスル事由

五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十條　臨時資金調整法施行令第六條ノ會社株金ノ拂込、社債ノ募集又ハ金融機關ヨリノ借入ニ依ラズシテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ

第十三條　臨時資金調整法施行令第九條ニ掲グル事業ヲ營ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由
五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ檢算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本
四　信託證書案
五　社債ニ附スル擔保物件ノ目錄
六　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類
七　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
八　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上及ビ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
三　額面總額三萬圓以上ノ有價證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上及ビ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

第十五條　前條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ

一　資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スルコト
イ　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
ロ　借主ノ事業ノ種類
ハ　貸付ノ年月日
ニ　貸付ノ種類及金額
ホ　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
ヘ　貸付金ノ使途

二　有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スルコト
イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類
ハ　應募割當ノ年月日
ニ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額
ホ　有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スルコト
イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日
ニ　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
ホ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
ヘ　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
ト　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第十六條　朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキモノニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

朝鮮總督ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　第四項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキ期間ハ本令發布ノ日ヨリ十日內トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ改正規定ニ依ル許可申請書ヲ提出スベキ期間ハ本令發布ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ提出スベシ（昭和十三年八月十九日朝鮮總督府令第百七十三號）

臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依ル國際收支調査規則

（昭和十三年四月十六日朝鮮總督府令第七十八號）

第一條　朝鮮總督ハ臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ國際收支ニ關スル事項ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ第二條以下ニ定ムルモノノ外臨時人及事項ヲ指定シテ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二條　昭和十二年中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル收入又ハ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入金額又ハ支拂金額等ヲ附屬第一號乃至第十一號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ各號每ニ收入金額又ハ支拂金額通ジテ五百圓相當ニ滿タナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　外國通貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賣却代金ヲ含ム）ノ收入
二　外國居住者（外國政府、外國ノ公共團體及本邦ニ本店ヲ有スル會社ノ外國ニ在ル營業所ヲ含ム以下同ジ）ニ對スル貸付金又ハ預ケ金ノ利子ノ收入
三　外國居住者ヨリノ借入金又ハ預リ金ノ利子ノ支拂
四　外國居住者ヲ受託者トスル信託ノ利益ノ收入
五　外國ニ本店ヲ有スル會社（滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヲ除ク）ヨリノ配當金其ノ他ノ利益分配金ノ收入
六　外國居住者ヘノ配當金其ノ他ノ利益分配金ノ支拂
七　外國居住者トノ間ニ於ケル傭船料（船舶ノ賃貸借料ヲ含ム）ノ收入又ハ支拂
八　外國居住者トノ間ニ於ケル不動產ノ賃貸借料ノ收入又ハ支拂
九　外國艦船ノ製造若ハ修繕代、外國艦船ノ水先案內料、外國艦船ノ港灣設備等ノ使用ニ關スル料金又ハ外國船舶ノ積卸荷役費ノ收入
十　外國居住者トノ間ニ於ケル特許機、實用新案權、意匠權、商標權、著作權其ノ他之ニ類スル權利ノ讓渡若ハ讓受代金又ハ此等ノ權利ノ實施ニ關スル對價ノ收入又ハ支拂
十一　外國居住者トノ間ニ於ケル船舶、不動產、鑛業權又ハ森林伐採權ノ讓渡若ハ讓受代金ノ收入又ハ支拂

第三條　昭和十二年中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ外國居住者ヨリ收入ヲ爲シ又ハ外國居住者ニ對シ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入金額又ハ支拂金額等ヲ附

屬第十二號乃至第十五號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ各號毎ニ收入金額又ハ支拂金額通ジテ二千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　本邦若ハ外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券（登錄シタルモノヲ含ム）ノ取得又ハ處分

二　外國通貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ拂込又ハ償還

三　本邦若ハ外國ノ會社ノ株式若ハ持分ノ取得又ハ處分

四　外國ニ本店ヲ有スル會社（滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヲ除ク）ノ株式若ハ之ニ對スル出資ノ拂込又ハ拂戻

五　外國居住者ニ對スル貸付金ノ貸付若ハ回收又ハ外國居住者ニ對スル預ケ金ノ預入若ハ引出

六　外國居住者ヨリノ借入金ノ借入若ハ返濟又ハ外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入若ハ拂戻

七　外國居住者ヲ受託者トスル信託ノ委託又ハ終了

第四條　昭和十二年中ニ營業又ハ宗教、慈善、敎育其ノ他ノ公益ヲ目的トスル事業ニ關シ外國居住者ヨリ千圓相當額以上ノ送金ヲ受ケ又ハ外國居住者ニ對シ千圓相當額以上ノ送金ヲ爲シタル者ハ其ノ金額等ヲ附屬第十六號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ前條但書第一號乃至第四號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　本邦ノ輸出入貨物ノ代金ノ收入又ハ支拂

二　外國通貨ヲ以テ表示スル本邦ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賣却代金ヲ含ム）ノ收入

三　邦貨ヲ以テ表示スル外國ノ公債、社債其ノ他ノ債券ノ利子（利札ノ賣却代金ヲ含ム）ノ收入又ハ此等ノ債券ノ拂込若ハ償還ニ依ル支拂又ハ收入

四　滿洲國ノ特別法ニ據リ設立セラレタル會社ヨリノ配當金其ノ他利益分配金又ハ其ノ株式ノ拂込ニ依ル支拂

五　前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ事項ニ該當スル收入又ハ支拂

第五條　前三條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ事項ニ該當スルモノノ外昭和十二年中ニ外國居住者ヨリ三千圓相當額以上ノ收入又ハ外國居住者ニ對シ三千圓相當額以上ノ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ收入又ハ支拂金額等ヲ附屬第十七號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ前條但書第一號乃至第四號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　第二條乃至前條ノ規定ハ外國ニ本店ヲ有シ本令施行地ニ營業所ヲ有スル會社ノ當該營業所ニ關シテハ第二條乃至第四條ノ規定ニ準ジ之ヲ適用ス

第七條　本令施行地ニ本店ヲ有スル資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）五十萬圓以上ノ會社ニシテ外國ニ營業所ヲ有スルモノハ昭和十二年中ノ當該營業所ノ勘定ニ屬スル收支計算竝ニ其ノ本邦ニ在ル自社各店及他店トノ貸借關係等ヲ附屬第十八號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ

第八條　外國ニ本店ヲ有スル會社ノ本令施行地內ニ在ル營業所ノ代表者ハ昭和十二年中ノ當該營業所ノ勘定ニ屬スル收支計算竝ニ其ノ外國ニ在ル自社各店及他店トノ貸借關係等ヲ附屬第十九號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ昭和十二年末ニ於テ外國人ノ保有スル拂込資本金十萬圓ニ滿チザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　本令施行地ニ本店ヲ有スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ昭和十二年首及同年末ニ於ケル其ノ資本金中外國人ノ保有スル部分ノ割合等ヲ附屬第二十號書式ニ依リ昭和十三年五月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ昭和十二年末ニ於テ外國人ノ保有スル拂込資本金十萬圓ニ滿チザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　朝鮮總督ハ外國爲替業務ヲ營ム銀行、信託會社、保險會社、拓殖會社、本邦外國間若ハ外國港相互間ニ於テ海運業ヲ營ム者又ハ遠洋漁業ヲ營ム者ニ對シ其ノ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ爲スベキ報告ノ全部又ハ一部ニ代ヘ特別ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　本令ニ依リ報告ヲ爲スベキ者ニ已ムヲ得ザル事由ニ依リ所定ノ期限迄ニ報告ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ豫メ朝鮮總督ノ承認ヲ受ケタルトキハ報告ヲ延期スルコトヲ得

朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ人及事項ヲ指定シテ本令ニ定ムル報告ノ全部又ハ一部ヲ免除シ又ハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第十二條　本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直接朝鮮總督ニ差出スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附屬書式省略）

（參照）

昭和四年十二月十日朝鮮總督府令第九號ハ朝鮮總督府ニ提出スル關係書類等ノ手數ナリ

臨時資金調整法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（昭和十二年十月十四日勅令第五百九十五號）

臨時資金調整法ハ第五條乃至第七條及第十一條乃至第十五條ノ規定ヲ除ク外之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條　臨時資金調整法第二條中銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行、保險會社及臺灣拓殖株式會社トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

第三條　臨時資金調整法施行令第三條第二項、第四條第二項、第五條第二項、第六條第二項、第七條、第八條及第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四條　臨時資金調整法施行令中主務大臣、同令第九條中大藏大臣及商工大臣トアルハ臺灣總督トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣臨時資金調整法施行細則

（昭和十二年十月十五日臺灣總督府令第百三十九號）

第一條　臨時資金調整法ノ施行ニ關シテハ第十八條ノ規定ヲ除クノ外昭和十二年大藏省令臨時資金調整法施行細則ニ依ル但シ同省令中主務大臣トアルハ臺灣總督トス

第二條　前條ノ省令ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ハ同省令第二條乃至第十五條及明治三十二年府令第十九號（總督府ニ差出ス願届書等ノ管轄廳經由ノ件）ノ規定ニ拘ラズ直接臺灣總督ニ提出スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國際收支ノ狀況調査ニ關スル件

（昭和十三年四月十六日臺灣總督府令第四十七號）

第一條　臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依ル國際收支ノ狀況調査ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和十三年大藏省令第二十二號國際收支調査規則ニ依ル

第二條　前條ノ大藏省令中大藏大臣トアルハ臺灣總督トシ大藏大臣ニ報告スベシ

トアルハ直接臺灣總督ニ報告スベシトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法ヲ樺太ニ施行スルノ件

（昭和十二年十月二十二日勅令第六百三號）

第一條　臨時資金調整法ハ第五條乃至第七條及第十一條乃至第十五條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ樺太ニ施行ス

第二條　臨時資金調整法第二條中銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行及樺太ヲ區域トスル信用組合聯合會トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

第三條　臨時資金調整法施行令第三條第二項、第四條第二項、第五條第二項、第六條第二項、第七條、第八條及第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四條　臨時資金調整法施行令中主務大臣、同令第九條中大藏大臣及商工大臣トアルハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法ノ施行ニ關スル件

（昭和十二年十月二十三日樺太廳令第六十一號）

沿革　昭和十三年一月十一日樺太廳令第一號
昭和十三年四月十四日樺太廳令第二十六號改正

臨時資金調整法ノ施行ニ關シテハ昭和十二年大藏省令臨時資金調整法施行細則（第十八條ノ規定ヲ除ク）、昭和十三年大藏省令第一號國內資金調查規則及昭和十三年大藏省令第二十二號國際收支調查規則ニ依ル但シ同令中主務大臣又ハ大藏大臣トアルハ樺太廳長官トシ書類ノ提出ニ付テハ日本銀行ノ本店又ハ支店ノ經由ヲ要セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年一月十一日樺太廳令第一號）

關東州臨時資金調整令

（昭和十二年十一月九日勅令第六百五十一號）

第一條　關東州ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法ニ依ル但シ同法第五條乃至第七條、第十一條乃至第十五條及第二十一條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　臨時資金調整法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使トシ同法第二條中銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行、保險會社及東洋拓殖株式會社トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

附　則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

本令ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

關東州臨時資金調整令ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年十二月三十日關東局令第百二十六號）

關東州臨時資金調整令施行規則

（昭和十二年十二月三十日關東局令第百二十七號）

第一條　關東州臨時資金調整令ニ於テ依ルコトヲ定メタル臨時資金調整法以下臨時資金調整法ト稱ス第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ滿洲國駐劄特命全權大使之ヲ定ム大使特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條　臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一口十萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

貸付總額十萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第三條　金融機關前條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

三　貸付ノ種類、時期及金額（數口ニ亙ル貸付ノ種類、時期及金額）

四　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件

五　借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二　借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第四條　臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者ハ前條ノ規定ニ依リ有價證券及臨時資金調整法施行地關東州又ハ南洋群島內ニ本ノ店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

第五條　金融機關又ハ證券引受業者前條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

三　應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二　社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第六條　金融機關又ハ證券引受業者第四條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

三　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

四　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

五　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ

之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二　有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書

三　社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第七條　第二條及第四條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

一　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付ヲ爲ストキ

二　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

第八條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付大使ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金額（出資總額、株金總額及基金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）五十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社

二　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受クベキ會社

三　目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

第九條　前條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ發起人又ハ社員タルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及氏名

二　會社ノ住所、商號又ハ名稱及資本金額

三　會社ノ目的タル事業ノ大要

四　會社ノ設立ニ必要トスル事由

五　會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

六　第一回ノ拂込ノ時期及金額

前項ノ認可申請書ニハ定款ノ外左ノ明細書及事業收支目論見書ヲ添附スベシ

會社ノ創立總會ニ於テ前項ノ定款ヲ變更シタルトキ又ハ創立總會ノ終結ガ前項ノ定款作成ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタルトキハ發起人又ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第十條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ大使ノ認可ヲ要スル會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更ハ左ニ揭グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受クベキモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　資本金五十萬圓以上ノ會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更

二　資本增加又ハ合併ニ因リ資本金五十萬圓以上ノ會社トナルベキ場合ニ於ケル資本增加又ハ合併

第十一條　前條ノ資本增加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　會社ノ現在ノ資本金額

二　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

三　資本增加ノ方法

四　資本增加ヲ必要トスル事由

五　資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

七　前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

三　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ決議ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第十二條　第十條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　合併スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額

三　合併後存續スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

四　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額

五　合併ノ時期及方法

六　合併ヲ必要トスル事由

七　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書

四　合併スル會社ノ對照表及損益計算書

第九條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　第十條ノ目的ノ變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　株金ノ拂込ノ時期及金額

四　株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由

五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受クベキ會社ハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書

新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ決議ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第十二條　第十條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　合併スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額

三　合併後存續スル會社ノ住所及商號又ハ名稱

四　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額

五　合併ノ時期及方法

六　合併ヲ必要トスル事由

七　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書

四　合併スル會社ノ對照表及損益計算書

第九條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　第十條ノ目的ノ變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　株金ノ拂込ノ時期及金額

四　株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由

五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受クベキ會社ハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書

四　合併スル會社ノ對照表及損益計算書

第九條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　第十條ノ目的ノ變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　株金ノ拂込ノ時期及金額

四　株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由

五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途

六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受クベキ會社ハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　合併契約書ノ謄本

三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
四　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由
前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
株金ノ拂込金、社債ノ募集金又ハ金融機關ヨリノ借入金ニシテ其ノ拂込ノ催告、募集又ハ借入ガ關東州臨時資金調整令施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス
事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニシテ關東州臨時資金調整令施行ノ際現ニ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ著手セルモノニ付テハ同令施行後一月內ニ當該新設、擴張又ハ改良ガ完了スル見込ナキ場合ニ限リ第一項及第二項ノ規定ニ依ル許可申請書ヲ本令施行ノ日ヨリ十日內ニ提出スベキモノトス
第十七條　第十四條ノ會社社債ノ募集ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大使ニ提出スベシ
一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由
五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ場合ニ於テ大正十一年勅令第十三號ニ於テ依ルコトヲ定メタル擔保付社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ヲ記載スベシ
一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度
第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ノ登記簿ノ抄本
三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本
四　信託證書案
五　社債ニ附スル擔保物件ノ目錄
六　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類
七　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
八　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第二十一條　金融機關又ハ證券引受業者ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ大使ニ提出スベシ
一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一口十萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル貸付總額十萬圓以上ノ貸付ヲ爲シタルトキ
三　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
四　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十二條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ報告書ヲ大使ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
三　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
四　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十三條　前二條ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ
一　資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ
(イ)　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
(ロ)　借主ノ事業ノ種類
三　兵器及兵器部分品製造事業
四　鋼船製造事業
五　製鐵事業
六　產金事業
七　石油精製業及石油輸入業
第十九條　前條ニ揭グル事業ヲ營ム會社株金全額拂込前ノ資本增加ヲ爲サントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大使ニ提出スベシ
一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額
三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
四　資本增加ノ方法
五　株金全額拂込前ノ資本增加ヲ必要トスル事由
六　資本增加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ノ爲ニ發行スル株式ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ニ關スル株主總會ノ決議、社債ノ募集又ハ借入金ニシテ其ノ拂込ノ催告、募集又ハ借入ガ關東州臨時資金調整令施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス
第二十一條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大使ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前又ハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依リ社債ノ募集ヲ爲スニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ノ爲ニ發行スル株式ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十二條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大使ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前又ハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依リ社債ノ募集ヲ爲スニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ノ爲ニ發行スル株式ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十三條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大使ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前又ハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依リ社債ノ募集ヲ爲スニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ノ爲ニ發行スル株式ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
第二十四條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大使ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前又ハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依リ社債ノ募集ヲ爲スニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　資本增加ノ爲ニ發行スル株式ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

四　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第十一條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ニ關スル株主總會ノ決議、社債ノ募集又ハ借入金ニシテ其ノ拂込ノ催告、募集又ハ借入ガ關東州臨時資金調整令施行後ニ屬セザルモノナル場合ハ當該資金ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス
第二十一條　第十八條ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大使ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前又ハ關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百條ノ規定ニ依リ社債ノ募集ヲ爲スニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本
四　信託證書案
五　社債ニ附スル擔保物件ノ目錄
六　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類
七　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
八　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第二十一條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ大使ニ提出スベシ
一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一口十萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル貸付總額十萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付

(ハ) 貸付ノ年月日
(ニ) 貸付ノ種類及金額
(ホ) 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
(ヘ) 貸付金ノ使途
二 有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ
(イ) 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
(ロ) 有價證券發行者ノ事業ノ種類
(ハ) 應募割當ノ年月日
(ニ) 割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額
(ホ) 割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期
三 有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ
(イ) 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
(ロ) 有價證券發行者ノ事業ノ種類
(ハ) 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日
(ニ) 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
(ホ) 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
(ヘ) 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
(ト) 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第二十四條 臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第二十五條 大使必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

附 則

本令ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

附 則

本令ハ關東州臨時資金調整令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島臨時資金調整令

(昭和十二年十一月十日勅令第六百五十三號)

第一條 南洋群島ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法第五條乃至第七條、第十一條乃至第十五條及第二十一條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 臨時資金調整法第二條中銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會(以下金融機關ト總稱ス)トアルハ南洋拓殖株式會社(以下金融機關ト稱ス)トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

南洋群島臨時資金調整令施行規則

(昭和十二年十一月十一日南洋廳令第二十二號)

第一條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口十萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ貸付總額十萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第二條 金融機關前條ノ許可ヲ受ケントス

ルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
三 貸付ノ種類、時期及金額(數口ニ亙ルトキハ貸付總額竝各口ノ貸付ノ種類、時期及金額)
四 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
五 借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一 借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額十萬圓以上ノ有價證券(國債、地方債及臨時資金調整法施行地、關東州又ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ)ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第四條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第五條 金融機關又ハ證券引受業者第三條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額
四 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
五 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途
六 有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ其ノ設備ノ概要竝ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第六條 臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ南洋廳長官之ヲ定ム

南洋廳長官特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第七條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付南洋廳長官ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金(出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ)五十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社
二 南洋群島臨時資金調整令以外ノ法令ニ依リ設立ニ付南洋廳長官ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社
三 目的トスル事業ノ全部ニ付南洋廳長官ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

第八條 前條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ

ソトスルトキハ發起人又ハ社員クルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及氏名
二　會社ノ住所、商號又ハ名稱及資本金額
三　會社ノ目的タル事業ノ大要
四　會社ノ設立ヲ必要トスル事由
五　會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法
六　第一回ノ拂込ノ時期及金額

前項ノ認可申請書ニハ定款竝事業計畫明細書及事業收支目論見書ヲ添附スベシ

會社ノ創立總會ニ於テ前項ノ定款ヲ變更シタルトキ又ハ創立總會ノ終結ガ前項ノ定款作成ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第九條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ認可ヲ要スル會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更ハ左ニ揭グルモノトス

資本金五十萬圓以上ノ會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更

二　資本增加又ハ合併ニ因リ資本金五十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本增加又ハ合併

第十條　前條ノ資本增加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱及資本金額
二　會社ノ現在ノ資本金額竝第一回ノ拂込ノ時期及金額
三　資本增加ノ金額竝ニ其ノ方法
四　資本增加ノ方法
五　資本增加ヲ必要トスル事由
六　資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途
七　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ其ノ事業及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　定款竝最後ノ貸借對照表及損益計算書
三　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ決議ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第十一條　第九條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　合併ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　合併契約書ノ謄本
三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝事業計畫明細書及事業收支目論見書
四　合併スル會社ノ定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書

第八條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　第九條ノ目的變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　會社ノ目的タル事業ノ大要
四　目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書
三　目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十三條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベキ會社ハ資本金五十萬圓以上ノモノトス但シ同項ニ揭グル事項ニ付南洋廳長官ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ南洋廳長官ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

臨時資金調整法第四條第二項第二號ノ限度ハ十萬圓トス

第十四條　前條ノ會社第二回以後ノ株金ノ拂込ノ催告ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　株金ノ拂込ノ時期及金額
四　株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由
五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途

第十五條　第十三條ノ會社ガ社債ノ募集又ハ金融機關ヨリノ借入ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法
四　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由
五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途
六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ其ノ事業及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書
二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
三　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途
四　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十六條　第十三條ノ會社社債ノ募集ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ノ使途
五　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ其ノ事業及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　社債申込證案及募集趣意書案

三　定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書

四　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十七條　左ニ掲グル事業ヲ營ム會社ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖資本ヲ增加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

一　燐鑛採取業

二　ボーキサイト採取業

三　石油輸入業

第十八條　前條ニ掲グル事業ヲ營ム會社株金全額拂込前ノ資本增加ヲ爲サントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額

三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

四　資本增加ノ方法

五　株金全額拂込前ノ資本增加ヲ必要トスル事由

六　資本增加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三　定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書

四　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　第十七條ニ掲グル事業ヲ營ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件

四　商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由

五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本

四　信託證書案

五　社債ニ附スル擔保物件ノ目錄

六　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

七　定款竝最終ノ貸借對照表及損益計算書

八　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及

事業收支目論見書

第二十條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口十萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額十萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

三　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ

四　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第二十一條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ報告書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

三　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ

四　額面總額十萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第二十二條　前二條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ

一　資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

イ　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

ロ　借主ノ事業ノ種類

ハ　貸付ノ年月日

ニ　貸付ノ種類及金額

ホ　貸付ノ利率、償還期限、其ノ他ノ條件

ヘ　貸付金ノ使途

二　有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　應募割當ノ年月日

ニ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額

ホ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期

三　有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ロ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ハ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日

ニ　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

ホ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

ヘ　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

ト　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第二十三條　南洋廳長官必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

南洋廳長官ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ南洋群島臨時資金調整令ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第二十四條　臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島資金調査ニ關スル件

（昭和十三年二月十五日
南洋廳令第二號）

南洋群島資金調査ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外昭和十三年大藏省令第一號國內資金調査規則ニ依ル但シ同令中大藏大臣トアルハ南洋廳長官トシ書類ノ提出ニ付テハ日本銀行本店又ハ支店ヲ經由スルコトヲ要セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ提出ヲ要スベキ書類ハ國內資金調査規則ノ規定ニ拘ラズ本令公布ノ日ヨリ二日以內ニ提出スベシ

南洋群島國際收支調査規則

（昭和十三年四月二十一日
南洋廳令第十三號）

南洋群島國際收支調査規則ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外昭和十三年大藏省令第二十二號國際收支調査規則ニ依ル但シ同令中大藏大臣トアルハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ提出ヲ要スベキ書類ハ國際收支調査規則ノ規定ニ拘ラズ本令公布ノ日ヨリ二月以內トス

本令ニ依リ提出スベキ報告書ハ副本ヲ添ヘ所轄支廳長ヲ經由スベシ

自治的資金調整準則

（昭和十二年九月）

一、臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル金融機關又ハ證券引受業者ハ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地內ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク）ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲スニ付別表事業資金調整標準ニ基キ左記ニ依リ之ヲ自治的ニ調整スルモノトス但シ一件ノ金額三萬圓未滿ノモノニ付テハ任意ニ取扱ヒテ差支ナシ

(1) 別表事業資金調整標準中甲類ニ屬スル事業ニ關スルモノニ付テハ努メテ優先的取扱ヲ爲スコト但シ(イ)ニ屬スルモノハ(ロ)ニ屬スルモノニ優先セシムベキモノトス

(2) 別表事業資金調整標準中乙類ニ屬スル事業ニ關スルモノニ付テハ其ノ事業ガ(一)(イ)ニ屬スルモノニ關シテハ一件ノ金額五十萬圓ヲ超エザル場合ニハ大藏甲ノ(ロ)ニ準ジ取扱ヒテ差支ナキコト一件ノ金額五十萬圓ヲ超ユルトキハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議ノ上之ヲ爲スコト

(二)(ロ)ニ屬スルモノニ關シテハ之ニ對シ事業設備資金ノ貸付又ハ有價證券ノ引受等ヲ爲スヲ適當ト認ムルモノニ付テハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコト

(三)(ハ)ニ屬スルモノニ關シテハ大體事業設備資金ノ貸付又ハ有價證券ノ引受等ヲ爲スヲ適當ト認ムル事情アル場合ハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコトヲ必要トス但シ一件ノ金額十萬圓ヲ超ユルトキハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコト

(3) 別表事業資金調整標準中丙類ニ屬スル事業ニ關スルモノニ付テハ事業設備資金ノ貸付又ハ有價證券ノ引受等ヲ爲スヲ適當ト認ムルモノニ付テハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコト但シ特殊ノ事情ニ依リ特別ノ取扱ヲ爲スヲ必要トシ認ムルモノハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコト

(4) 別表事業資金調整標準中乙ノ(ハ)及ビ丙ニ屬スル事業ニ付テモ事業ノ運轉ニ支障ヲ來サザル爲ニスル程度ノ設備ノ改良竝ニ安全及保健上ノ見地ヨリ必要ナル改良又ハ災害ニ依ル設備ノ復舊ニ關スルモノハ本標準分類ニ拘ラズ特別ノ取扱ヲ爲スコト但シ一件ノ金額十萬圓ヲ超ユルトキハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議スルコト

(5) 地方公共團体ノ事業、國家ガ補助金助成金又ハ奬勵金ヲ交付スル事業、政府ガ資金ノ調達ヲ承認シタル事業若ハ政府ガ事業ノ遂行ヲ承認シタル事業ニ付テハ本標準ノ分類ニ拘ラズ特別ノ取扱ヲ爲スコト尙政府資金ヲ融通シタル事業ニ關シテハ該融通資金ニ付亦同樣トス

(6) 外地及滿洲ニ於ケル事業竝ニ海外ニ於ケル事業ニ關スル事業設備資金ノ貸付又ハ有價證券ノ引受等ニ付特殊ノ事情ニ依リ前揭ノ方針ニ依ルヲ不適當ト認ムルトキハ日本銀行本店又ハ支店ニ協議ノ上特別ノ取扱ヲ爲スコト

二、政府ハ必要アリト認ムルトキハ金融機

關又ハ證券引受業者ニ對シ資金ノ自治的調整ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトアルベシ

三、尙事業設備資金以外ノ資金ノ貸付例ヘバ運轉資金等ノ貸付ニ付テハ從來ノ通リ取扱ヒテ差支ナシ

備考

本文中一件ノ金額何萬圓トアルハ貸付ニ付テハ一口何萬圓ノ貸付總額何萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル貸付ヲ含ム

第二備考

●臨時資金調整法ニ基ク事業資金調整標準

（昭、一二、九）（昭、一三、一）（昭、一三、八）

部門別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	丙 ハ	備考
一、採鑛業	（一）金屬鑛業						
	(1)金鑛（砂金ヲ含ム）	○					
	(2)銅鑛	○					
	(3)鉛鑛	○					
	(4)錫鑛（砂錫ヲ含ム）	○					
	(5)アンチモン鑛	○					
	(6)水銀鑛	○					
	(7)亞鉛鑛	○					
	(8)鐵鑛（砂鐵ヲ含ム）	○					
	(9)硫化鐵鑛	○					
	(10)クロム鐵鑛	○					
	(11)マンガン鑛	○					
	(12)タングステン鑛	○					
	(13)モリブデン鑛	○					
	(14)ニッケル鑛	○					
	(15)コバルト鑛	○					
	(16)其ノ他ノ金屬鑛		○				
	（二）石炭鑛業						
	(1)石炭	○					
	(2)亞炭		○				
	（三）石油鑛業	○					
	（四）其ノ他ノ鑛業						
	(1)燐鑛	○					
	(2)黑鉛	○					
	(3)雲母	○					
	(4)石綿	○					
二、土石採取業	（一）アルミニウム原礦採取業						
	(1)明礬石			○			
	(2)礬土頁岩			○			
	(3)粘土（ボーキサイトヲ含ム）			○			
	(4)其ノ他				○		硼酸、重晶石ヲ含ム
	（二）其ノ他ノ土石採取業						
	(1)マグネサイト		○				
	(2)ドロマイト		○				
	(3)耐火粘土		○				
	(4)珪石		○				
	(5)蛍石		○				
	(6)酸性白土			○			
	(7)石灰石			○			
	(8)珪砂			○			
	(9)陶石				○		
	(10)抗火石				○		
	(11)長石				○		
	(12)火山灰				○		
	(13)滑石				○		
	(14)其ノ他				○		

第二工場

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
一、紡織工業	(一)生絲製造業	(1)アセチルセルロース絲絲							
	(二)人造絲絲製造業	(2)其ノ他							
	(三)人造纖維製造業	(1)大豆カゼイン又ハ牛乳カゼインヲ原料トスル人造纖維							
		(2)其ノ他			○				
	(四)實綿及綿製造業								
	(四)ノ二再生羊毛製造業								
	(五)紡績業	(1)絹絲							
		(2)毛絲							
		(3)麻絲							
		(イ)亞麻絲				○			
		(ロ)其ノ他							
		(4)綿絲							番手 甲乙丙
		(5)人造纖維							
		(6)其ノ他							
	(六)撚絲業								
	(七)織物業	(1)人造絹織物（交織物ヲ含ム）							
		(2)人造纖維織物（交織物ヲ含ム）							
		(3)絹織物（交織物ヲ含ム）							
		(4)毛織物（交織物ヲ含ム）							
		(イ)製紙用フエルト							
		(ロ)其ノ他							
		(5)麻織物（交織物ヲ含ム）							
		(イ)亞麻織物							
		(ロ)其ノ他							
	(八)編物、組物製造業	(1)メリヤス及メリヤス製品							
		(2)其ノ他							
	(九)絲布加工業	(1)漂白、精練、染色、捺染等							
		(2)其ノ他							
二、金屬工業	(一)製鐵業	(1)一ノ場所ニ於テ製鐵及製鋼ノ設備ヲ以テ營ムモノ							
		(2)普通鐵ノミヲ製造スルモノ							
		(3)平爐製鋼ニ依ルモノ（壓延ヲモ爲スモノヲ含ム但シ鍛鋼品、鑄鋼品及特殊鋼ノ製造ヲ除ク）							
		(4)壓延ノミヲ行フモノ（特殊鋼ヲ除ク）							
		(5)砂鐵、貧鑛其ノ他特殊ノ鑛鐵ノ利用ヲ目的トスルモノ							
		(6)フエロアロイ							
		(7)低燐鐵鑛							
		(8)鍛鋼品							
		(9)鑄鋼品							

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
		(10)特殊鋼	○						
		(11)継目無鋼管			○				
	(二)非鐵金屬製錬業	(1)金			○				
		(2)白金			○				
		(3)銀					○		
		(4)銅			○				
		(5)鉛			○				
		(6)錫			○				
		(7)アンチモン			○				
		(8)水銀			○				
		(9)亞鉛			○				
		(10)タングステン			○				
		(11)ニッケル			○				
		(12)コバルト			○				
		(13)アルミニウム			○				
		(14)マグネシウム			○				
		(15)其ノ他				○			
	(三)非鐵金屬材料品製造業	(1)銅	○						
		(2)鉛	○						
		(3)亞鉛	○						
		(4)ニッケル	○						
		(5)アルミニウム	○						
		(6)黃銅	○						
		(7)青銅（機密銅ヲ含ム）	○						
		(8)白銅			○				
		(9)輕合金			○				
		(10)被覆合金			○				
		(11)鐵				○			
		(12)其ノ他				○			
	(四)鑄物業	(1)鉄鐵鑄物							
		(イ)鑄鐵管					○		
		(ロ)機械用ノモノ				○			
		(ハ)其ノ他					○		
		(2)可鍛鐵鑄物		○					
		(3)非鐵金屬鑄物							
		(イ)機械用ノモノ				○			
		(ロ)其ノ他					○		
	(五)鑄物以外ノ金屬製品製造業	(1)ボールト、ナット及ワッシャー			○				
		(2)リベット				○			
		(イ)鐵製ノモノ				○			
		(ロ)其ノ他					○		
		(3)釘 類							
		(イ)鐵丸釘					○		
		(ロ)踏 釘		○					
		(ハ)其ノ他					○		
		(4)金屬線	○						

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
		(5)バネ				○		○	
		(6)金網			○				
		(7)鎖類						○	
		(8)鋼索				○			
		(9)鉄塔、橋梁ノ建設材料					○		
		(10)ドラム罐							
		(11)繊詰用罐				○	○		
		(12)建築用及家具用金物						○	
		(13)針類							第二部第乙ノ(一)ニ
		(イ)ミシン針					○		
		(ロ)メリヤス針					○		
		(ハ)其ノ他						○	
		(14)釦釦					○		
		(15)鋼製ペン先					○		
		(16)人造繊維製造用ノズル							
		(17)化学工業用白金網				○			
		(18)刃物類					○		
		(19)食卓用金属製品						○	
		(20)其ノ他ノ金属製品						○	
		(1)プリキ板				○			
		(2)其ノ他						○	
三「機械器具工業	(一)蒸汽罐製造業								
	(二)自動車用ガス発生装置製造業					○			
	(三)原動機製造業								
		(1)蒸汽機関				○			
		(2)蒸汽タービン				○			
		(3)内燃機関							
		(イ)ガス機関							
		(甲)木炭ガス機関					○		
		(乙)其ノ他							
		(ロ)ガソリン機関					○		
		(ハ)石油機関							
		(ニ)重油機関					○		
		(4)水車					○		
	(四)電気機械器具製造業								
		(1)家庭用電気器具					○		
		(2)其ノ他						○	
	(五)絶縁電線及電纜製造業								
	(六)無線及有線電信電話機械器具製造業								
		(1)無線電信電話機械器具							
		(イ)家庭用ラヂオ用具							
		(ロ)其ノ他							
		(2)有線電信電話機械器具						○	

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
	(七)農林漁業用機械器具製造業								
	(八)土木建築用機械器具製造業								
	(九)採鉱、選鉱及製錬機械器具製造業								
	(十)紡績機械器具製造業								
		(1)針布		○					
		(2)其ノ他					○		
	(十一)工作機械器具								
		(1)金属工機械	○						
		(2)工具及刀具類		○					
	(部分品ヲ含ム)製造業								
		(3)製材及木工機械				○			
	(十二)窯業用機械器具製造業				○				
	(十三)化学工業用機械装置製造業								
		(1)バルブ製造用機械器具			○				
		(2)製紙用機械器具					○		
		(3)高圧化学工業用機械器具		○					
		(4)其ノ他							
		(イ)甲ノイニ属スル事業ニ必要ナルモノ	○						
		(ロ)其ノ他			○				
	(十四)食料品製造加工用機械器具製造業								
	(十五)印刷及製本機械器具製造業								
	器具製造業								
	(十六)起重機製造業				○				
	(十七)エレベータ製造業					○			
	(十八)気体圧縮機製造業		○						
	(十九)ポンプ、水圧機及送風機製造業					○			
	(二十)度量衡器製造業								
	(二十一)計器製造業								
		(1)寒暖計(特殊品ヲ除ク)及体温計					○		
		(2)其ノ他				○			
	(二十二)時計製造業								
	(二十三)試験検定及学術用器械製造業				○				
	(二十四)医療器械製造業					○			
	(二十五)測量及製図機械器具製造業			○					
	(二十六)事務用器械製造業								
		(1)金銭登録機					○		
		(2)其ノ他					○		
	(二十七)金庫製造業								
	(二十八)ミシン製造業				○				
	(二十九)写真機、幻燈機及活動写真機製造業								
	(三十)照明用機械器具製造業								
		(1)航空用照明燈					○		
		(2)探照燈	○				○		

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
	(二十一)光学機械器具製造業								
	(二十二)乗器類製造業								
	(二十三)計量器製造業								
	(二十四)車輛(部分品及附属品ヲ含ム)製造業	(1)鉄道及軌道用車輛						○	
		(イ)機関車			○				
		(ロ)ガソリン動車					○		
		(ハ)客車				○			
		(ニ)貨車				○			
		(ホ)電車					○		
		(2)自動車		○					
		(イ)小型自動車					○		
		(ロ)貨物及軍用自動車					○		
		(ハ)其ノ他					○		
		(3)自動自転車			○				
		(4)自転車			○				
		(5)其ノ他					○		
	(二十五)鉄船業(部分品及附属品ヲ含ム)	(1)鋼船				○			
		(2)木船			○				
	(二十六)航空機(部分品及附属品ヲ含ム)製造業						○		
	(二十七)ガス器具製造業						○		
	(二十八)水道器具製造業						○		
	(二十九)弁及コック製造業						○		
	(三十)ベルト車、鎖車、車輪、車軸及軸受製造業	(1)球軸受					○		
		(2)其ノ他					○		
	(三十一)其ノ他ノ機械器具製造業						○		
四、兵器及兵器部分品製造業									
五、窯業	(一)陶磁器製造業	(1)電気用ノモノ及医療用ノモノ			○				
		(2)耐酸用ノモノ及耐熱用ノモノ				○			
		(3)其ノ他					○		
	(二)ガラス及ガラス製品製造業	(1)電気用ノモノ及医療用ノモノ				○			(硝子)整流用乙イ(真空管)ハ乙ロ
		(2)耐酸用ノモノ及耐熱用ノモノ				○			
		(3)乾板用板ガラス				○			
		(4)光学ガラス					○		
		(5)強化ガラス				○			
		(6)安全ガラス				○			
		(7)船燈用着色ガラス				○			
		(8)其ノ他					○		
	(三)煉瓦及耐火物製造業	(1)耐火煉瓦					○		
		(2)其ノ他					○		
	(四)屋根瓦製造業						○		

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
	(五)セメント製造業								
	(六)セメント製品製造業	(1)セメント柱及管			○				
		(2)其ノ他					○		
	(七)石灰製造業						○		
	(八)珪藻鑛等製造業	(1)工業用耐酸性ノモノ				○			
		(2)其ノ他					○		
	(九)其ノ他ノ窯業						○		
六、化学工業	(一)製薬業	(1)醫薬					○		
		(2)資薬及資薬類似品					○		
	(二)工業薬品製造業	(1)硫酸				○			
		(2)硝酸				○			
		(3)ソーダ灰					○		
		(4)苛性ソーダ					○		
		(5)晒粉					○		
		(6)壓縮ガス					○		
		(イ)アンモニア					○		
		(ロ)塩素					○		
		(ハ)酸素					○		
		(ニ)其ノ他					○		
		(7)醋酸					○		
		(8)石炭酸					○		
		(9)メタノール					○		
		(10)エーテル					○		溶剤(塗料)乙イ
		(11)グリセリン					○		
		(12)硝酸カリ					○		
		(13)硝酸アンモン					○		
		(14)カーバイド					○		
		(15)人造クリオリット					○		
		(16)アセトン					○		
		(17)ブチルアルコール					○		
		(18)炭酸マグネシア及炭酸石灰					○		
		(19)其ノ他					○		塩化マグネシウム乙イ カーナリット乙イ
	(三)染料及中間物製造業	(1)天然染料					○		
		(2)合成染料					○		
		(3)染料中間物其ノ他コールタール分溜物誘導體					○		
	(四)人造ゴム及再生ゴム製造業						○		
	(五)鞍皮材料製造業						○		
	(六)人造香料製造業						○		
	(七)塗料及顔料製造業	(1)塗料							
		(イ)漆					○		漆液 乙イ
		(ロ)ワニス					○		
		(ハ)ペイント					○		
		(甲)船底塗料					○		

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙	丙	備考
		(乙)其ノ他				○	
		(二)自動車及航空機用其ノ他特殊塗料			○		
		(ホ)其ノ他ノ塗料				○	
		(2)顔料					
		(イ)カーボンブラック			○		
		(ロ)酸化チタン				○	
		(ハ)其ノ他				○	
	(八)石鹸及化粧料品製造業						
	(九)發火物製造業	(1)火薬	○	○			
		(2)爆薬		○			
		(3)導火索			○		
		(4)煙火			○		
		(5)其ノ他				○	
	(十)石油精製業						
	(十一)人造石油（頁岩油ヲ含ム）製造業			○			
	(十二)コークス及コールタール分溜物製造業						
	(十三)代用液體燃料製造業						
	(十四)植物油脂製造業	(1)菜種油					朝鮮産
		(2)椿油			○		臺灣 ヒマシ油
		(3)其ノ他			○		樟實油 乙イ
	(十五)樟腦製造業						關東州大豆油 乙ロ
	(十六)動物油脂製造業	(1)魚油			○		臺灣 ヒマシ油 乙ロ
		(2)其ノ他				○	
	(十七)木蠟製造業					○	
	(十八)蠟燭製造業					○	
	(十九)加工油製造業	(1)硬化油				○	
		(2)其ノ他				○	
	(二十)ゴム製品製造業	(1)軟質ゴム製品					
		(イ)タイヤ及其ノ附屬品					
		(甲)自動車用及航空機用ノモノ					
		(乙)其ノ他		○			
		(ロ)防毒具		○			
		(ハ)其ノ他			○		
		(2)硬質ゴム製品			○		
	(二十一)人造樹脂及同製品製造業						
	(二十二)蓄音機レコード製造業						
	(二十三)バルブ製造業						

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙	丙	備考
	(二十四)製紙業	(1)擬造羊皮紙			○	○	
		(2)パライタペーパー			○		
		(3)其ノ他				○	
	(二十五)セルロイド及同製品製造業						
	(二十六)アセチルセルロース製品製造業						
	(二十七)ヴァルカナイズドファイバー製造業						
	(二十八)寫眞用フィルム、乾板及感光紙製造業	(1)醫療寫眞用及航空寫眞用フイルム			○	○	
		(2)其ノ他					
	(二十九)肥料製造業	(1)植物質及動物質ノモノ					
		(2)鑛物質ノモノ					
		(イ)過燐酸石灰				○	
		(ロ)硫酸アンモン					
		(ハ)硫安		○			
		(ニ)硫酸カリ			○		
		(ホ)石灰窒素			○		
		(ヘ)其ノ他			○		
		(3)配合肥料			○		
	(三十)工業藥製造業						
	(三十一)製革業						
	(三十二)ノニ擬革製造業						
	(三十三)精製毛皮製造業	(1)兎毛皮	○	○	○		
		(2)其ノ他			○		
	(三十四)製材及木製品工業	(1)家具、曲物、挽物			○		臺灣 樟腦用枕木 乙イ
		(2)其ノ他				○	朝鮮 コルク 乙ロ
	(三十五)其ノ他ノ化學工業	(1)寫眞用ゼラチン			○		
		(2)其ノ他		○			
	(三十六)研磨材料及研磨用品製造業	(1)研磨材料		○			
		(2)研磨用品		○			
	(三十七)炭素製品製造業	(1)電氣用カーボン		○			
		(2)活性炭		○			
		(3)其ノ他			○		
	(三十八)食料品工業	(1)清酒			○	○	
		(2)味淋			○	○	
		(3)燒酎			○	○	
		(4)酒精含有飲料			○	○	
		(5)麥酒			○	○	
		(6)葡萄酒			○	○	

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
		(7)其ノ他						○	
	(二)調味料製造業	(1)醤油					○	○	
		(2)ソース					○	○	
		(3)味噌					○	○	
		(4)食酢					○	○	
		(5)ケチャップ					○	○	
		(6)其ノ他					○	○	
	(三)清涼飲料製造業						○	○	
	(四)製粉業						○	○	
	(五)澱粉製造業						○	○	
	(六)製糖業							○	
	(七)精製塩業							○	
	(八)製氷及製餡業						○	○	
	(九)繭場詰製造業				○				
	(十)畜産品製造業			○					
	(十一)水産品製造業				○	○	○		
	(十二)機械製錬業					○	○		
	(十三)製茶業					○	○		
	(十四)製氷及冷凍業					○	○		
	(十五)乾燥野菜製造業			○					
	(十六)其ノ他ノ食料品工業						○		
十一、電気及瓦斯業	(一)電気供給事業	(1)甲ニ關スル事業ニ必要ナル電力ヲ供給スルモノ	○						
		(2)其ノ他							
	(二)瓦斯供給事業								
	(一)紙製品製造業						○		
	(二)刷毛及刷子製造業						○		
	(三)綿及麻製綱、縄及網製造業						○		
	(四)製網業						○		
	(五)防水布類製造業						○		
	(六)衛生材料品製造業						○		
	(七)石綿製品製造業					○			
	(八)鋲ノ製造業						○		
	(九)金属箔製造業						○		
	(十)萬年筆、鉛筆及クレヨン製造業						○		
	(十一)機械用ベルト製造業						○		
	(十二)絶縁製造業						○		
	(十三)ノニ別號ニ掲ゲザル輸出品製造業						○		
十二、其ノ他ノ工業	(十四)其ノ他								

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
一、農林業	(一)耕作農業	(1)主要食糧農産品		○					
		(2)其ノ他			○				
	(二)園藝農業				○				
	(三)雜農業	(1)アルコール原料			○				
		(2)苧麻、亞麻及大麻			○				
		(3)菜種			○				
		(4)玉蜀黍			○				
		(5)其ノ他			○				
	(四)養蠶業					○			
	(五)林業	(1)バルプ原木及軍事用材ノ伐採及植林				○			
		(2)其ノ他			○				
	(六)畜産業					○			
	(七)家畜飼料加工業				○				
	(八)農林土木事業	(1)乙ノイニ關スル農林業ニ必要ナルモノ		○					
		(2)其ノ他			○				

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
一、水産業	(一)沿岸漁業				○				南洋群島 乙イ
	(二)内地沖合遠洋漁業					○			
	(三)工船漁業其ノ他海外漁業	(1)母船式鯨漁業				○			南洋群島 乙イ
		(2)其ノ他					○		南洋群島 乙イ
	(四)養殖業						○		
	(五)塩田業						○		
	(六)其ノ他ノ水産業						○		
	(七)水産土木事業						○		

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
一、運輸業	(一)鐵道及軌道						○		
	(二)自動車	(1)乗用自動車					○		
		(2)乗合自動車					○		
		(3)貨物自動車				○			
	(三)海運業	(1)遠洋航路				○			
		(2)近海航路			○				
		(3)沿岸航路 (イ)客船			○				

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
		(ロ)其ノ他							
	(四)航空業								
	(五)其ノ他ノ運輸業			○					南洋群島 乙イ
二、電信電話事業					○		○		
三、其ノ他ノ交通業	(一)道路、橋梁ノ経営							○	
	(二)港湾、運河ノ経営							○	

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
第六 商業									
一、物品販賣業	(一)百貨店業			○					
	(二)其ノ他					○		○	
二、不動産賣買業								○	
三、貿易業	(一)石油輸入業				○				
	(二)其ノ他						○		満蒙 乙イ
四、倉庫業	(一)営業倉庫						○		樺太 乙イ
	(二)商業倉庫						○		南洋群島 乙イ
	(三)貨物倉庫						○		台湾 乙イ
	(四)其ノ他					○			
五、金融業	(一)銀行業							○	南洋群島 乙イ

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
(二)信託業									
(三)貸金業								○	
(四)質屋業								○	
(五)其ノ他								○	
六、保険業								○	
七、其ノ他ノ商業	(一)仲買、委託販賣及仲立業						○		
	(二)取引所							○	
	(三)市場業							○	
	(四)證券業							○	
	(五)小運送業							○	
	(六)其ノ他							○	

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
第七 鑛業									
一、鑛業	(一)土木建築請負業							○	
	(二)土地建物賃貸(貸室ヲ含ム)業							○	満蒙 乙イ
	(三)物品賃貸業							○	
	(四)新聞紙發行及圖書、雜誌出版業							○	
	(五)旅館業							○	南洋群島 乙イ
	(六)娯樂及興行ニ關スル事業	(1)温泉地及遊園地経営						○	
		(2)劇場及演藝場経営						○	

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
	(3)競技場、運動場経營								
	(4)遊戲場							○	
	(5)演藝、競技、映畫、音樂ニ關スル興行							○	
	(6)ダンスホール							○	
	(7)貸席							○	
	(8)其ノ他							○	
(七)映畫製作業								○	
(八)料理業								○	
(九)貸席業								○	
(十)理容業								○	
(十一)上水道業								○	(朝鮮樺太) 乙ロ
(十二)埋立及干拓業								○	(台湾) 乙イ
(十三)其ノ他								○	(南洋群島) 乙イ

部門	業別	細目別	甲 イ	甲 ロ	乙 イ	乙 ロ	乙 ハ	丙	備考
第八 其ノ他ノ事業及施設									
一、其ノ他ノ事業及施設	(一)教育事業							○	
	(二)体育事業							○	
	(三)文化事業							○	
	(四)慈善事業							○	
	(五)社會事業							○	
	(六)醫療施設							○	
	(七)博覽會							○	
	(八)觀光施設						○		
	(九)放送事業							○	
	(十)社交的施設						○		
	(十一)其ノ他							○	

昭和十年法律第四十二號營業收益稅法中改正法律施行期日ノ件

（昭和十三年三月三十一日勅令第百七十一號）

昭和十年法律第四十二號ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

營業收益稅法施行規則中改正ノ件

（昭和十三年五月十八日勅令第三百五十八號）

營業收益稅法施行規則中左ノ通改正ス

第十條　左ニ揭ク物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵及アルミニウムノ地金

二　鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管（鑄鐵管ヲ除ク）

三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四　アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金

五　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル機械ノ機械

六　アルミナ、クリオリット、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸アンモン、硫酸アンモニア酸化ニ依ルモノ）、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、アセチルセルロース、人造ゴム及タンニンエキス

七　纖維素バルブ

八　光學用ガラス

九　コンデンスドミルク及カゼイン

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ營業收益稅ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ仍從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

本令ニ依リ新ニ營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物產ノ製造業ヲ營ム個人ガ昭和十三年分營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益稅ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ仍從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ營業收益稅ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ仍從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年大藏省令第八號中改正

（昭和十三年四月一日大藏省令第十九號）

「及有價證券移轉稅法施行規則第九條」ヲ「、有價證券移轉稅法施行規則第九條及支那事變特別稅法施行規則第六十八條第一項」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年四月一日大藏省令第八號ハ營業收益稅法施行規則等ノ規定ニ依ル機械營業證書式ノ件ナリ

樺太營業收益稅規則中改正

（昭和十三年四月一日樺太廳令第二十三號）

第二十一條第二項中「翌年」ヲ「翌年以後」ニ改ム

第二十一條ノ二　個人ノ純益金額決定後翌年純益金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際純益額ガ決定純益額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ純益金額ノ決定ニ付說明アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ハ第六條ノ規定ニ拘ラズ其年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十二條第二項中「前條第二項」ヲ「第二十一條第二項及前條」ニ改ム

第二十四條中「第二十一條」ノ下ニ「第二十一條ノ二」ヲ加フ

第二十五條中「但シ」ノ下ニ「第二十一條ノ二又ハ」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

個人ノ純益ニ付テハ昭和十三年分營業收益稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十一條ノ規定ハ昭和十二年分以前ノ營業收益稅ニ付テモ之ヲ適用ス

第二十一條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス

樺太營業收益稅規則中改正

（昭和十三年四月二十六日樺太廳令第三十一號）

第九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

十一　揮發油混入ノ用ニ供セラルル酒精

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太營業收益稅規則中改正

（昭和十三年七月三十一日樺太廳令第六十一號）

第九條　左ニ揭グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ其ノ申請ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業收益稅ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵及アルミニウムノ地金

二　鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管（鑄鐵管ヲ除ク）

三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四　アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金

五　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル機械ノ機械

六　アルミナ、クリオリット、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸アンモン、硫酸カリ、燐酸アンモン、硫酸アンモニア酸化ニ依ルモノ）、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、アセチルセルロース、人造ゴム及タンニンエキス

七　纖維素バルブ

八　光學用ガラス

九　コンデンスドミルク、バター及カゼイン

十　甜菜糖、穀粉及麥粉

十一　揮發油混入ノ用ニ供セラルル酒精

附　則

本令ハ昭和十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ營業收益稅ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ仍從前ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

本令ニ依リ新ニ營業收益稅ノ免除ヲ受クル

コトヲ得ベキ物産ノ製造業ヲ營ム個人ガ昭和十三年分營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ昭和十三年八月三十一日迄ニ之ガ申請ヲ爲スベシ

關東州營業稅規則中改正

（昭和十三年六月二十日 關東局令第六十號）

第六條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　金融組合、金融組合聯合會、實業組合、實業組合聯合會及漁業組合ノ業務

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州法人資本稅令

（昭和十三年四月一日 勅令第二百十一號）

第一條　關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セザル法人關東州ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノミ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條　法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付之ヲ賦課ス

第四條　第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越缺損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ關東州ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準ジ滿洲國駐箚特命全權大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ關東州所得稅令第四條第一項ノ規定ニ依ル法人ノ普通所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第六條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第七條　前條ノ規定ハ法人資本稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ法人資本稅法施行地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

第八條　營利ヲ目的トセザル法人ニシテ關東州所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノニハ法人資本稅ヲ課セズ

第九條　法人資本稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ關東州ニ於ケル資本ニ付テハ法人資本稅ヲ課セズ

第十條　法人資本稅ノ稅率ハ萬分ノ五トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓トス

所得金額ナキ法人ノ法人資本稅ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本稅ニ付亦同ジ

關東州所得稅令第四條ノ規定ハ前項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十一條　納稅義務者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ資本額ヲ政府ニ申告スベシ

第十二條　資本額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十三條　稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十四條　第十二條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十五條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十六條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ關東州所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

關東州所得稅令第四十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十七條　法人資本稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十八條　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本稅逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ資本額ヲ計算スルコトヲ得

前項ニ於テ同族會社トハ關東州所得稅令ニ規定スル同族會社ヲ謂フ

第十九條　關東州所得稅令第四十三條第二項、第五十五條及第五十六條ノ規定ハ法人資本稅ニ付之ヲ準用ス

關東州法人資本稅令施行規則

（昭和十三年四月一日關東局令第二十六號）

第一條　關東州法人資本稅令（以下法人資本稅令ト稱ス）第四條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第二條　法人資本稅令第十五條第一項ノ規定ニ依ル審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ資本額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シ關東州廳長官ニ申出ヅベシ

第九條　關東州廳長官法人資本稅令第十六條第一項ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十條　法人資本稅ハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ其ノ納稅地トス

第十一條　關東州所得稅令施行規則第五十三條、第六十三條、第六十六條乃至第七十條及第七十六條ノ規定ハ法人資本稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

第十三條　法人資本稅令第十三條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　法人ノ資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條　法人資本稅令第十條第二項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

第一條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條　關東州所得稅令施行規則第一條ノ規定ハ法人資本稅令第十條第四項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第五條　法人ノ資本額ハ事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ但シ關東州所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第六條　稅務署長又ハ民政署長法人資本稅令第十二條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第七條　稅務官吏法人資本稅令第十三條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第八條　法人資本稅令第十五條第一項ノ規定ニ依ル審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ資本額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シ關東州廳長官ニ申出ヅベシ

第九條　關東州廳長官法人資本稅令第十六條第一項ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十條　法人資本稅ハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ其ノ納稅地トス

第十一條　關東州所得稅令施行規則第五十三條、第六十三條、第六十六條乃至第七十條及第七十六條ノ規定ハ法人資本稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

第十三條　法人資本稅令第十三條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　法人ノ資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

輸出補償法施行規則中改正

（昭和十三年七月一日商工省令第四十二號）

第二十條第一號中「二厘七毛」ヲ「一厘三毛」ニ、第二號中「一厘」ヲ「五毛」ニ改ム

第三十八條第一號中「一圓四十錢」ヲ「七十錢」ニ、「四厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ、第二號中「五十六錢」ヲ「二十八錢」ニ、「二厘三毛」ヲ「一厘一毛」ニ改ム

第四十九條第一號中「二厘一毛」ヲ「一厘」ニ、第二號中「七十錢」ヲ「三十五錢」ニ、「四厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ改ム

第五十條第一號中「二厘一毛」ヲ「一厘」ニ、第二號中「四厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和五年七月三十一日商工省令第十號輸出補償法施行規則抄錄

第二十條　甲種補償契約ニ依ル補償料ノ金額ハ補償手形ノ額面金額（利附手形ニ在リテハ滿期日マデノ利息ヲ加算シタルモノトス）及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ滿期日マデノ期間ニ付左ノ割合ニ依リ算出スルモノトス

一　引受渡條件ノ手形ニ在リテハ百圓ニ對シ一日二厘七毛

二　支拂渡條件ノ手形ニ在リテハ百圓ニ對シ一日一厘

第二十八條　乙種補償契約ニ依ル補償料ノ金額ハ補償手形ノ額面金額（利附手形ニ在リテハ滿期日マデノ利息ヲ加算シタルモノトス）及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ滿期日マデノ期間ニ付左ノ割合ニ依リ算出スルモノトス

一　引受渡條件ノ手形ニ在リテハ百圓ニ對シ最初ノ三十日ニ付一圓四十錢其ノ後ノ期間ニ付一日四厘六毛

二　支拂渡條件ノ手形ニ在リテハ百圓ニ對シ最初ノ三十日ニ付五十六錢其ノ後ノ期間ニ付一日二厘三毛

第四十九條　約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約ニ依ル補償料ノ金額ハ補償手形ノ額面金額及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ滿期日マデノ期間ニ付左ノ割合ニ依リ算出スルモノトス

一　甲種補償契約ニ於テハ百圓ニ對シ一日二厘一毛

二　乙種補償契約ニ於テハ百圓ニ對シ最初ノ三十日ニ付七十錢其ノ後ノ期間ニ付一日四厘六毛

第五十條　銀行ガ第四十七條ニ依リ新手形ヲ補償手形ト爲シタルトキハ其ノ額面金額及書換ノ日ヨリ滿期日マデノ期間ニ付左ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ補償料トシテ政府ニ納付スベシ

一　甲種補償契約ニ於テハ百圓ニ對シ一日二厘一毛

二　乙種補償契約ニ於テハ百圓ニ對シ一日四厘六毛

輸出補償法施行規則中改正

（昭和十三年七月二十七日臺灣總督府令第九十號）

第七條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「臺灣ヨリ商品ヲ輸出スル爲」ヲ「臺灣ニ於テ」ニ改ム

第九條　銀行ガ補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ニ補償料ニ關スル計算書及前條ノ證明書ヲ添附シ十日以內ニ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一　補償契約ノ種類

二　手形ノ番號

三　銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及營業所ノ名稱

四　手形ノ滿期

五　手形ノ額面金額

六　手形ノ振出人ノ名稱及住所又ハ營業所

七　手形ノ支拂人ノ名稱及住所又ハ營業所

八　引受アリタルトキ附屬荷物ヲ引渡スベキコトヲ條件トスル手形（引受渡條件ノ手形）又ハ支拂アリタルトキ附屬荷物ヲ引渡スベキコトヲ條件トスル手形（支拂渡條件ノ手形）ノ區別

九　附屬荷物ノ生產、製造又ハ加工セラレタル地域

十　附屬荷物ノ名稱及仕向先

十一　附屬荷物以外ノ擔保アルトキハ其ノ種類及種類別ニ依ル價額

十二　滿期以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款

第十一條　銀行ハ補償手形ガ引受渡條件ノ手形ノ場合ニ於テハ引受前ニ、支拂渡條件ノ手形ノ場合ニ於テハ支拂前ニ附屬荷物ヲ引渡スコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ改ム

第十六條　政府ハ補償手形ノ滿期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザルニ至リタル事由ガ銀行ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テハ補償ノ責ニ任ゼズ

第十八條中「氏名又ハ商號」ヲ「名稱」ニ改ム

第十九條中「百分ノ七十」ヲ「百分ノ八十」ニ改ム

第二十條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「三厘四毛」ヲ「一厘三毛」ニ、「一厘三毛」ヲ「五毛」ニ改ム

第二十三條中「七日」ヲ「十日」ニ改ム

第二十四條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ改ム

第二十五條中「償還請求權」ヲ「遡求權」ニ改ム

第二十六條　甲種補償契約ニ依ル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付附屬荷物其ノ他擔保アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ銀行ハ輸出補償法第三條第一項第一號ニ揭グル金額ヲ控除セズシテ損失ヲ計算シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　甲種補償契約ニ依リ銀行ガ政府ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲サントスルトキハ補償ヲ受ケントスル金額及滿期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ事由ヲ記載シタル請求書ニ其ノ手形、之ニ附屬セル船荷證券（小包郵便ニ依ル場合ニハ其ノ受領證）及送狀ノ各寫、損失ニ關スル計算書竝ニ支拂拒絕證書ノ謄本其ノ他ノ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコトヲ證スル書面ヲ添附シ臺灣總督ニ之ヲ提出スベシ

第二十八條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ改ム

第二十九條中「償還又ハ支拂」ヲ「支拂」ニ改ム

第三十條　甲種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ輸出補償法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セザルコトニ付認可ヲ受ケントスルトキハ權利ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルル場合ニ於テハ申請書ニ權利ノ行使ニ要スル費用及其ノ內譯竝ニ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額及全部又ハ一部ノ支拂ヲ受クルノ見込ナキトキハ其ノ事由ヲ、其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テハ其ノ事情ヲ記載シ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

前項ノ規定ハ甲種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ輸出補償法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ權利ノ全部又ハ一部ヲ一時行使セザルコトニ付認可ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ銀行ハ申請書ニ權利ヲ行使セザル期間及其ノ期間內權利ヲ行使セザル事由ヲ記載スベシ

第三十一條中「償還又ハ支拂」ヲ「支拂」ニ改メ「第三十二條」ノ下ニ「及第三十二條ノ二」ヲ加フ

第三十二條中「償還又ハ支拂」ヲ「支拂」ニ、「百分ノ七十」ヲ「百分ノ八十」ニ、「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「償還請求權」ヲ「遡求權」ニ改ム

第三十二條ノ二　甲種補償契約ニ依リ外國ニ於ケル爲替管理ニ因ル損失ノ補償ヲ受ケタル銀行ガ其ノ手形ニ付前條ノ金額ヲ納付スル場合ニ於テハ其ノ金額及銀行ガ補償ヲ受ケタル日ヨリ第三十一條ノ屆書ヲ提出シタル日ノ前日迄ノ期間ニ付百圓ニ對シ一日五厘五毛ノ割合ヲ以テ算出シタル追納補償料ヲ政府ニ納付スベシ

第十條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ付之ヲ準用ス

第三十三條中「前條」ヲ「第三十二條」ニ改ム

第三十五條中「百分ノ六十」ヲ「百分ノ七十」ニ改ム

第三十六條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ銀行ハ申請書ニ支拂人ノ信用調查書ヲ添附シ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第一項ノ承認ハ其ノ支拂人ニ付既ニ一ノ銀行ガ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ銀行ニ對シテモ承認アリタル

モノト看做ス

第三十八條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「二圓」ヲ「七十錢」ニ、「六厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ、「八十錢」ヲ「二十八錢」ニ、「三厘三毛」ヲ「一厘一毛」ニ改ム

第三十九條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ改ム

第四十條　乙種補償契約ニ依ル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付附屬荷物アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ銀行ハ輸出補償法第三條第一項第一號ニ揭グル金額ヲ控除セズシテ損失ヲ計算シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十一條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「償還請求權」ヲ「遡求權」ニ、「第三十條」ヲ「第三十條第一項」ニ改ム

第四十二條中「百分ノ六十」ヲ「百分ノ七十」ニ、「百分ノ四十」ヲ「百分ノ三十」ニ改メ同條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ銀行ガ其ノ損失ニ付遡求權ノ行使ニ依リ既ニ全部ノ支拂ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ヲ、一部ノ支拂ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ノ中ヨリ殘餘ノ損失ヲ塡補シ尙殘額アルトキハ之ヲ支拂ヲ爲シタル者ニ返還スルモノトス

第四十二條ノ二　乙種補償契約ニ依リ外國ニ於ケル爲替管理ニ因ル損失ノ補償ヲ受ケタル銀行ガ其ノ手形ニ付前條ノ金額ヲ納付スル場合ニ於テハ其ノ金額及銀行ガ補償ヲ受ケタル日ヨリ第四十三條ノ規定ニ依リ準用スル第三十一條ノ屆書ヲ提出シタル日ノ前日迄ノ期間ニ付百圓ニ對シ一日五厘五毛ノ割合ヲ以テ算出シタル追納補償料ヲ政府ニ納付スベシ

第十條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ付之ヲ準用ス

「第二章　約束手形ニ關スル補償契約」ヲ「第二章　約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約」ニ改ム

第四十四條　輸出補償法第七條ノ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ハ臺灣總督ノ指定スル地域ニ對スル商品ノ輸出ノ爲受取リ又ハ振出シタルモノトス

第四十四條ノ二　前條ノ約束手形ニシテソヴィエト聯邦ニ對スル商品ノ輸出ノ爲受取リタルモノノ振出人ハ內地ニ於ケルソヴィエト聯邦通商代表部ノ名ニ於テ署名ヲ爲スノ權限ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

第四十四條ノ三　第四十四條ノ手形ハ臺灣總督ノ指定スル商品ノ輸出ノ爲受取リタル約束手形又ハ振出シタル荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ非ザレバ銀行ハ之ヲ補償手形トシテ買取ルコトヲ得ズ但シソヴィエト聯邦ニ對スル商品ノ輸出ノ爲受取リタル約束手形ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條ノ四　銀行ハ左ノ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ヲ補償手形トシテ買取ルコトヲ得ズ

一　滿期ガ振出ノ日ヨリ五年ヲ超ユルモノ

二　臺灣ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ガ臺灣ニ於テ受取リ又ハ振出シタル手形ニ非ザルモノ

第四十五條中「約束手形」ヲ「第四十四條ノ二ノ約束手形」ニ改ム

第四十五條ノ二　第四十四條ノ手形ハ其ノ振出人及受取人又ハ支拂人竝ニ輸出セントスル商品ニ付銀行ガ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ補償手形トシテ買取ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハソヴィエト聯邦ニ對スル商品ノ輸出ノ爲受取リタル約束手形ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ銀行ハ申請書ニ手形ノ振出人及受取人又ハ支拂人ノ信用調査書竝ニ商品ノ輸出ニ關スル契約ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

前項ノ信用調査書ハ手形ノ振出人、受取人又ハ支拂人ガ外國ノ政府又ハ公共團體ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十六條　銀行ガ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル屆書ニ補償料ニ關スル計算

書及商品ノ輸出ニ關スル契約書ノ寫竝ニ第五十二條ノ規定ニ依リ準用スル第八條ノ證明書ヲ添附シ十日以內ニ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一　補償契約ノ種類

二　手形ノ番號

三　銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及營業所ノ名稱

四　手形ノ滿期

五　手形ノ額面金額

六　手形ノ振出人ノ名稱及住所又ハ營業所

七　補償手形ガ荷爲替手形以外ノ爲替手形ナル場合ニ在リテハ手形ノ支拂人ノ名稱及住所又ハ營業所

八　商品ノ生產、製造又ハ加工セラレタル地域

九　商品ノ名稱及仕向先

十　手形ノ支拂ニ付擔保又ハ保證アルトキハ其ノ種類及種類別ニ依ル價額又ハ保證限度

十一　滿期以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款

第四十七條第一項中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「十二月」ヲ「五年」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第四十八條中「七日」ヲ「十日」ニ、「滿期日」ヲ「滿期」ニ改ム

第四十九條中「約束手形」ヲ「約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形」ニ、「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「二厘七毛」ヲ「一厘」ニ、「一圓」ヲ「三十五錢」ニ、「六厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ改ム

第五十條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「二厘七毛」ヲ「一厘」ニ、「六厘六毛」ヲ「二厘三毛」ニ改ム

第五十一條　約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル甲種補償契約ニ依ル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付擔保アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ臺灣總督ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ銀行ハ輸出補償法第三條第一項第八號ニ揭グル金額ヲ控除セズシテ損失ヲ計算シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五十一條ノ二　第五十二條ノ規定ニ依リ準用スル第二十七條ノ規定、第四十三條ノ規定ニ依リ準用スル第二十七條ノ規定ヲ準用スル場合ヲ含ム）ニ依リ添附スベキ船荷證券及送狀ノ各寫ハソヴィエト聯邦ニ商品ヲ輸出シタル場合ニ限リ其ノ旨ヲ證スル書面ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ書面ニハ其ノ商品ノ名稱、數量、輸出港、仕向先及輸出ノ年月日ノ記載アルコトヲ要ス

第五十二條　第一條乃至第六條、第八條、第十條、第十二條乃至第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條、第二十七條乃至第三十五條及第四十一條乃至第四十二條ノ二竝ニ第四十三條ノ規定ニ依リ準用スル第二十一條、第二十二條、第二十五條、第二十七條乃至第三十一條、第三十條及第三十四條ノ規定ハ約束手形又ハ荷爲替手形以外ノ爲替手形ニ關スル補償契約ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸出補償法第一條ノ規定ニ依ル地域指定

（昭和十三年七月二十七日臺灣總督府告示第二百六十八號）

北米合衆國、英本國、獨逸、佛蘭西、及伊太利以外ノ地域

（參照）

昭和九年十月臺灣總督府告示第百六十六號ハ本號ト同件及同十年八月同第百二十三號ハ同上中改正ノ件ナリ

アルコール實捌規則中改正

（昭和十三年四月二十三日大藏省令第二十四號）

第一條第二號中「（四十）大豆油」ノ次ニ「（四十一）醋酸纖維素人造絹絲及醋酸纖維素人造纖維」ヲ加フ

第二條第一項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　揮發油混入用アルコールハ官廳又ハ揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者ヨリ賣渡請求アルトキ

第八條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

アルコールヲ買受クル者延納擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ販賣官署長ハ三月內賣渡代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

常時アルコールノ買受ヲ爲ス者延納擔保トシテ證メ國債ヲ提供シ置クトキハ販賣官署長ハ前項ノ規定ニ準ジ賣渡代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

第十條ノ二　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ買受ケタル揮發油混入用アルコールヲ其ノ賣渡請求書ニ記載シタル混入場所ニ於テ混入ニ使用セントスルトキハ買受先販賣官署ノ承認ヲ受クベシ

第十條ノ三　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ買受ケタル揮發油混入用アルコールヲ揮發油ニ混入シタルトキハ混入場所ノ所轄地方專賣局又ハ其ノ出張所ニ之ガ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ申告シ混入濟證明ヲ受クベシ

前項ノ申告アリタルトキハ當該官吏ハ製品、貯藏容器、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査シ第三號書式ノ混入濟證明書ヲ交付スベシ

前項ノ混入濟證明書ハ其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ買受先販賣官署ニ提出スベシ

地方專賣局長必要アリト認ムルトキハ豫メ混入場所、混入數量及混入豫定月日ヲ申告セシメ當該官吏ヲシテ混入ニ立會ヘシムルコトヲ得

揮發油混入用アルコールヲ買受ケタル揮發油混入用トシテ使用ニ適セザルアルコールニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條第四項中「第三號書式」ヲ「第四號書式」ニ改ム

第十二條第二項中「第四號書式」ヲ「第五號書式」ニ改ム

第十九條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

販賣官署前項ノ規定ニ依リ揮發油混入用アルコールヲ工業用又ハ輸移出用ニ供スル者ニ讓渡スルコトヲ許可スル場合ニ於テハ其ノ賣渡價額ノ差額ニ相當スル金額ヲ、揮發油混入用アルコール及輸移出用アルコールヲ揮發油混入用、工業用又ハ輸移出用以外ノ用途ニ供スル者ニ讓渡スルコトヲ許可スル場合ニ於テハ其ノ賣渡價額トアルコール專賣法第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ讓渡人ヲシテ

納付セシム

第四條、第十條ノ二乃至第十八條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノアルコールヲ讓受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第二十三條第一項中「第五號書式」ヲ「第六號書式」ニ改ム

第二十六條第一項中「第六號書式」ヲ「第七號書式」ニ、第二項中「第七號書式」ヲ「第八號書式」ニ改ム

第三十條第二號ヲ第三號トシ、第一號ヲ第二號トシ其ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

一　揮發油混入用アルコールヲ買受ケタル者第十條ノ三ノ混入濟證明書ヲ期間內ニ提出セザルトキ

第三十一條中「工業用アルコール」ノ上ニ「揮發油混入用アルコール、」ヲ加フ

第三十七條第一項中「第八號書式」ヲ「第九號書式」ニ改ム

第三十八條第二項中「第九號書式」ヲ「第十號書式」ニ改ム

第三十九條中「第十號書式」ヲ「第十一號書式」ニ改ム

別表　工業用アルコール變性標準中四十大豆油ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四十一	醋酸纖維素木精、アセトン及アセトン人造絹絲及油中一種若ハ數種ヲ通ジテ醋酸纖維素七瓩以上又ハベンゾール二瓩以上

アルコール受拂簿

第一號書式ノ四ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ（第一號書式ノ五）

日月	要摘	在量現數	出拂								入受						
			他ノ		其		篇ノ入混ニ油發揮				他ノ		其		買受官廳ヨリ		
			事由	數量	代金	錢	揮發油量ノ數	アーコール入量ノ數	一瓩ニ付キ揮發油ノ混入量ノ數	油發揮ノ數	事由	數量	代金	錢	代金	錢	數量

備考

一　揮發油混入用アルコールヲ買受ケタル者ハ本書式ニ依リ帳簿ヲ作成シ混入場所毎ニ備付クベシ

二　貯藏容器ノ異ル毎ニ口座ヲ分ツベシ

三　受入ニ付テハ受入先名ヲ摘要欄ニ記載スベシ

四　本簿ノ使用ハ其ノ年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ルモノトス

第二號書式ノ三ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ

（第二號書式ノ四）

揮發油混入用アルコール賣渡請求書

代金納付方法			買受數量				
現品引取豫定月日			運方法				
アルコール藏置場			運賃	經路			
				運送人			
混入場所			混入豫定月日				

右請求候也

年　月　日

住所
氏名　印

取賣官署長宛

第三號書式及第四號書式ヲ削リ第五號書式ヲ第六號書式トシ以下順次繰下ゲ第二號書式ノ四ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ

（第三號書式）

アルコール混入濟證明書

揮發油製造（輸入、移入）業者住所氏名							
受入先及受入年月日							
アルコール分一ノ數量	貯藏容器		揮發油ノ數量				
	アルコール分		運入	月日			
				場所			
				アルコール分ノ數量			
			摘要				

右證明ス

年　月　日

在勤廳
官氏名　印

（第四號書式）

工業用アルコール變性濟證明書

買受人（申請者）ノ住所氏名					
アルコール分一ノ數量	買（譲）受先及買（譲）受月日		變性	月日	
	數量及アルコール分			場所	
	使用目的				
	藏置場				

右證明ス

年　月　日

在勤廳
官氏名　印

（第五號書式）

工業用アルコール使用濟證明書

使用者ノ住所氏名			
使用濟アルコール分ノ數量及アルコール分			
使用月日			
使用場所			
製品ノ名稱及數量			
分離アルコールノ數量及アルコール分			
摘要			

右證明ス

年　月　日

在勤廳
官氏名　印

附則

本令ハ昭和十三年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

アルコールノ賠償價格表

（昭和十三年三月三十一日大藏省告示第八十九號）

アルコール專賣法第十五條第二項及同法施行細則第十七條ニ依リ昭和十三年度中收納スルアルコールノ賠償價格左表ノ通定ム

アルコール賠償價格表

アルコール度數	製造原料區分	一石當賠償價格
九十九度以上	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	五三九・八錢
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	三九二・八
九十六度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	五二〇・九
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	三八〇・九
九十五度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	五一〇・四
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	三七三・八
九十四度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	五〇〇・〇
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	三六六・〇

特殊ノ品質ヲ有スルアルコール及本表ニ掲ゲザル度數ノアルコールニ付テハ專賣局長官其ノ賠償價格ヲ定ム

容器詰ト爲シタルアルコールニ付テハ容器代及之ガ包裝ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ

アルコール賣渡價格表

（昭和十三年三月三十一日大藏省告示第九十號）

アルコール專賣法第十九條及第二十條ニ依リ政府ノ賣渡スアルコールノ價格左表ノ通定メ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年四月大藏省告示第八十號ハ本告示施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

アルコール賣渡價格表

アルコール度數	アルコール專賣法第十九條ニ依ル一石當價格	アルコール專賣法第二十條ニ依ル一石當價格
九十九度以上	二七五・六八圓	五三・六八錢
九十六度	二五六・三〇	四二・九〇
九十五度	二五三・六五	四二・四〇
九十四度	二五一・一〇	四二・〇〇

アルコール賠償價格表改正

（昭和十三年五月三十一日大藏省告示第百五十號）

昭和十三年三月大藏省告示第八十九號アルコール賠償價格表左ノ通改正シ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

アルコール賠償價格表

アルコール度數	製造原料區分	一針當賠償價格
九十九度以上		二九七・五七圓
九十六度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	二二〇・五二
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	二八八・七六
九十五度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	二二〇・三五
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	二八五・七一
九十四度	糖蜜ヲ主要原料トセルモノ	二一九・四一
	其ノ他ヲ原料トセルモノ	二八二・七一

特殊ノ品質ヲ有スルアルコール及本表ニ掲ゲザル度數ノアルコールニ付テハ專賣局長官其ノ賠償價格ヲ定ム

容器詰ト爲シタルアルコールニ付テハ容器代及之ガ包裝ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ

（參照）

昭和十二年四月大藏省告示第八十號ハ本號ト同件ナリ

アルコール賣渡價格表改正

（昭和十三年五月三十一日大藏省告示第百五十一號）

昭和十三年三月大藏省告示第九十號アルコール賣渡價格表左ノ通改正シ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

アルコール賣渡價格表

アルコール度數	アルコール專賣法第十九條ニ依ル一斗當價格	アルコール專賣法第二十條第一號ニ依ル一斗當價格	アルコール專賣法第二十條第二號及第三號ニ依ル一斗當價格
九十九度以上	一、五二八・二四圓	一五〇・五八圓	二九七・五八圓
九十六度	一、四二〇・八一	一	二三七・八二
九十五度	一、四〇六・一二	一	二三五・〇五
九十四度	一、三九一・九八	一	二三二・八三

特殊ノ品質ヲ有スルアルコール及本表ニ掲ゲザル度數ノアルコールニ付テハ專賣局長官其ノ賣渡價格ヲ定ム

容器詰ト爲シタルアルコールニ付テハ容器代及之ガ包裝ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ

政府ニ於テ變性ヲ施シタルアルコールニ付テハ之ガ變性ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ

昭和八年府令第三十九號（鉛員法施行ニ關スル件）

揮發油及アルコール混用法施行令

（昭和十三年四月二十三日勅令第二百八十四號）

第一條　揮發油及アルコール混用法第一條第一項ノ規定ニ依リアルコールヲ混入スベキ揮發油ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル鑛物性ノ揮發油トス

一　命令ノ定ムル試驗方法ニ依ル九十五パーセント溜出溫度攝氏二百二十五度以下ノモノ

二　攝氏十五度ニ於ケル比重〇・八〇一七ヲ超エザルモノ

揮發油及アルコール混用法第一條第一項ノ規定ニ依リ揮發油ニ混入スベキアルコールハアルコール分九十九度以上ノアルコールトス

前項ノアルコール分トハ攝氏十五度ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ

第二條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ左ニ揭グル場合ニ於テハ揮發油ニアルコールヲ混入セザルコトヲ得

一　自己ノ他ノ工場又ハ貯油所ニ移送スル目的ヲ以テ揮發油ヲ工場又ハ貯油所ヨリ搬出セントスルトキ

二　他ノ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ對シ其ノ工場又ハ貯油所ニ於テ引渡ヲ爲ス揮發油ヲ工場又ハ貯油所ニ移送スル目的ヲ以テ工場又ハ貯油所ヨリ搬出セントスルトキ

三　他ノ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ガ其ノ工場又ハ貯油所ニ於テ其ノ者ニ引渡ヲ受クル揮發油ヲ以テ引渡ヲ爲ス目的ヲ以テ工場又ハ貯油所ヨリ搬出セントスルトキ

四　輸出又ハ揮發油及アルコール混用法ヲ施行セザル地ヘノ移出ノ用ニ供スル目的ヲ以テ揮發油ヲ工場又ハ貯油所ヨリ搬出セントスルトキ

五　輸出又ハ揮發油及アルコール混用法ヲ施行セザル地ヘノ移出ノ用ニ供スル目的ヲ以テ引渡ヲ受クル者ニ揮發油ヲ工場又ハ貯油所ニ於テ引渡サントスルトキ

六　命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スル目的ヲ以テ揮發油ヲ工場又ハ貯油所ヨリ搬出セントスルトキ

七　工場又ハ貯油所ニ於テ揮發油ヲ命令ヲ以テ定ムル用途ニ使用セントスルトキ

八　命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スル目的ヲ以テ引渡ヲ受クル者ニ揮發油ヲ工場又ハ貯油所ニ於テ引渡サントスルトキ

九　軍事上ノ必要ニ依リ政府ガ購入スル揮發油ヲ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ工場若ハ貯油所ニ於テ引渡サントスルトキ

十　天災事變其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ揮發油ニアルコールヲ混入シテ之ヲ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ工場若ハ貯油所ニ於テ使用シ若ハ他ノ者ニ引渡スコトヲ得ザルトキ

第三條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ其ノ工場若ハ貯油所ニ於テ使用シ若ハ他ノ者ニ引渡ス揮發油ノ總數量常時年額百キロリットルニ達セザル場合ニ於テ

命令ノ定ムル所ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ揮發油ニアルコールヲ混入セザルコトヲ得

第四條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハアルコールノ需給關係上商工大臣ニ於テ必要ト認ムル期間其ノ期間內ニ其ノ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ其ノ工場若ハ貯油所ニ於テ使用シ若ハ他ノ者ニ引渡ス揮發油ノ總數量ヨリ第二條第一號乃至第九號ノ規定ニ依リアルコールヲ混入セザルコトヲ得ル揮發油ノ數量ヲ除キタル數量ニ對シ商工大臣ノ定ムル割合ニ相當スル數量ノ揮發油ニハアルコールヲ混入スルコトヲ要セズ

前項ノ期間及割合ハ商工大臣之ヲ告示ス

第五條　本令中商工大臣トアルハ臺灣ニ在リテハ臺灣總督トス

附　則

本令ハ揮發油及アルコール混用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ石炭、亞炭若ハオイルシェールヨリ製造シタル原料油又ハガスノ合成ニ依リ製造シタル原料油ヨリ製造シタル鑛物性ノ揮發油ニハ當分ノ內アルコールヲ混入セザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リアルコールヲ混入セザルコトヲ得ル揮發油ノ數量ヲ第四條ノ揮發油ノ總數量ニ之ヲ算入セズ

揮發油及アルコール混用法施行規則

（昭和十三年四月二十三日商工省令第十七號）

第一條　揮發油及アルコール混用法施行令第一項第一號ノ試驗方法ハ日本標準規格第百七十四號石油製品試驗方法第六條ノ分溜試驗方法トス

第二條　揮發油及アルコール混用法第五條第三項及同法施行令第二條第六號乃至第八號ノ用途ハ內燃機關用（航空機用ヲ除ク）以外ノ用途トス

第三條　揮發油ノ製造又ハ輸入ヲ業トスル者ハ其ノ事業開始後遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　氏名名稱又ハ商號及住所

二　工場又ハ貯油所ノ名稱及位置（工場又ハ貯油所ノ全體圖ヲ添附スベシ）

揮發油ノ移入ヲ業トスル者ハ其ノ事業開始後遲滯ナク前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　事業ノ概要

二　貯藏設備

三　一年間ニ於ケル移入及販賣見込數量

四　事業開始ノ年月日

第一項各號ニ掲グル事項竝ニ前項第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

第四條　揮發油ノ移入ヲ業トスル者其ノ事業ヲ讓渡シ又ハ廢止セントスルトキハ豫メ左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　讓渡又ハ廢止ノ事由及時期

二　讓渡ニ在リテハ讓受人ノ氏名名稱又ハ商號及住所

第五條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ事業ヲ休止セントスルトキハ豫メ休止ノ事由及期間ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ但シ揮發油ノ製造又ハ輸入ヲ業トスル者ニ在リテハ六月未滿ノ休止ヲ爲ス場合ニ限ル

揮發油ノ移入ヲ業トスル者休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

第六條　揮發油及アルコール混用法施行令

第三條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　アルコールヲ混入セザル事由

二　一年間ニ於ケル製造、輸入又ハ移入數量

三　一年間ニ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ工場若ハ貯油所ニ於テ使用シ若ハ他ノ者ニ引渡ス數量

第七條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ每年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノアルコール混入計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第八條　アルコール混入計畫認可申請書ハ工場又ハ貯油所別ニ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　揮發油ノ製造又ハ搬入數量及搬出、使用又ハ引渡數量竝ニ年始及年末在庫數量

二　アルコールヲ混入スル揮發油ノ數量及揮發油ニアルコールヲ混入スル割合

三　アルコールノ搬入、混入及搬出數量竝ニ年始及年末在庫數量

四　アルコールノ貯藏設備及貯藏能力

五　アルコールノ混入設備及混入方法

六　アルコールヲ混入シタル揮發油ノ貯藏設備及貯藏能力

第九條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ每月十五日迄ニ其ノ前月中ノ左ニ掲グル事項ヲ工場又ハ貯油所別ニ記載シタル屆出書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入數量及揮發油ニアルコールヲ混入スル割合

二　アルコールノ搬入、混入及搬出數量及揮發油ニアルコールヲ混入スル割合

三　アルコールノ搬入、混入及搬出數量竝ニ月末在庫數量

四　アルコールノ貯藏設備及貯藏能力

五　アルコールノ混入設備及混入方法

六　アルコールヲ混入シタル揮發油ノ貯藏設備及貯藏能力

第十條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ每月十五日迄ニ其ノ前月中ノ左ニ掲グル事項ヲ工場又ハ貯油所別ニ記載シタル屆出書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入數量及揮發油ニアルコールヲ混入スル割合

二　アルコールノ搬入、混入及搬出數量及揮發油ニアルコールヲ混入スル割合

三　アルコールノ搬入、混入及搬出數量竝ニ月末在庫數量

四　アルコールノ貯藏設備及貯藏能力

五　アルコールノ混入設備及混入方法

六　アルコールヲ混入シタル揮發油ノ貯藏設備及貯藏能力

第十一條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ每年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノアルコール混入計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十二條　業務上揮發油及アルコール混用法施行令第二條第四號乃至第六號又ハ第八號ノ規定ニ依リアルコールヲ混入セザル揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス事業主（第十條ノ規定ニ依リ標章ヲ附シタル揮發油ノミノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者及業務上揮發油ノ輸送ヲ爲ス者ヲ除ク）ハ其ノアルコールヲ混入セザル揮發油ニ付每月十五日迄ニ其ノ前月中ノ左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　揮發油ヲ讓受ケタル日及其ノ數量

二　揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱數量及月末在庫數量

第十三條　揮發油及アルコール混用法第七條ノ證票ハ別記樣式第二號ニ依ル

附　則

本則ハ揮發油及アルコール混用法施行ノ日

ヨリ之ヲ施行ス但シ第九條及第十二條ノ規定ハ昭和十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油及アルコール混用法附則第二項ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ昭和十三年六月三十日ニ至ル期間トス

本則施行ノ際現ニ揮發油ノ製造又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ハ本則施行ノ日ヨリ二週間以內ニ第三條第一項各號ニ揭グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

本則施行ノ際現ニ揮發油ノ移入ノ業ヲ營ム者ハ本則施行ノ日ヨリ二週間以內ニ第三條第一項各號竝ニ同條第二項第一號及第二號ニ揭グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

本則施行ノ際現ニ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ノ業ヲ營ム者ハ昭和十三年七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノアルコール混入計畫ヲ定メ本則施行ノ日ヨリ一月以內ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

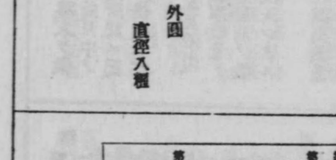
揮發油及アルコール混用法施行令附則第二項ノ規定ニ依リアルコールヲ混入セザルコトヲ得ル揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニハ其ノ事業ニ付當分ノ內本則ヲ適用セズ

別記樣式第一號

甲　容量五立未滿ノ容器ニ附スベキ標章

外圍　直徑四糎

乙　容量五立未滿ノ容器以外ノモノニ附スベキ標章



外圍　直徑六糎

アルコールヲ混入セザル揮發油

縱二糎　橫一四・八糎

別記樣式第二號

表面

第　號　年　月　日交付

揮發油及アルコール混用法第七條ノ證票

官職氏名

商工省又ハ廳府縣印

裏面

（本證票用紙ノ寸法ハ日本標準規格第九十一號（JIS Z 8301）ニ依ルモノトス）

揮發油及アルコール混用法施行規則

第七條　行政官廳ノ官職上必要アリト認ムルトキハ官吏ヲシテ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者又ハ營業上揮發油ノ使用、販賣又ハ他ノ取扱ヲ爲ス者ノ營業所、營業所ニ準ズベキ場所、貯藏所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ狀況又ハ揮發油ノ試料ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ攜帶セシムベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

二　第七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ニシテ其ノ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

揮發油及アルコール混用法施行期日ノ件

（昭和十三年四月二十三日勅令第二百八十二號）

揮發油及アルコール混用法ハ昭和十三年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油ニアルコールヲ混入スヘキ割合

（昭和十三年四月二十五日商工省告示第百二十一號）

揮發油及アルコール混用法第一條第二項ノ規定ニ依リ揮發油ニアルコールヲ混入スベキ割合左ノ通定ム

揮發油ノ容量九十五ニ對シアルコールノ容量五

揮發油ニアルコールヲ混入スヘキ割合

（昭和十三年七月三十日商工省告示第二百二十二號）

揮發油及アルコール混用法第一條第二項ノ規定ニ依リ揮發油ニアルコールヲ混入スベキ割合左ノ通定ム

本告示ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年四月商工省告示第百二十一號ハ之ヲ廢止ス

揮發油ノ容量九十ニ對シアルコールノ容量十（參照）

昭和十三年四月二十五日商工省告示第百二十一號ハ本號ト同件ナリ

揮發油及アルコール混用法施行令第四條第一項ノ期間及割合

（昭和十三年四月二十五日商工省告示第百二十二號）

一　期間　昭和十三年七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間

二　割合　四分ノ三以下但シ各月ニ於ケル割合ハ五分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ズ

揮發油及アルコール混用法施行令第四條第一項ノ期間及割合

（昭和十三年九月十三日商工省告示第二百六十八號）

期間　割合

一　自昭和十四年一月一日至同年三月三十一日　七割五分以下但シ各月ニ於ケル割合ハ八割ヲ超ユルコトヲ得ズ

二　自昭和十四年四月一日至同年六月三十日　五割以下但シ各月ニ於ケル割合ハ五割五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

三　自昭和十四年七月一日至同年十二月三十一日　三割以下但シ各月ニ於ケル割合ハ三割五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

揮發油及アルコール混用法施行令第四條第一項ノ期間及割合

期間　割合

一　自昭和十四年一月一日至同年三月三十一日　七割五分以下但シ各月ニ於ケル割合ハ八割ヲ超ユルコトヲ得ズ

二　自昭和十四年四月一日至同年六月三十日　五割以下但シ各月ニ於ケル割合ハ五割五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

三　自昭和十四年七月一日至同年十二月三十一日　三割以下但シ各月ニ於ケル割合ハ三割五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

揮發油及アルコール混用法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（昭和十三年四月二十三日勅令第二百八十三號）

揮發油及アルコール混用法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和十三年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油及アルコール混用法施行ニ關スル件

（昭和十三年四月二十四日臺灣總督府令第五十號）

第一條　揮發油及アルコール混用法ノ施行ニ關シテハ昭和十三年商工省令第十七號揮發油及アルコール混用法施行規則ニ依ル但シ同令中商工大臣トアルハ臺灣總督、商工省又ハ道廳府縣トアルハ臺灣總督府トス

第二條　前條ノ省令ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ハ明治三十二年府令第十九號（總督府ニ差出ス願屆書等ハ管轄廳經由ノ件）ノ規定ニ拘ラズ直接臺灣總督ニ提出スベシ

附　則

本令ハ揮發油及アルコール混用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油混入用酒精賣渡規則

（昭和十三年六月二十六日 臺灣總督府令第七十四號）

第一條　本令ニ於テ揮發油混入用酒精トハ揮發油及アルコール混用法第一條ノ規定ニ依リ揮發油ニ混入スベキ酒精ヲ謂フ

第二條　揮發油混入用酒精ハ臺灣總督府專賣局長ニ於テ直接揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ之ヲ賣渡スモノトス

第三條　揮發油混入用酒精ハ揮發油混入用以外ニ使用スルコトヲ得ズ

第四條　揮發油混入用酒精ノ賣渡ヲ受ケントスル者ハ別記第一號樣式ノ賣渡請求書ヲ專賣局長ニ提出スベシ

前項ノ賣渡請求書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ遲滯ナク專賣局長ニ屆出ヅベシ

第五條　揮發油混入用酒精ノ賣渡ニ於テハ其ノ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタル後ニ非ザレバ現品ノ引渡ヲ爲サズ

第六條　揮發油混入用酒精ノ買受人前條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シ現品ノ引渡ヲ受ケタル場合ニ於テ買受代金納付ノ期日迄ニ之ヲ納付セザルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵收スルコトアルベシ

第七條　揮發油混入用酒精ハ買受人ガ酒精ヲ揮發油ニ混入スル場所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

第八條　買受人ハ專賣官吏立會ノ上其ノ買受ケタル酒精ヲ揮發油ニ混入スベシ

第九條　買受人其ノ買受ケタル酒精ガ吸濕其ノ他ノ事由ニ因リ揮發油混入用ニ適セザルニ至リタルトキハ別記第二號樣式ノ揮發油混入用酒精引替請求書ヲ專賣局長ニ提出シ其ノ引替ヲ受クルコトヲ得

第十條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者死亡シ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ又ハ營業ヲ廢止セントキ又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル揮發油混入用酒精ノ買戻ヲ專賣局長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ買受人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依リ揮發油ニ混入シタルトキハ一百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　買受人ハ別記第三號樣式ノ揮發油混入用酒精受拂簿ヲ備ヘ、受拂ノ都度之ヲ記載スベシ

買受人ハ各月分受拂報告書ヲ翌月十日迄ニ專賣局長ニ提出スベシ

第十二條　買受人第三條ノ規定ニ違反シ揮發油混入用酒精ヲ揮發油混入用以外ニ使用シタルトキ又ハ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル揮發油混入用酒精ノ買戻ヲ專賣局長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ買受人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依リ揮發油ニ混入シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　買受人第十一條ノ規定ニ違反シ受拂簿ヲ備ヘズ、受拂ノ記載ヲ怠リ又ハ詐リ又ハ受拂報告書ヲ所定ノ期日迄ニ提出セザルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十五條　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式省略）

揮發油ニアルコールヲ混入スヘキ割合

（昭和十三年五月四日 臺灣總督府告示第百七十一號）

揮發油及アルコール混用法第一條第二項ノ規定ニ依リ揮發油ニアルコールヲ混入スベキ割合ヲ左ノ通定ム

期間	混入スベキ割合
自昭和十三年七月一日至昭和十四年三月三十一日	百分ノ五
自昭和十四年四月一日至昭和十五年三月三十一日	百分ノ十
昭和十五年四月一日以降	百分ノ二十

燈火管制規則

（昭和十三年四月四日 內務省 陸軍省 海軍省 遞信省 鐵道省 令第一號）

第一條　燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ祕匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條　警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ祕匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ揭グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條　第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ祕匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ祕匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條　左ノ各號ニ揭グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ內部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指定スル光

第六條　左ニ揭グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條　第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ離キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條　第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隧道ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ揭グル條件ニ依リ光ヲ

遮ルヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條　左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ

二　第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三　第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ

四　空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附　則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表　一般屋外燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
廣告燈 看板燈 裝飾燈 其ノ他之ニ類スル燈火	消燈	消燈	消燈	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光ヲ認メザルコト
街路燈（標柱燈ヲ除ク） 其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ街燈、門燈、玄關燈、廊下燈、非常口燈、電車停留場燈、投光器ヲ用ヰル街路照明燈及道標燈ノ如キ各種燈臺燈等） 廣告燈、看板燈、裝飾燈、其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ劇場、映畫館、寄席、飮食店、旅館、料理店、遊技場、見世物興行場、競技場、運動場、球場、公會堂、集會所、停車場、驛、市場、百貨店、工場、倉庫、學校、病院、官公署、銀行、會社、神社、佛閣、墓地、火葬場、消防官署、警察官署等ノ照明燈又ハ標識燈ニシテ必要ナルモノ）	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光ヲ認メザルコト
標識燈 廣告燈、看板燈、裝飾燈、其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ劇場、映畫館、寄席、飮食店、旅館、料理店、遊技場、見世物興行場、競技場、運動場、球場、公會堂、集會所、停車場、驛、市場、百貨店、工場、倉庫、學校、病院、官公署、銀行、會社、神社、佛閣、墓地、火葬場、消防官署、警察官署等ノ照明燈又ハ標識燈ニシテ必要ナルモノ）	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光ヲ認メザルコト
街路燈 標柱燈（標築表示燈ヲ除ク） 其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ街路ノ照明ヲ兼ヌル街燈、電車停留場燈、投光器ヲ用ヰル街路照明燈及道標燈ノ如キ各種燈臺燈等） 街路燈、標柱燈（標築表示燈ヲ除ク）、其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ劇場、映畫館、寄席、飮食店、旅館、料理店、遊技場、見世物興行場、競技場、運動場、球場、公會堂、集會所、停車場、驛、市場、百貨店、工場、倉庫、學校、病院、官公署、銀行、會社、神社、佛閣、墓地、火葬場、消防官署、警察官署等ノ照明燈又ハ標識燈ニシテ必要ナルモノ）	減光且遮光 但シ燈火ノ高サ一〇米以下ニ付キ一燈ニ限リ光ノ直下ニ向フ光度ヲ一〇燭光以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ	減光且遮光 但シ燈火ノ高サ一〇米以下ニ付キ一燈ニ限リ光ノ直下ニ向フ光度ヲ一〇燭光以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ	減光且遮光 但シ燈火ノ高サ一〇米以下ニ付キ一燈ニ限リ光ノ直下ニ向フ光度ヲ一〇燭光以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光ヲ認メザルコト
門燈 其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ門標燈、其ノ他ノ標識燈） 門燈、其ノ他之ニ類スル燈火（例ヘバ門標燈、其ノ他ノ標識燈）ニシテ必要ナルモノ	減光且遮光 地下遺照明燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火	減光且遮光 地表以下ニ八燭光以下トスルコト	減光且遮光 地表以下ニ八燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ街路ノ類ヲ代用スルモノニ限リ許可ヲ受ケ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
特殊屋外燈類 探照燈 其ノ他ノ燈火ニシテ前各項ニ掲ゲザルモノ 探照燈、其ノ他ノ燈火ニシテ前各項ニ掲ゲザルモノ	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ街路ノ類ヲ代用スルモノニ限リ許可ヲ受ケ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
屋外作業燈類 作業ニ必要ナル燈火（屋外ニ設ケタル燈火ニシテ作業ニ必要ナル燈火ヲ含ム） 作業ニ必要ナル燈火（屋外ニ設ケタル燈火ニシテ作業ニ必要ナル燈火ヲ含ム）	減光且遮光 作業面一平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 作業面一平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 作業面一平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ遮光ヲ條件トシテ許可ヲ受ケタル燈火ニシテ作業面ニ於ケル最大照度ヲ五〇ルクス以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
露店燈 露店燈	減光且遮光 一店ニ付一〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 一店ニ付一〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 一店ニ付一〇燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ遮光ヲ條件トシテ許可ヲ受ケタル燈火ニシテ作業面ニ於ケル最大照度ヲ五〇ルクス以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
店先燈類 店先裝飾燈 店先吊燈 店先陳列箱照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火 店先ヨリ戸外ニ向ヒ取付ケラルル燈火ニシテ店先ト戸外部ヲ區劃スルモノ	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ遮光ヲ條件トシテ許可ヲ受ケタル燈火ニシテ作業面ニ於ケル最大照度ヲ五〇ルクス以下ニ減ジ且遮光シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二號表　一般屋内燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
店先燈類 店先裝飾燈 店先吊燈 店先陳列箱照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火 店先ヨリ戸外ニ向ヒ取付ケラルル燈火ニシテ店先ト戸外部ヲ區劃スル窓ノ如キ開口部ニ設ケラルル燈火ヲ謂フ	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	減光且遮光 （イ）室ノ容積サ三平方米ニ付一〇燭光以下トスルコト （ロ）室ノ容積サ三平方米ニ付一燭光以下トスルコト	乙ノ（イ）及甲ノ場合 光源ヨリ直接又ハ反射光ガ開口部ニ向ハザルコト 乙ノ（ロ）ノ場合 光源ヨリ直接ニ射光ガ開口部ニ向ハザルコト

第三號表　一般交通關係燈ノ光ノ範圍ノ程度

種類	警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
普通家屋内燈類				
店先燈類以外ノ屋内燈				窓ノ廣サ三平方米ニ付一燈（一燈ノ光度五燭光以下ノモノニ限ル）ヲ超エザルコト
				窓ニ設ケル射光ガ開口部ノ外側一メートル以内ニ於ケル水平面上ニ向ハザルコト
道路交通信號燈類				
交通整理信號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
交通信號燈ノ其ノ他之ニ類スル燈火	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	乙ノ場合ニ於ケル光ニ同ジ
交通關係燈類				
安全地帶標識燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
停車場標識燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	乙ノ場合ニ於ケル光ニ同ジ
前照燈 註 案内燈ヲ含ム	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
尾燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
車輛標識燈類				
車輛番號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
車輛停止燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト

第四號表　鐵道軌道關係燈ノ光ノ範圍ノ程度

種類	警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
自動車燈類				
自轉車燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
方向指示器燈				
家内燈	平常ノ燈			
乘合自動車標示燈	但シ乘合自動車ノ車室内各燈ニ遮光ヲ爲スコト			
其ノ他ノ燈火				
普通車輛燈類				
手車燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
人力車燈				
荷車燈				
其ノ他之ニ類スル燈火				
携帶燈類				
個人携帶燈	平常ノ燈			
其ノ他之ニ類スル燈火				
信號合圖燈類				
場内信號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
出發信號燈				
進行信號燈				
入換信號燈				
其ノ他之ニ類スル燈火				
携帶燈類				
入換作業用携帶燈	平常ノ燈			
其ノ他之ニ類スル燈火				
列車接續内照明燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
運轉檢查燈類				
運轉檢查燈	平常ノ燈			
車輛特殊火光類				
蒸汽機關車煙火	平常ノ燈但シ發光量ニ努ムル	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	隱蔽	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
蒸汽機關車發火口	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	隱蔽	開口部ノ上方全部及側方三分ノ二以上ノ部分ニ遮光ヲ爲スコト
電氣機關車、電氣動車、無軌條電車、極力防止ニ努ムル	極力防止ニ努ムル	極力防止ニ努ムル		
銅索車等ノ火花類				
點檢燈類				
車號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
其ノ他之ニ類スル燈火	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
點檢燈類				
點檢燈	平常ノ燈			
其ノ他之ニ類スル燈火				
信號燈類				
信號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
其ノ他之ニ類スル燈火				
信號合圖燈類				
場内信號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
出發信號燈				
進行信號燈				
入換信號燈				
其ノ他之ニ類スル燈火				
携帶燈類				
入換作業用携帶燈	平常ノ燈			
其ノ他之ニ類スル燈火				
列車接續内照明燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
運轉檢查燈類				
運轉檢查燈	平常ノ燈			
車輛特殊火光類				
蒸汽機關車煙火	平常ノ燈但シ發光量ニ努ムル	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	隱蔽	地上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源及的空ニ向ハザルコト
蒸汽機關車發火口	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	減光及發光時間ノ減少ニ努ムル	隱蔽	開口部ノ上方全部及側方三分ノ二以上ノ部分ニ遮光ヲ爲スコト
電氣機關車、電氣動車、無軌條電車、極力防止ニ努ムル	極力防止ニ努ムル	極力防止ニ努ムル		
銅索車等ノ火花類				
點檢燈類				
車號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
其ノ他之ニ類スル燈火	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
點檢燈類				
點檢燈	平常ノ燈			
其ノ他之ニ類スル燈火				
信號燈類				
信號燈	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	減光シ遮光ノ設ケナキモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ノ設ケアルモノニ在リテハ光度ヲ減ジ且遮光ヲ爲スコト	消燈	光源ヨリ直接ニ開口部ニ向ハザルコト
其ノ他之ニ類スル燈火				

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
特殊照明燈類	各種詰所屋外燈、車庫屋外燈、電車注燈其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付一五燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度〇・一五ルクス以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	乗降場屋外燈、洗機室屋外燈、給炭水屋外燈其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付一三燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度〇・二ルクス以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得		
	屋內各種表示燈	平常ノ儘	減光 透視距離三〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	
	屋外各種表示燈 誘導燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離三〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	
	出札口屋外燈、改集札口屋外燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 一窓口一箇又ハ改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 一窓口一箇又ハ改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
踏切燈類	踏切警報器燈	平常ノ儘	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
	踏切表示燈 踏切注意標識照明燈	減光且遮光 五燭光以下トスルコト	減光 透視距離三〇米以下トスルコト	減光 透視距離三〇米以下トスルコト	光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト
		減光且遮光（踏切面一平方米ニ付一燭光）	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標識燈	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標識燈	

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
	踏切照明燈	八燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	標照明燈ニ代用スルモノハ誘燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得	標照明燈ニ代用スルモノハ誘燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
地下ニ敷設シタル鐵道軌道內照明燈及隧道內照明燈類	地下ニ敷設シタル鐵道軌道內燈、隧道內燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火	減光且遮光 八燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 隱蔽	

第五號表 船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
航路關係燈類	航路標識燈	別ニ指示スル所ニ依ル			
	航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光 確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
	橋梁表示燈	平常ノ儘			
船燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈 註 湖沼ニ於ケル船舶ノ船燈ヲ含ム	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ停泊燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ檣燈、舷燈及埠頭繋留船ノ停泊燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト 港內碇泊船ノ停泊燈ハ確認距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光スルコト	消燈 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點火スルコト	確認距離ノ所要ヲ充足スル限度トシテ上空ニ對シ遮光スルコト

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
船舶照明燈類	船室內照明燈	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以內、一燈二燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト
	一般船室外照明燈	減光且遮光 甲板面一〇〇平方米ニ付一三燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度〇・二ルクス以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト			
	探照燈、安全燈、其ノ他ノ火光 註 艀ノ焚火等ヲ含ム	消燈 但シ船舶又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得			
埠頭燈類	埠頭上屋倉庫屋外燈其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 面積一〇〇平方米ニ付一〇燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度〇・二ルクス以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	埠頭起重機外燈	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト			
	屋內各種表示燈	平常ノ儘	減光 透視距離三〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	
	屋外各種表示燈 誘導燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離三〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	
	出札口屋外燈、改集札口屋外燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 一窓口一箇又ハ改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 一窓口一箇又ハ改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
埠頭標識燈類	棧橋突端標識燈、岩壁突端標識燈、防波堤突端標識燈、浮棧橋標識燈、繋船信號燈、稅關監所標識燈其ノ他之ニ類スル燈火	減光且遮光 一箇所一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 確認距離五〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

第六號表 航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
航空標識燈類	航空燈臺、飛行障碍物標示燈	別ニ指示スル所ニ依ル			
飛行場燈類	着陸場照明燈、場周燈、各種信號燈、風向標示燈、雲高測定燈、障碍標示燈				
航空機燈類	室內燈、左（右）翼燈、尾燈、機首燈、旋回燈、着陸燈、照明燈、信號燈、計器燈、其ノ他之ニ類スル燈火				

第七號表 火焰其ノ他ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
熔鑛爐火焰、平爐火焰、電氣爐火焰、鑄物爐火焰、鍛燒火焰、加熱爐火焰、瓦斯骸炭製造爐火焰、窯業爐火焰	隱蔽 消光	隱蔽 消光		

火焔類	硝子製造爐火焔、亜鉛昇華爐火焔、炭燒爐火焔、熔接火焔、鍛冶火焔、溶鑛延及壓延火焔、汽罐焚口火焔、煙突火焔、其ノ他之ニ類スル火焔	漏光制限 漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付一「ルーメン」以下トスルコト	減光 漏光部ノ透視距離三〇〇米以下トスルコト	隱蔽 消光	
第一種禁制光類	煙火、焚火、野火、篝火、狼火、「ボタ」山ヨリ發スル光 註 警報ニ使用スルモノヲ除ク	消光	消光	消光	
第二種禁制光類	炭火、マツチ、ライター、煙草等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光	平常ノ儘	平常ノ儘 但シ炭火ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光スルコト	隱蔽 消光	

國有鐵道防空規則

(昭和十三年五月三日鐵道省令第二號)

第一條　國有鐵道及之ニ關聯スル國營自動車竝ニ其ノ附帶ノ業務ニ關スル防空(以下鐵道防空ト稱ス)ノ實施及訓練ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　鐵道局長、大臣官房文書課長、建設事務所長、改良事務所長及電氣事務所長(以下鐵道局長ト稱ス)ハ鐵道防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル鐵道防空計畫ヲ設定スベシ

第三條　停車場其ノ他鐵道地内ノ施設ニシテ鐵道ノ管理ニ屬セザルモノニ付鐵道局長必要アリト認ムルトキハ當該施設ニ付防空計畫ヲ設定スベキ者ニ協議ノ上之ヲ包含スル鐵道防空計畫ヲ設定スルコトヲ得

第四條　鐵道局長ハ鐵道大臣ヨリ鐵道防空ノ實施ノ開始又ハ終止ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ通知スベシ

第五條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

一　警戒警報　航空機ノ來襲ノ虞アル場合

二　警戒警報解除　航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合

三　空襲警報　航空機ノ來襲ノ危險アル場合

四　空襲警報解除　航空機ノ來襲ノ危險ナキニ至リタル場合

防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官(以下陸海軍司令官ト稱ス)又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第六條　鐵道局長前條ノ防空警報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ傳達スベシ

第七條　鐵道局長ハ豫メ防空警報ノ傳達系統ヲ定メ置クベシ

第八條　鐵道防空ノ實施上必要ナル通信ハ別ニ定ムル所ニ依リ他ノ通信ニ優先シテ之ヲ取扱フベシ

第九條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル燈火管制ハ第十二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

第十條　警戒管制又ハ空襲管制中ニ於ケル光ノ祕匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間別表ニ揭グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第十一條　前條ノ別表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ通知ニ依リ鐵道局長之ヲ定ム

前項ノ區域以外ノモノハ警戒管制ノ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前二項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　第十條ノ別表中一般屋外燈(標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク)ニシテ地方長官ノ通知ニ依リ鐵道局長ノ定ムルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ祕匿スベシ

第十三條　左ノ各號ニ揭グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ鐵道大臣又ハ鐵道局長ノ指定スル光

前項第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキハ鐵道大臣ハ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、鐵道局長ハ地方長官ニ協議スベシ

第十四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　重大ナル事故發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ

三　其ノ他緊急ノ必要アルトキ

前項第二號ノ事由ニ因リ光ヲ使用シタルトキハ遲滯ナク陸海軍司令官及所轄警察署長ニ通報スベシ但シ空襲管制中ニ在リテハ豫メ協定シタル事項ヲ除クノ外陸海軍司令官ニ協議スベシ

第一項第三號ノ事由ニ因リ光ヲ使用スルトキハ所轄警察署長ニ協議スベシ

第十五條　第十條ノ別表中ニ於ケル協議ハ鐵道局長ニ於テ地方長官ト之ヲ爲スベシ

第十六條　鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル消防、防毒、避難及救護其ノ他鐵道防空上必要ナル事項ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十七條　鐵道局長ハ其ノ鐵道防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ鐵道防空ノ訓練ヲ爲スコトヲ得

第十八條　鐵道防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル訓練防空警報ハ鐵道局長之ヲ發ス

前項ノ訓練防空警報ハ第五條ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

内務大臣ノ指定スル者又ハ陸海軍司令官若ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報ト爲スコトヲ妨ゲズ

第十九條　鐵道防空ノ訓練ニ關シテハ第六條、第八條、第九條、第十條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル光ノ祕匿ガ第十條ノ別表ニ依リ難キモノニ關シテハ別ニ定ムル程度ニ依ルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十三年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

其ノ二（二階尾内地）

番號	分類	管制種別		管制事項	記事
		甲	乙		
1	燈火管制				
2	燈火管制				
3	燈火管制				
4	燈火管制				
5	燈火管制				
6	燈火管制				
7	燈火管制				
8	燈火管制				
9	燈火管制				
10	燈火管制				
11	燈火管制				

其ノ四（二階有線通話装置）

番號	分類	管制種別		管制事項	記事
		甲	乙		
12	燈火管制				
13	燈火管制				
14	燈火管制				
15	燈火管制				
16	燈火管制				
17	燈火管制				
18	燈火管制				
19	燈火管制				
20	燈火管制				
21	燈火管制				

番號	分類 種類	分類 細別	管制程度 警戒管制 乙	管制程度 警戒管制 甲	管制程度 空襲管制	管制程度 遮光條件	記事
22	[illegible]類	出札口屋外燈 改札口屋外燈	窓口一個又ハ一改札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	窓口一個又ハ一改札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下ニ減光シ且遮光		燈ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
		[illegible]屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火	構内面積一〇〇平方米ニ付一・五燭光以内、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ルモノハ構内面積ニ於ケル最大照度〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光			
		[illegible] 其ノ他之ニ類スル燈火	構内面積一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ迅速ニ消燈シ得ルモノハ構内面積ニ於ケル最大照度〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光			
		驛外各種表示燈 驛外時計照明燈	消燈又ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光	消燈又ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光		
23	[illegible]	[illegible]	平常ノ儘	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	
		[illegible]	五燭光以下ニ減光シ且遮光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト	
		[illegible]	[illegible]一〇〇平方米ニ付八燭光以内、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ必要ニ應ジ[illegible]ハ該燈ヲ以テ代用スルモ制限内ニ於テ點燈スルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ[illegible]ハ該燈ヲ以テ代用スルモ制限内ニ於テ點燈スルコトヲ得	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
24	[illegible]	[illegible] 其ノ他ニシテ地表ニ發光スル燈火	八燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ點燈スルコトヲ得	消燈又ハ隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	

其ノ五（船舶關係燈）

番號	分類 種類	分類 細別	管制程度 警戒管制 乙	管制程度 警戒管制 甲	管制程度 空襲管制	管制程度 遮光條件	記事
25	航路關係燈	航路標識燈	別ニ指示スル所ニ依ル	別ニ指示スル所ニ依ル			
		航路標識燈ニ類スル燈火	透視距離一〇〇〇米以下ニ減光シ且遮光	透視距離一〇〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	
		[illegible]表示燈	平常ノ儘				
26	船燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光 但シ碇泊燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光 但シ碇泊燈、[illegible]燈及[illegible]ハ消燈 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト 港内碇泊船ノ舷燈ハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	[illegible]所要ノ[illegible]ヲ充足スル限度トシテ上空ニ對シ遮光スルコト	[illegible]ニ於[illegible]ケル船舶ノ船燈ヲ含ム
27	船舶照明燈類	船室內照明燈	消燈、隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈、隱蔽又ハ室ノ廣サ三平方米ニ付一〇・五燭光以內、一燈二燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト	
		一般船室外照明燈	甲板面積一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ルモノハ[illegible]ニ於ケル最大照度〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ點燈スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
		起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下ニ減光シ且遮光				
		探照燈 安全燈 其ノ他ノ火光	消燈 但シ船舶又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得	消燈 但シ船舶又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得	消燈 但シ船舶又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得		[illegible]ノ火等ヲ含ム
28	埠頭燈類	埠頭上屋、倉庫外燈 其ノ他之ニ類スル燈	埠頭面積一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ルモノハ[illegible]ニ於ケル最大照度〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ點燈スルコトヲ得	消燈又ハ隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
		埠頭起重機外燈	一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下ニ減光シ且遮光				
		構内各種表示燈	平常ノ儘	透視距離三〇〇米以下ニ減光	消燈又ハ隱蔽		
		驛外各種表示燈 驛外時計照明燈	消燈 但シ該燈ノ上透視距離五〇〇米以下ニ減光シテ點燈スルコトヲ得	消燈 但シ該燈ノ上透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ點燈スルコトヲ得	消燈		
		[illegible]	透視距離五〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光	透視距離三〇〇米以下ニ減光		
		出札口屋外燈 改札口屋外燈	窓口一個又ハ一改札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	窓口一個又ハ一改札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下ニ減光シ且遮光	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
29	[illegible]	[illegible] 其ノ他之ニ類スル燈	一箇所一燈トシ五燭光以下ニ減光シ且遮光	透視距離五〇〇米以下ニ減光シ且遮光	消燈又ハ隱蔽	乙ノ場合ハ光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合ハ地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ指示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

其ノ六（航空關係燈）

番號	分類 種類	分類 細別	管制程度 警戒管制 乙	管制程度 警戒管制 甲	管制程度 空襲管制	管制程度 遮光條件	記事
30	航空機燈類	室內燈 左（右）翼燈 尾燈 編隊燈 [illegible]燈 着陸燈 照明燈 信號燈 計器燈 其ノ他之ニ類スル燈火	別ニ指示スル所ニ依ル	別ニ指示スル所ニ依ル	別ニ指示スル所ニ依ル	別ニ指示スル所ニ依ル	

其ノ七（火焰其ノ他ノ光）

番號	分類 種類	分類 細別	管制程度 警戒管制 乙	管制程度 警戒管制 甲	管制程度 空襲管制	管制程度 遮光條件	記事
31	火焰類	電氣熔火焰 鑄物爐火焰 熔接火焰 加熱爐火焰 熔鑛爐火焰 鍛冶火焰 燒毛及焦毛火焰 汽罐焚口火焰 煙突火焰 鬼灰火焰 其ノ他之ニ類スル火焰	隱蔽、消光又ハ漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付一〇「ルーメン」以下ニ減光	隱蔽、消光又ハ漏光部ノ透視距離三〇〇米以下ニ減光	隱蔽又ハ消光		
32	第一種發光類	焚火、篝火、狼火等ヨリ發スル光	消光	消光	消光		警報ニ使用スルモノヲ除ク
33	第二種發光類	焚火、マッチ等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光	平常ノ儘	平常ノ儘 但シ焚火ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光スルコト	隱蔽又ハ消光		

訓練防空警報規則

（昭和十三年四月五日 內務省令第十二號）

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ハ防空警報ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度內務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空通信規則

（昭和十三年八月三日 朝鮮總督府令第百五十四號）

第一條 防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ防空通信ト稱スルハ戰事又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官

公署及此等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發受スルモノヲ謂フ

第三條　防空通信ハ左ノ三種トス

一　警　報　防空警報ヲ防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信

二　情　報　防空監視ノ事務ニ從事スル者ヨリ航空機ノ行動ヲ報告スル通信

三　指揮連絡報　防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置、報告等ニシテ緊急ヲ要スル通信

第四條　警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ情報ハ警報ニ次グ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

指揮連絡報ハ至急官報又ハ至急通話ト同一順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

第五條　防空通信ハ電信又ハ電話ノ取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第六條　電話官署ニ於テ警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ

第七條　防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ズベシ

第八條　防空通信ハ無料トス

朝鮮總督府遞信局長必要アリト認ムルトキハ防空通信ノ爲必要ナル電話ニ關スル料金ハ之ヲ特定シ又ハ免除スルコトアルベシ

第九條　公衆通信ヲ取扱ハザル私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ヲシテ防空通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ朝鮮總督府遞信局長其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

第十條　防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ハ其ノ專用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベシ但シ人命財產ノ安全ニ關シ緊急ヲ要スル專用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ハ其ノ通信執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベシ

第十二條　電信法第二條第四號、無線電信法第二條第三號、官廳用電信電話規則第四條第一號又ハ官廳用無線電信無線電話規則第三條ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ官廳用及私設ノ電信電話及無線電信ノ電話ニ依ル公衆通信取扱規則第三條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三條　私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空通信ニ對シテハ官廳用及私設ノ電信電話及無線電信電話ニ依ル公衆通信取扱規則第四條ノ規定ニ依ル取扱料ヲ支給セズ

第十四條　朝鮮總督ハ防空通信上必要アリト認ムルトキハ私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ設備ノ變更又ハ使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條　防空通信ニ關シテハ本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第十六條　防空ノ訓練ニ際シ朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本令ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年八月十五日ヨリ施行ス

樺太燈火管制規則

（昭和十三年八月十七日　樺太廳令第六十八號）

第一條　燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラレタル迄ノ間ハ之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條　警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ揭グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條　第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第五條　左ノ各號ニ揭グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ內部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ樺太廳長官ノ指定スル光

第六條　左ニ揭グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命、救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條　第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ樺太廳長官ノ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條　第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隱蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第九條　第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ揭グル條件ニ依リ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條　第一號表、第二號表、第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ光源ニ對シ第四號表及第五號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十一條　左ニ揭グル事項ハ陸海軍司令官ニ協議シテ之ヲ行フ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ

二　第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三　第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

四　空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（表省略）

樺太訓練防空警報規則

（昭和十三年八月七日　樺太廳令第六十五號）

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ハ防空警報ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警報解除ト訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度樺太廳長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官廳防空計畫ヲ設定スル官廳指定

（昭和十三年三月十一日 關東局告示第八號）

官廳防空規則第二條ノ規定ニ依リ左ノ官廳ヲ官廳防空計畫ヲ設定スル官廳トシテ指定ス

關東遞信官署遞信局長
關東專務局長

防毒資材取締規則

（昭和十三年五月二日 內務厚生省令第一號）

第一條　本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ

防毒具ハ左ノ二種トス

第一種　防毒面（酸素呼吸器ヲ含ム以下之ニ同ジ）、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾筒竝ニ防毒面用ノ覆面、呼氣辨及吸收罐

第二種　其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具及防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸收罐又ハ防毒濾筒ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知ノ效能アリトスル藥物及防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修覆ニ使用スル物ニシテ內務大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第二條　本令ハ販賣ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

第三條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ揭グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及業務所所在地
二　製造所ノ名稱及所在地
三　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能
四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要竝ニ一年ノ製造能力
五　主任技術者ノ氏名及履歷
六　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添附スル性能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ屆出ヅベシ

第四條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造ニ從事スル者ハ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及業務所所在地
二　製造所ノ名稱及所在地
三　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能
四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要竝ニ一年ノ製造能力

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ屆出ヅベシ

第五條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第一號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

第六條　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及營業所所在地

二　製

三　第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型式、構造及性能

四　防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及效能（製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分量竝ニ製造方法ノ概要ヲ併記スルコト）

五　防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質及性能

六　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ニ添附スル性能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ地方長官ニ屆出ヅベシ

第七條　第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣スル第二種防毒具ニ在リテハ其ノ型式及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物ノ容器又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒具材料ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒具材料ノ容器又ハ被包ニ防毒具材料ナル文字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

第八條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所每ニ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

第九條　第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具若ハ第四條若ハ第七條ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標識ナキ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所每ニ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

第十一條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業ヲ爲サントスル者ハ營業所每ニ營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第十二條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業者ハ其ノ修覆シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第二號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ハ之ヲ修覆シタルモノトシテ交付スルコトヲ得ズ

第十三條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業者ハ營業所ニ於テ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者ハ其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十五條　第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十六條　第三條第一項、第四條、第五條第一項又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

第十七條　第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條第二項、第四條、第六條第二項、第七條乃至第九條、第十一條又ハ第十二條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査

ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者
三　第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十九條　第三條第三項、第六條第三項又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲ス者ハ本令施行後一月以內ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ存スル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ本令施行後一年間第九條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別表

防毒面吸收罐及防毒濾毒罐類	性能標識	
	標識色	標識記號
普通瓦斯用	灰色及黑色	イ
酸性瓦斯用	灰色	ロ
有機瓦斯用	黑色	ハ
粉塵用	白色	ホ
一酸化炭素用	紅色	ヘ
消臭防煙氣用	白色及紅色	ト
金屬煙用	白色及黑色	チ
アンモニア用	綠色	リ
亞硫酸及硫黃用	橙色	ヌ
青酸用	青色	ル
硫化水素用	黃色	ヲ
燐化水素及砒化水素用	藍色	ワ
各種瓦斯及煙霧用	暗赤色	カ
防空用	褐色	ヨ

備考

一　標識色ハ外部全面一樣ニ塗色シ二色ノ場合ハ上下二層ニ塗色スルコト

二　標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白色ナルトキハ黑字ヲ以テ表スコト

第一號樣式

第二號樣式

防毒資材取締規則ノ檢定ハ當分ノ內陸軍科學研究所ニ於テ行フノ件

（昭和十三年六月一日　內務省告示第二百九十一號）

防毒資材取締規則第五條及第十二條ノ檢定ハ當分ノ內陸軍科學研究所之ヲ行フモノトス

昭和十三年人造石油製造事業奬勵金ノ額

（昭和十三年八月二十六日　商工省告示第二百五十號）

人造石油製造事業法施行令第九條ノ規定ニ依リ昭和十三年人造石油製造事業奬勵金ノ額左ノ通定ム

低溫乾溜法ニ依リ製造シタル人造石油

第一種人造石油　一キロリツトルニ付　四十三圓八十八錢

第二種人造石油　一キロリツトルニ付　十七圓二十六錢

人造石油製造事業法施行規則

（昭和十三年一月二十五日　樺太廳令第九號）

第一條　人造石油製造事業法第二條ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　工場ノ名稱及位置

二　製造設備及製造能力

三　主要製品ノ種類

人造石油製造事業法施行令第一條第二項ノ規定ニ依リ第二條及第三條ノ許可ヲ受ケタル會社ハ前項第二號及第三號ニ揭グル事項ニ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第二條　前條ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　事業開始ノ豫定時期ヲ記載シタル書類

二　製造工程ヲ記載シタル書類

三　人造石油製造事業法施行令第一條第二項ノ規定ニ該當スル事業ヲ營ム場合ニ於テハ前項第二號及第三號ニ揭グル事項ハ其ノ事業ニ付之ヲ區別シテ記載スベシ

第二條　前條ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　事業開始ノ豫定時期ヲ記載シタル書類

二　製造工程ヲ記載シタル書類

三　人造石油製造事業法施行令第一條第二項ノ規定ニ該當スル事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ事業ニ付之ヲ區別シテ記載スベシ

一　工事費豫算書

二　主要設備ノ概要ヲ記載シタル書類

三　原料ノ使用數量及其ノ取得方法ヲ記載シタル書類

四　製造設備及主要附屬設備ノ設計ノ概要ヲ記載シタル書類（設計圖ヲ添附スベシ）

五　工事費豫算書

六　事業資金ノ總額及其ノ調達方法ヲ記載シタル書類

七　事業收支目論見書

八　製造及販賣ノ豫定計畫書

九　事業收支ノ豫定計畫ニ關スル書類

十　定款、登記簿ノ謄本、財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿

十一　人造石油製造事業法第三條第一項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類

第二項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載スベシ

第三條　第一條第一項各號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第四條　人造石油製造會社其ノ事業ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第五條　人造石油製造事業法第六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスル會社ハ樺太所得稅令第二十八條又ハ樺太營業收益稅規則第十九條ノ規定ニ依リ所得又ハ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第六條　人造石油製造事業法施行令第五條ノ物品ハ左ニ揭グルモノトス

一　撰炭機、粉碎機、担和機及煉炭機竝ニ其ノ附屬裝置

二　コークス爐（低溫乾溜爐ヲ含ム）及瓦斯發生爐ノ構成金物竝ニ之ト一組トシテ輸入セラルル耐火材料

三　硫安回收裝置及ベンゾール回收裝置竝ニ其ノ附屬機械
四　瓦斯清淨裝置、瓦斯調製裝置及瓦斯變換裝置竝ニ其ノ附屬機械
五　壓縮機、送風機、壓送機及ポンプ竝ニ其ノ附屬裝置
六　水素添加用ノ高壓器具及高壓機械竝ニ其ノ附屬裝置
七　合成爐及其ノ附屬裝置
八　觸媒竝ニ其ノ製造ニ直接必要ナル原料及材料
九　觸媒ノ製造ニ必要ナル器具及機械
十　吸收裝置及其ノ附屬機械
十一　吸收劑竝ニ其ノ製造ニ必要ナル器具及機械
十二　石油又ハタール分解裝置及瓦斯重合裝置竝ニ其ノ附屬機械
十三　石油又ハタール精製裝置及其ノ附屬機械
十四　前各號ニ掲グル機械又ハ裝置ノ部分品竝ニ其ノ機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置

第七條　人造石油製造事業法第八條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　輸入セントスル物品ノ品名、型式、能力、性質、數量及價額
二　輸入セントスル物品ノ用途及之ヲ使用スベキ工場其ノ他ノ設備ノ說明
三　輸入ヲ必要トスル事由
四　製造者及輸出者
五　輸入豫定ノ時期及港

第八條　人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ輸入ヲ爲シタル會社ハ輸入後遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル屆出書ニ輸入認可書寫ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　輸入シタル物品ノ品名、數量及用途
二　輸入ノ年月日及港

第九條　人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ目的タル用途ニ供セザルニ至リタルトキハ遲滯ナク其ノ事由竝ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ヲ記載シタル屆出書ニ輸入認可書寫ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十條　人造石油製造事業法施行令第七條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ニ輸入認可書寫ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　用途ヲ變更セントスル物品ノ品名、數量及用途
二　變更セントスル用途及當該物品ヲ使用スベキ工場其ノ他ノ設備ノ說明
三　用途ノ變更ヲ必要トスル事由
四　輸入ノ年月日及港

第十一條　人造石油製造事業法施行令第九條第一項ノ人造石油ハ左ニ掲グルモノトス

一　第一種人造石油　日本標準規格第百七十四號石油製品試驗方法第六條分溜試驗ニ依ル九十五パーセント溜出溫度攝氏二百二十五度以下ノ人造石油
二　第二種人造石油　第一種人造石油以外ノ製品タル人造石油

人造石油製造事業法施行令第九條第二項ノ獎勵金ノ額ハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第十二條　人造石油製造事業法施行令第九條第二項ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル會社ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十三條　人造石油製造事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル又ハ受ケントスル會社ハ原料及材料ノ取得及使用、製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

第十四條　人造石油製造事業法第十一條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　增加スベキ資本ノ總額及第一回拂込ノ金額
二　資本增加ノ方法
三　資本增加ヲ必要トスル事由

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　事業擴張ニ關スル說明書
二　增加スベキ資本ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
三　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄ノ謄本
四　會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
五　最終ノ貸借對照表

第十五條　人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　社債ノ總額
二　社債ノ利率
三　社債募集ヲ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ第一項各號ニ掲グル事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記スベシ

第十六條　前條ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
二　社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄ノ謄本
三　會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
四　最終ノ貸借對照表
五　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本
六　信託證書案
七　工場抵當法ニ依リ抵當トナスベキ物件ノ目錄
八　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最後ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

前條第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ前條ノ認可申請書ニ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類竝ニ社債發行ノ條件及社債募集ノ方法ニ關スル說明書ヲ添附スベシ

第十七條　人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

勵金ノ交付ヲ受ケントスル會社ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十三條　人造石油製造事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル又ハ受ケントスル會社ハ原料及材料ノ取得及使用、製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

第十四條　人造石油製造事業法第十一條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　增加スベキ資本ノ總額及第一回拂込ノ金額
二　資本增加ノ方法
三　資本增加ヲ必要トスル事由

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　事業擴張ニ關スル說明書
二　增加スベキ資本ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
三　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄ノ謄本
四　會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
五　最終ノ貸借對照表

第十五條　人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　社債ノ總額
二　社債ノ利率
三　社債募集ヲ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ第一項各號ニ掲グル事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記スベシ

第十六條　前條ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
二　社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄ノ謄本
三　會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
四　最終ノ貸借對照表
五　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本
六　信託證書案
七　工場抵當法ニ依リ抵當トナスベキ物件ノ目錄
八　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最後ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

前條第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ前條ノ認可申請書ニ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類竝ニ社債發行ノ條件及社債募集ノ方法ニ關スル說明書ヲ添附スベシ

第十七條　人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第十八條　人造石油製造會社ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十九條　人造石油製造會社ノ事業計畫認可申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　事業計畫ノ概要
二　設備ノ擴張又ハ變更計畫
三　操業計畫ノ概要
四　販賣計畫
五　製造數量及販賣數量竝ニ年始及年末在庫數量
六　原料ノ取得計畫
七　原料ノ使用數量竝ニ年始及年末在庫數量
八　收支豫算

第二十條　人造石油製造事業法第十四條第一項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ讓渡ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　讓渡スベキ事業ノ範圍
二　讓渡ノ價格及時期
三　讓渡ヲ必要トスル事由

讓渡スベキ事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ許可申請書ニ讓受ケントスル會社連署スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　讓渡契約ヲ證スル書類
二　讓渡價格算定ノ基礎ヲ明ニスル書類
三　讓渡スベキ事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ讓受ケントスル會社ニ付第二條各號ニ揭グル書類

第二十一條　人造石油製造事業ノ讓渡終了シタルトキハ讓渡シタル會社ハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

讓渡シタル事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ屆出書ニ讓受ケタル會社連署スベシ

第二十二條　人造石油製造會社其ノ事業ノ廢止又ハ三月以上ノ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及休止ノ期間ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

人造石油製造會社三月未滿ノ事業ノ休止ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

人造石油製造會社休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第二十三條　人造石油製造事業法第十四條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ニ當事者タル會社連署ノ上之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一　合併ノ方法及條件
二　合併ノ時期
三　合併ヲ必要トスル事由
四　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一項各號ニ揭グル事項

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併契約ヲ證スル書類
二　合併條件決定ノ基礎ヲ明ニスル書類
三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第二條第一號乃至第九號及第十二號ニ揭グル書類竝ニ定款
四　合併ノ當事者タル會社ノ商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル財產目錄及貸借對照表
五　合併ノ相手方ガ人造石油製造會社ニ非ザル會社ナルトキハ其ノ定款、登記簿ノ謄本、財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿

第二十四條　人造石油製造會社ノ合併終了シタルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　登記簿ノ謄本
二　株主名簿
三　人造石油製造事業法第三條第一項第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類

第二十五條　人造石油製造事業法第十四條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ解散ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル認可申請書ニ解散ニ關スル株主總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第二十六條　人造石油製造會社ハ毎年二月末日迄ニ其ノ前年ノ營業ノ概況、作業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ記載シタル事業年報ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第二十七條　人造石油製造會社ハ營業期每ニ株主總會終結後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第二十八條　人造石油製造會社ハ毎月十五日迄ニ其ノ前月ノ原料使用數量竝ニ製品ノ種類、製造數量、販賣數量及月末在庫數量ヲ記載シタル事業月報ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

人造石油製造會社ハ前項ノ事業月報ノ提出ト同時ニ人造石油製造事業法第三條第一項第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類ヲ提出スベシ

第二十九條　人造石油製造事業法第十五條第三項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ人造石油製造事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ニシテ石炭低溫乾餾補助金交付規則第二條ノ規定ニ依リ事業計畫書ヲ提出シタル者ハ人造石油製造事業法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

別記樣式

表面

第　　號　　年　月　日交付

人造石油製造事業法第十五條第三項ノ證票

官職　　氏　　名

樺太廳印

裏面

縱九一粍　橫六四粍

人造石油製造事業法摘要

第十五條第三項　政府ハ監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ本店、營業所、工場、貯藏所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ攜帶セシムベシ

第二十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二　第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

附則第二項　本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

附則第三項　第十五條第一項第三項、第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

産金法第十二條ノ規定ニ基ク命令ノ件

（昭和十三年五月二十六日大蔵省令第二十九號）

第一條　大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ別ニ定ムルモノノ外事項及人ヲ指定シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分及保有ニ關シ報告ヲ徴スルコトヲ得

第二條　大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者ノ申請ニ基キ其ノ報告ヲ免除シ又ハ報告期限ヲ延長スルコトヲ得

第三條　大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ部下ノ官吏ヲシテ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分及保有ニ關シ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産金法ニ依リ政府ニ賣却スヘキ金地金ノ買上價格

（昭和十三年五月二日大藏省告示第百二十一號）

產金法第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ賣却スベキ金地金ノ買上價格產金法施行令第五條ノ規定ニ依リ左ノ通定メ昭和十三年五月二日ヨリ之ヲ施行ス

純金ノ量目一グラムニ付　三圓八十五錢

昭和十二年八月大藏省告示第二百十九號ハ本日ヨリ之ヲ廢止ス

（參照）

昭和十二年八月二十五日大藏省告示第二百十九號ハ本同件ナリ

金使用規則改正

（昭和十三年八月二十日大藏省令第五十一號）

第一條　金ヲ用ヒタル製品（金ヲ含ム合金、金鍍、金張地金、金箔、金粉、金絲、金鍍金液及金化合物竝ニ此等ヲ用ヒタル製品ヲ含ム以下同ジ）ハ當分ノ內之ヲ製造スルコトヲ得ザルモノ但シ醫療用トシテ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所、電話番號、職業及氏名又ハ商號

二　製品ノ種類、數量及價額

三　材料トシテ金地金（金ヲ含ム合金、金鍍金液及金化合物ヲ含ム以下同ジ）ヲ使用スル場合ハ其ノ金ノ品位及純量

四　材料トシテ金張地金、金箔、金絲、金粉、金液、金鍍金液又ハ金化合物ヲ使用スル場合ハ其ノ數量、種類及價額竝ニ含有スル金ノ純量

五　第三號又ハ前號ノ材料タル金ノ調達方法（買入ルル場合ハ其ノ買入先ノ住所及氏名又ハ商號）

六　製造ノ期間

七　製造ヲ必要トスル事由

八　申請ノ時ニ於ケル同種製品ノ手許保有高

九　製品ヲ輸出スルモノナルトキハ其ノ輸出先竝ニ最近一年間ノ輸出先別輸出實績

十　從業員ノ員數、製造能力等營業ノ規模ヲ知ルニ足ル資料其ノ他參考トナルベキ事項

第三條　當分ノ內物ノ加工又ハ修繕ノ爲ニ金ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ醫療用トシテ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前條ノ規定ハ前項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ニ之ヲ準用ス

第四條　店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ營マ

ントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆出書正副二通ヲ大藏大臣ニ提出スベシ店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ承繼セントスル者亦同ジ

一　屆出者ノ住所、電話番號、職業及氏名又ハ商號

二　會社ニ在リテハ其ノ資本金及代表者ノ氏名

三　店舗ノ所在地

前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ハ前項各號ニ揭グル事項ニ付變更ヲ生ジタルトキ又ハ其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ記載シタル屆出書正副二通ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第五條　店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ營ム者ハ帳簿ヲ備ヘ日日ノ金地金ノ取得、處分及保有ニ關スル一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スベシ

第六條　店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ營ム者ハ各月ノ金地金ノ取得、處分及保有ノ狀況ヲ附屬書式ニ依リ記載シタル報告書正副二通ヲ翌月十日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

第七條　金地金ノ販賣業ヲ營ム者（店舗ヲ設ケザル者ヲ含ム）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ノ外ハ金地金ヲ讓渡スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　政府ニ賣却スルトキ

二　店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ營ム者ニ讓渡スルトキ

三　醫療用トシテ必要ト認ムル場合ニ於テ必要ト認ムル限度ニ於テ金地金ヲ讓渡シタルトキ

四　金使用許可證ノ呈示ヲ受ケタルトキ

前項第四號ノ規定ニ依リ金使用許可證ノ呈示ヲ受ケ金地金ヲ讓渡シタル者ハ其ノ讓渡年月日、種類、數量、金使用許可證ノ番號及氏名又ハ商號ヲ裏書スベシ

第八條　大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ金ヲ用ヒタル製品ヲ製造スル者ニ對シ金ノ使用量又ハ其ノ製品ノ種類若ハ數量ヲ制限スルコトヲ得

大藏大臣ハ金ノ使用制限ニ付必要アリト認ムルトキハ金地金ノ賣買ニ關シ價格、數量又ハ取引ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

附　則

第九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　第一條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ店舗ヲ設ケ金地金ノ販賣業ヲ營ム者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆出書正副二通ヲ本令施行ノ日ヨリ三週間內ニ大藏大臣ニ提出スベシ

一　屆出者ノ住所、電話番號、職業及氏名又ハ商號

二　會社ニ在リテハ其ノ資本金及代表者ノ氏名

三　醫療用トシテ必要ト認ムル得ザルモノノ製造ニ使用スルモノナルコトヲ確認シタルトキ

四　金使用許可證ノ呈示ヲ受ケタルトキ

前項第四號ノ規定ニ依リ金使用許可證ノ呈示ヲ受ケ金地金ヲ讓渡シタル者ハ其ノ讓渡年月日、種類、數量、金使用許可證ノ番號及氏名又ハ商號ヲ裏書スベシ

三　店舗ノ所在地

四　最近一年間ノ金地金ノ賣買實績

前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ハ第四條ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ト看做ス

(丙)賣却分

昭和　年　月分

住所
電話番號
氏名又ハ商號

種類	引渡日	數量	價額	賣却先 氏名又ハ商號	賣却先 職業	賣却先 住所	賣却先ノ買入目的	備考
		瓦	圓					
計								

注意 1 一取引毎ニ記載スベシ
2 賣却先ノ買入目的ハ例ヘバ歯科用又ハ ノズル、裝身具、金ベン、金箔、金粉、金流、金鍍金液若ハ金化合物ノ製造等ニ區分シ記載スベシ
3 賣却先ノ住所ハ道府縣市町村ノ外番地等ヲ詳細ニ記載スベシ
4 其ノ他(甲)ノ注意ニ準ズ

(丁)使用分

昭和　年　月分

住所
電話番號
氏名又ハ商號

種類	數量	使用ノ目的	備考
	瓦		
計			

注意 1 使用ノ目的欄ニハ例ヘバ合金、ノズル等製品別ニ區分シ記載スベシ
2 其ノ他(甲)ノ注意ニ準ズ

附屬書式

金使用規則第六條ニ基ク報告書

大藏大臣宛

(甲)總括分

提出年月日

昭和　年　月分

住所
電話番號
氏名又ハ商號㊞

種類	前月繰越高	當月中買入高	當月中仕上高	當月中賣却高	當月中使用高	月末現在高	備考
	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	
純金							
金ヲ含ム合金及金鍍							
……							
……							
……							
小計							
潰金							
計							

注意 1 種類欄ニハ純金、金ヲ含ム合金、金鍍及潰金ニ區分シ金ヲ含ム合金及金鍍ハ更ニ品位別ニ區分シテ記載スベシ
2 數量ハ純金ノ量目ヲ瓦ヲ以テ記載スベシ
3 合金ノ精工場ニ發出シタルトキハ當月中使用高欄ニ內書シ、仕上リタルトキハ當該品位相當術ノ仕上高欄ニ記載スベシ
4 精製(分析)ノ爲工場ニ搬出シタル潰金ニ付テハ3ニ準ジ記載スベシ
5 月末現在ニ於テ分析中又ハ合金中ノモノハ夫々分析中又ハ合金中トシテ欄外ニ其ノ純金量ヲ附記スベシ
6 支店アルトキハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
7 切目、目減其ノ他賣買使用以外ノ事由ニ依ル增減アリタルトキハ其ノ數量及事由ヲ附記スベシ
8 用紙ノ大イサハ日本標準規格A4(210粍×297粍)トス

(乙)買入分

昭和　年　月分

住所
電話番號
氏名又ハ商號

種類	受取日	數量	價額	買入先 氏名又ハ商號	買入先 職業	買入先 住所	備考
		瓦	圓				
計							

注意 1 一取引百圓未滿ノモノハ一括シテ取引數、數量及價額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
2 買入先ノ住所ハ道府縣及市町村ヲ記載スルヲ以テ足ル
3 受取日欄ニハ現物ノ引渡ヲ受ケタル日ヲ記載スベシ
4 其ノ他(甲)ノ注意ニ準ズ

産金買上規則中改正

（昭和十三年五月九日大蔵省令第二十五號）

附則第二項ヲ削ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年八月二十四日大蔵省令第三十二號産金買上規則改正

附則第二項

本令ニ依リ金地金ヲ買収スル者ハ金地金ノ買上代金ノ支拂ヲ受クル政府債分ノ内其ノ買上價額ノ一萬分ノ五ニ相當スル金額ヲ政府ニ支拂フベシ

産金奨勵規則第二十條ノ規定ニ依リ貸與スベキ鑿岩用機械器具類

（昭和十三年八月十二日商工省告示第二百三十七號）

産金奨勵規則第二十條ノ規定ニ依リ貸與スベキ鑿岩用機械器具類左ノ通定メ昭和十三年八月商工省告示第十號ハ之ヲ廢止ス

一　空氣鑿岩機類

空氣鑿岩機

インガーソルランド　ドリフター　L—七四型　金城鑿岩機製造株式會社製　九五臺

インガーソルランド　ジャヲクハンマー　S—四九型　金城鑿岩機製造株式會社製　一四五臺

空氣壓縮機

横型單氣筒水冷式　株式會社本多機械製作所製　五〇臺

サクシヨン瓦斯機關製作所製　四〇臺

株式會社日立製作所製　四〇臺

三相誘導電動機

四〇馬力艦縦型　株式會社日立製作所製　五〇臺

株式會社中島電機製作所製　四〇臺

ヂーゼル機關

五〇馬力竪型　山岡内燃機株式會社製　四〇臺

二　電氣鑿岩機類

電氣鑿岩機

中山式N—三二型　株式會社中山工業所製　五〇臺

發電機

五K·V·A勵磁器直結型　株式會社中山工業所製　二〇臺

ヂーゼル機關

一〇馬力横型　山岡内燃機株式會社製　二〇臺

三　鑿岩機用鋭

八分ノ七吋六角中空鋼六呎セット　一、五〇〇組

（參照）

昭和十二年一月二十日大蔵省告示第十號ハ本號ト同件ナリ

金銀地金精製及品位證明規則中改正ノ件

（昭和十三年五月九日勅令第三百二十六號）

第七條及第九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ主務大臣ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

明治二十年五月四日勅令第百三十九號金銀地金精製各品位證明規則抄錄

第七條　輸納シタル地金試驗ノ後精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ返付ヲ要スルトキハ手數料ヲ徴ス

第九條　輸納地金ノ精製又ハ品位證明ヲ爲シタルトキハ手數料ヲ徴ス

政府ニ賣却スベキ金地金ニ關スル試驗手數料等

（昭和十三年五月九日大蔵省告示第百三十五號）

政府ニ賣却スベキ金地金ニ關スル試驗手數

料、品位證明手數料及精製手數料ハ大正十五年月十一大蔵省告示第百五十七號ニ拘ラズ當分ノ内左ノ通定メ昭和十三年五月九日ヨリ之ヲ施行ス

一、精製又ハ品位證明ヲ爲サズシテ輸納地金ヲ返付スル場合ニ於ケル試驗手數料

地金ヲ鎔解シタル場合

金銀混合地金及金地金　全量十五瓩又ハ其ノ端數毎ニ　金一圓五十錢

地金ヲ鎔解セザル場合

金地金　一箇ニ付　金五十錢

輸納地金ニシテ含有スル金ノ純量一口ニ付五十瓦以下ノモノニ關シテハ試驗手數料ヲ徴收セズ

二、品位證明手數料

地金ヲ鎔解シタル場合　全量十五瓩又ハ其ノ端數毎ニ　金二圓

地金ヲ鎔解セザル場合　一證明ニ付　金七十五錢

輸納地金ニシテ含有スル金ノ純量一口ニ付五十瓦以下ノモノニ關シテハ品位證明手數料ヲ徴收セズ

三、精製手數料

一千分中金銀九百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金四十五錢
一千分中金銀九百以上	純金三百七十五グラムニ付	金五十錢
一千分中金銀八百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金五十五錢
一千分中金銀八百以上	純金三百七十五グラムニ付	金六十錢
一千分中金銀七百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金七十錢
一千分中金銀七百以上	純金三百七十五グラムニ付	金八十錢
一千分中金銀六百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金一圓
一千分中金銀六百以上	純金三百七十五グラムニ付	金一圓二十錢
一千分中金銀五百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金一圓四十錢
一千分中金銀五百以上	純金三百七十五グラムニ付	金一圓六十錢
一千分中金銀四百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金一圓八十錢
一千分中金銀四百以上	純金三百七十五グラムニ付	金二圓
一千分中金銀三百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金二圓二十錢
一千分中金銀三百以上	純金三百七十五グラムニ付	金二圓四十錢
一千分中金銀二百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金二圓六十錢
一千分中金銀二百以上	純金三百七十五グラムニ付	金二圓八十錢
一千分中金銀百五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金三圓
一千分中金銀百以上	純金三百七十五グラムニ付	金三圓二十錢
一千分中金銀五十以上	純金三百七十五グラムニ付	金三圓四十錢
一千分中金銀三十以上	純金三百七十五グラムニ付	金三圓六十錢
一千分中金銀二十以上	純金三百七十五グラムニ付	金三圓八十錢
一千分中金銀十以上	純金三百七十五グラムニ付	金四圓

（參照）

大正十五年十一月二大蔵省告示第百五十七號ハ輸納地金ノ試驗手數料、品位證明手數料及精製手數料ニ關スル件ナリ

朝鮮産金令第一條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮銀行ニ賣却スベキ金地金ノ賣渡價格中改正

（昭和十三年五月二十一日朝鮮總督府告示第三百九十號）

「三圓七十七錢」ヲ「三圓八十五錢」ニ改ム

朝鮮産金令第一條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮銀行ニ賣却スベキ金地金ノ賣渡價格中改正

（昭和十三年五月二十一日朝鮮總督府告示第四百三十號）

備考中「二錢」ヲ「一錢四厘」ニ改ム

低品位金鑛石賣鑛奨勵金交付規則ニ依リ奨勵金ヲ交付スヘキ金鑛石ノ含金品位及賣鑛者ニ對スル奨勵金額改正

（昭和十三年五月二十七日朝鮮總督府告示第四百四十三號）

低品位含金鑛物賣鑛奨勵金交付規則第一條

第一項ノ規定ニ依ル奨勵金ヲ交付スベキ含金鑛物ノ含金品位ハ鑛石一瓲中含金量十瓦以下トス

産金法第十二條ノ規定ニ基ク命令ノ件

（昭和十三年六月二十六日 臺灣總督府令第七十六號）

第一條　臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ別ニ定ムルモノノ外事項及人ヲ指定シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分及保有ニ關シ報告ヲ徵スルコトヲ得

第二條　臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者ノ申請ニ基キ其ノ報告ヲ免除シ又ハ報告期限ヲ延長スルコトヲ得

第三條　臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ部下ノ官吏ヲシテ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分及保有ニ關シ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ別記樣式ノ證票ヲ攜帶ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式省略）

産金法ニ基ク金ノ使用ノ制限其ノ他金ノ使用ニ關スル命令ノ件

（昭和十三年二月四日 樺太廳令第十三號）

産金法ニ基ク金ノ使用ノ制限其ノ他金ノ使用ニ關スル命令ニ關シテハ昭和十二年大藏省令第六十號金使用規則ニ依ル但シ同令中大藏大臣トアルハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州金使用規則

（昭和十三年四月九日 關東局令第三十二號）

第一條　金ヲ用ヒタル製品（金箔、金絲、金粉、金液及此等ヲ用ヒタル製品ヲ除ク以下同ジ）ニシテ其ノ金ノ品位千分中三百七十六ヲ超ユルモノハ當分ノ內之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ工業用ニ關スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ醫療用トシテ必要已ムヲ得ザルモノ又ハ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ關東州廳長官ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　製品ノ種類、數量、價額及金ノ品位

三　製造ニ要スル金ノ純量及價額

四　製造ヲ必要トスル事由

五　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二條　金又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ハ當分ノ內左ノ各號ニ揭グル用途ニ供スルコトヲ得ズ但シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　屛風、襖、額緣其ノ他表裝用

二　天金、金文字、裝幀其ノ他製本用

三　看板、標札其ノ他廣告用

四　金文字、金鏤、金散シ其ノ他印刷用

五　金文字、商標其ノ他標識用

第三條　金ヲ用ヒタル製品又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ノ製造業ヲ營マントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆出書ヲ關東州廳長官ニ提出スベシ但シ每月使用スル金ノ純量五十グラム未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　屆出者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　會社ニ在リテハ其ノ資本金

三　製品ノ種類及其ノ每月ノ製造高

四　每月使用スル金ノ純量

前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ハ前項各號ニ揭グル事項ニ付變更ヲ生ジタルトキ又ハ其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ二週間內ニ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ屆出ヅベシ

第四條　金ヲ用ヒタル製品又ハ金箔、金絲、

金粉若ハ金液ノ製造業ヲ承繼シタル者ハ二週間內ニ前條第一項各號ニ揭グル事項ヲ具シ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ屆出ヅベシ但シ每月使用スル金ノ純量五十グラム未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前條第二項ノ規定ハ前項ニ揭グル者ニ付之ヲ準用ス

第五條　金ヲ用ヒタル製品又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ノ製造業ヲ營ム者ハ各月ノ金地金ノ買入高、使用高、賣却高及保有高竝ニ其ノ製品ノ製造高、買入高、賣却高及保有高ヲ別記書式ニ依リ翌月十日迄ニ關東州廳長官ニ報告スベシ但シ使用シタル金ノ純量五十グラム未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　關東州廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ金ヲ用ヒタル製品又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ノ製造業ヲ營ム者ニ對シ其ノ製品ノ種類又ハ金ノ使用量ヲ制限スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ金ヲ用ヒタル製品又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ノ製造業ヲ營ム者ハ本令施行ノ日ヨリ三週間內ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆出書ヲ關東州廳長官ニ提出スベシ但シ每月使用スル金ノ純量五十グラム未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　屆出者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　會社ニ在リテハ其ノ資本金

三　製品ノ種類及其ノ每月ノ製造高

四　每月使用スル金ノ純量

五　最近一年間ニ使用シタル金ノ純量及價額

六　最近一年間ニ製造シタル製品ノ種類、數量、價額及金ノ品位

七　屆出ノ際現ニ製造ノ過程ニ在ル製品ノ種類、數量、價額及金ノ品位

八　屆出ノ際現ニ保有スル金又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ノ數量及價額

前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者トミナス

本令施行ノ際現ニ金又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ヲ用ヒ製造ノ過程ニ在ル製品ニ關シテハ第一條第一項及第二條ノ規定ヲ適用セズ

（書式省略）

兵役法施行令中改正ノ件

（昭和十三年三月二十六日勅令第百三十八號）

第四條第二項ヲ削ル

第十七條中「現役兵ヲ」ヲ「兵ニ」ニ、「下士官」ヲ「幹部候補生、下士官」ニ、「現役期間ヲ延長シ之ヲ在營セシムル」ヲ「現役又ハ召集ノ期間ヲ延長スル」ニ改ム

第二十條中「第四條第一項」ヲ「第四條」ニ改ム

第三十一條　削除

第三十二條中「左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付」及第一號乃至第三號ヲ削ル

第三十三條中「陸軍衛生部ノ兵」ヲ「補助衛生兵」ニ改メ同條第一號中「概ネ二月」ノ下ニ「但シ自動車ノ運轉ニ從事スベキ者ニ在リテハ概ネ四月」ヲ加ヘ同條第二號ヲ削リ同條第三號ヲ第二號トス

第三十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

兵役法第十四條第二項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度ニ關シテハ陸軍大臣、同項ニ規定スル認定ニ關シテハ陸軍大臣及文部大臣之ヲ定ム

第三十五條中「第三十一條第一項、」ヲ削ル

第七十五條中「戰車兵、」ノ下ニ「工機兵、」ヲ、「機關兵、」ノ下ニ「工作兵、」ヲ加フ

第九十六條中「軍事救護法」ヲ「軍事扶助法」ニ改ム

第百二十條第二項中「特ニ定ムル者」ノ下ニ「又ハ兵役法第五十七條第一項ノ規定ニ依ル召集ニ應ゼンコトヲ懇メ志願スル者」ヲ加フ

第百二十條ノ二　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル陸軍ノ（前條第二項但書ニ規定スル者ヲ除ク）ニ對シテハ兵役法第五十七條ノ規定ニ依ル召集ハ之ヲ爲サズ但シ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メザル第一補充兵ヲ以テ當該聯隊區ニ於ケル兵種別ノ召集人員ヲ充足シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

但シ第三十一條、第三十二條、第三十三條及第三十四條ノ改正規定、第三十五條ノ改正規定中衛生部ノ兵ニ關スル部分、第七十五條ノ改正規定中工作兵ニ關スル部分竝ニ第百二十條ノ規定ハ昭和十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ幹部候補生タル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第百二十條ノ二ノ規定ハ昭和十二年以前ニ於テ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ニ之ヲ適用セズ

當分ノ內陸軍大臣ハ步兵又ハ戰車兵ヲ工機兵ト爲スコトヲ得

（參照）

昭和二年十一月三勅令第二百二十號兵役法施行令

抄錄

第四條第二項

兵役法第五十四條乃至第五十六條、同法第五十九條乃至第六十二條及之ニ基ク本令ノ規定ハ幹部候補生及豫備候補生ニシテ豫備役ニ在ル者ノ召集ニ之ヲ準用ス

第十七條　陸軍現役兵ニシテ下士官又ハ憲兵下士官兵タランコトヲ志願シタル者ハ之ニ任用又ハ採用シ得ベキ見込アル者ニ限リ本人ノ願ニ依リ二年ヲ限リ現役期間ヲ延長シ之ヲ在營セシムルコトヲ得

第二十條　第二條、第四條第一項、第五條及第六條第二項ノ規定ハ兵ノ候補者トシテ兵籍ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第二十一條　兵役法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル標準ニ合格シタル者ニ付之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ步兵科ノ兵（騎銃兵ヲ除ク）ニ在リテハ六月其ノ他ノ陸軍兵（第二十二條ニ揭グル兵種ヲ除ク）及海軍兵ニ在リテハ當該兵種ノ本務ニ應ジ六十日以內トス

前項ノ規定ニ合格シタル者ト雖モ在營間其ノ成績不良ナルトキハ其ノ者ニ付前項ノ規定ニ依ル短縮ヲ行ハズ

兵役法第十一條第二項ニ規定スル豫備ノ程度ニ關シテハ陸軍大臣同項ニ規定スル認定ニ關シテハ陸軍大臣及文部大臣之ヲ定ム

第二十二條　兵役法第十二條ノ規定ニ依ル召集ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第二十三條　兵役法第十三條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベキ兵種ハ騎銃兵及砲兵トス其ノ在營期間ハ左ノ如シ

一　騎銃兵　概ネ二月

二　衛生兵　一年六月但シ陸軍補充令第八十八條ノ二ノ規定ニ依リ衛生兵ヲ命ゼラレタル者ノ在營期間ハ入營ノ日ヨリ之ヲ起算シ一年六月トス

三　補助衛生兵　二月

第二十五條　戰時又ハ事變ノ際兵ノ他必要ア ル場合ニ於テハ兵役法施行令第十四條及本令第二十二條第一項、第二十三條及第三十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ヲ行ハズ又ハ其ノ短縮スベキ期間ヲ減ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　兵役法第十五條第一項ニ揭グル兵種ハ騎銃兵、砲兵、工兵、輜重兵、航空兵、衛生兵、獸醫兵及主計兵トス

第二十七條　兵役法第四十條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ヲ行ハズ

第二十八條　兵役法第四十條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第二十九條　兵役法第十五條第一項ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベキ兵種ハ騎銃兵及砲兵トス其ノ在營期間ハ左ノ如シ

一　騎銃兵　概ネ二月

二　衛生兵　一年六月但シ陸軍補充令第八十八條ノ二ノ規定ニ依リ衛生兵ヲ命ゼラレタル者ノ在營期間ハ入營ノ日ヨリ之ヲ起算シ一年六月トス

三　補助衛生兵　二月

第三十五條　戰時又ハ事變ノ際兵ノ他必要ア ル場合ニ於テハ兵役法施行令第十四條及本令第二十二條第一項、第二十三條及第三十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ヲ行ハズ又ハ其ノ短縮スベキ期間ヲ減ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條　兵役法第十五條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ヲ行ハズ

ノ短縮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第三十二條　兵役法施行令第十三條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベキ兵種ハ騎銃兵及砲兵トス其ノ在營期間ハ左ノ如シ

一　騎銃兵　概ネ二月

二　衛生兵　一年六月但シ陸軍補充令第八十八條ノ二ノ規定ニ依リ衛生兵ヲ命ゼラレタル者ノ在營期間ハ入營ノ日ヨリ之ヲ起算シ一年六月トス

三　補助衛生兵　二月

第三十五條　戰時又ハ事變ノ際兵ノ他必要ア ル場合ニ於テハ兵役法施行令第十四條及本令第二十二條第一項、第二十三條及第三十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ヲ行ハズ又ハ其ノ短縮スベキ期間ヲ減ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條　兵役法第十五條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ヲ行ハズ

第三十七條　兵役法第四十條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第三十八條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第三十九條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十一條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十二條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十三條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十四條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

第四十五條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課業ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル關東大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ豫備役ニ編入セラレタル間生徒ニ之ヲ準用ス

兵役法施行規則中改正

（昭和十三年三月二十一日陸軍省令第十三號）

第二十二條中「現役期間」ヲ「現役又ハ召集ノ期間」ニ改ム

第二十四條中「現役延期」ヲ「現役又ハ召集ノ期間ノ延長」ニ改ム

第二十五條第二項ヲ削ル

第二十六條中「法第十一條」ヲ「法第十一條第一項」ニ改ム

第二十九條第二項ヲ削ル

第三十五條中「法第十一條」ヲ「法第十一條第一項」ニ改ム

第五十二條ノ二ノ二ヲ削ル

第五十二條ノ四ヲ削ル

第五十三條　兵役法第十九條ノ二ノ規定ノ適用及現役兵ノ退營期日ニ付テハ附表第一ニ依ル

第三編第五章中第六十三條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十二條ノ二　服役第一年次ノ第一補充兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ件屆

第百二十條第二項

兵役法第五十七條ノ規定ニ基キ聯隊區司令官ハ聯隊區ニ配當シ聯隊區ニ於ケル兵種別ノ召集人員ヲ充足シ得ザル場合ニ限リ第一補充兵ノ內青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者ヲ以テ前項ノ人員ヲ充足スルコトヲ得

上ト認ムル課程ヲ修得シタル者ハ第五十二條ノ規定ニ依リ召集スベキ人員ハ聯隊區司令官ハ第百二十條ノ規定ニ基キ聯隊區ニ配當シ聯隊區ニ於ケル兵種別ノ召集人員ヲ充足シ得ザル場合ニ限リ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者ヲ以テ前項ノ人員ヲ充足スルコトヲ得

兵役法施行規則中改正

（昭和十三年三月二十一日陸軍省令第十三號）

第二十二條中「現役期間」ヲ「現役又ハ召集ノ期間」ニ改ム

第二十四條中「現役延期」ヲ「現役又ハ召集ノ期間ノ延長」ニ改ム

第二十五條第二項ヲ削ル

第二十六條中「法第五十六條」ヲ「法第五十六條乃至第六十二條、第六十三條」ニ改ム

第五十一條及第五十二條ノ二中「法第四十一條」ヲ「法第四十一條第一項」ニ改メ同條ヲ第五十二條ノ二ヲ第五十二條ノ四ト爲シ第五十二條ノ二ノ二ヲ第五十二條ノ二ト爲シ第五十二條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五十二條ノ三　兵役法第十九條ノ二ノ規定ノ適用及現役兵ノ退營期日ニ付テハ附表第一ニ依ル

第三編第五章中第六十三條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十二條ノ二　服役第一年次ノ第一補充兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ件屆

（用紙適宜）

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ件屆

一　本籍地　府縣郡市眞町村字番地

二　現住地　何々

三　兵種　何兵

右及屆出候也

年　月　日

本人氏名印

何聯隊區司令官殿

第六十五條ノ二第四項、第百七十七條ノ三第一項様式及第百七十七條ノ四第二項様式中「船員手帖」ヲ「船員手帳」ニ改ム

第六十五條ノ三第二項中「又ハ獸醫師免許證」ヲ「、獸醫師免許證又ハ自動車運轉免許證」ニ改メ同項ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

第二補充兵ニシテ自動車運轉免許證ヲ下

附セラレタル者ニ付亦同ジ

同條第四項様式中「(獣醫師)」ノ下ニ「(自動車運轉)」ヲ、同様式ノ右側欄外下方ニ「(用紙適宜)」ヲ加フ

第七十四條様式及第二百二十八條第一項第一號中「自動車運轉手免許證」ヲ「自動車運轉免許證」ニ改ム

第九十條第一號ヲ削リ同項第二號中「第五十四條」ノ下ニ「第一項」ヲ加ヘ同號ヲ第一號トシ同項第三號中「前二號」ヲ「前號」ニ改メ「獨立守備隊」ノ下ニ「及別ニ定ムル部隊」ヲ加ヘ同號ヲ第二號トス

第九十三條第四號(ホ)號第二項中但書ヲ削リ同號(ヘ)號ヲ左ノ如ク改ム

(ヘ) 削除

同條第四號(ト)號(甲)號中「第五十四條」ノ下ニ「第一項」ヲ「區分ス」ノ下ニ「但シ工業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者ハ總テ陸軍補充令第五十四條第一項第一號ニ該當スル者ト看做シ配賦ヲ行フモノトス」ヲ加ヘ「第三號」ヲ「陸軍補充令第五十四條第一項第三號」ニ改メ同號(乙)號中「第五十四條」ノ下ニ「第一項」ヲ加ヘ同號(丙)號中「ニシテ其ノ徴集順序ニ從ヒ在營年限ヲ短縮シ得ベキ部隊ニ編入シ得ル者」ヲ削ル

第九十四條中「比例セシメ」ヲ「比例セシム」ニ改メ「(丙)號ノ者ガ在營年限ヲ短縮シ得ベキ部隊ノ要員ニ達セザル場合ニ於テ之ヲ二箇以上ノ部隊ニ充當スル(丁)號ノ者トノ比ヲ成ルベク同一ナラシムベシ」ヲ削ル

第九十五條中「航空兵團司令官」ニ改ム

第百五十九條第二項第五號第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項該當者ノ中陸軍補充令第五十四條ノ規定ニ依リ技術ニ從事スベキ各兵科幹部候補生タルノ資格ヲ具フル者(技術ニ從事スベキ各兵科幹部候補生タルノ資格ヲ具フル者ヲ除ク)ニ付テハ「經」、衛生部幹部候補生タルノ資格ヲ具フル者ニ付テハ「醫」、經理部幹部候補生タルノ資格ヲ具フル者ニ付テハ「獸」ト略記スベシ

第百七十七條ノ五　第百七十七條ノ三又ハ前條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケントスル者ハ第百十七條ノ規定ニ依ル書類ノ外船員手帳竝ニ左ノ様式ノ乘船證明書及乘組船舶行動證明書ヲ携行スベシ

第三百二條第三號中「軍務教護法」ニ改ム

附表第一中陸軍各兵科(輜重兵特務兵ヲ除ク)ノ兵員ノ部ヲ左ノ如ク改ム

陸軍兵(輜重兵特務兵及補助衛生兵ヲ除ク)ノ兵員					
近衛歩兵聯隊			徴集年ノ十二月一日	入營年ノ翌々年十月二十日	
第十九、第二十師團			徴集年ノ十二月十日	入營年ノ翌々年十月三十日	
其ノ他ノ師團(近衛師團ノ歩兵聯隊ヲ除ク)ノ歩兵聯隊			徴集年ノ翌年一月十日	入營年ノ翌年十一月三十日	
航空兵團	前期入營兵		徴集年ノ翌年三月一日	入營年ノ翌々年一月二十日	
	後期入營兵		徴集年ノ翌年九月一日	入營年ノ翌々年七月二十日	
其ノ他ノ部隊	現行兵	前期入營兵	徴集年ノ翌年三月一日	別ニ定ムル所ニ依ル	
		後期入營兵	徴集年ノ翌年九月一日		
	其ノ他ノ兵種		徴集年ノ翌年三月一日		

「輜重兵特務兵ノ部中
「輜重兵特務兵(自動車ノ運轉ニ從事スベキ者ヲ除ク)」
ヲ
「輜重兵特務兵」
ニ改ム

同表輜重兵特務兵ノ部中

同表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

八　入營期ヲ前期及後期ニ區分シタル軍隊ニ入營スル陸軍衛生兵ニ付テハ前期ノ入退營期日ニ依ル

附表第二中輜重兵特務兵ノ項及補助衛生兵ノ項ヲ左ノ如ク改ム

自動車ノ運轉ニ從事スベキ輜重兵特務兵	各師團(第七師團ヲ除ク)	徴集年ノ翌年九月一日	入營年ノ十一月三十日
	第七師團	徴集年ノ翌年八月一日	入營年ノ十月三十一日
各師團	別ニ定ムル所ニ依ル		

補助衛生兵		
工機兵	歩兵ニ同ジ但シ乙種ニ限リ一號ニ六以上ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得	要員ノ若干名ハ鞍工、木工、鍛工兵ニ適スル者ヲ以テ充ツルコトヲ得
輜重兵特務兵	自動車ノ運轉ニ從事スベキ輜重兵特務兵ニ在リテハ自動車運轉ニ從事スベキ者ヲ以テ充ツルコトヲ得	要員ノ若干名ハ自動車ノ運轉ニ從事スベキ輜重兵特務兵ニ在リテハ成ルベク自動車又ハ發動機類ノ使用ニ慣レタル者ヲ以テ充ツルコトヲ得
衛生兵	衛生兵ニ準ズ	

同表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三　陸軍ノ第一補充兵ノ兵種選定ニ付テハ本表ニ示ス標準ヲ低下スルコトヲ得

附錄第二様式其一註記第十三號中「(戰)、」ノ下ニ「工機兵(工機)、」ヲ「(機)、」ノ下ニ「工作兵(工作)、」ヲ加フ

附錄第四様式其一註記中第四號ヲ削リ第六號ヲ第四號トシ第七號中「現役兵入營期日」ヲ「一月十日」ニ改メ同號ヲ第六號トシ第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　本證書受領ノ日迄ニ青年學校又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修得シタル者ハ第五十二條ノ證明書ヲ受領證ニ添附シ市町村長ニ返付シ第六十二條ノ二ノ届出ニ代フルモノトス

附錄第四樣式其二註記第五號中「第七號」ヲ「第六號」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

但シ第五十一條乃至第五十二條ノ三及第六十二條ノ二ノ改正規定竝ニ附表第一ノ改正規定（自動車ノ運轉ニ從事スベキ輜重兵特務兵ニ關スル部分ヲ除ク）ハ昭和十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年及昭和十二年徵集兵ノ退營ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ昭和十二年徵集兵ニシテ在營一年六月ノ者ノ退營期日ハ在營一年十月二十日ノ者ノ退營期日ニ同ジ

本令施行ノ際現ニ幹部候補生タル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十三年勅令第百三十七號附則第三條ニ該當スル者ハ徵集上ノ取扱ニ付テハ之ヲ第七條ノ二ニ該當スル者ト看做ス

豫備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ本令施行前ニ於テ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ハ第六十五條ノ三ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ九十日以內ニ之ヲ届出ヅベシ

正當ノ事由ナクシテ前項ニ規定スル届出ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

（參照）

昭和二年十一月陸軍省令第二十四號　兵役法施行規則抄錄

第二十二條　令第十七條ノ規定ニ依ル現役、期間ノ延長ハ本團中隊長又ハ之ニ準ズル隊長又ハ之ト同等以上ノ職ヲ有スル者ノ申請ニ依リ部隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ本人ニ告達スベシ

第二十三條　令第十七條ノ規定ニ依ル現役、期間ノ延長ハ本團中隊長又ハ之ニ準ズル隊長又ハ之ト同等以上ノ職ヲ有スル者ノ申請ニ依リ部隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ本人ニ告達スベシ但シ分遣又ハ派遣等ニ依リ一時他ニ駐屯スル場合ニ於テハ現所屬ノ中隊長又ハ之ニ準ズル隊長ヲ經テ願出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該隊長ハ本團隊長ニ本人ノ願出其ノ他必要ナル事項ヲ通知スベシ

第二十四條　第十九條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ現役延期ノ許可ヲ得タル者轉隊シタルトキハ舊所屬ノ部隊長ニ必要ナル事項ヲ通知スベシ

第二十五條第二項

第二百三十四條、第二百三十七條乃至第二百四十三條及第二百四十五條第一項ノ規定ハ陸軍大臣ニ於テ幹部候補生（召集中ノ者ヲ除ク）タルコトヲ免ズルニ到リタル者ニ之ヲ準用ス

第二十六條第一項

第三編第三章乃至第六章ノ規定ハ、表餘ニ依リ兵下士ト爲リタル者ニ同編第二章乃至第六章ノ規定ハ令第十五條第一項ノ規定ニ依リ現役ニ在ル間ニ於ケル下士ニ、第五十六條竝ニ第七十條ノ規定ハ幹部候補生ニ之ヲ準用ス

第五十一條　令第三十一條第一項ノ規定ニ依リ歩兵、衛生部兵及輜重兵特務兵以外ノ陸軍兵ニ付現役スベキ在營期間ハ四十月トス

第五十二條　令第三十一條第二項ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベカラザル者アルトキハ中隊長又ハ之ニ準ズル隊長又ハ之ト同等以上ノ職ヲ有スル部隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ本人ニ告達スベシ

第五十二條ノ二　法第十二條ノ規定ニ依ル在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度左ノ如シ

（左右略ス）

第五十二條ノ四　兵役法第十九條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ附表第一ニ依ル

第五十二條　現役兵ノ退營期日ハ附表第一ニ依ル

第六十五條ノ三第二項及第四項

歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ第四項ノ免許證又ハ戰時免許證ヲ下附セラレタル者ハ免許部ヲ下附ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ届出ヅベシ

（樣式略ス）

第九十條　第七條ノ二ニ該當スル者（幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ハ陸軍大臣ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外左ノ各號ノ何レカニ該當スル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　陸軍補充令第五十四條第一號ニ該當スル者ノ中令第五十九條ノ規定ニ依リ配賦セラレタル兵員ヨリ左ノ區分ニ依リ下欄ノ部隊ニ之ヲ徵集ス

（左表略ス）

二　陸軍補充令第五十四條第三號ニ該當スル者ニシテ豫備免許證ヲ有シ又ハ之ヲ受クベキ資格アル者ハ部隊長ノ指定スル步兵隊ニ之ヲ徵集ス

三　前二號ニ揭グル以外ノ者ハ第七條ノ二第一號ニ該當スル者同第二號ニ該當スル者ノ區分ニ各其ノ總數每ニ成ベク入營部隊ニ於ケル中隊數（徵集兵現役兵員ヲ中隊又ハ之ニ準ズベキ部隊ノ

單位ニ換算シタル數ト但シ書ノ規定ニ於ケル換算ノ單位ハ別ニ定ムル所ニ依ルモノトス）ニ比例スル如ク之ヲ徵集ス但シ獨立守備隊ノ兵員ニ徵集スルコトナシ

前項ニ規定スル第七條ノ二ニ該當スル者（幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ノ各總數ハ令第五十九條ノ規定ニ依リ特ニ他ノ師管ノ爲又ハ令第六十條ノ規定ニ依リ特ニ他ノ聯隊區ノ爲配賦セラレタル者アルトキハ之ヲ減ジ特ニ他ノ師管又ハ他ノ聯隊區ヨリ徵集セラルベキ者アルトキハ之ヲ加ヘタルモノトス

第九十二條　第八十九條及第九十條ノ規定ニ依リ徵集スル現役兵ハ之ヲ徵集スル本籍聯隊ノ同氏種ノ兵員（陸軍病院ノ兵員ヲ含ム）ヲ通ジテ之ヲ配賦シ左ノ各號ニ依リ之ニ充ツルモノトス

四、前各號ニ該當スル者ヲ除キタル他ノ兵員ハ其ノ殘員中ニ就キ左ノ區分ニ依リ之ニ充ツ

（ホ）自動車ヲ有スル部隊ニ徵集スベキ兵員ノ一部ハ自動車ニ關スル特別ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ殘兵中自動車部隊ノ要員及補置兵中自動車中隊又ハ之ニ準ズルモノノ要員ハ之ニ適スル者ヲ以テ之ニ充ツ

前項ニ規定スル者ノ外特別ノ技能ヲ有スル者ニシテ其ノ有スル技倆ヲ必要トスル部隊ニ徵集シ得ベキ者ハ之ヲ當該部隊ノ要員ニ充ツ但シ第二國語ニ通ジ通譯ニ適當ト認ムル者ハ之ヲ外國語學校ノ要員ニ充ツ

第九十三條　第八十九條及第九十條ノ規定ニ依リ徵集スル兵員ハ之ヲ徵集スル本籍聯隊ノ同氏種ノ兵員（陸軍病院ノ兵員ヲ含ム）ヲ通ジテ之ヲ配賦シ左ノ各號ニ依リ之ニ充ツルモノトス

四、前各號ニ該當スル者ヲ除キタル他ノ兵員ハ其ノ殘員中ニ就キ左ノ區分ニ依リ之ニ充ツ

（ホ）自動車ヲ有スル部隊ニ徵集スベキ兵員ノ一部ハ自動車ニ關スル特別ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ殘兵中自動車部隊ノ要員及補置兵中自動車中隊又ハ之ニ準ズルモノノ要員ハ之ニ適スル者ヲ以テ之ニ充ツ

前項ニ規定スル者ノ外特別ノ技能ヲ有スル者ニシテ其ノ有スル技倆ヲ必要トスル部隊ニ徵集シ得ベキ者ハ之ヲ當該部隊ノ要員ニ充ツ但シ第二國語ニ通ジ通譯ニ適當ト認ムル者ハ之ヲ外國語學校ノ要員ニ充ツ

第九十四條　前條ニ規定スル部隊ノ要員ニ適セザル場合ニ於テハ之ヲ二個以上ノ部隊ニ充當スル爲メ左ノ各號ニ依リ之ヲ配賦ス

（ヘ）第九十條第一號ノ規定ニ依リ同號表中下欄ニ徵集スル兵員ハ第一號ノ規定ニ依ル

（ト）前ヲ號ニ該當スル者ヲ以テ之ニ充ツ

其ノ殘員中ニ就キ左ノ區分ニ依リ徵集スベキ兵員ヲ含ム）、本籍聯隊ノ區域ニ於ケル一名當ノ交互ニ之ニ充ツ

（甲）第七條ノ二第一號ニ該當スル者ニシテ幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ニ付テハ（ト）ノ甲）同條第二號該當者（幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ニ付テハ（ト）ノ乙）青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者ハ（ト）ノ丙）其ノ他ノ者ニ付テハ（ト）ノ丁）ト略記スベシ

（乙）第七條ノ二第二號ニ該當スル者ニシテ幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ニ付テハ（ト）ノ乙）青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者又ハ修得スベキ見込アル者ハ（ト）ノ丙）其ノ他ノ者ニ付テハ（ト）ノ丁）ト略記スベシ

（丙）第七條ノ二第一號該當者ニ付テハ（ト）ノ甲）同條第二號該當者（幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ニ付テハ（ト）ノ甲）同樣ノ取扱ヲ爲ス

（丁）第七條ノ二第二號該當者（幹部候補生タルコトヲ志願セザル者ヲ除ク）ニ付テハ（ト）ノ乙）青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ハ（ト）ノ丙）其ノ他ノ者ニ付テハ（ト）ノ丁）ト略記スベシ

前項該當者ノ中陸軍補充令第五十四條各號該當者ニ付テハ必要ニ應ジ前項ノ規定ニ拘ラズ第一號該當者ニ付テハ（ト）ノ乙）、第二號該當者ニ付テハ（ト）ノ丙）ト爲シ第二號該當者ニ付テハ其ノ資格ニ依リ（ト）ノ丙）、（ト）ノ丁）ト爲シ又ハ（ト）ノ丁）ト爲シ第四號該當者ニ付テハ（ト）ノ丁）ト略記スベシ

第九十三條第四號（ホ）號ノ規定ニ依リ充當スベキ者ニ付テハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得

第百七十七條ノ五　第百七十七條ノ二又ハ前條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケントスル者ハ第百七十六條ノ規定ニ依ル書類ノ外組員手帖、船員法施行細則第四十八條ノ二又ハ漁業組合令施行規則第五十四條ノ二ノ規定ニ依ル證明書及左ノ樣式ノ乘組組合行動調明書ヲ携行スベシ

（樣式略ス）

第三百二條　前條ニ規定スル帖簿書ニハ左ニ揭グル

事項ヲ記載シ作成者年月日ヲ記入シ署名捺印スベシ

三　軍事救護法ニ依リ救護シ得ル見込ノ有無

（昭和十三年三月二十六日公布勅令第百三十七號ニ依リ追加）

附則抄錄

附則第三條　當分ノ内陸軍大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シタル者（高等學校高等科、大學令ニ依ル大學竝ニ大學豫科又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ニ在リテハ其ノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者ヲ含ム）ハ第五十二條第三號ノ規定ニ拘ラズ特ニ之ヲ幹部候補生ニ採用スルコトヲ得

兵役法施行規則中改正

（昭和十三年八月二十三日陸軍省令第三十號）

目次中「第十五章　現役兵及第一補充兵ノ戸籍抄本竝ニ身上明細書」ヲ「第十五章　現役兵及第一補充兵ノ戸籍抄本竝ニ身上明細書」ニ改ム

第六十三條第一項中「第一補充兵」ヲ「補充兵（海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ヲ除ク本章中以下同ジ）」ニ、同條第三項及第五項中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム

第六十四條乃至第六十五條ノ二及第七十條中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム

第六十五條ノ三中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改メ同條第二項中「第二補充兵ニシテ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ニ付亦同ジ」ヲ削ル

第三條　本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

第一條　本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　市町村長ハ當該市町村ニ本籍ヲ有スル第二補充兵（海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ヲ除ク以下同ジ）ニシテ本令施行ノ際現ニ帝國外ノ地（關東州及滿洲國ヲ除ク）ニ旅行又ハ在留中ノ者ヲ調査シ其ノ徵集年次及氏名ヲ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ聯隊區司令官ニ通知スベシ

第三條　第二補充兵ニシテ本令施行ノ際朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留スル者ハ第六十五條ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

第四條　第二補充兵ニシテ本令施行ノ際船舶國籍證書ヲ有スル船舶ノ船員タル者ハ同ジ」ヲ削ル

第六十六條第一項中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ、「前條第一項ニ揭グル」ヲ「陸軍召集規則ニ定ムル當該地域ノ」ニ改ム

第六十七條第一項中「未ダ召集セラレタルコトナキ第二補充兵ニ付テハ轉籍、氏名變更及死亡ニ關スルモノ、」ヲ削ル

「第十五章　現役兵及第一補充兵ノ戸籍抄本竝ニ身上明細書」ヲ「第十五章　現役兵及第一補充兵ノ戸籍抄本竝ニ身上明細書」ニ改ム

附則

第一條　本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　市町村長ハ當該市町村ニ本籍ヲ有スル第二補充兵（海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ヲ除ク以下同ジ）ニシテ本令施行ノ際現ニ帝國外ノ地（關東州及滿洲國ヲ除ク）ニ旅行又ハ在留中ノ者ヲ調査シ其ノ徵集年次及氏名ヲ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ聯隊區司令官ニ通知スベシ

第三條　第二補充兵ニシテ本令施行ノ際朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留スル者ハ第六十五條ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

第四條　第二補充兵ニシテ本令施行ノ際船舶國籍證書ヲ有スル船舶ノ船員タル者ハ第六十五條ノ二第一項乃至第四項ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

第五條　第二補充兵ニシテ本令施行前ニ於テ醫師法第一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者又ハ藥劑師免許證若ハ獸醫師免許證ヲ下附セラレタル者ハ第六十五條ノ三ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

第六條　第二補充兵ニシテ本令施行ノ際所在不明ノ者アルトキハ戸主ヨリ第六十六條ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

第七條　正當ノ事由ナクシテ本令附則第三條乃至第五條ニ規定スル屆出ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第八條　正當ノ事由ナクシテ本令附則第六條ニ規定スル屆出ヲ爲サザル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九條　第六十三條乃至第六十七條及第七十條ノ改正規定竝ニ本令附則第二條乃至第六條ノ規定ハ昭和五年以前ノ徵集兵ニ之ヲ適用セズ

（參照）

昭和二年十一月陸軍省令第二十四號　兵役法施行規則改錄

第六十三條第一項

歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵臨行ノ際在其ノ他本籍地市町村ヲ離ルルトキハ當ニ行先其ノ他必要ナル事項ヲ同一世帶ノ家族（戸主ヲ含ム）中家事ヲ擔當スル者ニ詳知セシメ軍隊ノ命ヲ遵奉ナク受領ヲ得ル如ク爲スベシ

第六十五條ノ三第二項

歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ樂劑師免許證、獸醫師免許證又ハ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ハ免許證ノ下附ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ免許證ノ寫ヲ添（其ノ旨本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ屆出ヅベシ）第二補充兵ニシテ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ニ付亦同ジ

第六十六條第一項

歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ所在不明ト爲リタル者アルトキハ戸主ヨリ十四日以内ニ徵兵又ハ徵發官吏ノ證明書ヲ添（第四項ノ樣式ニ據グル事項ヲ本籍地ノ市町村長ニ屆出ヅベシ但シ朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留スル者ニ付テハ前條第一項ニ揭グル市町村長ニ於當ル者ヲ經由シ當該在留地ヲ管轄スル領事官ニ屆出ヅルコトヲ得

第六十七條第一項

本籍地ノ市町村長ハ左ニ揭グル場合ニ於テハ戸籍簿ニ照合シ兵役ニ關スル諸名簿ニ付必要ナル事項ヲ調理シタル後附錄第一樣式ニ依リ在鄕軍人身上異動票ヲ作リ毎月末之ヲ取纏メ聯隊區司令官ニ送付スベシ但シ在鄕軍人身上異動票ハ未ダ召集セラレタルコトナキ第二補充兵ニ付テハ徵發氏名變更及死亡ニ關スルモノ第一國民兵ニ付テハ轉籍ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ作製送付スルコトヲ要セズ

（左記略ス）

昭和十一年勅令第四百七十四號（昭和九年法律第四十五號第一條ノ規定ニ依ル羊毛ノ輸入制限等ニ關スル件）廢止ノ件

（昭和十三年七月九日）
（勅令第四百九十七號）

昭和十一年勅令第四百七十四號ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年商工省令第十五號廢止

（昭和十三年七月一日）
（商工省令第四十六號）

昭和十一年商工省令第十五號ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ廢止ス

（參照）
昭和十一年十二月二商工省令第十五號ハ昭和十一年勅令第四百七十四號（昭和九年法律第四十五號第一條ノ規定ニ依ル羊毛ノ輸入制限等ニ關スル件）ノ施行ニ關スル件ナリ

昭和十一年府令第百十二號廢止ノ件

（昭和十三年七月七日
（朝鮮總督府令第八十一號）

昭和十一年府令第百十二號ハ昭和十三年六月三十日限之ヲ廢止ス

（參照）
昭和十一年十二月朝鮮總督府令第百十二號ハ昭和十一年勅令第四百七十四號（昭和九年法律第四十五號第一條ノ規定ニ依ル羊毛ノ輸入制限等ニ關スル件）ノ施行ニ關スル件ナリ

朝鮮工業組合令

（昭和十三年八月一日
制令第二十七號）

第一條　工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第二條　工業組合ハ法人トス

第三條　工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ製品、其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル檢査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限

二　組合員ノ製品ノ加工又ハ販賣、組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三　組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付又ハ組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ揭ゲタル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非ザル者ヲシテ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四條　工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フベシ但シ第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ハ統制工業組合ナル文字ヲ用フベシ

工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課シ又ハ其ノ違反ニ係ル工産品ニシテ違反者ノ所有スルモノニ付抑留其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ沒收ヲ爲スコトヲ得

第七條　工業組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第八條　工業組合前條ノ規程ニ基キ製造又ハ加工ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他朝鮮總督ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第九條　營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十條　營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ工業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條　前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工場、倉庫、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ工業組合ノ檢査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分令ヲ準用ス

第十二條　行政官廳第十條ノ規定ニ依ル命

令ヲ遵守セシムル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ニ從フベキ者ニ對シ其ノ製造又ハ加工ノ設備ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又ハ加工ノ設備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　第十條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該工業組合ノ地區內ニ於ケル當該工業ニ關スル製造又ハ加工ノ設備ノ新設又ハ擴張ニ付朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第十四條　本令ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十五條　本令ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後二週間以內ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十六條　工業組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十七條　創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十八條　設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第十九條　工業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ揭ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員タル資格ニ關スル規定

六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

七　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

八　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

十　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十一　事業及其ノ執行ニ關スル規定

十二　役員ニ關スル規定

十三　會議ニ關スル規定

十四　會計ニ關スル規定

十五　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第二十條　工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第五十條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第二十一條　工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以內ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ揭ゲタル事項竝ニ第十九條第七號及第十五號ニ揭ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一、第十九條第一號乃至第三號、第七號及第十五條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ揭ゲタル事項

二　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ揭ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第二十三條　組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第二十四條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第二十五條　工業組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シ前條ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔スルモノト爲シ又ハ之ヲ負擔セザルモノト爲スコトヲ得

第二十六條　新ニ工業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十七條　組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以內ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十八條　工業組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

常務ヲ擔當スル理事ハ行政官廳之ヲ任免ス

前項以外ノ理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ前項以外ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十六條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第五十一條第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

及第十五號ニ揭ゲタル事項

二　事務所

三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四　第二十四條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五　成立ノ年月日

六　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ揭ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第二十三條　組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第二十四條　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第二十五條　工業組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シ前條ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔スルモノト爲シ又ハ之ヲ負擔セザルモノト爲スコトヲ得

第二十六條　新ニ工業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十七條　組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以內ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十八條　工業組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

常務ヲ擔當スル理事ハ行政官廳之ヲ任免ス

前項以外ノ理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ前項以外ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十六條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第五十一條第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ前項ニ規定スル理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十九條　常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十條　理事及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍內ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第三十二條　工業組合ハ定款ヲ各事務所ニ備置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クベシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　各組合員ノ氏名又ハ名稱及住所

二　各組合員ノ出資口數

三　各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得年月日

五　第二十四條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

組合員及組合ノ債權者ハ第一項ニ揭ゲタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第三十四條　工業組合ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十五條　經費ヲ組合員ニ分賦スル工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ

第三十條ノ規定ハ前項ノ總會ノ議決ニ之ヲ準用ス

第三十六條　組合員ガ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スベキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツベシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

組合員ニ配當スベキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルベキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第三十七條　工業組合ハ第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第五十三條第一項ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十八條　組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ在リテハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十九條　組合員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ工業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四十條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムル

除名ハ總會ノ議決ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非ザレバ之ヲ以テ　其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十條ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第四十一條　持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三月以內ニ之ヲ爲スベシ但シ第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第五十四條但書ノ場合ニ於テハ脫退ノ時ヨリ三月以內ニ之ヲ爲スベシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハザルニ因リテ消滅ス

第四十二條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財產ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラザルトキハ脫退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スベキ損失額ヲ拂込ムベシ

第四十三條　第二十四條ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ脫退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脫退ヲ工業組合登記簿ニ記載シタル後二年間責任ヲ負擔ス

前項ノ期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セザル限リ之ヲ短縮スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第四十四條　第三條第一項第一號ノ規定ニ依ル檢查ヲ行フ工業組合ニ在リテハ檢查員ヲ置クベシ

檢查員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條　工業組合ハ檢查員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第四十六條　理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生ズル虞アルトキハ行政官廳ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第四十七條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ檢查員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法、定款又ハ第七條ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條　工業組合ノ事業若ハ組合財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消

二　役員ノ解任

三　組合ノ事業ノ停止

四　組合ノ解散

第五十條　朝鮮總督當該工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ工業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者朝鮮總督ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ朝鮮總督ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　前條第一項ノ規定ニ依リ工業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ朝鮮總督ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第五十二條　朝鮮總督第五十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滯ナク　總會ヲ　招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及　分賦收入　方法ヲ　議決スベシ

第三十條ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第五十三條　第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ハ第三條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五十四條　第五十條ノ規定ニ依ル工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第五十五條　第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第五十六條　第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　工業組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ議決

三　組合ノ合併

四　組合ノ破產

五　第四十九條ノ規定ニ依ル組合ノ解散處分

第三十條ノ規定ハ解散及合併ノ議決ニ之ヲ準用ス但シ合併ニ因リテ組織ノ變更ト同一ノ結果ヲ生ズベキトキハ其ノ合併ニ付總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

總會ノ議決ニ因ル解散又ハ合併ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五十八條　工業組合ガ解散シタルトキハ合併及破產ノ場合ヲ除クノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スベシ

第五十九條　工業組合ガ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

第六十條　清算人ハ其ノ職務ノ範圍內ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第六十一條　清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名及住所ヲ登記スベシ

前項ノ登記事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六十二條　清算結了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六十三條　工業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所ト

ス

第六十四條　設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ定款、創立總會又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面竝ニ理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ニシテ朝鮮總督ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、其ノ他ノモノニ在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第六十五條　事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人ガ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本令ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ベタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第六十六條　解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

工業組合ガ處分ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ朝鮮總督ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スベシ

第六十七條　清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

第六十八條　朝鮮民事令第四十四條第一項、第四十八條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十二條、第六十四條、第七十三條、第七十八條乃至第八十一條、朝鮮民事令ニ付テハ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ二週間トシ朝鮮產業組合令第二十三條、第三十八條第二項、第七十三條及第七十四條第二項中道知事トアルハ行政官廳トシ同令第三十七條第一項及第三十八條中組合長トアルハ理事トシ同令第四十一條第二項及第六十二條第一項中第百五十四條乃至第百五十八條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ朝鮮產業組合令第五條、第十條第一項、第十一條、第十四條、第十八條乃至第二十一條、第二十三條、第三十一條、第三十二條第一項、第三十三條、第三十五條、第三十七條乃至第三十九條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第五十一條、第五十三條第一項、第五十六條、第五十九條、第六十四條、第六十七條、第六十九條及第七十四條乃至第七十六條ノ規定（第五十條ノ規定ニ依ル工業組合ニ付テハ第七十八條第一項、第十一條、第十八條乃至第二十一條、第四十三條、第四十四條、第四十六條第二項、第四十七條乃至第五號、第五十三條第一項、第五十四條、第六十七條及第六十九條ノ規定ヲ除ク）ハ工業組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ二週間トシ朝鮮產業組合令第二十三條、第三十八條第二項、第七十三條及第七十四條第二項中道知事トアルハ行政官廳トシ同令第三十七條第一項及第三十八條中組合長トアルハ理事トシ同令第四十一條第二項及第六十二條第一項中

四分ノ三トアルハ三分ノ二トス

前項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第四十三條及第四十四條ノ規定ハ組合員ノ保證金額ノ減少、組合ノ合併及第四十三條第三項ノ場合竝ニ組合ノ組織ノ變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條　工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合、聯合會又ハ其ノ組合ノ組合員ト同種ノ工業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

第七十條　工業組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第五十條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合、聯合會及工業者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第七十一條　創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第七十八條ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第五十條ノ規定ニ依ル工業組合聯合會ニ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第四十三條及第四十四條ノ規定ハ組合員ノ保證金額ノ減少、組合ノ合併及第四十三條第三項ノ場合竝ニ組合ノ組織ノ變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條　工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合、聯合會又ハ其ノ組合ノ組合員ト同種ノ工業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

第七十條　工業組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第五十條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合、聯合會及工業者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第七十一條　創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第七十八條ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第五十條ノ規定ニ依ル工業組合中央會ハ工業組合及工業組合聯合會ノ常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ前項ニ規定スル理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第七十二條　工業組合聯合會ノ常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事及監事ハ總會ニ於テ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ前項ニ規定スル理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第七十三條　第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十四條ノ規定ハ工業組合及所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ノ聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ムベシ

第七十四條　工業組合又ハ工業組合聯合會ガ工業組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セントスルトキハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第七十五條　工業組合ニ關スル規定ハ第三十四條ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トス

第七十六條　朝鮮工業組合中央會ハ工業組合及工業組合聯合會ノ普及、發達及連絡合聯合會ニ付テハ之ヲ準用ス

第七十二條　工業組合聯合會ノ常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事及監事ハ總會ニ於テ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ前項ニ規定スル理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第七十三條　第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十四條ノ規定ハ工業組合及所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ノ聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ムベシ

第七十四條　工業組合又ハ工業組合聯合會ガ工業組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セントスルトキハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第七十五條　工業組合ニ關スル規定ハ第三十四條ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トス

第七十六條　朝鮮工業組合中央會ハ工業組合及工業組合聯合會ノ普及、發達及連絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

朝鮮工業組合中央會ハ法人トス

第七十七條　朝鮮工業組合中央會ハ其ノ名稱中ニ朝鮮工業組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

第七十八條　朝鮮工業組合中央會ハ朝鮮ヲ通ジテ一個トシ其ノ設立ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

朝鮮工業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七十九條　工業組合及工業組合聯合會ハ朝鮮工業組合中央會ノ會員トス

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ朝鮮工業組合中央會ノ會員トスルコトヲ得

第八十條　朝鮮工業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　會員ノ加入及脫退ニ關スル規定

五　會員ノ權利義務ニ關スル規定

六　資產ニ關スル規定

七　事業及其ノ執行ニ關スル規定

八　役員ニ關スル規定

九　會議ニ關スル規定

十　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第八十一條　朝鮮工業組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號、第二號及第十號ニ揭ゲタル事項

二　事務所

三　資產ノ總額

四　設立認可ノ年月日

五　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ揭ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第八十二條　朝鮮工業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

第八十三條　朝鮮工業組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル工業組合若ハ工業組合聯合會ノ理事若ハ監事又ハ第七十九條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

理事ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十四條　第四條第二項、第二十七條、第三十條乃至第三十四條、第三十八條、第四十六條、第五十七條、第六十八條、第六十六條乃至第六十七條、第八十五條及第八十六條ノ規定ハ朝鮮工業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第百四十一條ニ朝鮮產業組合令第十條第一項、第十八條乃至第二十一條、第四十四條、第四十六條乃至第四十九條、第五十一條、第五十三條第一項、第五十四條、第五十六條、第六十四條及第六十七條ノ規定ヲ除ク

第八十五條　左ノ場合ニ於テハ工業組合ノ監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本令ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　本令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三　本令ニ依ル屆出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シタルトキ

四　行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五　本令ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ爲サズ、其ノ檢查ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

六　本令ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

七　本令ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

八　本令ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

九　本令ニ違反シテ組合ガ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

十　本令ニ違反シテ破產ノ宣告ヲ請求セザルトキ

十一　本令ニ違反シテ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第四十三條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十二　本令ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十三　清算ノ場合ニ於テ本令ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財產ノ分配ヲ爲シタルトキ

十四　法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五　組合ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

第八十六條　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第八十七條　第四條第二項（第七十五條及第八十四條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第三項（第七十五條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條　第十條ノ規定（第七十五條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第八十九條　第十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ製造又ハ加工ノ設備ノ新設又ハ擴張ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　工產品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第九十一條　第八十七條乃至第八十九條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十二條　正當ノ理由ナクシテ第十一條ノ規定（第七十五條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢查、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條　工業組合ノ證票若ハ檢查證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢查證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢查證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條　工業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ檢查員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ檢查員ノ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第九十五條　前條第一項ニ揭ゲタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十六條　第九十三條ニ揭ゲタル罪ハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第三條ノ例ニ、第九十四條ニ揭ゲタル罪ハ同法第四條ノ例ニ從フ

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際工業組合ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルモノハ本令施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スベシ

第八十七條ノ規定ハ前項ノ期間內前項ニ揭ゲタル者ニ之ヲ適用セズ

朝鮮營業稅令第三條第一號中「殖產契」ノ下ニ「、工業組合、工業組合聯合會」ヲ加フ

朝鮮登錄稅令第七條第七號中「殖產契」ノ下ニ「、工業組合、工業組合聯合會、朝鮮工業組合中央會」ヲ、「殖產契令」ノ下ニ「、朝鮮工業組合令」ヲ加フ

朝鮮工業組合令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年八月十六日朝鮮總督府令第百六十四號）

〔參照〕

昭和二年三月三十一日制令第六號朝鮮營業稅令抄錄

第二條　左ニ揭グル營業ニ付テハ營業稅ヲ課セズ

一　產業組合、產業組合聯合會、金融組合、朝鮮金融組合聯合會、殖產銀行、農業倉庫業、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ爲ス營業

明治四十五年三月二日制令第十六號朝鮮登錄稅令抄錄

第十條　左ニ揭グルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號第十號乃至第十二號ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

七　金融組合、朝鮮金融組合聯合會、產業組合、產業組合聯合會、殖產銀行、農業倉庫業、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ付金融組合令、朝鮮金融組合聯合會令、朝鮮產業組合令、殖產銀行令又ハ朝鮮漁業令ニ基キテ爲ス登記（朝鮮金融債券ニ付朝鮮金融組合聯合會令ニ基キテ爲ス登記ヲ除ク）

朝鮮工業組合令施行規則

（昭和十三年八月十六日
朝鮮總督府令第百六十五號）

第一條　工業組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

一　地區
二　組合員タル資格
三　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
四　朝鮮工業組合令第二十四條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法
五　經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
六　事業計畫ノ概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主タル事務所設置豫定地ノ道知事ニ屆出ヅベシ

第二條　朝鮮工業組合令第十六條第二項ノ規定ニ依ル創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スベシ

一　特別ノ事由ヲ記載シタル書面
二　組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面

二種以上ノ工業者ヲ以テ組合ヲ設立センストスルトキハ前項第二號ノ書面ハ工業ノ種類別ニ之ヲ記載スベシ

第三條　朝鮮工業組合令第十六條第一項ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四條　朝鮮工業組合令第五十條第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ左ノ事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　組合ノ地區
二　組合員タル資格
三　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
四　朝鮮工業組合令第二十四條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法
五　經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
六　事業計畫ノ概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主タル事務所設置豫定地ノ道知事ニ屆出ヅベシ

第二條　朝鮮工業組合令第十六條第二項ノ規定ニ依ル創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スベシ

一　特別ノ事由ヲ記載シタル書面
二　組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面

第三條　朝鮮工業組合令第十六條第一項ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四條　朝鮮工業組合令第五十條第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ左ノ事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　組合ノ地區
二　組合員タル資格
三　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
四　朝鮮工業組合令第二十四條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法
五　經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
六　事業計畫ノ概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主タル事務所設置豫定地ノ道知事ニ屆出ヅベシ

第二條　朝鮮工業組合令第十六條第二項ノ規定ニ依ル創立總會招集ノ認可申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スベシ

一　特別ノ事由ヲ記載シタル書面
二　組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面

ス

組合ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ遲滯ナク道知事ニ屆出ヅベシ

第九條　組合ガ前條第一項ノ議決ニ基キ借入金ヲ爲サントスルトキハ借入ノ都度豫メ借入金額、利子、期限、償還方法及借入先ヲ道知事ニ屆出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十條　組合ガ組合員ニ非ザル者ヲシテ利用セシムルコトヲ得ル施設ハ檢査又ハ加工若ハ保管ニ關スル設備其ノ他ノ共同設備トス

第十一條　組合員ノ事業經營ニ對スル制限ニ關スル規程ノ認可申請書ニハ其ノ制限ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面及總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第十二條　總代會ハ組合員百人以上ノ組合ニ非ザレバ之ヲ設クルコトヲ得ズ

總代會ハ組合員中ヨリ選擧シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

總代ノ定數、任期及選擧ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第十三條　理事ノ選任認可申請書ニハ履歷書及創立總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

朝鮮工業組合令第二十八條第四項ノ規定ニ依リ理事ヲ選任セントスル場合ニ於テハ其ノ選任認可申請書ニハ前項ニ揭ゲタル書面ノ外其ノ選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十四條　役員又ハ清算人ノ受クベキ給與ハ定款又ハ創立總會、總會若ハ總代會ノ議決ニ依リ之ヲ定ムベシ

定款ノ變更ガ朝鮮工業組合令第二十五條ノ保證金額ノ減少、組合ノ組織ノ變更ニ依ル組合員ノ責任ノ減少又ハ朝鮮工業組合令第四十三條ノ責任期間ノ短縮ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ノ書面ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

定款ノ變更ガ朝鮮工業組合令第二十五條第二項ノ場合ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ總組合又ハ總代會ノ議決ニ依リ之ヲ定ムベシ

第十五條　定款變更ノ認可申請書ニハ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

定款ノ變更ガ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ノ減少、組合ノ組織ノ變更ニ依ル組合員ノ責任ノ減少又ハ朝鮮工業組合令第四十三條ノ責任期間ノ短縮ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ノ書面ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

第十六條　組合ハ每事業年度事業計畫ヲ定メ年度開始二月前迄ニ之ヲ道知事ニ屆出ヅベシ經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ニ付亦同ジ

前項ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ道知事ニ屆出ヅベシ

前二項ノ場合ニ於テ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第十七條　朝鮮工業組合令第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第三十八條第二項ノ規定ニ依リ提出スル書類ニハ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第十八條　組合ノ業務上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ郵便局所若ハ確實ナル金融機關ニ預入ルベシ

第十九條　剩餘金ノ配當ハ拂込ミタル出資額又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

拂込ミタル出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年七分ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ增加スルコトヲ得

第二十條　新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ增加スル者ヨリ增口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ

脫退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スベキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同ジ

第二十一條　組合員組合ニ對シ脫退ノ承諾ヲ求メントスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ書面ヲ以テ脫退ノ豫告ヲ爲スベシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十二條　檢查員ノ選任認可申請書ニハ履歷書ヲ、解任認可申請書ニハ解任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

又ハ設立委員ハ遲滯ナク設立認可ヲ申請スベシ

設立認可申請書ニハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議錄ノ謄本及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ但シ朝鮮工業組合令第五十條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面竝ニ第三號及第四號ニ揭ゲタル事項ヲ記載シタル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

一　事業計畫
二　組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
三　引受アリタル出資ノ總口數
四　朝鮮工業組合令第二十四條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額
五　常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事及監事ノ氏名及住所
六　經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第八條　組合ガ借入金ヲ爲サントスルトキハ事業年度每ニ總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スベシ

前項ノ規定ハ組合ガ一事業年度ニ於ケル一組合員ニ對シテ爲ス貸付額及一組合員ノ爲ニスル保證額ノ最高限度ニ之ヲ準用

第二十三條　檢査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クベシ

檢査員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他懲戒ヲ爲サントスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條　總會ノ議決ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スベシ

第二十五條　合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スベシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滯ナク之ヲ道知事ニ屆出ヅベシ

一　朝鮮總督又ハ道知事ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外定款ノ施行ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二　朝鮮工業組合令第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル規程ヲ廢止シタルトキ

三　事務所、理事、監事、清算人、定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散又ハ清算結了ノ登記ヲ爲シタルトキ

四　加入金又ハ增口金ノ額ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經タル事項ニ付テハ其ノ決議錄ノ謄本ヲ屆書ニ添附スベシ

第二十七條　朝鮮工業組合令第十條ノ規定ニ依リ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ豫メ組合、其ノ從フベキ事項及組合ノ取締又ハ制限ニ從フベキ者ノ資格ヲ指定シ之ヲ告示ス

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ指定セラレタル資格ヲ有スル者ハ其ノ指定ニ從ヒ組合ノ取締又ハ制限ニ從フコトヲ要ス但シ特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　第二十七條ノ指定アリタル後組合ニ於テ指定セラレタル事項ニ關スル定款ノ施行規則ヲ變更セントスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クベシ

第三十條　朝鮮工業組合令第十三條ノ規定ニ依リ同令第十條ノ規定ニ依ル命令アリタル組合ノ地區內ニ於テ當該工業ニ關スル製造又ハ加工ノ設備ノ新設又ハ擴張ニ付許可ヲ受ケシムル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ豫メ其ノ設備ノ種類、組合ノ地區及期間ヲ指定シ之ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル製造又ハ加工ノ設備ノ新設又ハ擴張ヲ爲サントスル者ハ道知事ノ許可ヲ受クベシ

第三十一條　前條第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ申請スル場合ニ於テハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　履歷書及資産調書（法人ニ在リテハ定款、登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、損益計算書及業務ヲ執行スル役員ノ履歷書）

二　設備完了ノ豫定時期ヲ記載シタル書面

三　事業計畫ノ概要ヲ記載シタル書面

四　當該工業以外ノ營業ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ營業ノ概要ヲ記載シタル書面

第三十二條　朝鮮工業組合令第十一條第四項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮間接國稅犯則者處分令ニ於テ依ルコトヲ定メタル間接國稅犯則者處分法第四條ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第三十三條　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則第二條乃至第五條、第八條、第十二條及第十三條ノ規定ハ朝鮮工業組合令第十一條第一項及第三項ノ規定ニ依ル臨檢、尋問、捜索及差押ニ之ヲ準用ス

第三十四條　第一條第三項、第五條第二項、第八條第三項、第九條、第十六條第一項第二項、第二十三條第二項、第二十六條第一項、第二十九條及第三十條第二項中道知事トアルハ地區ガ二以上ノ道ニ亙ル組合又ハ朝鮮工業組合令第五十條ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ朝鮮總督トス

第三十五條　聯合會ヲ設立セントスルトキ

又ハ朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ所屬ノ各組合及聯合會ノ理事及監事中ヨリ創立委員各二名ヲ選任スベシ

朝鮮工業組合令第六十九條第二項但書ノ規定ニ依ル聯合會ヲ設立セントスルトキハ前項ノ創立委員ノ外工業者中ヨリ創立委員二名ヲ選任スベシ但シ工業者二名以內ナルトキハ其ノ者ヲ以テ創立委員トス

第三十六條　前條ノ創立委員ハ創立委員會ヲ開催セントスルトキハ二週間前迄ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ道知事（地區ガ二以上ノ道ニ亙ル聯合會又ハ朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ朝鮮總督）ニ屆出ヅベシ

第三十七條　前條ノ創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク聯合會ノ設立認可ヲ申請スベシ

設立認可申請書ニハ定款、創立委員會ノ決議錄ノ謄本、聯合會設立ニ關スル所屬ノ組合及聯合會ノ總會又ハ總代會ノ決議錄ノ謄本竝ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ但シ朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ第三號及第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

一　事業計畫

二　聯合會ノ負擔ノ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三　引受アリタル出資ノ總口數

四　朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第二十四條ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額

五　常務ヲ擔當スル理事以外ノ理事及監事ノ氏名及住所

六　朝鮮工業組合令第六十九條第二項但書ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ所屬ノ工業者ノ氏名又ハ名稱及住所

七　經費ヲ所屬ノ組合、聯合會及工業者ニ分賦スル聯合會ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法

第三十八條　聯合會ニ加入シ又ハ脫退シタル者アリタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ道知事（地區ガ二以上ノ道ニ亙ル聯合會又ハ朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ朝鮮總督）ニ屆出ヅベシ

第三十九條　組合ニ關スル規定ハ第一條乃至第三條、第四條第二項第三項、第五條、第七條及第十二條ノ規定ヲ除クノ外聯合會ニ之ヲ準用ス但シ道知事トアルハ地區ガ二以上ノ道ニ亙ル聯合會又ハ朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ朝鮮總督トス

第四十條　朝鮮工業組合中央會ハ每年度事業計畫及經費ノ收支豫算ヲ定メ年度開始二月前迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第四十一條　第十四條、第十五條、第十七條、第十八條、第二十四條、第二十六條及第三十八條ノ規定ハ朝鮮工業組合中央會ニ之ヲ準用シ但シ道知事トアルハ朝鮮總督トス

第四十二條　朝鮮工業組合令第七條及第九條ノ規定（朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ於テ行政官廳トアルハ朝鮮總督トス

朝鮮工業組合令第八條第一項、第二十七條第二項、第二十八條第二項、第十九條、第四十四條第二項及第四十五條竝ニ同令第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第五十九條、朝鮮產業組合令第二十三條及第三十八條第二項ノ規定（朝鮮工業組合令第七十五條及第八十四條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ於テ行政官廳又ハ主務官廳トアルハ道知事トス但シ地區ガ二以上ノ道ニ亙ル組合若ハ聯合會、朝鮮工業組合令第五十條ノ規定ニ依

ル組合、同令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會又ハ朝鮮工業組合中央會ニ關スル場合ニ在リテハ朝鮮總督トス

朝鮮工業組合令第八條第二項及第四十六條乃至第四十九條竝ニ同令第六十八條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル朝鮮產業組合令第五十八條第一項、第二項、第七十三條及第七十四條ノ規定（朝鮮工業組合令第七十五條及第八十四條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ於テ行政官廳又ハ監督官廳トアルハ朝鮮總督及道知事（朝鮮工業組合令第四十八條ノ規定ニ依ル定款及朝鮮工業組合令第七條ノ規程ノ變更命令竝ニ解散處分ニ付テハ朝鮮總督）トス

但シ地區ガ二以上ノ道ニ亙ル組合若ハ聯合會、朝鮮工業組合令第五十條ノ規定ニ依ル組合、同令第七十五條ノ規定ニ依リ準用シタル同令第五十條ノ規定ニ依ル聯合會又ハ朝鮮工業組合中央會ニ關スル場合ニ在リテハ朝鮮總督トス

朝鮮工業組合令第十一條及第十二條ノ規定（朝鮮工業組合令第七十五條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ於テ行政官廳トアルハ朝鮮總督及組合又ハ聯合會ノ地區ヲ管轄スル道知事トス

第四十三條　朝鮮工業組合令又ハ本令ニ依リ朝鮮工業組合中央會ヨリ朝鮮總督ニ提出スベキ書面ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直接朝鮮總督府ニ差出スベシ

附則

本令ハ朝鮮工業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式

表面

印紙

朝鮮工業組合令第十一條ノ取締官吏證票

官職　氏名　朝鮮總督府

又ハ直接

年　月　日交付

裏面

朝鮮工業組合令抄錄

第十一條　前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳又ハ朝鮮工業組合中央會ニ關スル場合ニ在リテハ朝鮮總督ハ其ノ指名シタル官吏ヲシテ左ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ官吏ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ證票ヲ呈示スベキコトヲ命ジ又ハ關係人ヲ訊問シ又ハ帳簿ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

土地區劃ニ關スル法律ノ施行ニ伴フ朝鮮總督府令第九十二號（昭和十三年八月十六日）ヲ以テ次ノ通改正

（參照）

第四條第三項ニ於テ準用スル朝鮮工業組合令第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

朝鮮工業組合登記取扱規則

（昭和十三年八月十六日　朝鮮總督府令第百六十七號）

第一條　工業組合及工業組合聯合會ノ登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ各之ヲ調製スベシ

第二條　工業組合ノ登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スベシ

第三條　工業組合及工業組合聯合會ノ登記受附帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スベシ

第四條　工業組合又ハ工業組合聯合會ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ朝鮮工業組合令第二十一條第二項第四號（同令第七十五條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ揭グル事項ノ登記ハ登記用紙中摘要欄ニ之ヲ爲スベシ

第五條　合併又ハ事務所ノ移轉若ハ新設ニ依リ朝鮮工業組合令第二十一條第二項（同令第七十五條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ定ムル登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中摘要欄ニ共ノ事由ヲ記載スベシ

第六條　行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記官吏ハ登記用紙中變更欄ニ新舊ノ名稱及變更アリタル旨ヲ記載シ之ニ捺印スベシ

第七條　商業登記取扱規則第五條乃至第十三條、第二十四條第四項、第二十六條乃至第三十一條、第三十二條乃至第三十六條、第五十二條乃至第五十四條、第五十七條乃至第五十九條乃至第六十條、第六十四條及第六十五條（朝鮮不動產登記令施行規則第九十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ハ工業組合及工業組合聯合會ノ登記ニ之ヲ準用

附則

本令ハ朝鮮工業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄雛形省略）

農村負債整理資金特別融通及損失補償法施行規則中改正

（昭和十三年六月十八日 農林 大蔵 内務 省令第二號）

第三條　産業組合中央金庫ガ信用組合ニ對シ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テハ特別融通ノ契約中ニ信用組合ガ其ノ組合員タル負債整理組合ニ對シ負債整理資金ノ融通ヲ爲スニ因リ過失ナクシテ損失ヲ受ケタルトキハ當該信用組合ノ負債整理組合ニ對スル負債整理資金融通總額ノ十分ノ三ヲ限度トシテ之ヲ補償スル旨ノ規定ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年十一月大藏農林内務省令第一號農村負債整理資金特別融通及損失補償法施行規則

第三條　産業組合中央金庫ガ信用組合ニ對シ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テハ特別融通ノ契約中ニ信用組合ガ其ノ組合員タル負債整理組合ニ對シ融通シタル負債整理資金中借受金ノ取立及償還ノ關係ニ付過失ナクシテ負債整理組合ヨリ信用組合ニ對シ償還ヲ受ケ得ザリシモノアルトキハ當該信用組合ノ負債整理組合ニ對スル負債整理資金融通總額ノ十分ノ三ヲ限度トシテ之ヲ補償スベキ旨ノ規定ヲ爲スベシ

昭和十二年大藏省令第一號中改正

（昭和十三年三月二十八日 大藏省令第十二號）

第六條　昭和八年大藏省令第七號第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國（邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク）ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七條中「第四條乃至第九條」ヲ「第四條乃至第十一條」ニ、「第十三條、第十四條」ヲ「第十三條乃至第十五條」ニ改ム

第七條ノ二　第四條ノ二及第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ昭和八年大藏省令第八號第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同令第十七條ノ規定ニ、第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同令第十四條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第六條ノ二ヲ第六條ノ三トス

第六條ノ二　昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國（邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク）ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第六條ノ二ヲ第六條ノ三トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和八年大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件及同部八號ハ外國爲替管理法ニ關スル施行手續ナリ

昭和八年大藏省令第七號中改正

（昭和十三年六月四日 大藏省令第三十三號）

第一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ鑄潰スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和八年四月二十六日大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件改正

第一條第二項

命令實施ノ爲之ヲ鑄潰シ又ハ鑄潰スルコトヲ得ズ

昭和八年大藏省令第八號中改正

（昭和十三年六月四日 大藏省令第三十四號）

第二條及第三條中「命令第一條」ヲ「命令第一條第一項」ニ改ム

第三條ノ二　命令第一條第二項ノ規定ニ依ル金貨幣ノ鑄潰ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　金貨幣ノ種類及數量

三　鑄潰ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四　金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五　鑄潰シタルモノノ處分先

六　其ノ他參考トナルベキ事項

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和八年四月二十六日大藏省令第八號外國爲替管理法ニ關スル施行手續ナリ

第二條　命令第一條ノ規定ニ依ル金地金ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

（左記略ス）

第三條第一項

命令第一條ノ規定ニ依ル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載シ輸出港稅關記載ニ依ル場合ニハ稅關吏ヲ經テ之ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

（左記略ス）

昭和八年朝鮮總督府令第四十號（外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件）中改正

（昭和十三年八月一日朝鮮總督府令第百五十號）

第一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ鑄潰スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

十四　大正九年法律第五十三號第二條第四號及第五號ニ揭グル物品、同法第二條ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クル物品竝ニ同法第六條ノ規定ニ依リ輸出スルコトヲ得ル物品ヲ輸出スルトキ

第十三條ノ二ニ左ノ一號ヲ加フ

五　大正九年法律第五十三號第二條第四號及第五號ニ揭グル物品、同法第二條ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クル物品竝ニ同法第六條ノ規定ニ依リ輸出スル物品

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正九年八月七日公布法律第五十三號ハ關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件ナリ

昭和八年朝鮮總督府令第四十一號（外國爲替管理法ニ關スル施行手續）中改正

（昭和十三年八月一日朝鮮總督府令第百五十一號）

第二條及第三條中「命令第一條」ヲ「命令第一條第一項」ニ改ム

第三條ノ二　命令第一條第二項ノ規定ニ依ル鑄潰ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　金貨幣ノ種類及數量

三　鑄潰ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四　金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五　鑄潰シタルモノノ處分先

六　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年朝鮮總督府令第二號（輸入貨物代金ノ決濟及外國爲替銀行ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件）中改正

（昭和十三年三月二十八日朝鮮總督府令第三十一號）

第六條　昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ同令第三條、第六條、第七條又ハ第十二條ニ揭グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條ノ二　昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國（邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク）ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七條中「第四條乃至第九條」ヲ「第四條乃至第十一條」ニ、「第十三條、第十四條」ヲ「第十三條乃至第十五條」ニ改ム

第七條ノ二　第四條ノ二及第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同令第十七條ノ規定ニ、第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同令第十四條ノ規定ニ

準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ト滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用カヲ有スル地域トノ間ノ貨物ノ輸出入ニ關スル取引又ハ行爲ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件

（昭和十三年八月一日朝鮮總督府令第百五十二號）

第一條　朝鮮ヨリ滿洲國ヘノ貨物ノ輸出ニ付昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十七條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸出申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ但シ郵便ニ依ル場合ニ於テハ差出郵便局所ノ所在地ヲ管轄スル稅關ニ提出スベシ

第二條　滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決濟ヲ爲ス爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第四條乃至第九條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ但シ郵便ニ依ル場合ニ於テハ差出郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關ニ之ヲ提出スベシ

第三條　滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル信用狀ヲ取得スル爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十七條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載シテ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ

第四條　價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第四條乃至第九條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ但シ郵便ニ依ル場合ニ於テハ差出郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關ニ之ヲ提出スベシ

第三條　滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル信用狀ヲ取得スル爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十七條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載シテ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ

第四條　價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ有スル地域ニ仕向ケタル貨物ノ輸出ニ付テハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第四條乃至第九條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸出申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ但シ郵便ニ依ル場合ニ於テハ差出郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關ニ之ヲ提出スベシ

第五條　滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ貨物ヲ輸入スル場合ニ付昭和十二年朝鮮總督府令第二號第四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十七條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載シテ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關（郵便ニ依ル場合ニ於テハ郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關）ニ之ヲ提出スベシ

之ヲ提出スベシ

前二項ノ規定ハ滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ輸入シタル貨物ニ付昭和十二年朝鮮總督府令第二號第四條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十三條ノ二乃至第十三條ノ四及第十四條第二項竝ニ昭和十二年朝鮮總督府令第二號第十條及第十條ノ二ノ規定ニ依ル報告書ニシテ朝鮮ト滿洲國又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ貨物ノ輸出入ニ關スルモノハ各同條ノ規定ニ拘ラズ輸出地又ハ輸入地所管稅關ニ提出スベシ但シ郵便局所ヲ經由スルコトヲ要ス

第七條　昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第一條第二項及同令第二十條第四項ノ規定ニ依ル申出ニシテ本令ノ規定ニ依ル許可申請又ハ報告ニ關スルモノハ各同條ノ規定ニ拘ラズ許可ヲ受ケ又ハ報告書ヲ提出スベキ稅關長ニ申出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ稅關長ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトヲ得

第八條　關稅定率法別表輸入稅表ニ揭グル物品ニシテ別表ニ揭グルモノヲ輸入スル場合ハ本令ヲ適用セズ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第五十七號臺灣外國爲替管理規則中改正

（昭和十三年六月九日　臺灣總督府令第六十四號）

第一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ鑄潰スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第六十號臺灣外國爲替管理規則施行細則中改正

（昭和十三年六月九日　臺灣總督府令第六十五號）

第二條及第三條中「規則第一條」ヲ「規則第一條第一項」ニ改ム

第三條ノ二　規則第一條第二項ノ規定ニ依ル金貨幣ノ鑄潰ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二　金貨幣ノ種類及數量

三　鑄潰ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四　金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五　鑄潰シタルモノノ處分先

六　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州外國爲替管理規則中改正

（昭和十三年三月二十九日　關東局令第十二號）

第三條第三號中「圓爲替ノ賣買」ヲ「圓爲替又ハ國幣爲替ノ賣買」ニ改メ同條第五號ヲ第六號トシ第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四　外國通貨ヲ對價トスル外國爲替又ハ國幣爲替ノ買入ニシテ賣爲替相殺ヲ目的トスルモノ

第四條第二號中「信託」ヲ「金錢信託」ニ改ム

第五條ノ二　大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ在ル外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第十八條ノ規定ニ依リ支拂期日到來後ニ於ケル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　滿洲人ヲ除ク）ニ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際既ニ爲シタル許可申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前及前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ爲シタル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ報告書ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

輸入稅表番號

番號	品名
七一ノ內	牛皮、水牛皮、馬皮及豚皮
一四三	生インディアンラバー、生ガタパーチヤ及其ノ代用物
二七一	實綿及綿綿（カード又ハコームシタルモノヲ含ム）
二七四ノ內	黃麻及アバカアイバー
二八二	羊毛、山羊毛及駱駝毛
三六一	機械素パルプ
四五八ノ內	銅鑛、鉛鑛、亞鉛鑛、ニツケル鑛及安知母尼鑛
四五九ノ內	白金
四六四	銅
四六五	鉛
四六六	錫
四六七	亞鉛
四六九ノ內	水銀
四七〇	安知母尼及硫化安知母尼
四七一	眞鍮及靑銅
六一二	木材

（參照）

昭和十二年府令第三號「輸入貨物代金ノ決濟及外國爲替銀行ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件」ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ同府令ニ依リ提出スベキ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十二年府令第三號（輸入貨物代金ノ決濟及外國爲替銀行ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件）中改正

（昭和十三年三月三十日　臺灣總督府令第三十號）

第六條　外國爲替銀行ハ規則第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ規則第三條、第六條、第七條又ハ第十二條ニ揭グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條ノ二　外國爲替銀行ハ昭和十三年四月五日以後臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國（邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク）ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七條中「第四條乃至第九條」ヲ「第四條乃至第十一條」ニ、「第十三條、第十四條」ヲ「第十三條乃至第十五條」ニ改ム

第七條ノ二　第四條ノ二及第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ施行細則第一條ノ規定ヲ準用スル此ノ場合ニ於テハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ施行細則第十七條ノ規定ニ、第六條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ施行細則第十四條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第九條中「借入金ヲ爲スコトヲ得ズ」ヲ「借入金若ハ邦貨又ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ居住スル者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ」ニ改ム

第九條ノ二　大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ居住スル者ノ債務ニ付擔保ヲ供スルコトヲ得ズ但シ第五條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國人（滿洲人ヲ除ク）ガ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於テ所有スル財產ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條第三號中「千圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第十八條ノ二　大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ在ル不動產、鑛業權、森林伐採權若ハ工業所有權又ハ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ノ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　一年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財產ヲ取得スルトキ

二　取得スベキ財產ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲ス爲第三條又ハ第十條ノ

規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
三　鑛業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケタルトキ
四　相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ
五　官廳ノ取得スルトキ
前項ノ規定ハ外國人（滿洲人ヲ除ク）ガ無償ニテ又ハ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於テ有スル財産ヲ以テ前項ニ揭グル財産ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十八條ノ三　大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ、出資ヲ爲シ又ハ本令施行地內ニ在ル財産ヲ取得スル爲本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一　本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於テ出資ヲ爲ス爲一年ヲ通ジ償額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ處分スルトキ
二　第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルトキ
三　第五條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルトキ
前項ノ規定ハ外國人（滿洲人ヲ除ク）ガ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於テ所有スル財産ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十八條ノ四　本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ財産（外貨證券、預ケ金、貸付金ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財産ニ關シ每年一月一日ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル增減ノ內容及各期末ニ於ケル現在高ヲ大使ニ報告スベシ但シ該財産ノ期末現在高通ジテ一萬圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ官廳又ハ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於テ事業若ハ營業ヲ爲ス者ニハ之ヲ適用セズ
前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ五　第二十七條ノ規定ニ依リ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付大使ニ提出スベキ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店又ハ之ニ準ズルモノニ於テ其ノ接受後遲滯ナク提出スベシ

第二十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム
外國通貨、外國爲替若ハ外貨證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ居住スル者ト邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地內ニ住所ヲ有スルニ至リタルトキ

第三十條　大使ハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月十五日迄ニ大使ニ屆出ヅベシ但シ其ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ「禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分必要ナル事項」ニ改ム

第三十一條　大使ハ左ニ揭グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ大使ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ命令ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條中「禁止又ハ制限ニ關係アル事項」ヲ「禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分必要ナル事項」ニ改ム

第三十三條　大使ハ左ニ揭グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ大使ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ命令ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十四條　本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ在ル財産ニシテ前二號ニ揭ゲザルモノ

第三十五條　本令施行地內ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ノ內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付テハ該地域ノ外國爲替管理法令ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ第二條、第三條及第五條ノ規定ヲ適用セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條ノ二ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年四月分ヨリ、第二十八條ノ三及第二十八條ノ四ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年一月ヨリ六月迄ノ期間ノ分ヨリ之ヲ提出スベシ

關東州外國爲替管理規則施行細則中改正

（昭和十三年二月二十九日關東局令第十三號）

第六條中「第三條第三號」ヲ「第三條第三號又ハ同條第四號」ニ、「圓爲替」ヲ「圓爲替又ハ國幣爲替」ニ改ム

第七條中「第三條第四號」ヲ「第三條第五號」ニ改ム

第八條中「第三條第五號」ヲ「第三條第六號」ニ改ム

第九條　規則第五條又ハ第五條ノ二ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有償取得又ハ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　外貨證券ノ名稱、金額、數量及所在地
三　對價タル通貨等ノ種類及豫定額
四　外貨證券ノ受渡又ハ擔保差入等ノ方法
五　取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六　取得、賣却又ハ擔保差入等ノ豫定時期
七　取得、賣却又ハ擔保差入等ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十二條ノ二　規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル擔保提供ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　擔保提供ノ豫定時期
三　擔保物ノ種類、數量及所在地
四　債務者タル本令施行地外ニ居住スル者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　債權者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　債務ノ金額及主要條件
七　擔保提供ヲ必要トスル理由
八　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十九條ノ二　規則第十八條ノ二ノ規定ニ依ル不動産等ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　取得スル不動産等ノ種類、數量及所在地
三　取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地
五　取得ノ豫定時期
六　取得ヲ必要トスル理由
七　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十九條ノ三　規則第十八條ノ三ノ規定ニ依ル財産ノ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　出資先、事業、營業若ハ出資ノ讓受又ハ財産ノ取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
三　出資又ハ出資ノ讓受ノ場合ニ於ケル出資額及出資先ノ事業又ハ營業ノ財産及損益ノ狀況
四　事業又ハ營業ノ讓受ノ場合ニハ事業又ハ營業ノ所在地、種類、財産及損益ノ狀況
五　財産ノ取得ノ場合ニハ財産ノ種類、數量、價額及所在地
六　讓受又ハ取得ノ對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地
七　處分又ハ出資、讓受又ハ取得ノ豫定時期
八　處分及出資、讓受又ハ取得ヲ必要トスル理由
九　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二十四條第一項中「又ハ同條第二項」ヲ「同條第二項、第二十二條又ハ第二十三條第一項」ニ、「第二十二條」ヲ「第二十二條、第二十三條」ニ、同條第二項中「第二十七條」ヲ「第二十七條、第二十八條ノ二又ハ第二十八條ノ四第一項」ニ、同條第四項中「第二十九條第一項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ屆出書」ヲ「第二十六條ノ二又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書又ハ屆出書」ニ、同條第五項中「前項ノ屆出書」ヲ「前項ノ報告書又ハ屆出書」ニ改メ同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

規則第二十八條ノ三第一項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書ハ一通ヲ作成シテ之ヲ提出スベシ

（樣式改正省略）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十三年三月一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ規則第二十七條ノ規定ニ依ル外貨證券所有高增減報告書、外貨預ケ金高增減報告書、外貨貸付金高增減報告書、外貨表示ノ保險契約報告書又ハ外貨借入金高增減報告書及規則第十六條ノ規定ニ依ル代金充當及回收報告書ノ樣式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十二年關東局令第九十七號中改正

（昭和十三年三月二十九日關東局令第十四號）

第一條第一號中「千圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第二條但書中「千圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第五條第十號中「千圓」ヲ「百圓」ニ改メ同條第二號及第三號ヲ削リ第四號ヲ第二號トシ以下順次繰上グ

第五條ノ二　第一條乃至第四條ノ規定ニ依ル許可ハ貨物ノ輸入前ニ之ヲ受クベシ但シ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　規則第二十條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外ニ在ル者ニ對シ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケクベシ但シ此ノ限ニ在ラズ

第七條　規則第二十條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ規則第三條、第五條、第六條及第十一條ニ揭グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條ノ二　昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外（內地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除ク）ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七條ノ三　規則第二十一條ノ二ノ規定ハ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ取引又ハ行爲ニ付之ヲ準用ス

第八條中「第四條乃至第八條」ヲ「第四條乃至第十條」ニ、「第十二條、第十三條」ヲ「第十二條乃至第十四條」ニ改ム

第九條　第五條及第七條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ施行細則第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同細則第十六條ノ規定ニ準ジ、第七條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同細則第十三條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ官廳ノ輸入スル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　規則第三十一條ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書ニ付テハ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　滿洲國內ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ノ本令施行地外ヨリ積出シ滿洲國ニ在ル事務所ヲ有スル者ノ本令施行地內ニ於ケル取引ニ付テハ該地域ノ外國爲替管理法令ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書ニ付テハ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ樣式第二號ノ注意第五號中「千圓」ヲ「百圓」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際輸入濟若ハ本令施行地外ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後一週間內ニ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ大使ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

（參照）

昭和十二年十月關東局令第九十七號ハ輸入貨物代金ノ決濟、無線對輸入及外國爲替銀行ノ本令施行地外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル關東州及南滿洲鐵道附屬地外國爲替管理令ニ基ク命令ノ件ナリ

徴馬管區ニ屬セザル地域ニ飼養場所ノ在ル馬ノ移動制限ニ關スル件

（昭和十三年五月十七日 陸軍省令第一號 農林省令第一號）

左ニ揭グル地域ニ飼養場所ノ在ル馬ヲ其ノ地域外ニ移動セシメントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

北海道　國後郡、色丹郡、紗那郡、擇捉郡、蘂取郡、奥尻郡

鹿兒島縣　大島郡

沖繩縣　全部

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年九月十四日勅令第六百十八號ニ依リ臨時馬ノ移動制限ニ關スル件ナリ

昭和十二年法律第八十九號施行規則中改正

（昭和十三年七月八日 陸軍省令第一號 農林省令第一號）

第六條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　徴馬管區ニ屬セザル地域又ハ第二（新潟縣ヲ除ク）、第六（大分縣ヲ除ク）、第七若ハ第八師管內ノ地域ニ飼養場所ノ在ルモノ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年九月十四日 陸軍省令第一號 農林省令第一號

徴馬第八十九號施行規則ノ一部ヲ改正ス

第六條　第二條及第三條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ノ移動ニ之ヲ適用セズ

四　徴馬管區ニ關セザル地域ニ飼養場所ノ在ルモノ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正四年三月十一日 陸軍省令第四號 師團長ノ定ムル所ニ從ヒ馬ノ異動ノ届出ニ關スル件

馬匹徴發事務細則中改正

（昭和十三年七月十九日 陸軍省令第四號 陸軍馬政署設置事務細則ニ關スル件）

第十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

師團長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依ル報告ノ外徴馬管區內ノ市町村長ニ對シ當該徴馬管區內ノ馬ノ異動ノ有無ニ關シ必要ナル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正四年三月十一日 陸軍省令第四號 師團長ノ定ムル所ニ從ヒ馬ノ異動ノ届出ニ關スル件

則改正

第十九條　市町村長ハ每年二六ノ各月一日調ヲ以テ徴馬管區司令官、師團長ノ定ムル所ニ從ヒ馬ノ異動ノ有無ヲ徴馬管區司令官、師團長ニ報告スベシ

馬生産率增進施設奬勵規則

（昭和十三年五月十六日 農林省令第十六號）

第一條　農林大臣ハ馬ノ生産率增進ニ關スル施設ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ道府縣、畜產組合、畜產組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ左ニ揭グル費用ニ對シ之ヲ交付ス

一　馬ノ生產率增進ニ關スル專任技術員設置ニ要スル費用

二　馬ノ生產率增進ニ關スル診斷、治療等ノ爲必要ナル器具機械及消耗品ノ購入ニ要スル費用

三　馬ノ生產率增進ニ關スル助手傭入ニ要スル費用

四　馬ノ生產率增進ニ關スル講習會、講話會其ノ他適當ト認ムル施設ニ要スル費用

五　第一號ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケザル技術員ノ馬ノ生產率增進ニ關スル指導旅費

第三條　奬勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ割合ヲ超エテ之ヲ交付スルコトアルベシ

一　前條第一號ノ場合ニ在リテハ其ノ費用ノ三分ノ二以內

二　前條第二號乃至第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ費用ノ二分ノ一以內

三　前條第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ費用ノ範圍內

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シ每年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一　事業計畫書

二　收支豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度九月三十日迄ニ事業成績書及收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額ガ豫算額ニ達セザルトキ

第八條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

テハ其ノ費用ノ二分ノ一以內

三　前條第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ費用ノ範圍內

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シ每年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一　事業計畫書

二　收支豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度九月三十日迄ニ事業成績書及收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額ガ豫算額ニ達セザルトキ

第八條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

馬生產率增進施設奬勵規則ノ一部ヲ改正ス

昭和十三年度ニ限リ昭和十三年六月三十日迄トス

臨時肥料配給統制法第二條ノ規定ニ依リ粗製加里鹽類ノ輸入及販賣ニ關スル件

（昭和十三年七月十三日 農林商工省令第三號）

第一條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者其ノ輸入ニ係ル粗製加里鹽類ヲ肥料トシテ販賣セントスルトキハ豫メ其ノ販賣先別割當數量ヲ決定シ農林大臣及商工大臣ノ許可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者輸入ヲ爲サントスルトキハ豫メ粗製加里鹽類ノ月別輸入豫定數量及販賣豫定價格ヲ農林大臣及商工大臣ニ屆出ヅベシ

第三條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者ハ毎月十日迄ニ前月ニ於テ輸入シタル粗製加里鹽類ノ數量及輸入沖著價格竝ニ前月ニ於テ販賣シタル粗製加里鹽類ノ販賣先別數量及價格ヲ農林大臣及商工大臣ニ屆出ヅベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者本令施行前ニ爲シタル販賣契約ニ基キ本令施行後肥料トシテ粗製加里鹽類ノ引渡ヲ爲ス場合ニ於テハ本令施行後遲滯ナク其ノ販賣先別數量ヲ農林大臣及商工大臣ニ屆出ヅベシ

肥料依頼檢査手數料令

（昭和十三年三月十一日 勅令第百十二號）

第一條　地方長官ニ對シ肥料依頼檢査規則ニ依リ肥料ノ品質檢査ノ依頼ヲ爲ス者ハ同一名稱ノ肥料十瓩又ハ其ノ端數毎ニ二圓五十錢ノ手數料ヲ納ムベシ但シ再檢査ノ依頼ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ハ其ノ半額トス

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

肥料依頼檢査規則

（昭和十三年三月十一日 農林省令第七號）

第一條　地方長官ハ本則ニ依リ左ニ揭グル肥料ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ノ依頼ニ依リ肥料ノ品質檢査ヲ行フ

一　調合肥料
二　化成肥料
三　菜種油粕

前項ノ檢査ハ保證成分量、正味重量、有害物及夾雜物ノ有無竝ニ製造方法ニ付之ヲ行フ

第二條　前條ノ檢査ハ當該官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條　第一條ノ檢査ヲ依頼セントスル者ハ樣式第一號ニ依ル肥料檢査依頼書ニ肥料依頼檢査手數料令ニ依ル肥料檢査依頼書ヲ貼附シ之ヲ地方長官ニ提出スベシ

第四條　地方長官檢査ノ依頼ニ應ズル場合ニ於テハ肥料檢査依頼書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ墨肉又ハ朱肉ヲ以テ消印ヲ押捺スベシ

地方長官檢査ノ依頼ニ應ズルコト能ハザル場合ニ於テハ肥料檢査依頼書ヲ依頼者ニ還付スベシ

第五條　當該官吏ハ檢査ヲ爲スニ際シ必要ナル分量ニ限リ無償ニテ標品ヲ收去スルコトヲ得

第六條　當該官吏ハ前條ノ標品ヲ收去シタル肥料ヲ攪混リ其ノ他適當ナル方法ニ依リ區分シ檢査中ナルコトヲ明示スベシ

第七條　當該官吏檢査ノ依頼アリタル肥料ノ品質適正ナリト認ムルトキハ其ノ肥料各容器ノ外部ニ樣式第二號ニ依ル毛刺ヲ、其ノ保證票又ハ成分票ニ樣式第三號ニ依ル檢査濟ノ檢印ヲ押捺スベシ

第八條　當該官吏品質適正ナラズト認メタル肥料ニ付テハ檢査ノ依頼ヲ爲シタル者ハ之ヲ再製シテ再檢査ヲ依頼スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ樣式第一號ニ準ジ肥料再檢査依頼書ヲ提出スベシ

第九條　檢査ヲ依頼セントスル肥料ニ添附スベキ保證票又ハ成分票ハ縱十二糎、橫六糎ノ荷札式トシ紙質強靱ニシテ白色ノモノヲ用フベシ

第十條　檢査ノ依頼アリタル肥料ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由アル場合ニ於テハ第七條ノ規定ニ依ル毛刺及檢査濟ノ檢印ノ押捺ハ之ヲ爲サザルコトアルベシ

一　第六條ノ規定ニ依ル明示ノ手段ノ毀損、撤收其ノ他ノ不正アリタルトキ

二　肥料取締法若ハ同法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反セル事實アリタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則ニ依ル檢査ハ當分ノ內農林大臣ノ指定スル道府縣ノ地方長官之ヲ行フ

樣式

第一號

牧入印紙

肥料檢査依頼書

一　肥料ノ種類、名稱及數量
二　肥料ノ保證成分量
三　肥料ノ製造方法
四　免許又ハ認可ヲ受ケタル官廳及其ノ年月日
五　肥料ノ製造地名、製造者ノ氏名又ハ名稱及藏置場所

右檢査依頼致度手數料圓錢收入印紙ヲ以テ納付候也

年　月　日

住所　氏名又ハ名稱　印

地方長官宛

第二號

外圓（外徑一〇糎 內徑八糎）
字畫ノ肉厚　一糎
肉色　青

第三號

外圓　直徑二糎半
內圓　直徑一糎半
肉色　赤

肥料依頼檢査規則附則第二項ニ依リ肥料依頼檢査ヲ行フ府縣指定

（昭和十三年三月十一日 農林省告示第九十五號）

東京府
神奈川縣
三重縣
岡山縣
福岡縣
大阪府
兵庫縣
愛知縣
愛媛縣
熊本縣

農産資源開發奬勵規則

（昭和十三年七月九日 農林省令第三十一號）

第一條　農林大臣ハ農產資源ノ開發ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ニ揭グル費用又ハ補助金ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス但シ別ニ國庫ヨリ奬勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　農產資源ノ開發奬勵ニ關スル事務ニ從事スル專任技術員又ハ農產資源ノ開發ニ關スル原種圃ノ經營ニ從事スル專任技術員ノ設置ニ要スル道府縣ノ費用

二　道府縣農事試驗場等ニ於テ行フ甘藷、馬鈴薯、玉蜀黍、苧麻、茶、菜種、棉其

ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル農作物ノ改良增殖ニ關スル試驗ニ要スル道府縣ノ費用

三　道府縣農事試驗場等ニ於テ前號ノ農作物ノ優良種苗ヲ配付スル爲行フ原種圃ノ經營ニ要スル道府縣ノ費用

四　第二號ノ農作物ノ優良種苗ヲ配付スル爲行フ種苗圃ノ經營ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

五　苧麻苗又ハ亞麻種子（混播用クローバー種子ヲ含ム）等ノ購入配付ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

六　第二號ノ農作物ノ改良增殖ニ關スル實地指導地ノ設置ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

七　棉共ノ他新作物ノ試作ニ關スル事業ヲ助成スル爲交付スル道府縣ノ補助金

八　第二號ノ農作物ニ關スル增收競技會ノ開催ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

九　藷蕷裁斷機、玉蜀黍脫粒機、苧麻繊維調製設備及機械製茶設備ノ設置ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

十　道府縣農事試驗場ニ於テ行フ豆類ノ根瘤菌ノ培養配付ニ要スル道府縣ノ費用

十一　農產資源ノ開發ニ關スル指導ニ要スル道府縣ノ費用

十二　酒精原料農產物ノ配給又ハ配給斡旋ニ關スル事業ヲ助成スル爲交付スル道府縣ノ補助金

十三　前各號ニ揭グルモノノ外農林大臣ノ適當ト認ムル農產資源ノ開發ニ關スル事業ニ付道府縣ノ支出スル費用又ハ補助金

第三條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シ每年二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一　事業計畫書

二　收支豫算書

三　補助金ニ對シ交付ヲ受ケントスル場合ニ於テハ補助ニ關スル規程

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムルトキハ書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ奬勵金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル道府縣前條第一項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條　第二條第九號ノ費用又ハ補助金ニ對スル奬勵金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ奬勵金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額ガ豫算額ニ比シ減少シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ昭和十三年度ニ限リ八月三十一日迄トス

臨時肥料配給統制法施行規則廢止

（昭和十三年八月一日　農林省令第四號　商工）

臨時肥料配給統制法施行規則ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年十二月農林省商工省告示第二號廢止

（昭和十三年八月一日　農林省　商工省　告示第一號）

昭和十二年十二月農林省商工省告示第二號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

昭和十二年十二月二農林省告示第二號ハ臨時肥料配給統制法第一條第二項第二條第三條ノ規定ニ依ル命令ノ件ナリ

朝鮮臨時肥料配給統制令第一條ノ規定ニ依ル粗製加里鹽類ノ輸入及販賣ニ關スル件

（昭和十三年七月十八日　朝鮮總督府令第百四十二號）

第一條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者其ノ輸入ニ係ル粗製加里鹽類ヲ肥料トシテ販賣セントスルトキハ豫メ其ノ販賣先別數量ヲ決定シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者輸入ヲ爲サントスルトキハ豫メ粗製加里鹽類ノ月別輸入豫定數量及販賣豫定價格ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第三條　粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者ハ每月十日迄ニ前月ニ於テ輸入シタル粗製加里鹽類ノ數量及輸入沖著價格竝ニ前月ニ於テ販賣シタル粗製加里鹽類ノ販賣先別數量及價格ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

粗製加里鹽類ノ輸入ヲ爲ス者本令施行前ニ爲シタル販賣契約ニ基キ本令施行後肥料トシテ粗製加里鹽類ノ引渡ヲ爲ス場合ニ於テハ本令施行後遲滯ナク其ノ販賣先別數量ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル法律施行方中改正

（昭和十三年七月四日）
（大藏省令第四十號）

昭和十二年大藏省令第四十一號中左ノ通改正シ昭和十三年分第三種所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第六條中「千二百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

（參照）
昭和十二年九月十三日大藏省令第四十一號（昭和十二年法律第九十四號（支那事變ノ爲從軍シタル軍人ノ軍屬等ニ對スル扶助法）ノ施行ニ關スル扶助ノ爲ノ臨時措置ニ關スル法律）施行方

第六條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ更訂ノ結果所得金額千二百圓（配當ノ戸主及家族ノ所得ヲ合算シタルモノニ依ル）未滿トナリタルトキハ第三種所得稅ヲ免除ス

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル南洋群島ニ於ケル租稅ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル件

（昭和十三年九月十四日）
（勅令第六百三十九號）

第一條　南洋廳長官ハ其ノ定ムル所ニ依リ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納稅ヲ經減又ハ免除スルコトヲ得

第二條　南洋廳長官ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ昭和十四年以降ノ分ノ第三種所得稅ニ付命令ヲ以テ課稅標準ノ決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第三條　南洋廳長官ハ其ノ定ムル所ニ依リ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スベキ第三種所得稅ニ付其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條　前三條ノ規定ハ同居ノ戸主又ハ家族中ニ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬アル者ノ第三種所得稅ニ付之ヲ準用ス

第五條　第一條又ハ前條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル第三種所得稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年商工省令第十號（暴利ヲ目的トスル物品ノ賣買取締ニ關スル件）中改正

（昭和十三年七月十四日）
（商工省令第五十九號）

第一條　暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ揭グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ揭グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ商工大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監、以下同ジ）ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ取引ニ付條件ヲ附スルコトヲ得不當ノ報酬ヲ得テ左ニ揭グル物品ノ販賣ヲ媒介シ又ハ媒介セントスル者ト認ムルトキ亦同ジ

一　金屬及其ノ原料竝ニ金屬製品
二　黑鉛、礪砂及雲母竝ニ石綿及其ノ製品
三　機械器具及其ノ部分品
四　自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
五　電線及電柱
六　電極
七　研磨材料
八　陶磁器、耐火煉瓦竝ニ硝子及其ノ製品
九　セルロイド及其ノ製品
十　石油及其ノ容器
十一　石炭、コークス、練炭及薪炭
十二　棉花、麻、ステープルファイバー及羊毛其ノ他ノ鳥獸毛
十三　絲（生絲ヲ除ク）竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十四　被服及身邊用細貨類
十五　紙及其ノ製品
十六　染料、顏料、塗料及塡充料
十七　工業藥品及農業用藥劑
十八　醫藥其ノ他ノ衞生材料
十九　油、脂、蠟及其ノ製品竝ニ調製黛香類
十　肥料及飼料
十一　生ゴム及ゴム製品
十二　バルブ
十三　皮革及其ノ製品
十四　麥及小麥粉
十五　砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、珈琲其ノ他ノ嗜好物以外ノ飲食料品
十六　セメント、瓦、硅、砂利其ノ他ノ土木建築材料
十七　木竹類及其ノ製品
十八　鐵材
十九　氷

第一條ノ二　物品ノ販賣ヲ爲ス者ハ其ノ價格ヲ物品ノ見易キ部分ニ記載シ、店頭ニ掲示シ其ノ他容易ニ之ヲ了知シ得ル方法ヲ以テ表示スベシ但シ地方長官ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　商工大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ揭グル物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二條ノ二　商工大臣又ハ地方長官ハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ價格ノ表示ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ價格ノ屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第三條中「第一條ニ揭グル物品中木炭、肥料、飼料、麥、木材及農畜水產物タル飲食料品」ヲ「薪炭、麻、鳥獸毛、油脂、蠟、肥料、飼料、麥、木竹類及其ノ製品、農畜水產物タル飲食料品竝ニ氷」ニ、「前二條」ヲ「第一條、第二條又ハ前條」ニ改ム

第四條　第一項中「若ハ販賣」ヲ「販賣若ハ販賣ノ媒介」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第四條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ二ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ表示ヲ爲シタル者

二　第二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

三　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第五條中「前條」ヲ「前二條」ニ、「前條ノ罰金刑」ヲ「第四條ノ罰金刑又ハ前條ノ科料刑」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ二ノ規定ハ七月十八日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年八月商工省令第十號暴利ヲ目的トスル賣買取締ニ關スル件抄錄

第一條　暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ揭グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ揭グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ商工大臣又ハ地方長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ買賣ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

（左記略ス）

第二條　商工大臣又ハ地方長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ前條ニ揭グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條　第一條ニ揭グル物品中木炭、肥料、飼料、藁、木材及飮食料品ニ付商工業者及其ノ團體以外ノ者ニ對シ前二條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ同條中商工大臣トアルハ商工大臣及農林大臣トス

第四條　第一條ノ戒告ニ違反シテ買占賣惜若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ二月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第五條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

昭和十二年朝鮮總督府令第九十八號（暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件）中改正

（昭和十三年七月二十一日朝鮮總督府令第百四十三號）

第一條　暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ揭グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ揭グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ當該物品ノ取引ニ付條件ヲ附スルコトヲ得不當ノ報酬ヲ得テ左ニ揭グル物品ノ販賣ヲ媒介シ又ハ媒介セントスル者ト認ムルトキハ同一物品ノ買賣ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

一　金屬及其ノ原料竝ニ金屬製品
二　黑鉛、硼砂及雲母竝ニ石綿及其ノ製品
三　機械器具及其ノ部分品
四　自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
五　電線及電柱
六　電極
七　研磨材料
八　陶磁器、耐火煉瓦竝ニ硝子及其ノ製品
九　セルロイド及其ノ製品
十　石油及其ノ容器
十一　石炭、コークス、煉炭及薪炭
十二　棉花、麻、ステープルファイバー及羊毛其ノ他ノ鳥獸毛竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十三　絲（生絲ヲ除ク）竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十四　被服及身邊用細貨類
十五　紙及其ノ製品
十六　染料、顏料、塗料及填充料
十七　工業藥品及農業用藥劑
十八　醫藥其ノ他ノ衞生材料
十九　油、脂、蠟及其ノ製品竝ニ調製薰香類
二十　肥料及飼料
二十一　生ゴム及ゴム製品
二十二　パルプ
二十三　皮革及其ノ製品
二十四　穀物及穀粉
二十五　砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、珈琲其ノ他ノ穀物以外ノ飮食料品
二十六　セメント、瓦、砂、砂利其ノ他ノ土木建築材料
二十七　木竹類及其ノ製品
二十八　燐寸
二十九　氷

第一條ノ二　物品ノ販賣ヲ爲ス者ハ其ノ價格ヲ物品ノ見易キ部分ニ記載シ、店頭ニ揭示シ其ノ他容易ニ之ヲ了知シ得ル方法ヲ以テ表示スベシ但シ道知事ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　朝鮮總督又ハ道知事取締上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ揭グル物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告若シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ取引ニ付條件ヲ附スルコトヲ得不當ノ報酬ヲ得テ左ニ揭グル物品ノ販賣ヲ媒介シ又ハ媒介セントスル者ト認ムルトキ亦同ジ

一　金屬及其ノ原料竝ニ金屬製品
二　黑鉛、硼砂及雲母竝ニ石綿及其ノ製品
三　機械器具及其ノ部分品
四　自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
五　電線及電柱
六　電極
七　研磨材料
八　陶磁器、耐火煉瓦竝ニ硝子及其ノ製品
九　セルロイド及其ノ製品
十　石油及其ノ容器
十一　石炭、コークス、煉炭及薪炭
十二　棉花、麻、ステープルファイバー及羊毛其ノ他ノ鳥獸毛竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十三　絲（生絲ヲ除ク）竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十四　被服及身邊用細貨類
十五　紙及其ノ製品
十六　染料、顏料、塗料及填充料
十七　工業藥品及農業用藥劑
十八　醫藥其ノ他ノ衞生材料
十九　油、脂、蠟及其ノ製品竝ニ調製薰香類
二十　肥料及飼料
二十一　生ゴム及ゴム製品
二十二　パルプ
二十三　皮革及其ノ製品
二十四　穀物及穀粉
二十五　砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、珈琲其ノ他ノ穀物以外ノ飮食料品
二十六　セメント、瓦、砂、砂利其ノ他ノ土木建築材料
二十七　木竹類及其ノ製品
二十八　燐寸
二十九　氷

第二條　朝鮮總督又ハ道知事取締上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ揭グル物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告若

ハ實地申告ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二條ノ二　朝鮮總督又ハ道知事ハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ價格ノ表示ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ價格ノ屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ二ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ表示ヲ爲シタル者

二　第二條ノ規定ニ依ル報告若ハ實地申告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者

三　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ二ノ規定ハ昭和十三年七月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年臺灣總督府令第六十五號（暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件）中改正

（昭和十三年七月二十四日臺灣總督府令第八十八號）

第一條　暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ揭グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ揭グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ臺灣總督又ハ知事若ハ廳長ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ販賣ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

（左記略ス）

第二條　臺灣總督又ハ地方長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ前條ニ揭グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條　第一條ニ揭グル物品中木炭、肥料、飼料、藁、木材及飮食料品ニ付商工業者及其ノ團體以外ノ者ニ對シ前二條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ同條中臺灣總督又ハ知事若ハ廳長ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ取引ニ付條件ヲ附スルコトヲ得不當ノ報酬ヲ得テ左ニ揭グル物品ノ販賣ヲ媒介シ又ハ媒介セントスル者ト認ムルトキ亦同ジ

一　金屬及其ノ原料竝ニ金屬製品
二　黑鉛、硼砂及雲母竝ニ石綿及其ノ製品
三　機械器具及其ノ部分品
四　自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
五　電線及電柱
六　電極
七　研磨材料
八　陶磁器、耐火煉瓦竝ニ硝子及其ノ製品
九　セルロイド及其ノ製品
十　石油及其ノ容器
十一　石炭、コークス、煉炭及薪炭
十二　棉花、麻、ステープルファイバー及羊毛其ノ他ノ鳥獸毛竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十三　絲（生絲ヲ除ク）竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十四　被服及身邊用細貨類
十五　紙及其ノ製品
十六　染料、顏料、塗料及填充料
十七　工業藥品及農業用藥劑
十八　醫藥其ノ他ノ衞生材料
十九　油、脂、蠟及其ノ製品竝ニ調製薰香類
二十　肥料及飼料
二十一　生ゴム及ゴム製品
二十二　パルプ
二十三　皮革及其ノ製品
二十四　穀物及穀粉
二十五　砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、珈琲其ノ他ノ穀物以外ノ飮食料品
二十六　セメント、瓦、砂、砂利其ノ他ノ土木建築材料
二十七　木竹類及其ノ製品
二十八　燐寸
二十九　氷

第一條ノ二　物品ノ販賣ヲ爲ス者ハ其ノ價格ヲ物品ノ見易キ部分ニ記載シ、店頭ニ揭示シ其ノ他容易ニ之ヲ了知シ得ル方法ヲ以テ表示スベシ但シ知事又ハ廳長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　臺灣總督又ハ知事若ハ廳長取締上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ揭グル物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告若シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ販賣ニ付價格ノ表示ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ價格ノ屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第三條中第二項ヲ削ル

第三條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ二ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ表示ヲ爲シタル者

二　第二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

三　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四條中「前條」ヲ「前二條」ニ、「前條ノ罰金刑」ヲ「第三條ノ罰金刑又ハ前條ノ科料刑」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ二ノ規定ハ八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年樺太廳令第四十四號（暴利ヲ目的トスル賣買取締ニ關スル件）中改正

（昭和十三年八月六日樺太廳令第六十四號）

第一條　暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ揭グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ揭グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ取引ニ付條件ヲ附スルコトヲ得不當ノ報酬ヲ得テ左ニ揭グル物品ノ販賣ヲ媒介シ又ハ媒介セントスル者ト認ムルトキ亦同ジ

一　金屬及其ノ原料竝ニ金屬製品
二　黑鉛、硼砂及雲母竝ニ石綿及其ノ製品
三　機械器具及其ノ部分品
四　自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
五　電線及電柱
六　電極
七　研磨材料
八　陶磁器、耐火煉瓦竝ニ硝子及其ノ製品
九　セルロイド及其ノ製品
十　石油及其ノ容器
十一　石炭、コークス、煉炭及薪炭
十二　棉花、麻、ステープルファイバー及羊毛其ノ他ノ鳥獸毛
十三　絲（生絲ヲ除ク）竝ニ布帛（フエルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品
十四　被服及身邊用細貨類
十五　紙及其ノ製品
十六　染料、顏料、塗料及填充料
十七　工業藥品及農業用藥劑
十八　醫藥其ノ他ノ衞生材料
十九　油、脂、蠟及其ノ製品竝ニ調製薰香類
二十　肥料及飼料
二十一　生ゴム及ゴム製品
二十二　パルプ
二十三　皮革及其ノ製品
二十四　麥及小麥粉
二十五　砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、珈琲其ノ他ノ穀物以外ノ飲食料品
二十六　セメント、瓦、砂、砂利其ノ他ノ土木建築材料
二十七　木竹類及其ノ製品
二十八　燐寸
二十九　氷

第一條ノ二　物品ノ販賣ヲ爲ス者ハ其ノ價格ヲ物品ノ見易キ部分ニ記載シ、店頭ニ揭示シ其ノ他容易ニ之ヲ了知シ得ル方法ヲ以テ表示スベシ但シ樺太廳長官ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　樺太廳長官取締上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ揭グル物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二條ノ二　樺太廳長官ハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ價格ノ表示ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ價格ノ屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第三條第一項中「若ハ販賣」ヲ「、販賣若ハ販賣ノ媒介」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ二ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ表示ヲ爲シタル者

二　第二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

三　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四條中「前條」ヲ「前二條」ニ、「前條ノ罰金刑」ヲ「第三條ノ罰金刑又ハ前條ノ科料刑」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ二ノ規定ハ八月十四日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十二年八月樺太廳令第四十四號ハ暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件ナリ

物價委員會令

（昭和十三年四月二十二日勅令第二百七十六號）

第一條　物價委員會ハ中央物價委員會及地方物價委員會トス

中央物價委員會ハ商工大臣、地方物價委員會ハ地方長官ノ監督ニ屬ス

委員會ハ物價ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ事項ニ付關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二條　中央物價委員會ハ商工省ニ之ヲ置ク

地方物價委員會ハ道府縣每ニ之ヲ置キ道府縣ノ名ヲ冠ス

第三條　委員會ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ中央物價委員會ニ在リテハ商工大臣ノ指名スル委員、地方物價委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ中央物價委員會ニ在リテハ商工大臣ノ指名スル委員、地方物價委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　中央物價委員會ノ委員ハ二十五人以內トス

第六條　中央物價委員會ノ會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

中央物價委員會ノ委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第七條　中央物價委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條　中央物價委員會ニ書記ヲ置ク書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　商工大臣ハ物價ニ關スル特別ノ事項ニ付中央物價委員會ノ諮問ニ應ゼシムル爲專門委員會ヲ置クコトヲ得

第十條　各專門委員會ニ委員長一人及專門委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　委員長ハ中央物價委員會委員ノ中ヨリ、專門委員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ズ

第十二條　本令ニ定ムルモノノ外物價委員會ニ關シ必要ナル事項ハ商工大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物價委員會令中改正ノ件

（昭和十三年六月二十一日勅令第四百三十一號）

第五條中「二十五人以內」ヲ「三十人以內」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方物價委員會規則

（昭和十三年四月二十二日 商工省令第十六號）

第一條　地方物價委員會ノ委員ハ十五人以內トス

商工大臣ハ必要ト認ムル道府縣ニ付前項ノ定員ヲ增加スルコトアルベシ

委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

地方物價委員會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　地方物價委員會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ地方長官之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第三條　地方物價委員會ニ書記ヲ置ク書記ハ地方長官之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四條　地方長官ハ物價ニ關スル特別ノ事項ニ付地方物價委員會ノ諮問ニ應ゼシムル爲專門委員會ヲ置クコトヲ得

第五條　各專門委員會ハ委員長一人及專門委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　委員長ハ地方物價委員會委員ノ中ヨリ、專門委員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

附　則

本則ハ物價委員會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物價調査委員令

（昭和十三年八月十日 勅令第五百八十二號）

第一條　物價調査委員ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ物價統制ニ關シ必要ナル事項ノ實地調査ニ從事スルモノトス

第二條　物價調査委員ノ定數ハ地方長官調査地區毎ニ之ヲ定ム

前項ノ調査地區ハ地方長官之ヲ定ム

第三條　物價調査委員ハ地方長官之ヲ選任ス

物價調査委員ハ名譽職トス

物價調査委員ノ任期ハ一年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條　第二條ノ調査地區毎ニ物價調査委員會ヲ置ク

物價調査委員會ハ地方長官ノ監督ニ屬シ物價調査委員ノ職務ノ聯絡ヲ圖ル

物價調査委員會ハ物價調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

地方長官必要アリト認ムルトキハ關係市町村長、商工會議所役員其ノ他適當ナル者ヲシテ物價調査委員會ノ組織ニ加ハラシムルコトヲ得

關係各廳官吏ハ物價調査委員會ニ出席シ且意見ヲ述ブルコトヲ得

第五條　物價調査委員ハ其ノ職務ニ關シ知得シタル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年八月商工農林遞信省令第一號中改正

（昭和十三年四月六日 商工 農林 遞信 省令第一號）

第三條　昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル屆出ハ統制協定ヲ爲シタル日若ハ同條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ變更廢止シタル日ヨリ三週間內ニ之ヲ爲スベシ但シ第一條第四號ノ協定ヲ爲シ又ハ變更シタル場合ノ屆出ハ協定ヲ爲シ又ハ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ爲スベシ

第六條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四號ノ書面ニシテ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ記載シタルモノハ決定ヲ爲シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ提出スベシ

第六條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ屆出ヅベシ

第七條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第三號ノ書面ニシテ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ記載シタルモノハ決定ヲ爲シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ提出スベシ

第七條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ屆出ヅベシ

附　則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和六年八月十日 商工 農林 遞信 省令 昭和六年法律第四十號施行ニ關スル件 抄錄

第三條　昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル屆出ハ統制協定成立ノ日若ハ同條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ變更廢止シタル日ヨリ三週間內ニ之ヲ爲スベシ

第六條第一項、第二項及第四項

昭和六年法律第四十號第二條ノ三ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ揭グル書面ヲ主務大臣ニ提出スベシ

一　氏名又ハ名稱及營業所ノ位置ヲ記載シタル書面

二　會社ニ在リテハ定款

三　當該統制協定ノ加盟者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面

四　販賣數量、販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件其ノ他販賣上ノ重要事項ニ關スル決定ヲ記載シタル書面（自ラ販賣ヲ爲サザルモノニ付テハ加盟者ノ爲ニ爲シタル決定ヲ記載シタル書面）

五　毎月ノ買入高（數量及價額）及毎月末ノ在庫高ヲ記載シタル書面（自ラ販賣ヲ爲サザルモノニ付テハ取扱ニ係ル數量及價額ヲ記載シタル書面）

六　財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面

前項第一號乃至第三號ノ書面ハ昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ營業開始ノ日ヨリ三週間內ニ、第四號ノ書面ハ同法同條同項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ當該事項ニ關スル決定ヲ爲シタル日ヨリ三週間內ニ、第五號ノ書面ハ翌月二十日迄ニ、第六號ノ書面ハ毎事業年度經過後遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第一項第四號ノ決定ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ變更又ハ廢止シタル日ヨリ三週間內ニ之ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ

第七條第一項、第二項及第四項

昭和六年法律第四十號第二條ノ四第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ揭グル書面ヲ主務大臣ニ提出スベシ

一　氏名又ハ名稱、營業所及工場ノ位置竝ニ生產ノ設備及能力ヲ記載シタル書面

二　會社ニ在リテハ定款

三　生產又ハ販賣ノ數量、販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件其ノ他生產又ハ販賣上ノ重要事項ニ關スル決定ヲ記載シタル書面

四　毎月ノ生產高、販賣高（數量及價額）及毎月末ノ在庫高ヲ記載シタル書面

五　財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面

前項第一號及第二號ノ書面ハ昭和六年法律第四十號第二條ノ四第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ營業開始ノ日ヨリ三週間內ニ、第三號ノ書面ハ同法同條同項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ當該事項ニ關スル決定ヲ爲シタル日ヨリ三週間內ニ、第四號ノ書面ハ翌月二十日迄ニ、第五號ノ書面ハ毎事業年度經過後遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第一項第三號ノ決定ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ變更又ハ廢止シタル日ヨリ三週間內ニ之ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ

セメント製造業者ハ昭和六年法律第四十號第二條ノ規定ニ依リ届出テタル統制協定ニ從フノ件

（昭和十三年四月二十七日 商工省告示第百二十三號）

セメント製造業ヲ營ム者ハ昭和十三年五月一日ヨリ昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依リ届出デタル左ノ統制協定ニ從フベシ

セメント製造業ノ販賣價格ニ關スル協定（昭和十三年四月十一日成立、淺野セメント株式會社外二十三社加盟）

（備考）右協定ニ付テハ拿報欄揭載、セメント製造業ノ統制協定（甲）ヲ參照スベシ

（參照）昭和六年四月一日公布法律第四十號ハ重要産業ノ統制ニ關スル件ナリ

セメント製造業者ハ昭和六年法律第四十號第二條ノ規定ニ依リ届出テタル統制協定ニ從フノ件

（昭和十三年四月二十七日 商工省告示第百二十四號）

セメント製造業ヲ營ム者ハ昭和十三年五月一日ヨリ昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依リ届出デタル左ノ統制協定ニ從フベシ

セメント製造業ノ生産制限ニ關スル協定（昭和十三年四月十一日成立、淺野セメント株式會社外二十三社加盟）

（備考）右協定ニ付テハ拿報欄揭載、セメント製造業ノ統制協定（乙）ヲ參照スベシ

昭和六年法律第四十號施行ニ關スル件中改正

（昭和十三年四月二十日 朝鮮總督府令第八十五號）

昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ統制協定ヲ爲シタル日若ハ同條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ變更廢止シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ爲スベシ但シ第一條第四號ノ協定ヲ變更シタル場合ノ届出ハ協定ヲ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ爲スベシ

第三條　昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ統制協定ヲ爲シタル日若ハ同條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ變更廢止シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ爲スベシ但シ第一條第四號ノ協定ヲ變更シタル場合ノ届出ハ協定ヲ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ爲スベシ

第六條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四號ノ書面ニシテ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ記載シタルモノハ決定ヲ爲シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ提出スベシ

同條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ届出ヅベシ

第七條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第三號ノ書面ニシテ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ記載シタルモノハ決定ヲ爲シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ提出スベシ

同條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ニ關スル決定ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ實施期日二週間前迄ノ間ニ之ヲ届出ヅベシ

附　則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

セメント製造業者ハ昭和六年法律第四十號ノ規定ニ依リ届出テタル統制協定ニ從フノ件

（昭和十三年四月二十八日 朝鮮總督府告示第三百七十二號）

セメント製造業ヲ營ム者ハ昭和十三年五月一日ヨリ昭和十六年八月十日迄昭和六年法律第四十號（重要産業ノ統制ニ關スル法律）第一條第一項ノ規定ニ依リ届出デタル左ノ統制協定ニ從フベシ

セメント製造業ノ生産制限ニ關スル協定中一部變更ニ關スル協定（昭和十三年四月十一日成立、淺野セメント株式會社外二十三社加盟）

ト株式會社外二十三社加盟）

セメント製造業者ハ昭和六年法律第四十號ノ規定ニ依リ届出テタル統制協定ニ從フノ件

（昭和十三年四月二十八日 朝鮮總督府告示第三百七十二號）

セメント製造業ヲ營ム者ハ昭和十三年五月一日ヨリ昭和十六年八月十日迄昭和六年法律第四十號（重要産業ノ統制ニ關スル法律）第一條第一項ノ規定ニ依リ届出デタル左ノ統制協定ニ從フベシ

セメント製造業ノ生産制限ニ關スル協定中一部變更ニ關スル協定（昭和十三年四月十一日成立、淺野セメント株式會社外二十三社加盟）

瓦斯事業法施行令中改正ノ件

（昭和十三年九月十九日勅令第六百四十八號）

瓦斯事業法施行令中左ノ通改正ス

第四條第五號中「第十三條ノ規定」ノ下ニ「（第六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ヲ加フ

第六條　瓦斯事業法第一條ニ揭グルモノヲ除クノ外燃料用瓦斯ヲ供給シ又ハ自ラ製造シタル燃料用瓦斯ヲ使用スル事業ニハ同法第二條、第五條、第十一條、第十三條、第十八條（瓦斯工作物及業務ニ關スル事項ニ限ル）、第二十一條及第二十四條乃至第二十七條ノ規定ヲ準用ス但シ命令ヲ以テ定ムル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ瓦斯事業法ヲ準用スル事業ノ中瓦斯事業者ニ對シ燃料用瓦斯ヲ供給スルモノニハ前項ノ規定ニ依ルノ外瓦斯事業法第十二條第一項及第三項、第二十二條竝ニ第二十三條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ準用シタル瓦斯事業法ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クベキ事項ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ當該規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

（參照）

大正十四年九月二十一日勅令第二百九十號　瓦斯事業法施行令抄錄

第四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ遞信大臣ハ內務大臣ニ協議スヘシ

五　災害ノ豫防又ハ險withの爲瓦斯工作物ニ關シ瓦斯事業法第十三條ノ規定ニ基キ命令ヲ發シ又ハ之ニ基キ認可ヲ爲サムトスルトキ

自家用瓦斯製造事業等取締規則

（昭和十三年九月十九日商工省令第七十九號）

第一條　瓦斯事業法施行令第六條第一項但書ノ事業ハ左ニ揭グルモノトス

一　一日ノ瓦斯ノ供給能力又ハ製造能力二千立方メートル（瓦斯ノ熱量一立方メートルニ付三千キログラム「カロリー」以上ノモノニ在リテハ三百立方メートル）未滿ノ事業

二　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業

三　左ニ揭グル事業但シ燃料用瓦斯ヲ供給スルモノヲ除ク

（一）　製鐵事業法ノ適用ヲ受クル事業

（二）　石油業法ノ適用ヲ受クル事業

（三）　人造石油製造事業法ノ適用ヲ受クル事業

第二條　瓦斯事業法施行令第六條第一項ニ規定スル事業（以下準用事業ト稱ス）ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ豫メ商工大臣ニ屆出ヅベシ

一　商號又ハ名稱及主タル事務所ノ所在地

二　瓦斯ノ供給先及用途

三　瓦斯ノ製造及供給ノ方法

四　一日ノ製造能力及供給能力竝ニ瓦斯ノ熱量

五　瓦斯ノ原價計算

六　瓦斯供給條件

七　製造及供給ノ開始期日

前項ノ屆出書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　法人ニ在リテハ定款及登記簿ノ謄本

二　組合ニ在リテハ契約書ノ謄本

三　他ヨリ供給ヲ受ケタル瓦斯ヲ供給セントスル者ニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書ノ謄本

第三條　左ニ揭グル工事ヲ施行セントスルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ製鐵事業法、石油業法又ハ人造石油製造事業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

一　瓦斯ノ發生、精製若ハ供給ノ用ニ供スル主要ナル裝置（瓦斯「メートル」及導管ヲ除ク）又ハ瓦斯溜ノ施設

二　高壓導管ノ施設

第四條　前條ノ工事施行ノ許可ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ事項ヲ具シ之ヲ申請スベシ

一　瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ位置

二　瓦斯工作物（高壓導管ヲ除ク）ノ配置竝ニ其ノ型式、構造及主要寸法

三　高壓導管ノ配置竝ニ其ノ材質及主要寸法

前項ノ工事施行ノ許可申請書ニハ工事ノ種類ニ從ヒ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ周圍百メートル以內ノ平面圖

二　瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ設計圖

構內ノ主要ナル導管ノ配置ヲ附記スベシ竝ニ構內ノ主要ナル建物ノ仕樣書及構造圖

三　瓦斯工作物（高壓導管ヲ除ク）ノ型式、構造、能力及使用方法ニ關スル說明書竝ニ其ノ配置圖及構造圖（主要寸法ヲ記載スベシ）

四　瓦斯溜ノ仕樣書（瓦斯溜壓力及其ノ算定ノ基礎ヲ記載スベシ）

五　高壓導管ノ施設仕樣書（導管ノ接續方法ヲ記載スベシ）及其ノ配置圖（導管ノ口徑別延長ヲ記載シ整壓裝置ノ位置ヲ明示スベシ）竝ニ高壓導管ヲ通ズル瓦斯ノ最高壓力ヲ記載シタル書面

六　工事費豫算書

七　工事ノ着手及完了期日ヲ記載シタル書面（工事ヲ區分シテ施行スル場合ニ於テハ其ノ區分每ニ之ヲ記載スベシ）

第五條　瓦斯ノ成分ハ左ノ制限ニ從フベシ但シ瓦斯事業者ニ對シ供給スル瓦斯及工場又ハ事業場ニ於テ使用スル瓦斯ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　硫化水素含有ノ反應ヲ呈セザルコト

二　硫黃含有量ハ十立方メートル中五グラム以下ナルコト

三　「アムモニア」含有量ハ十立方メートル中二グラム以下ナルコト

第六條　無臭ノ瓦斯ニハ其ノ漏洩ヲ覺知シ易カラシムル爲臭氣ヲ附スベシ

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　準用事業者ハ每週一回以上成分ノ試驗ヲ行フベシ

前項ノ試驗ノ方法及試驗ヲ行フベキ場所ハ商工大臣之ヲ定ム

第八條　瓦斯發生爐又ハ瓦斯溜ヲ施設セントスルトキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシムベシ

一　宮城、離宮、御用邸、神宮又ハ皇陵ヘ四百メートル以上

二　瓦斯溜ニ在リテハ社寺、公園、學校、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建造物ヘ百メートル（容量二千立方メートル未滿ノ瓦斯溜ニ在リテハ五十メートル）以上

第九條　相續人被相續人ノ準用事業ヲ承繼シタルトキハ承繼ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

準用事業者其ノ事業ヲ讓渡シタルトキハ當事者連署ノ上遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ準用事業ヲ營ム法人合併シタルトキ亦同ジ

第十條　準用事業者ハ業務ノ狀況ニ關シ左ノ報告書ヲ作成シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　製造狀況ニ關スル報告書（瓦斯事業法施行規則第三號樣式ノ四ニ準ジ作成スベシ）

二　瓦斯ノ成分ニ關スル報告書（瓦斯事業法施行規則第三號樣式ノ一ニ準ジ作成スベシ）

三　瓦斯事業法施行令第六條第二項ニ規定スル事業（以下特殊準用事業ト稱ス）ヲ營ム者ニ在リテハ收支計算ニ關スル報告書（瓦斯事業法施行規則第三號樣式ノ五ニ準ジ作成スベシ）

瓦斯ヲ供給スル準用事業者ハ每事業年度

経過後遅滞ナク瓦斯需用者名簿ノ需用者各需用量ヲ附記スベシ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ準用事業者ハ遅滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

一　商號、名稱又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ

二　法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ

三　法人ノ定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四　一日ノ製造能力若ハ供給能力又ハ瓦斯ノ熱量ヲ變更シタルトキ

五　瓦斯ノ製造又ハ供給ヲ開始シタルトキ

六　瓦斯ヲ供給スル者ニ在リテハ瓦斯供給條件ヲ變更シ又ハ他ヨリ瓦斯ノ供給ヲ受クル契約ヲ爲シ若ハ之ヲ變更若ハ解消シタルトキ

七　特殊準用事業者以外ノ準用事業者ニ在リテハ瓦斯ノ製造若ハ供給ヲ廢止シ又ハ一月以上瓦斯ノ製造若ハ供給ヲ休止シタルトキ

八　法人又ハ組合解散シタルトキ

九　許可ヲ受ケタル工事ノ施行ヲ廢止シタルトキ

十　許可ヲ受ケテ工事ヲ施行シタル瓦斯工作物ノ用途ヲ變更シ又ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ

十一　許可ヲ受ケテ工事ヲ施行シタル瓦斯工作物ノ大修繕ヲ爲シタルトキ

修繕ノ内容竝ニ著手及完了期日ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

十二　高壓導管ヲ通ズル瓦斯ノ最高壓力又ハ瓦斯溜壓力ヲ變更シタルトキ

瓦斯溜壓力ノ變更ニ在リテハ其ノ變更方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十二條　瓦斯事業法施行規則第七條、第十二條、第三十五條、第三十七條、第三十二條ノ三及第五十四條ノ規定ハ準用事業ニ之ヲ準用ス

第十三條　瓦斯料金ノ設定又ハ變更ノ認可申請書ニハ其ノ設定又ハ變更ノ計算ノ基礎ヲ明ニスベキ書類ヲ添附スベシ

第十四條　特殊準用事業者瓦斯ノ供給ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ豫メ其ノ事由及廢止期日又ハ休止期間ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

天災、工事共ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ瓦斯ヲ供給スルコト能ハザルトキハ特殊準用事業者ハ遅滞ナク其ノ事由及期間ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第十五條　特殊準用事業ノ瓦斯製造所又ハ瓦斯供給所ニハ工業學校（尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ若ハ之ト同等以上ノ學校ノ卒業者ニシテ在學中瓦斯事業ノ技術ニ關スル學科ヲ修得シ且一年以上瓦斯事業若ハ特殊準用事業ノ技術ノ實務ニ從事シタルモノ又ハ瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル甲種免狀若ハ乙種免狀ヲ有スル者ヲ主任技術者トシテ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ

第十六條　特殊準用事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歴書ヲ添ヘ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

特殊準用事業者瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル甲種免狀又ハ乙種免狀ヲ有セザル者ヲ主任技術者トシテ選任シタルトキハ前項ノ届出書ニ左ノ書類ヲ添附スベシ

一　戸籍抄本

二　前條ニ規定スル學校ヲ卒業シ且在學中瓦斯事業ノ技術ニ關スル學科ヲ修得シタルコトヲ證スル書面

三　一年以上瓦斯事業又ハ特殊準用事業ノ技術ノ實務ニ從事シタルコトヲ證スル書面

第十七條　瓦斯事業法施行規則第四十七條及第四十八條ノ規定ハ特殊準用事業ニ之ヲ準用ス

第十八條　本則及第十二條ノ規定ニ依リ準用シタル瓦斯事業法施行規則ノ規定中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五條、第六條、第七條第一項又ハ第十二條ノ規定ニ依リ準用シタル瓦斯事業法施行規則第三十五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十二條ノ規定ニ依リ準用シタル瓦斯事業法施行規則第三十七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者

附　則

第二十條　本則ハ昭和十三年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　本則施行ノ際現ニ存スル準用事業者ニ付テハ本則施行ノ日ヨリ六月間第五條乃至第七條ノ規定ヲ適用セズ

第二十二條　本則施行ノ際現ニ存スル瓦斯工作物ニ付テハ第八條ノ規定ヲ適用セズ

第二十三條　本則施行ノ際現ニ存スル瓦斯工作物ニ付テハ本則施行ノ日ヨリ六月間瓦斯事業法施行規則第三十二條及第三十五條第一項ノ規定ヲ準用セズ

第二十四條　本則施行ノ際現ニ存スル準用事業者ニ付テハ本則施行ノ日ヨリ一年間第十五條ノ規定ヲ適用セズ

第二十五條　本則施行ノ際現ニ存スル準用事業者ハ本則施行後遅滞ナク第二條第一項各號及第四條第一項各號ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届出書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一　法人ニ在リテハ定款及登記簿ノ謄本

二　第四條第二項第一號乃至第三號ニ掲グル書類及圖面

重要輸出品取締法

（昭和十一年五月二十八日 法律第二十六號）

第一條　本法ノ適用ヲ受クル重要輸出品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　重要輸出品ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ檢査ヲ行フ者（檢査機關）ノ檢査ニ合格シタルモノニ非ザレバ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　販賣ノ目的ヲ以テ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ重要輸出品ガ前條ノ規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第四條　檢査機關其ノ檢査ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條　檢査機關ハ檢査員ヲ置クベシ
檢査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
主務大臣必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得
檢査機關ハ檢査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第六條　主務大臣ハ檢査機關ニ對シ檢査施行上必要ナル施設ヲ命ジ、檢査ノ狀況ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條　檢査機關本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ其ノ檢査ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命ジ又ハ第二條ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八條　主務大臣重要輸出品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保稅地域内ニ於テ又ハ店舖、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ當該官吏第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得
臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第九條　重要輸出品ノ檢査ニ關シ第二條ノ命令ノ規定ニ依リ之ニ附シタル檢査機關ノ印章、記號又ハ證票ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、除却シ又ハ隱蔽スルコトヲ得ズ
前項ノ印章、記號又ハ證票ヲ抹消シ、除却シ又ハ隱蔽シタル重要輸出品ハ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

第十條　前條ノ記號若ハ證票ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ記號若ハ證票ヲ僞造シ若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ記號若ハ證票ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ニ揭ゲタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

第十一條　檢査機關ノ役員又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十二條　前條第一項ニ揭ゲタル者ニ對シ

賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十三條　第二條、第三條又ハ第九條第二項ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル重要輸出品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一　正當ノ理由ナクシテ第八條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索若ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者
二　第九條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第十五條　重要輸出品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十三條第一項ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　左ノ場合ニ於テハ檢査機關ノ役員ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一　本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ事項ヲ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
二　本法ニ依ル主務大臣ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十八條　輸出ノ目的ヲ以テ爲ス重要輸出品ノ移出ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ重要輸出品取締規則ニ依リ認可ヲ受ケ檢査ヲ行フ工業組合、工業組合聯合會、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會又ハ公益法人ニシテ重要輸出品ノ檢査ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
前項ノ規定ニ依ル檢査機關ノ重要輸出品ニ關スル檢査員又ハ其ノ服務ニ關スル規程ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
本法施行前ニ重要輸出品取締規則ニ依ル檢査ニ合格シタル重要輸出品ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ檢査ニ合格シタルモノト看做ス
第三條ノ規定ハ本法施行前ニ前項ノ重要輸出品ノ輸出ニ付關稅法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ガ其ノ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル場合ニハ之ヲ適用セズ

（參照）

明治三十二年三月十四日公布　法律第六十一號關稅法抄錄

第三十一條　貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ揭クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得
一　遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航行ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ
二　遭難船舶ニ積載セル貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ賣却スルトキ

三　澱粉糊料又ハ澱粉質物ヲ輸入スルトキ
四　澱粉糊料ヨリ醗酵シタル記名ノ燐酸塩ヲ輸入スルトキ

重要輸出品取締法施行規則

（昭和十一年九月二十六日
商工省令第八號）

第一條　重要輸出品取締法第一條ノ重要輸出品ノ種類左ノ如シ

一　製帽用眞田（麻、麥稈又ハ經木ヲ主要材料トシテ編成シタルモノ）

二　燐寸

三　硝子製品中罎、食器、食料容器、火屋、ランプ笠、ランプ油壺、模造眞珠、光珠、腕環、試驗管、ビーカー、フラスコ及漏斗

四　硝子製器（鐵板ヲ以テ製シタルモノ）

五　莫大小製品中肌衣、手袋、靴下、首卷、腹卷及ジャケツ其ノ他ノ外衣

六　刷子

七　セルロイド製品中櫛及長又ハ直徑十糎ヲ超ユル玩具

八　鉛筆（色心ノモノヲ含ム）竝ニ同軸及同心

九　綿織物（綿絲以外ノ絲類ヲ總經緯絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノ及人造絹絲ヲ總經緯絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノト組合セ輸出スルモノニシテ柄合ノ關係上人造絹絲ヲ總經緯絲數ノ三分ノ一以上交織シタルモノヲ含ム）中綿縮、綿絨、綿フランネル、綿ボプリン、綿小倉織、綿三綾、綿サロン（染色シタルモノヲ除ク）、細綾綿布、變リ綾綿布、斜綾綿布（太綾綿布ヲ除ク）、綿繻子（五枚又ハ八枚ノ經繻子以外ノモノヲ除ク）、縞綿布、色絲又ハ晒絲ヲ以テ製織シタル綿布、無地染綿布、捺染綿布、綿絽帶子但シ綿サロンニシテ幅二十糎未滿ノモノ及長五十吋未滿ノモノ及長三十六碼未滿ノモノニ竝ニ綿サロン及綿絽帶子以外ノモノニシテ幅十八吋未滿ノモノ及長六碼未滿ノモノヲ除ク

十　人造眞珠（硝子又ハ貝殼ノ外部ニ魚鱗ヲ塗布シタルモノ）

十一　自轉車及同部分品（タイヤ及チューブヲ除ク）

十二　綿毛布（人造絹ト綿トノ混紡絲ヲ交織シタルモノヲ含ム）及同生地（幅二十八吋未滿ノモノ及長三十六吋未滿ノモノヲ除ク）

十三　ゴム靴（ゴム底布靴及オーバーシューズヲ含ム）竝ニ同甲被及同底

十四　電球

十五　フェルト帽子及同帽體

十六　ゴム玩具及ゴム運動具

十七　綿タオル（綿絲以外ノ絲類ヲ總經緯絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノヲ含ム）

十八　自轉車（リヤカー及三輪車ヲ含ム）用中空ゴムタイヤ及チューブ（車輪ノ直徑三百四粍未滿ノ自轉車用ノモノヲ除ク）

第二條　法人タル組合若ハ其ノ聯合會又ハ公益法人ニ非ザル者ハ重要輸出品取締法第二條ノ檢査機關タルコトヲ得ズ

第三條　重要輸出品取締法第二條ノ認可ハ重要輸出品ノ種類毎ニ之ヲ爲ス

第四條　重要輸出品取締法第二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ認可申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　定款

二　檢查ニ關スル規程（檢查規程）

三　檢查設備ニ關スル事項ヲ記載シタル書面

四　檢查ニ關スル收支豫算書

前項ノ認可申請書ニハ檢查開始ノ豫定年月日ヲ記載スベシ

第五條　商工大臣重要輸出品取締法第二條ノ認可ヲ爲シタルトキハ檢查機關ニ付左ニ揭グル事項ヲ告示スル告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

一　名稱及住所

二　檢查場ノ名稱及位置

三　檢查ヲ行フ重要輸出品ノ種類及品種

四　檢查ニ關シ使用スル印章、記號又ハ證票

五　檢查開始ノ年月日

六　認可ノ年月日

第六條　檢查ハ本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外檢查規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フベシ

檢查規程ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　檢查ヲ行フ重要輸出品ノ種類及品種

二　檢查ノ場所ニ關スル事項

三　檢查施行ノ時間及休日ニ關スル事項

四　檢查請求ノ手續ニ關スル事項

五　檢查標準ニ關スル事項

六　檢查方法ニ關スル事項

七　供試料品ノ採取ニ關スル事項

八　檢查ニ關シ使用スル印章、記號又ハ證票ニ關スル事項

九　再檢查ニ關スル事項

十　不合格品ノ處置ニ關スル事項

十一　檢查手數料ニ關スル事項

十二　前各號ノ外檢查ニ關シ必要ナル事項

第七條　檢查機關檢查規程ヲ變更セントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條　檢查ハ檢查機關ノ檢查場ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第九條　檢查ノ結果ハ之ヲ合格及不合格ニ分ツ

合格又ハ不合格ハ別ニ定ムル檢查標準ニ依リ之ヲ決定ス

檢查合格品ニハ檢查規程ノ定ムル所ニ依リ等級ヲ附スルコトヲ得

第十條　檢查機關檢查上必要ト認ムルトキハ檢查品ノ一部ヲ採取シ之ニ依リ檢查ヲ行フコトヲ得

第十一條　檢查機關ハ檢查合格品又ハ其ノ內裝ニ合格ヲ證スル印章、記號又ハ證票ヲ附スベシ

第十二條　檢查合格品ヲ切斷シ又ハ之ニ加工シタルトキハ其ノ檢查ハ效力ヲ失フ

檢查機關ハ檢查規程ノ定ムル所ニ依リ檢查ノ日ヨリ一定ノ期間ヲ經過シタル合格品ニ付其ノ檢查ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第十三條　檢查機關ハ檢查ニ關シ公正ナラザル取扱ヲ爲シ又ハ正當ノ事由ナクシテ檢查ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十四條　檢查機關檢查ヲ休止シ又ハ廢止セントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　休止又ハ廢止ノ檢查場ノ名稱及位置

二　休止又ハ廢止ノ期間又ハ廢止ノ年月日

三　休止又ハ廢止ノ事由

四　休止又ハ廢止ノ重要輸出品ノ種類又ハ品種

檢查機關天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ檢查ヲ休止シタルトキハ遲滯ナク前項各號ニ揭グル事項ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

商工大臣檢查ノ休止若ハ廢止ノ認可ヲ爲シ又ハ前項ノ屆出ヲ受理シタルトキハ當該檢查機關ニ付第一項各號ニ揭グル事項ヲ告示ス

第十五條　檢查ニ合格セザル重要輸出品ト雖モ其ノ用途、仕向地其ノ他ノ事情ニ依リ檢查合格品ヲ切斷シ又ハ之ニ加工スルトキハ其ノ檢查ハ效力ヲ失フ

リ當該重要輸出品ノ聲價ヲ害スル虞ナキトキハ商工大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸出スルコトヲ得

第十六條　確實ナル信用ヲ有スル工業者其ノ製造シタル重要輸出品ニ第十七條ノ申請書ニ記載シタル登錄商標ヲ使用スル場合ニ於テ商工大臣公益上支障ナシト認ムルトキハ重要輸出品取締法第二條ノ檢查ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第十七條　前條ノ免除ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　氏名又ハ名稱及住所

二　當該重要輸出品ノ品種及規格

三　當該重要輸出品ノ製造ニ關スル設備ノ概要

四　最近五年間ニ於ケル當該重要輸出品ノ製造數量及輸出數量

五　當該重要輸出品ノ主ナル仕向地竝ニ其ノ海外ニ於ケル取扱者ノ氏名又ハ名稱及住所

六　當該重要輸出品ニ使用スル登錄商標竝ニ其ノ登錄番號及登錄年月日

七　當該登錄商標ガ當該重要輸出品ノ仕向國ニ於テモ登錄セラレタルモノナルトキハ其ノ登錄番號及登錄年月日

前項ノ申請書ニハ當該登錄商標ガ之ヲ使用シタル當該重要輸出品ノ海外ニ於ケル取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル事實ヲ證スル書面及現品見本ヲ添附スベシ

第一項第一號ニ揭グル事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第十八條　商工大臣第十六條ノ免除ヲ爲シタルトキハ工業者ニ付左ニ揭グル事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

一　氏名又ハ名稱及住所

二　當該重要輸出品ノ品種及規格

三　當該重要輸出品ノ製造ニ關スル設備及其ノ登錄番號

第十九條　商工大臣公益上必要ト認ムルトキハ第十六條ノ免除ヲ受ケタル者ノ行爲法令ニ違反シ若ハ信用ヲ毀損スルモノトキハ第十六條ノ免除ヲ取消スコトヲ得

商工大臣必要ト認ムルトキハ檢查員ノ職務（檢查員服務規程）ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　檢查員ノ徽章ニ關スル事項

二　檢查員ノ資格及任免ニ關スル事項

三　檢查員ノ給與ニ關スル事項

四　檢查員ノ服務紀律ニ關スル事項

五　檢查員ノ懲戒ニ關スル事項

第二十條　檢查機關ハ檢查ノ施行ヲ統轄セシムル爲檢查員中ヨリ檢查長ヲ選任シ商工大臣ニ屆出ヅベシ

檢查長ハ檢查機關ノ役員ニ對シ檢查ノ施行ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ得

檢查長前項ノ規定ニ依リ意見ヲ述ベタルトキハ遲滯ナク其ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ商工大臣ニ提出スベシ

商工大臣必要ト認ムルトキハ檢查長ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　檢查機關ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外檢查員ヲシテ檢查以外ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得ズ

第二十二條　檢查機關重要輸出品取締法第五條第二項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ選任ニ在リテハ檢查員ノ履歷書及檢查長ノ意見書ヲ、解任ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及檢查長ノ意見書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十三條　檢查機關檢查員ノ職務ノ停止、給與ノ減額其ノ他ノ徽戒ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ徽戒ノ事由ヲ記載シタル書面及檢查長ノ意見書ヲ添附スベシ

第二十五條　檢查機關檢查設備ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第二十六條　檢查機關ハ每月檢查成績報告書ヲ作成シ之ヲ翌月十日迄ニ商工大臣ニ提出スベシ

第二十七條　檢查機關ハ重要輸出品ノ檢查ニ關スル收入支出ヲ他ノ事業ニ關スル會計ト區分シ經理スベシ

第二十八條　檢查機關ハ每事業年度開始ノ二月前迄ニ檢查ニ關スル收支豫算ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

檢查機關前項ノ規定ニ依リ屆出デタル收支豫算ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第二十九條　檢查機關ハ每事業年度終了後三月以內ニ檢查ニ關スル收支決算書及檢查事業報告書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第三十條　販賣ノ目的ヲ以テ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ其ノ重要輸出品ガ重要輸出品取締法第二條ノ規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付稅關ノ檢閱ヲ受クベシ但シ郵便物ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　前條ノ檢閱ヲ受ケントスル者ハ輸出申告又ハ積戻申告ト同時ニ樣式第一號ノ檢閱申請書ヲ稅關ニ提出スベシ

前項ノ檢閱ヲ受ケントスル者第十五條ノ許可ヲ受ケ輸出スルモノナルトキハ前項ノ申請書ニ許可アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第三十二條　前條ノ申請ヲ爲シタル者ハ當該官吏ノ指揮ニ從ヒ檢閱ヲ受クベキ物又ハ受ケタル物ノ運搬、荷解、荷造其ノ他ノ處置ヲ爲スベシ

第三十三條　稅關檢閱ノ結果重要輸出品ガ重要輸出品取締法第二條ノ規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトヲ認ムルトキハ其ノ旨ヲ表示スル印章ヲ輸出免狀又ハ積戻免狀及檢閱申請書ニ押捺スベシ

第三十四條　重要輸出品取締法第八條第三項ノ規定ニ依リ準用スル關稅犯則者處分法第四條ノ證票ハ樣式第二號ニ依ル

第三十五條　關稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ハ重要輸出品取締法第八條第一項ノ規定ニ依ル臨檢、尋問、搜索及差押ニ之ヲ準用ス

附　則

本則ハ重要輸出品取締規則ヘ之ヲ廢止ス

施行ス

重要輸出品取締規則ヘ之ヲ廢止ス

本則施行ノ際現ニ重要輸出品取締規則ニ依リ認可ヲ受ケ檢查ヲ行フ工業組合、工業組合聯合會、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會又ハ公益法人ニシテ重要輸出品ノ檢查ヲ行フ者ハ本則施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ重要輸出品取締法第二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ揭グル者前項ノ期間內ニ重要輸出品取締法第二條ノ認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

第三項ノ規定ニ依ル檢查機關ハ本則施行ノ日ヨリ二週間以內ニ其ノ定款及檢查規程ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第五條ノ規定ハ商工大臣前項ノ書類ヲ受理シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三項ノ規定ニ依ル檢查機關ハ本則施行ノ日ヨリ二週間以內ニ重要輸出品取締法附則第三項ノ規定ニ依ル檢查員ノ氏名及履歷竝ニ檢查員服務規程ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

本則施行前ニ重要輸出品取締規則ニ依ル檢查ニ合格シタル重要輸出品ハ本則施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ重要輸出品取締法第二條ノ檢查ニ合格シタルモノト看做ス

様式

第一號

積載船名
出港豫定年月日
番號

重要輸出品檢閱申請書

受付年月日

紙幅印紙貼附欄

輸出申告書番號又ハ積戻申告書番號

仕向地	貨物ノ記號及番號	包裝ノ種類及個數	品名	數量	價額
					圓
重要輸出品取締法ノ規定ニ從ヒ輸出スルコトヲ得ル事由				製造者氏名住所	
申請者(輸出者)氏名住所印					
申請代理人氏名住所印					
申請年月日				檢閱者	檢閱濟年月日
添附書類			通		

備考

一　品名ノ欄ニハ重要輸出品ノ種類及品種ヲ記載シ重要輸出品取締法施行規則第十五條ノ許可又ハ第十六條ノ免除ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ品種及規格ヲモ記載スベシ

二　重要輸出品取締法ノ規定ニ從ヒ輸出スルコトヲ得ル事由ノ欄ニハ

イ　檢査合格品ナルトキハ其ノ旨記載スルト共ニ之ガ檢査機關ノ名稱及檢査年月日ヲ附記スベシ

ロ　重要輸出品取締法施行規則第十五條ノ許可ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ旨記載スベシ

ハ　重要輸出品取締法施行規則第十六條ノ免除ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ旨記載スベシ

三　製造者氏名住所ノ欄ニハ

イ　重要輸出品取締法施行規則第十六條ノ免除ヲ受ケタルモノナルトキハ當該工業者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スベシ

ロ　其ノ他ノ場合ニ於テ製造者ノ氏名若ハ名稱又ハ住所不明ナルトキハ其ノ旨記載スベシ

四　申請代理人ニ依リ申請スル場合ニ於テ別ニ代理權ヲ證スル書面ヲ提出シタルトキハ申請者(輸出者)ノ捺印ヲ要セズ

第二號

表面

重要輸出品取締法第八條ノ取締官吏證票

第　號　年　月　日交付

官職　氏名　商工省印

本證明用紙ノ寸法ハ商工省告示第元百十六號(標準規格第九十二號B列四番ニBB×ニBB)ニ依ルモノトス

裏面

重要輸出品取締法第八條

第八條　主務大臣ハ重要輸出品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保稅地域內ニ於テ又ハ店鋪、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ訊問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、訊問、搜索及差押ニ關シテハ關稅犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ第八條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索若ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ求問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者

重要輸出品檢査標準中改正

（昭和十三年三月二日）
（商工省告示第五十一號）

昭和十一年商工省告示第八十三號重要輸出品檢査標準中左ノ通改正シ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

綿織物ノ項別表第十一號乙表ヲ丙表トシ甲表ノ次ニ左ノ一表ヲ加ヘ第十三號ヲ創ル

乙　綿蚊帳地

標準番手	密度（一吋間）				
經絲	緯絲	經絲數	緯絲數一總數	長	幅
二〇番以上二二番以下	三〇番以上三二番以下	本以上一五	本以上一五	一八碼以上、二〇碼以上又ハ三〇碼以上	二四吋以上、三〇吋以上、三六吋以上、四八吋以上、六〇吋以上、七〇吋以上又ハ八七二吋以上
	三〇番以上三二番以下		一六	同	同
	四〇番以上四二番以下		一七	同	同
二〇番以上二二番以下	三〇番以上三二番以下	本以上一五	一六	同	同
	三〇番以上三二番以下		一七	同	同
	四〇番以上四二番以下		三四	同	同

備考

一　本表ニ於テ綿蚊帳地トハ緯絲共色絲又ハ晒絲ヲ以テ製織シタルモノニシテ經絲總數一吋ニ付二五本以上五六本未滿ノモノヲ謂フ

二　捺織綿蚊帳地ノ密度ハ捺絲二本ヲ一本トシテ計算シ本表ヲ適用ス

自轉車及同部分品ノ項中左ノ如ク改ム

「自轉車、リヤカー荷物三輪車及同部分品」ヲ「自轉車、リヤカー荷物三輪車及同部分品」ニ改ム

第十一號第三項目ヲ左ノ如ク改ム

（三）沸騰セル五パーセント食鹽溶液中ニ左ノ時間浸漬シ塗膜軟化、剝離又ハ褪色スルモノ

二六吋以上車及同部分品　一時間

二六吋未滿車及同部分品　四〇分間

第十二號中「鍍金仕上」ヲ「メッキ仕上」ニ改メ第二項目及第三項目ヲ左ノ如ク改ム

（二）メッキ層ノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

リム及ハンドル　〇・〇一五粍

其ノ他　〇・〇一〇粍

（三）攝氏二〇度ニ於テ一五パーセント食鹽溶液ノ噴霧中ニ一二時間放置シ錆ヲ生ズルモノ

第十六號第一項目、第二項目及第四項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）鋼管ノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用　一・〇七粍

二六吋未滿車用　〇・八九粍

鋼管ノ太左ノ寸法未滿ノモノ

（二）

上パイプノ外徑　二五・二粍

米國式車體ノ立パイプノ外徑　二五・二粍

其ノ他ノ車體ノ立パイプノ外徑　二八・三粍

米國式車體ノ下パイプノ外徑　二五・二粍

其ノ他ノ車體ノ下パイプノ外徑　二八・三粍

ヘッドパイプノ外徑　三一・五粍

米國式車體ノバックフォークノ外徑　一七・二粍

其ノ他ノ車體ノバックフォークノ最大外周　六九・〇粍

チェーンステーノ外徑　二二・〇粍

リヤカー用パイプノ外徑　二二・〇粍

荷物三輪車用メーンパイプノ外徑

上部ノモノ　四四・三粍

下部ノモノ　三一・六粍

（四）プリッヂノ中央下部ヨリ鳥口中心線ニ至ル長左ノ寸法以外ノモノ但シ其ノ公差ハ（±）一・五九粍トス

二八吋車用　四〇〇・〇四粍

二六吋車用　三七四・六五粍

二四吋車用　三四二・九〇粍

二二吋車用　三一七・五〇粍

二〇吋車用　二九二・一〇粍

一八吋車用　二六六・七〇粍

一六吋車用　二四一・三〇粍

一四吋車用　二一五・九〇粍

第十八號第一項目及第四項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）脚用鋼管ノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用　一・〇七粍

二六吋未滿車用　〇・八九粍

（四）クラウン中央下端ヨリハブノ中心ニ至ル距離左ノ寸法以外ノモノ但シ其ノ公差ハ（±）一・五九粍トス

二八吋車用　三八七・三四粍

二六吋車用　三六一・九四粍

二四吋車用　三三六・五五粍

二二吋車用　三一一・一五粍

二〇吋車用　二八五・七五粍

一八吋車用　二六〇・三五粍

一六吋車用　二三四・九五粍

一四吋車用　二〇九・五五粍

第十九號第一項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）鋼管ノ厚一・二五粍未滿ノモノ

第二十號第七項目ヲ左ノ如ク改ム

（七）レバーブラケットノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用　四・七六粍

二六吋未滿車用　三・七六粍

第二十一號第一項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）短棒ノ直徑三・〇五粍未滿ノモノ直徑三・七六粍未滿ノモノ

同號第八項目ノ次ニ左ノ一項目ヲ加フ

（九）荷物三輪車用ブレーキュシテブレーキレバーノ厚六粍未滿ノモノ

第二十二號第一項目及第二項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）鋼板ノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用　〇・四一粍

二六吋未滿車用　〇・三六粍

二六吋車用　八一二粍

二四吋車用　一、二〇五粍

二二吋車用　一、一五五粍

二〇吋車用　一、〇二九粍

一八吋車用　九六五粍

一六吋車用　八三八粍

一四吋車用　七七五粍

前車用　六四八粍

後車用　五九七粍

前車用　四九五粍

後車用　四四五粍

前車用　三九六粍

後車用　三五四粍

前車用　三一六粍

後車用　二八二粍

前車用　二五一粍

後車用　二二四粍

前車用　一九九粍

後車用　一七七粍

前車用　一五八粍

後車用　一四一粍

（二）長左ノ寸法未滿ノモノ

二八吋車用　八一二粍

前車用　七二三粍

後車用　六四八粍

二六吋車用　五七七粍

前車用　五一四粍

後車用　四五九粍

二四吋車用　四〇九粍

前車用　三六四粍

後車用　三二四粍

二二吋車用　二八九粍

前車用　二五八粍

後車用　二三〇粍

二〇吋車用　二〇五粍

前車用　一八二粍

後車用　一六二粍

一八吋車用　一四四粍

前車用　一二八粍

後車用　一一四粍

一六吋車用　一〇一粍

前車用　九〇粍

後車用　八〇粍

一四吋車用　七一粍

前車用　六三粍

後車用　五六粍

第二十五號第一項目ヲ左ノ如ク改ム

（一）鋼帶ノ厚左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用　〇・八九耗
二六吋未滿車用　〇・八一耗

第二十七號第四項目ヲ左ノ如ク改ム

(四)　獨逸式ベタルニシテ枠板ノ厚一・八三耗未滿ノモノ

同號第五項目ヲ第六項目トシ第四項目ノ次ニ左ノ一項目ヲ加フ

(五)　兩板間ノ距離左ノ寸法未滿ノモノ

二六吋以上車用
男子用　九七耗
女子用　八九耗
二六吋未滿車用　八三耗

第二十八號第三項目ヲ左ノ如ク改ム

(三)　フランヂニシテ鑄鐵製ノモノ

同號第四項目ヲ第五項目トシ第五項目ヲ第六項目トシ第三項目ノ次ニ左ノ一項目ヲ加フ

(四)　シャフトノ直徑左ノ寸法以外ノモノ

自轉車用
前車用　七・八〇耗乃至八・〇〇耗
後車用　九・四六耗乃至九・五八耗
リヤカー用　九・四六耗乃至九・五八耗又ハ一二・七〇耗以上

第三十四號第一項目及第二項目ヲ左ノ如ク改ム

(一)　鋼線ノ直徑左ノ寸法未滿ノモノ

自轉車用
リヤカー用及荷物三輪車用
抗張力一平方耗ニ付六〇瓩以上伸八%以上ノモノ　一・八三耗
抗張力一平方耗ニ付四四瓩以上伸一〇%以上ノモノ　二・四一耗
豫備用又ハ組立用スポークベルニシテワイヤーノ長六八五耗未滿ノモノ　三一一耗

二六吋以上車用　一二・七〇耗以上
二六吋未滿車用　九・四六耗乃至九・五八耗
二六吋以上車用　一・八三耗
二六吋未滿車用　一・四一耗
第二十六號第三項目ヲ左ノ如ク改ム
車體ニ取附ケタルトキタイヤ接地面ヨリスタンド中央下端ニ至ル距離二五・四耗未滿ノモノ　一・八三耗
第三十八號第五項目ノ次ニ左ノ二項目ヲ加フ

(六)　引手ノ厚一・二四耗未滿ノモノ。

(七)　豫備用又ハ組立用スポークベルニシテワイヤーノ長六八五耗未滿ノモノ

別表ヲ左ノ如ク改ム

甲　金屬材料標準

種類	抗張力(一平方耗ニ付)	伸
冷間引拔鋼目無鋼枠	三〇瓩以上	一二%以上
鎔接鋼管	三〇瓩以上	二〇
ギヤー用鋼板	三四瓩乃至五〇瓩	二〇
ギヤー用以外ノ鐵板及鋼帶	三四瓩乃至四一瓩	一八
クランク用條鋼	三四瓩乃至五〇瓩	二〇
バネ用鋼線	六〇瓩以上	八
二六吋以上ノ自轉車ノスポーク用鋼線	六〇瓩以上	八

二六吋未滿ノ自轉車、リヤカー及荷物三輪車ノスポーク用鋼線	四四瓩以上	二〇
	六〇瓩以上	八
クランク用、スポーク用、バネ用以外ノ條鋼及鋼線	三四瓩以上	二〇
	二八瓩以上	五
可鍛鑄鐵	二八瓩以上	三〇
黃銅		

備考　試驗片ハ日本標準規格又ハ之ニ準ジタルモノニ依ル

乙　リム寸法標準

タイヤノ種類	外徑	外幅	內幅	高
引掛式二八吋×一吋二分ノ一	六四六・九一耗	四一・二八耗	三二・二三耗	一五・八八耗
引掛式二八吋×一吋八分ノ三	六四八・四九	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式二六吋×二吋四分ノ一	五八一・〇二	四九・二一	三〇・一六	一五・八八
引掛式二六吋×一吋四分ノ三	五九一・〇〇	四四・四五	二六・九九	一五・八八
引掛式二六吋×一吋八分ノ三	六〇〇・〇七	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式二四吋×一吋八分ノ三	五五二・四五	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式二二吋×一吋八分ノ三	五〇一・六五	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式二〇吋×一吋八分ノ三	四五〇・八五	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式一八吋×一吋八分ノ三	四〇〇・〇五	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式一六吋×一吋八分ノ三	三五五・六〇	四一・二八	三二・二三	一五・八八
引掛式一四吋×一吋八分ノ三	三〇四・八〇	四一・二八	三二・二三	一五・八八
針金式二八吋×一吋二分ノ一	六四九・二九	三八・一〇	二四・六三	一四・二九

針金式二八吋×一吋八分ノ三	六五八・八一	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
針金式二六吋×一吋二分ノ一	六〇瓩以上	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
針金式二四吋×一吋二分ノ一	五九八・四八	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
針金式二二吋×一吋二分ノ一	五四七・六八	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
針金式二〇吋×一吋二分ノ一	四九六・八八	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
針金式一八吋×一吋二分ノ一	四四六・〇八	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
米國式二八吋×一吋二分ノ一	六三五・二八	三八・一〇	二四・六三	一四・二九
獨逸式二八吋×一吋二分ノ一	六四九・二八	三〇・一六	二二・二三	一一・一一
	六四九・二八	三一・七五	二〇・六四	一四・二九

ゴム靴竝ニ同甲被及同底ノ項中左ノ如ク改ム

第八號ヲ第九號トシ以下順次繰下ゲ第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八　甲被ニ使用スル帆布、ボンジー、ラック織又ハ雲斎ニシテ經ノ抗張力一糎付一三・五瓩未滿ノモノ

別表ヲ次ノ如ク改ム

甲 ゴム抗張力標準（一平方糎ニ付）

底ノ全長	外被 総ゴム長靴	底 総ゴム長靴	外被 総ゴム短靴	底 総ゴム短靴	外被 総ゴム長靴ノ胴	底 総ゴム長靴ノ胴
一四糎未満	瓩以上 三〇	瓩以上 一一〇	瓩以上 五〇	瓩以上 二〇	瓩以上 四〇	瓩以上 一六
一四糎以上一八糎未満	四五	四五	八〇	三〇	七五	二六
一八糎以上二四糎未満	五五	五〇	九〇	四〇	九〇	三二
二四糎以上	六五	六〇	一〇〇	四〇	一〇〇	三八

乙 ゴム伸標準

底ノ全長	外被 総ゴム長靴	底 総ゴム長靴	外被 総ゴム短靴	底 総ゴム短靴	外被 総ゴム長靴ノ胴	底 総ゴム長靴ノ胴
一四糎未満	瓩以上 一〇〇	瓩以上 九	%以上 八〇	%以上 一〇〇	%以上 一八〇	%以上 一〇
一四糎以上一八糎未満	二三〇	一一	二三〇	一一	一七〇	一三
一八糎以上二四糎未満	二八〇	一二	二八〇	一二	二五〇	一四
二四糎以上	二八〇	一二	二五〇	一二	三〇〇	一四

丙 布地バーステンダストレングス標準（一平方糎ニ付）

底ノ全長	一重甲被	二重 甲被	底 甲
一四糎未満	瓩以上 九	瓩以上 一二	瓩以上 一二
一四糎以上一八糎未満	一一	一一	一六
一八糎以上二四糎未満	一二	一二	一七
二四糎以上	一二	一二	一七

表ニ帆布、ボンジー、ラアク織又ハ雲斎ヲ使用シタルモノ
其ノ他
表ニリンネル、ギヤバジン、ボゴラン又ハ綾子ヲ使用シタルモノ
表ニ別珍ヲ使用シタルモノ

ゴム玩具及ゴム運動具ノ項ヲ左ノ如ク改ム

ゴム玩具及ゴム運動具

一 形體不整ナルモノ
二 瑕疵又ハ汚染著シキモノ
三 厚著シク不均齊又ハ不均等ナルモノ
四 ゴムニシテ容易ニ老化スル虞アルモノ又ハ表面ニ硫黄ヲ析出シタルモノ
五 貼附不良ナルモノ
六 彩色、繪附不良ナルモノ
七 彩色又ハ繪附ヲ爲シタルモノニシテ攝氏五〇度ノ温水中ニ五分間浸漬シタルトキ著シク脫色、變色又ハ變色スルモノ
八 研磨其ノ他ノ仕上加工不良ナルモノ
九 ゴムノ比重、抗張力又ハ伸別表ノ標準ニ該當セザルモノ但シ抗張力及伸左ノ標準ニ該當スルモノノ比重ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

	抗張力（一平方糎ニ付）	伸
普通毯		
直徑八〇粍未滿ノモノ	瓩以上 二一	%以上 二六五
直徑八〇粍以上一三〇粍未滿ノモノ	三八	二六五
直徑一三〇粍以上ノモノ	四三	二六五
エナメルボール及ウールボール		

直徑八〇粍未滿ノモノ		二九 二一〇
直徑八〇粍以上ノモノ		
型物		三一 二一〇
		三〇 三〇〇
フートボール		七五 三八〇
浮袋		八〇 四〇〇
其ノ他ノ貼合物		
ゴム容積一三〇立方糎以上ノモノ		七五 三八〇
		八三 四〇〇

十 厚二・五粍以下ノ毯、貼合物又ハ海水帽ノゴム部分ニシテ之ヲ破壞スルニ要スル抗張荷重別表ノ標準ニ該當セザルモノ

十一 厚二・五粍以下ノ普通毯及型物（直火加硫ヲ爲シタルモノヲ除ク）ニ在リテハ二・〇倍、貼合物ニ在リテハ二・五倍、海水帽ニ在リテハ四・五倍ノ長ニ伸張シ一分後急激ニ收縮セシメ收縮後五分ニシテ測定シタル永久歪別表ノ標準ニ該當セザルモノ

十二 毯ニシテ填充氣體容易ニ漏洩スル虞アルモノ若ハ反撥方向著シク不規則ナルモノ又ハ厚二・五粍以下ノ普通毯ニシテ二米ノ高ヨリ鐵板上ニ落下セシメタルトキ反撥スル高一米未滿ノモノ

十三 貼合物ニシテ水銀柱七〇粍ノ加壓空氣ヲ壞充シタルトキ空氣ノ漏洩スルモノ

十四 風船又ハ水玉ニシテ粘着スルモノ

十五 風船ニシテ膨脹容積原容積ニ比シ二三〇倍未滿ノモノ

十六 水玉ニシテ膨脹容積原容積ニ比シ一五〇倍未滿ノモノ又ハ一平方糎ニ付一〇〇瓦ノ空氣壓ニ耐ヘザルモノ

十七 附屬品不良ナルモノ又ハ其ノ附方亂雜ナルモノ

十八 前各號ノ一ニ該當セザルモノト認メラルルモノ

（別表）

ゴム比重、抗張力、伸、抗張荷重及永久歪標準

種類		比重（抗張力（一平方糎ニ付）	伸（抗張荷重（幅一糎ニ付）	永久歪
普通毯	直徑八〇粍未滿ノモノ	一・九五 以下	二一六 瓩以上	一〇 %以下
	直徑八〇粍以上一三〇粍未滿ノモノ	一・九五	二一〇 %以上	三・二
	直徑一三〇粍以上ノモノ	一・九〇	三六 二一〇	三・八 一〇
エナメルボール及ウールボール	直徑八〇粍未滿ノモノ	一・九五	二四 一八〇	二・四 一〇
	直徑八〇粍以上ノモノ	一・九五	二六 一八〇	二・六 一〇
型物（直火加硫ヲ爲シタルモノヲ除ク）	厚二・五粍以下ノ毯	二・〇〇	二〇 二〇〇	一一
フートボール		一・七五	六二 三三〇	三・〇 一九
浮袋		一・七五	六五 三五〇	三・二 一七
貼合物 其ノ他	ゴム容積一三〇立方糎以上ノモノ	一・七五	六二 三三〇	二・五 一九
	ゴム容積一三〇立方糎以上ノモノ	一・七五	六七 三五〇	三・五 一七
海水帽	ゴム重量五〇瓦未滿ノモノ及二重張ノモノ	一・三五	五五〇	一・八 一六
	ゴム重量五〇瓦以上ノモノ（二重張ノモノヲ除ク）	一・五〇	五〇〇	一・八 一八

自轉車用中空ゴムタイヤ及チューブノ項中左ノ如ク改ム

第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　チューブニシテ之ヲ破壞スルニ要スル抗張荷重別表甲ノ標準ニ該當セザルモノ

第六號中「一分間ノ磨滅度一平方糎ニ付〇・〇一二五立方糎以下」ヲ「一時間一馬力當ノ磨滅度三三〇立方糎以下」ニ改ム

第十二號中「一分間ノ磨滅度」ヲ「一時間一馬力當ノ磨滅度」ニ改ム

第十六號中「八箇所以上」ヲ「一〇箇所」ニ改ム

別表甲表中「チューブ荷重標準」ヲ「チューブ抗張荷重標準」ニ改メ荷重ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

抗張荷重（幅一糎ニ付）
壓縮上 七・二
六・四
七・六

別表乙表中磨滅度ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

磨滅度（一時間馬力當）
立方糎以下 四・六〇
五〇〇
四〇〇

自轉車用中空ゴムタイヤ及チューブノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

動力傳導用平型ゴムベルト

一　幅不同ナルモノ又ハ厚不均等ナルモノ

二　瑕疵著シキモノ

三　幅一〇糎ノ布層一枚ヲ破壞スルニ要スル抗張荷重布層一枚ノ厚一糎以上ノモノニ在リテハ三五瓩未滿、一糎未滿ノモノニ在リテハ二〇瓩未滿ノモノ

四　伸布層一枚ノ厚一糎以上ノモノニ在リテハ左ノ式ニ依リ算出シタル數ヲ調フ

$$\text{調整數} = 1.5 + 0.1 \times \text{抗張荷重數トハ幅一〇糎ノ布層一枚ヲ破壞スルニ要スル抗張荷重ヲ瓩單位ヲ以テ表シタル數ヲ調フ}$$

前項ノ抗張荷重數トハ幅一〇糎ノ布層一枚ヲ破壞スルニ要スル抗張荷重ヲ瓩單位ヲ以テ表シタル數ヲ調フ

五　幅二五糎、長二五〇糎、布層四枚（布層三枚以下ノモノニ在リテハ原布層ノ儘）ノ試驗片ヲ採リ外徑三二糎ノ滑車ニ懸ケ四五瓩ヲ荷重シ滑車ニ沿ヒ滑車ノ兩側ニ於テ垂直線ニ對シ角度六度ノ方向ニ一分間一七〇回ノ割合ニテ一三四糎ノ距離ヲ往復スル速續屈曲運動ヲ反復セシメ屈曲回數一〇、〇〇〇回未滿ニシテ試驗片ノ全幅ニ亘ル布層剝離又ハ布層間ノ接著力幅二五糎ニ付六・五瓩未滿ノモノ

六　布層間ノ接著力幅一五糎ニ付四瓩未滿ノモノ

七　幅五〇糎以上、布層三枚以上、布層一枚ノ厚一糎以上ノモノニ在リテハ幅五〇糎ノ試驗片ヲ採リ縱ノ中心線ニ沿ヒ一端ヨリ二〇糎ノ點ニ直徑六・五糎ノ孔ヲ穿チ同徑ノ金屬棒ヲ嵌入シ之ヲ縱ノ方向ニ引張シタルトキ試驗片ヲ破壞スルニ要スル力試驗片ノ布層一枚ニ付二五瓩未滿ノモノ

八　前各號ノ一ニ該當セザルモ不良ト認メラルルモノ

重要輸出品檢査標準中改正

（昭和十三年七月一日商工省告示第百七十一號）

昭和十一年商工省告示第八十三號重要輸出品檢査標準中左ノ通改正シ昭和十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ一項ヲ加フ

紡織用木管及スキワー

一　形體不整ナルモノ

二　瑕疵又ハ汚染著シキモノ

三　不良又ハ材種不適當ナル木材ヲ使用シタルモノ

四　木部ノ含水量タグ・ヒビンストール式濕度計ニ依リ測定シ一四パーセント以上ノモノ

五　寸法設計寸法ニ比シ左ノ標準以上ノ誤差アルモノ

ロース及ロロ

全長	(十)	〇・八粍
外徑	(十)	〇・八粍
天穴ノ長	(十)	二・〇粍
スキワー		
全長	(十)	一・五粍
軸ノ直徑	(十)	〇・四粍
ロース又ハロロノ基部ト嵌合スベキ部分ノ直徑	(十)	〇・五粍
（一〇・八粍）		
リング木管、ウエフト木管（シヤットルチェンヂ木管及コップチェンヂ木管ヲ含ム以下同ジ）、コニカル木管、スプール木管及ダブラー木管		
全長	(十)	〇・五粍
外徑	(十)	〇・四粍
天穴ノ長	(十)	一・〇粍
チーズ木管		
全長	(十)	〇・四粍
外徑	(十)	〇・四粍
ワーピング木管及テーパー木管		
捲絲部ノ長	(十)	〇・四粍
軸ノ外徑	(十)	〇・六粍
麻絲木管		
捲絲部ノ長		
捲絲部一七・七八糎以下ノ長ノモノ	(十)	〇・八粍
捲絲部一七・七八糎ヲ超ユル長ノモノ	(十)	一・〇粍
軸ノ外徑		
六　ロース又ハロロニシテ嵌合スル鋏ノ外徑ヨリ大ナルコト〇・七粍乃至〇・八粍以外ノモノ、大穴ノ直徑之ニ嵌合スルリング木管ニシテ大穴ノ直徑ヨリ大ナルコト〇・六粍乃至〇・八粍以外ノモノ又ハ口擴一・七粍乃至一・七五粍以外ノモノ又ハ口擴ノ外徑ヨリ大ナルコト〇・六粍乃至〇・八粍以外ノモノ		
七　リング木管、ウエフト木管、スプール木管ニシテ大穴ノ直徑之ニ嵌合スルリング木管ニシテ大穴ノ直徑ヨリ大ナルコト〇・五粍以下ノモノ		
八　チーズ木管、ワーピング木管及テーパー木管又ハ麻絲木管ニシテ漆塗ノモノ		
以外ノモノ		

九　リング木管、ウエフト木管、コニカル木管又ハダブラー木管ニシテ天穴ニ於テ之ニ嵌合スル鋏ト接觸スル部分ノ長八粍未滿ノモノ又ハ鋏合位置設計位置ニ比シ一・二粍以上ノ誤差アルモノ

十　チーズ木管ニシテ重量設計重量ニ比シ一〇パーセント以上ノ誤差アルモノ

十一　リング木管、ウエフト木管、コニカル木管又ハダブラー木管ニシテ之ニ適合スル鋏ヲ用ヒテ回轉振動試驗ヲ行ヒ鋏ノ頂點ノ振動左ノ直徑ノ圓ノ範圍ヲ超ユルモノ

リング木管、ウエフト木管及コニカル木管		〇・六〇粍
ダブラー木管		〇・七五粍

前項ノ試驗ハ木管ヲ嵌合セザル儘回轉スル場合頂點ノ振動直徑〇・〇五粍ノ圓ノ範圍ヲ超エザル鋏ヲ用ヒリング木管、ウエフト木管及コニカル木管ニ在リテハ一分間九、〇〇〇回轉、ダブラー木管ニ在リテハ一分間五、〇〇〇回轉ノ速度ヲ以テ回轉シ之ヲ行フモノトス

十二　リング木管、ウエフト木管、コニカル木管又ハダブラー木管ニシテ漆塗ノモノ以外ノモノ

ニ在リテハ攝氏五〇度ノ温水中ニ一時間浸漬シタルトキ鍵合位置五粍以上變化スルモノ又ハ吸水率五パーセント以上ノモノ

前項ノ吸水率ノ算定ハ使用金具ヲ除キタル木管ノ重量ヲ基準トシテ之ヲ行フモノトス

十三　漆塗ノモノニシテ攝氏五〇度ノ温水中ニ一・五時間浸漬シ後室温ニ冷却シタルトキ塗膜著シク軟化スルモノ

十四　使用金具ノ厚左ノ標準ニ該當セザルモノ

鐵金具

ダブラー木管ノ螺金具及提灯金具	○・八五粍以上
ロース、ロロ又ハダブラー木管ノ尻金具及ワーピング木管ノ鍔金具	○・三二粍以上
其ノ他	○・二八粍以上

黄銅金具

ダブラー木管ノ螺金具及提灯金具	○・八五粍以上
ダブラー木管ノ頭金具及尻金具竝ニワーピング木管又ハテーパー木管ノ鍔金具	○・三六粍以上
其ノ他	○・二七粍以上
銅金具	○・二二粍以上

十五　金具ノ取附、爪ノ取附、鍔ノ取附其ノ他ノ組立又ハ加工不良ナルモノ

十六　前各號ノ一ニ該當セザルモ不良ト認メラルルモノ

重要輸出品取締法施行規則中改正

（昭和十三年三月二日　商工省令第七號）

第一條第九號中「、綿製帶子」及「及綿製帶」ヲ削ル

同條第十一號ヲ左ノ如ク改ム

十一　自轉車（タイヤノ外徑十四吋未滿ノモノ及ソリッドタイヤノモノヲ除ク）、リヤカー、荷物三輪車及同部分品（タイヤ及チューブヲ除ク）

同條第十八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十九　動力傳導用平型ゴムベルト

附　則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品取締法施行規則中改正

（昭和十三年六月八日　商工省令第二十八號）

第一條第九號中「綿織物（綿絲以外ノ絲類ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノ及人造絹絲ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノト組合セ輸出スルモノニシテ柄合ノ關係上人造絹絲ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一以上交織シタルモノヲ含ム）中綿絲、綿織、綿フランネル、綿ポプリン、綿小倉織、綾三種、綿サロン（染色シタルモノヲ除ク）、絣絹布、變リ綾絹布、斜紋絹布（太絲絹布ヲ除ク）、絹絣布子（五枚又ハ八枚ノ經絣子以外ノモノヲ除ク）、縞絹布、色絲又ハ晒絲ヲ以テ製織シタル絹布、無地染絹布、捺染絹布但シ絹サロンニシテ幅二十吋未滿ノモノ及長五十吋未滿ノモノ竝ニ絹サロン以外ノモノニシテ幅十八吋未滿ノモノ及長六碼未滿ノモノヲ除ク

第一條ノ重要輸出品取締法第一條ノ重要輸出品ノ種類左ノ如シ

九　絹織物（綿絲以外ノ絲類ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノ及人造絹絲ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一未滿交織シタルモノト組合セ輸出スルモノニシテ柄合ノ關係上人造絹絲ヲ總經絲絲數ノ三分ノ一以上交織シタルモノヲ含ム）中綿絲、綿織、綿フランネル、綿ポプリン、綿小倉織、綾三種、綿サロン（染色シタルモノヲ除ク）、絣絹布、變リ綾絹布、斜紋絹布（太絲絹布ヲ除ク）、絹絣布子（五枚又ハ八枚ノ經絣子以外ノモノヲ除ク）、縞絹布、色絲又ハ晒絲ヲ以テ製織シタル絹布、無地染絹布、捺染絹布但シ絹サロンニシテ幅二十吋未滿ノモノ及長五十吋未滿ノモノ竝ニ絹サロン以外ノモノニシテ幅十八吋未滿ノモノ及長六碼未滿ノモノヲ除ク

重要輸出品取締法施行規則中改正

（昭和十三年七月一日　商工省令第四十一號）

第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

二十　紡綫用木管及スキワー

附　則

本令ハ昭和十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十一年九月二十六日　商工省令第八號　重要輸出品取締法施行規則抄錄

第一條　重要輸出品取締法第一條ノ重要輸出品ノ種類左ノ如シ

（左記略ス）